平城京出土陶硯集成Ⅱ

一 平城京・寺院 一

奈良文化財研究所



平城京より出土した陶硯

平城京出土陶硯集成Ⅱ

一 平城京・寺院 一

奈良文化財研究所

本書は平城宮跡から出土した陶硯を集成した『平城京陶 硯集成 I - 平城宮跡 - 』につづき、平城京域および南都の 諸寺院より出土した陶硯資料を集めたものである。これに より平城宮、平城京域、南都の諸寺院の資料が出揃い、わ が国における古代の陶硯の様相を知るうえで、一級の考古 資料を提示することができた。

ここに集録した558点の資料と、『陶硯集成 I 』を合わせると、1,000点以上にのぼる。これらは奈良文化財研究所の約50年に及ぶ平城宮、京、寺院の発掘調査の積み重ねによって、蓄積してきたものである。

律令国家を支えた文書行政の普及を物語る陶硯の出土 は、全国の古代遺跡から確認されているが、言うまでもな く都が置かれた平城京からの出土数が群を抜いて多く、全 国の出土数の2割程度にも相当する。

資料のなかには報告書の刊行に先立って報告したものも含まれるが、これは古代史研究における陶硯のもつ資料的価値をかんがみた結果である。本書を『陶硯集成 I』とあわせ、古代史の総合的研究に大いに御活用いただければ幸いである。

2007年3月

独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所長

田辺 征夫

例 言

1. 掲載資料について

- (1)『平城京出土陶硯集成Ⅱ 平城京・寺院 』(奈良文化財研究所史料第80冊)として公刊するのは、2005年度までに奈良文化財研究所がおこなった平城宮を除く平城京および寺院の発掘調査で出土した全ての陶硯である。ただし、平城京域外にあたる奈良山(平城ニュータウン)と法隆寺についても、平城京周辺の調査として掲載した。
- (2) 本書で扱った資料は、平城京371点、寺院187点、合計558点である。同一個体の可能性が高いが、接合しないものは、原則として別個体として扱ったが、実測図は合成したものもある。
- (3) 原則として蹄脚円面硯や圏足円面硯などの定形硯および既刊の報告で陶硯である可能性が指摘されたものを対象とし、転用硯は除外したが「猿面硯」については掲載した。

2. 陶硯の種類について

(1) 陶硯の種類については、基本的に下記の文献を参考にし、付図に示す名称を適用した。それら以外は特殊硯として一括した。なお、既報告や先行研究での細分を括弧内に記したものもある。 蹄脚円面硯は製作技法による $A \cdot B$ 、圏足円面硯は硯面の形状による $a \cdot b \cdot c$ に細分した。

奈良国立文化財研究所 1976「陶硯」『平城宮発掘調査報告WI』

植崎彰一 1982「日本古代の陶硯-とくに分類について-」『考古学論考 小林行雄博士古稀記念論文集』 山中敏史 1983『埋蔵文化財ニュース41 陶硯関係文献目録』

神野恵・川越俊一 2003「平城京出土の陶硯」『古代の陶硯をめぐる諸問題』 奈良文化財研究所

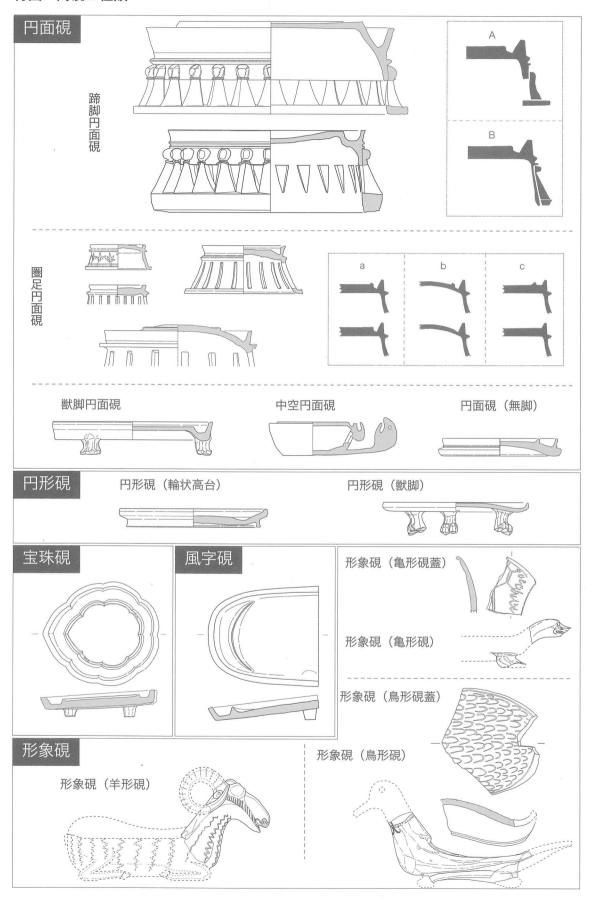
3. 資料の掲載順について

(1) 資料は平城京、寺院の順に配し、遺物番号は平城京が1~300番代、寺院が400~500番代とする。平城京は次数順に、寺院は寺院ごとに並べた後、次数順に配した。次数内の順は、おおむね蹄脚円面硯、圏足円面硯、その他である。

4. 本書の作成について

- (1) 資料の整理は都城発掘調査部長 川越俊一の指導のもと、考古第二研究室が担当し、西口壽生、 玉田芳英、高橋克壽、神野恵、森川実、小田裕樹が携わった。資料整理および図版の作成には今 津朱美、岡本真実、福田清美、丸山美和が協力した。
- . (2) 第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ章の執筆および第Ⅳ章 の作成は、川越、西口、森川の協力のもと神野が担当した。
 - (3) 本書に掲載した写真は奈良文化財研究所の牛嶋茂、中村一郎、鎌倉綾および西大寺フォト杉本 和樹の撮影による。
 - (4) 本書の編集は、都城発掘調査部長 川越俊一の指導のもと、考古第二研究室の神野が担当した。

付図. 陶硯の種類



目 次

Ι	はじ	こめに	1
Π	主要		2
第	1節	平城京域の主要な調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
第	2節	寺院の主要な調査位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 』	4
Ш	平城	な京・寺院の陶硯について	6
第	1節	平城京の陶硯の出土傾向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ŝ
第	2節	寺院の陶硯の出土傾向・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7	7
第	3節	平城京・寺院の陶硯の種類・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7	7
第	4 節	円面硯の種類・法量・焼成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
IV -	1	平城京出土陶硯一覧表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	9
IV –	2	寺院出土陶硯一覧表 · · · · · · 4	9
V	図	版	
VI	写真	図版	

挿図目次

図 1	平城京条坊図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
図 2	左京一条三坊・四坊の調査と陶硯の分布・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
図 3	左京二条二坊・三条二坊の調査(B・D期)と陶硯の分布・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	S
図 4	右京八条一坊十三・十四坪の調査(Ⅱ期)と陶硯の分布・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	S
図 5	興福寺の調査区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
図 6	薬師寺の調査区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
図 7	宮・京・寺院の陶硯の種類比・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
図 8	円面硯の種類と外堤径・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8

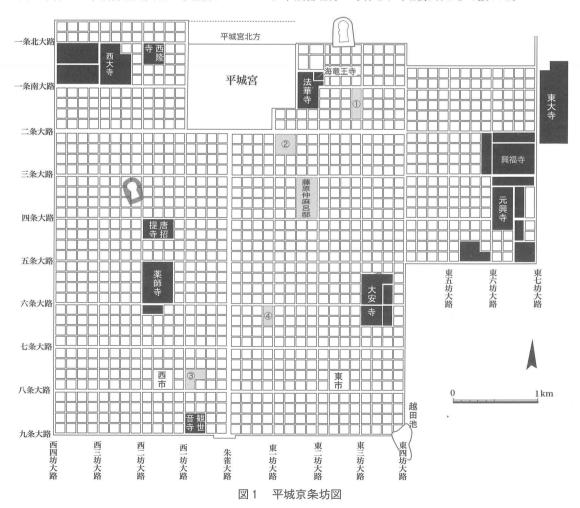
Iはじめに

本書は昨年度刊行した『平城京出土陶硯集成 I - 平城宮跡』の続編として、奈良文化財研究所(以下、奈文研)がおこなった2005年度までの発掘調査のうち、平城京域と南都諸寺院より出土した陶硯を全点集録したものである。これにより、宮、京、寺院を含めた平城京全体の陶硯の出土状況とその内容を示すことができた。

硯の使用実態の観点から、転用硯の様相を把握しきれていない点は今後の課題として残るものの、陶 硯の存在は文字の使用を示す考古資料として古代史研究において重要な意味をもつ。奈良時代における 陶硯の最大の消費地である平城京の様相を明らかにすることで、陶硯の生産、流通、普及に関する多方 面からの研究の進展に寄与するものとなろう。

奈文研は約50年にわたり平城宮跡を中心に、平城京域および南都諸寺院の発掘調査をおこなってきた。2005年度までの発掘調査面積は、平城宮跡の約39万㎡に対し、左京域で約16万㎡、右京域で約4万5千㎡、平城宮北方を合わせると約22万㎡となる。また、南都諸寺院の調査は約7万3千㎡である。出土した陶硯は平城京域371点、寺院187点の計558点を数える。次章では主要な調査について概説する。

- (1) 奈文研2006『平城京出土陶硯集成 I 平城宮跡』(史料77)
- (2) 本書では平城宮北面大垣より北側については、平城宮北方と呼称し、平城京域として扱った。



Ⅱ 主要遺構概説

第1節 平城京域の主要な調査

左京一条三坊・四坊(図1-① 図2) 京都と奈良を結ぶ国道 24号線のバイパス工事に伴う調査で、1969年から1970年にかけ ておこなった。平城宮に比較的近い立地で、十四・十五坪から は園池を伴う建物群が見つかったことから、有力貴族の邸宅と 推定されている。奈良時代初頭から末期の3期の遺構変遷を確 認し、I期のSD485からは、紀年木簡(713~717)や「和銅」 と記す墨書土器とともに、多量の土器が出土し、「平城宮土器 Ⅱ | の指標となっている。ここからは形象硯(8)が出土し ており、時期のわかる資料として注目される。東三坊大路は平 安時代以降も平安京に続く主要な幹線道路として残り、東側溝 SD650からは告知札など京都との往来を示す遺物とともに、9 世紀初めから10世紀初頭までの遺物が多く出土した。埋土は上 下層に大別でき、出土した銭貨、木簡、土器などから下層の SD650Aは9世紀前半、上層のSD650Bは9世紀後半に堆積し たとみられているが、出土した陶硯はSD650A・Bともに圏足 円面硯を中心に風字硯、黒色土器B類の風字硯を含むなど、内 容に大きな差異は認められない。周辺でおこなわれた奈良市教 育委員会の調査(市第440次など)によって、この一帯は平安 時代に有力者が占地していたことが確認されている。

左京三条二坊ー・二・七・八坪(図1-② 図3)本格的な調査は1985年にはじまり、1987年に「長屋皇宮」と書かれた木簡が発見され、長屋王邸であることが明らかになった。7期にわたる遺構変遷を確認し、出土した遺物も膨大である。陶硯は138点数えるが、包含層からの出土が多く、遺構から出土したものは、長屋王邸時代(A~B期)のものはほとんど無く、長屋王自尽(729)後のC期以降のものが多い。とくに二条大路南側溝に沿って掘られた濠状土坑SD5100(C期)や、敷地を分割する坪境小路の側溝SD4229・4231・4361・4359・4589・4909(D期以降)からの出土が目立つ。陶硯の出土分布を、長屋王邸の時期(B期)の遺構配置と重ねると、正殿がある中央内部からの出土はなく、東内郭よりに分布が偏る。しかしながら、これら陶硯と長屋王邸との関連は、なお今後の検討

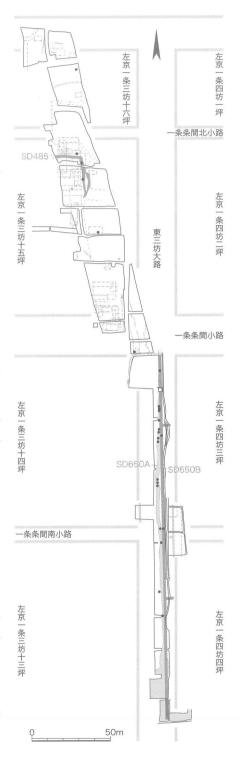


図2 左京一条三坊・四坊の調査と 陶硯の分布

が必要である。また平城皿の指標であるSD5100から出土した蹄脚円面硯B (258・278) は、その初現を考えたう えで注目される。

右京八条一坊十三・十四坪 (図1-3) 図3) 1984年から1986年にわたる調 査で4期の遺構変遷を確認した。奈良 時代前半の鋳造・漆工関連の工房跡が 見つかり、十三坪内に工房の管理施設 とみられる官衙風の建物群が展開する ことから官営工房の可能性が指摘され ている。奈良時代後半には小規模宅地 に細分されるが、陶硯の出土は、十三 坪と十四坪を東西に貫く坪境小路の南 北側溝SD1496·SD1499で、築地塀が 切れる付近に集中する。この築地塀は 後半にはなくなり、両側溝も幅を広げ て付け替えられる(SD1500·SD1495) ことから、これらの陶硯は前半の官営 工房に由来する可能性が高いとみられ る。

左京七条一坊十五・十六坪(図1-④)

1994年から1995年の調査で6期にわたる遺構変遷を確認し、奈良時代を通じて官人の宅地であったことが推定されている。奈良時代末には建物規模の拡大や施設が充実した様子が伺われ、周辺から出土した生産関係の遺物と合わせ、生産活動の場へと変化した可能性も指摘されている。この調査で出土した26点の陶硯の多くは東一坊大路西側溝SD6400から出土したものである。ここからは奈良時代から平安時代初頭の土器を含む遺物が多く出土しており、京域における陶硯の内容の一端を示すものである。

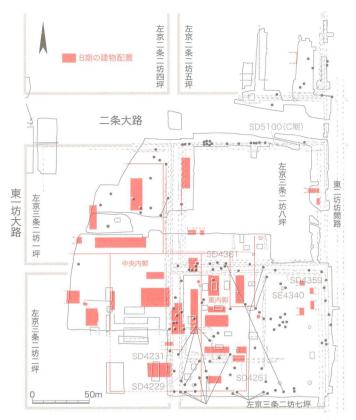


図3 左京二条二坊・三条二坊の調査 (B・D期) と陶硯の分布

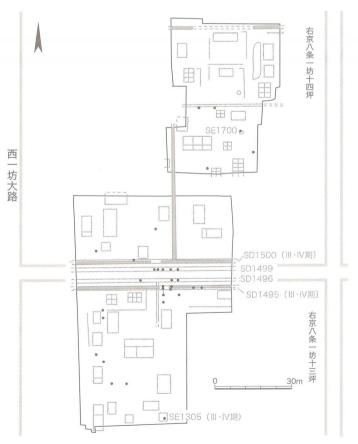


図4 右京八条一坊十三・十四坪の調査(Ⅱ期)と陶硯の分布

第2節 寺院の主要な調査位置

寺院については各寺院ごとの調査の概要を述べる。興福寺一乗院と薬師寺の調査区については、既往の報告では調査位置が指し示せないため、図 $4 \cdot 5$ に掲げる。その他については、第 $\mathbb N$ 章の一覧表に掲げた参考文献と『平城京条坊総合地図』を参照されたい。

大安寺(6 B D A) 大安寺の発掘調査で陶硯が出土したのは、1975年度に奈良県教育委員会と共同でおこなった個人住宅の新築と駐車場造成に際する調査 (奈文研第95-18次・奈良県75-1次) である。調査区は大安寺の北面中房推定地にあたる。

法華寺 (6 B F K・6 B F O) 法華寺旧境内は現在では個人住宅になっている地域が多く、その新築や改変に伴う小規模な調査が多い。7点の陶硯が出土した第98-17次は法華寺境内での収蔵庫建設に伴う調査で、SD03は法華寺の造営時の礎石建物雨落溝と考えられている。法華寺は平城宮東院地区を接するため、旧境内西寄りで出土した陶硯の中には平城宮で使用されていたものを含む可能性がある。

元興寺 (6 B G N) 奈文研がおこなった元興寺域内の調査は、1995年から始まった名勝旧大乗院庭園の史跡整備に伴う調査である。奈良時代の遺構は部分的に検出されているが、元興寺に関連するものは見つかっていない。

法隆寺 (6 B H R) 1978年から1985年度にかけて行った防災施設工事に伴う発掘調査が主体的である。 遺構に伴って出土した陶硯はいずれも7世紀代のものも含まれる。本書では奈文研の発掘調査で出土し た陶硯のみ掲載したが、保管品等については『法隆寺考古資料』を参照されたい。

海龍王寺 (6 B K A) 法華寺同様、旧境内地の多くは個人住宅になっており、調査も小規模なものが中心である。硯が出土したSD1140は海竜王寺の北を画する条間小路の北側溝である。

興福寺 (6 B K F) (図 5) 寺院出土資料のなかで最も点数が多いのは、1963年の奈良県地方裁判所の建設に伴う発掘調査でみつかった興福寺一乗院の宸殿下層土坑の資料である。一乗院は天禄元年(970)

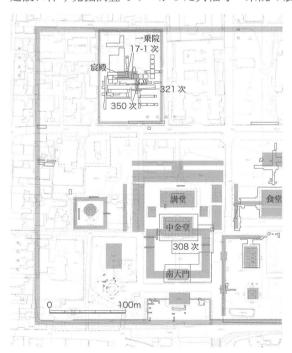


図5 興福寺の調査区

に創設された興福寺の子院である。この創建時の基 壇土の下で検出した土坑から、多くの須恵器、土師 器、瓦とともに奈良三彩や緑釉、灰釉、陶硯が出土 し、一部は重要文化財に指定されている。共伴する 土器は奈良時代末から平安時代初頭にかけてのもの が主体的である。調査では一乗院創設前の壇上積基 壇などを検出し、この地に堂舎が配されていたこと を確認した。これらの陶硯は興福寺の何らかの機関 で使用されていた可能性が高く、古代の寺院が所有 する陶硯の様相を示すものであろう。出土した99点 の大部分は小片であるが、同一個体は少なく、個体 数の多さをうかがわせる。小型の圏足円面硯が多い 点や圏足円面硯の硯部内面を朱用に転用するものが あるなど、奈良時代末の寺院の陶硯の使用実態を示 す好例であろう。 西大寺(6BSD) 西大寺は1985年度から防災工事に伴って、伽藍中枢部を5ヵ年にわたって調査したが、この時の調査で陶硯は出土していない。西大寺も旧境内の大部分が宅地化しているが、陶硯が出土したのも小規模調査である。

西隆寺 (6 B S R) 中世に廃絶し、現存しない西隆寺は近鉄線大和西大寺駅周辺の開発に伴って、比較的大規模な発掘調査がおこなわれ、南都の古代寺院のなかでも伽藍配置が発掘調査によって明らかになっている。陶硯は金堂地区を中心に、旧境内一帯から出土している。

東大寺(6 B T D) 奈文研による東大寺旧境内の 発掘調査は小規模調査が中心で、陶硯が出土したの は東大寺学園構内の調査である。黒色土器B類の風 字硯で平安時代にくだるものである。

唐招提寺(6BTS) 戒壇院の調査で比較的まとまって出土しているが、出土した層は戒壇院が慶長元年(1596)の大地震で倒壊した後、元禄年間に復興した際の盛土、裏込土である。

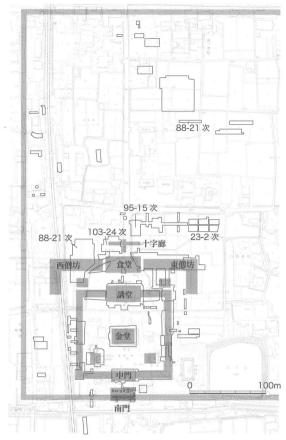


図6 薬師寺の調査区

薬師寺(6 B Y S)(図 6)薬師寺の発掘調査は1934年からおこなわれているが、とくに1968年からの伽藍復興・整備に関わる調査は1985年まで続き、多大な成果をえた。陶硯が出土したのは西僧坊(88-21次)、十字廊(103-24次)、東僧坊北方(23-2 次)が中心である。

- (1) 奈文研1975『平城宮発掘調査報告 VI 平城京左京一条三坊の調査』(学報23)
- (2) 奈良市教育委員会2001「平城京左京一条三坊十三坪の調査 第440次」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書』 平成11年度
- (3) 奈文研1995 『平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告 長屋王邸・藤原麻呂邸の調査 』)(学報54)
- (4) 奈文研1989『平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)
- (5) 奈文研1997『平城京左京七条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)
- (6) 奈文研2003『平城京条坊総合地図』(史料60)
- (7) 奈文研1977『昭和51年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』 奈良市教育委員会1997『史跡大安寺旧境内1-杉山古墳地区の発掘調査・整備事業報告』
- (8) 奈文研1977『昭和51年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』
- (9) 奈文研·奈良県教育委員会編1985 『法隆寺防災施設工事·発掘調査報告書』
- (10) 奈文研2002『法隆寺考古資料』(史料56)
- (11) 奈良県文化財保存事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報告書』
- (12) 奈良県教育委員会·奈文研編1990『西大寺防災施設工事·発掘調査報告書』
- (13) 奈文研1976『西隆寺発掘調査報告書』 奈文研1993『西隆寺発掘調査報告書』(学報52)
- (14) 奈文研1980『昭和54年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』
- (15) 奈文研1979『昭和53年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』
- (16) 奈文研1987『薬師寺発掘調査報告』(学報45)

Ⅲ 平城京・寺院の陶硯について

第1節 平城京の陶硯の出土傾向

これまで平城京の発掘調査は奈文研、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、大和郡山市教育委員会などが継続的におこなってきた。本書所収の陶硯資料は、奈文研による発掘調査で出土したものに限られることと、また、調査地は平城宮周辺が多いといった偏りがあり、規模にもばらつきがある点は指摘しておきたい。

先にも指摘したように、「硯」の使用実態の側面からみれば、転用硯の存在を無視することはできないが、陶硯の出土傾向が遺跡の性格に大きく関わることは言うまでもない。京域での陶硯の大きな出土傾向として、小規模な調査でも数点の陶硯が出土することもあれば、大規模な調査にも関わらず、ほとんど陶硯が出土しない場所がある点が指摘できる。

比較的まとまって陶硯が出土する場所には、有力な皇族・貴族の邸宅が挙げられる。左京三条二坊一・二・七・八坪の四町を占める長屋王邸は、先述のように出土した陶硯が長屋王家に帰属するとの確証が得られないものの、邸宅内に実務的な家政機関を持つことが明らかであることから、ここで使用されたものを含むと考えたい。長屋王邸のように比較的大規模に調査がおこなわれ、邸宅内の区画や建物配置が明らかにされた例は少ないが、正殿がある邸宅の中枢部(中央内郭)からは、ほとんど陶硯が出土せず、東外郭に分布が偏る点は注目に値する。いっぽう、石組みの園池遺構がみつかり有力な皇族・貴族の離宮あるいは宅地が想定される左京三条二坊六坪(第96次)や少なくとも一坪以上の規模の宅地が想定される左京三条二坊十五坪(第83・86次)では、広範囲にわたって発掘調査行われているものの、ほとんど陶硯が出土していない。有力者の邸宅でも、より実務的な空間に出土が偏ることが指摘できる。こういった分布の偏りは平城宮や寺院でも確認できる。平城宮においては大極殿院、朝堂院といった

中枢部分から陶硯が出土することは少なく、より実務的な空間である周辺の官衙域に分布が偏ることがすでに指摘されている。また、寺院においても中枢伽藍から陶硯が出土することは少ない。これは他の遺物の出土状況にもみられることで、陶硯の使用、廃棄の過程を考えれば、容易に肯首できよう。

次に陶硯が多く出土する遺跡として宮外官衙や官営工房などの機関が挙げられる。長屋王邸に西接する左京三条一坊七・十五・十六坪(第118-8・231・242-8・266・314-7次)は、墨書土器、漆紙文書などの遺物や遺構から、大学寮の可能性が指摘されている。出土した陶硯は蹄脚円面硯を含むなど、官衙的な様相が強いともいえる。また、右京八条三坊十四・十五坪(第168・179次)は西市に近接する工房で、先述のとおり出土遺物の内容から官営工房の可能性が指摘されている。左京七条一坊十五・十六坪のSD6400(第252・253次)や、東市の北側にあたる左京八条三坊十五・十六坪の調査の東堀河SD1300(第93・94次)でも鋳造関連の遺物が共伴しており、工房に関連する可能性がある。これらの陶硯は工房の生産管理に関わる場面で使用されていたことを示すものであろう。平城宮内においても工房関連の遺物と共伴して陶硯が出土しており、同様の傾向をみることができる。

それでは一般的な庶民の宅地では陶硯が出土することがまれであるのかといった点については、転用 硯を視野に入れた議論が今後の課題であろう。

第2節 寺院の陶硯の出土傾向

本書では便宜的に各寺院の寺域内より出土した陶硯を、寺院の資料として扱った。しかし、奈良時代後半になって造営された西大寺、西隆寺では寺院造営以前の遺構がみつかっており、これらの遺構から出土した陶硯も含まれる。本来、これらは平城京域の資料として扱うべきであるが、個々の遺物について、寺院との関連を見極めることは難しいため、寺院の資料とせざるをえなかった。また、法隆寺の資料では7世紀代にさかのぼる遺構から出土した陶硯もある。よって、これらの資料体が奈良時代の寺院が有する陶硯の実態を、どれほど反映しているのかという点については注意を要するが、前節でも述べたように伽藍の中枢部分では陶硯の出土が少ないなど、一定の傾向を指摘することはできる。

寺院の資料の約3分の1は、興福寺一乗院の宸殿下層下土坑より出土した資料である。共伴する土器が奈良時代末から長岡京期を中心とすることから、寺院のもつ陶硯のあり方だけでなく、この時期の陶硯の型式を考えるうえで重要な一括資料である。

第3節 平城京・寺院の陶硯の種類

平城京域から出土した陶硯の全体的な数量としては、平城宮跡が2005年度までの調査面積約39万㎡で536点の出土に対し、平城京域が約22万㎡で372点の出土をみており、単純な密度計算からすると、平城宮では約700㎡の調査で1点、京では約600㎡で1点の出土ということになり、平城宮のあり方よりも多い数値がみえてくる。すでに述べたように、平城宮内の調査でも陶硯の出土は大極殿院地区といった中枢部分に少なく、実務的な官衙域に偏る傾向があるため、これまで調査してきた場所にも左右されるが、この京域での数字を積極的に評価するならば、奈良時代における陶硯の普及を物語る値と言えよう。ちなみに寺院では約400㎡につき1点の計算になる。

内容に目を移すと、京域では平城宮に比べ蹄脚円面硯の比率が低いことが指摘できる。宮の蹄脚円面硯、圏足円面硯に占める割合が約9割を占めるのに対し、京は約8割と、宮に比べやや雑多な内容をもつ傾向が指摘できる。また、寺院は円面硯が8割近くを占めるが、蹄脚円面硯はきわめて少ないことと、大型の圏足円面硯が少ないことが指摘できる(図8)。図7から京、

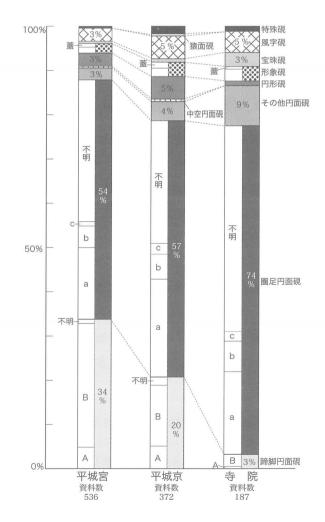


図7 宮・京・寺院の陶硯の種類比

寺院ともに風字硯が多いように読み取れるが、 宮の資料に比べて黒色土器などの平安時代に くだる陶硯を含むことが挙げられる。

平城宮の資料では見受けられなかったものとして、京の資料には短い蹄脚状の獣脚をもち、いわゆる百足硯に類する円面硯(237)、圏足円面硯に蹄脚円面硯を模倣したような珠文を持つもの(41・99)、輪状高台の円形硯に脚部の剥離痕をもつもの(50・232)、羊形の形象硯(82・142)、奈良三彩の亀形硯蓋(348・349・350)などがある。

寺院の資料には、特筆すべきものとして、 硯部内面に「廣大」とヘラ描きするもの(445)、 蹄脚円面硯の外堤部外面に蓮華様の戯画を施 すもの(583)、硯面は円形、外堤を八角形に つくるもの(541)、筆立て状の穿孔をもつも

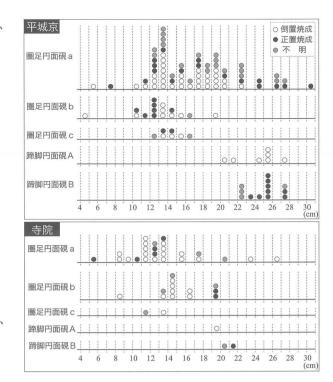


図8 円面硯の種類と外堤径

の(572)などがある。また、一乗院では硯部内面を朱用硯に転用するもの(454)があり、同じ土坑から朱が付着する須恵器の転用硯も多数出土しており、墨と朱の使い分けの実態を示す好例である。

第4節 円面硯の種類・法量・焼成

圏足円面硯の硯面の形状による比率は宮、京、寺院を通じて、ほぼ同じ割合で存在し、奈良時代の 圏足円面硯の実態を反映しているのではないかと思われる(図7)。京・寺院出土の円面硯の種類と外 堤径の関係をみると(図8)、概して a 類は小型のものから大型のものまで見られるが、b 類、c 類に 大型のものはみられない傾向がわかる。これは7世紀代の円面硯が a 類を中心とすることから考えても、 b、c 類が奈良時代になって中型~小型の圏足円面硯に採用された硯面の形態であることを反映して いるであろう。

圏足円面硯の硯面形状・法量と焼成方法の関係をみると、硯面形状と焼成方法に関連性は見受けられないが、大型の圏足円面硯 a には正置焼成が目立つ。また、本書に集録した蹄脚円面硯については、A 類が倒置焼成であるのに対し、B 類はいずれも正置焼成である。平城宮の資料をみても、B 類は正置焼成が一般的であり、硯面を覆う重焼きの痕跡から蓋の有無など、陶硯の産地を含めた検討が今後の課題である。

- (1) 奈文研1986『平城京左京三条二坊六坪発掘調査報告』(学報44)
- (2) 奈文研1975『平城京左京三條二坊』(学報25)
- (3) 奈文研2006『平城京出土陶硯集成 I -平城宮跡-』(史料77)
- (4) 奈文研1993『平城京左京三条一坊七坪発掘調査報告』 奈文研1995『平城京左京三条一坊十四坪発掘調査報告』 奈文研2005『平城京漆紙文書一』(史料69)

 \mathbf{IV}_{-1} .

平城京出土陶硯 一覧表

凡例

- ①次数 平城宮跡発掘調査部がおこなってきた調査次数である。 異なる次数間で接合した場合は、新しい次数を優先し、・を用 いて併記した。
- ②出土地点 平城京での条坊位置、出土地区、出土日時の順に記した。条坊位置については、以下のように略した。出土地が条坊側溝などの場合、最寄り坪の位置を記した。別地点から出土した個体が接合した場合、/を用いて併記した。
 - (例)「平城京左京三条一坊十四坪」→「左京3-1-14」
- ③遺構・層序 出土時の遺構名・層序を示し、報告書の遺構番号を併記した。なお、奈文研の調査で使用している大小地区割は 1989年度に国土方眼に、また2003年度に世界測地系にあわせた 座標を使用しているが、ここでは出土時の地区割をそのまま掲載している。
- 4種類 例言の付図を参照。
- ⑤法量 円面硯の場合、外堤径(x)、硯面径(y)、底部径、器 高を記した。その他の場合、器長、器幅、器高を記した。いず れも単位はcm。また、円面硯の計測位置は付図1参照。
- ⑥焼成 硯面を上にした状態を正置、硯面を下にした状態を倒置 とし、括弧内にその根拠を記した。陶硯の部位を指す名称は付 図2参照。
- ⑦概報・報告 発掘調査報告および年報・概報・紀要を記し、その他の参考文献を併記したものもある。奈文研刊行物は以下のように略称する。

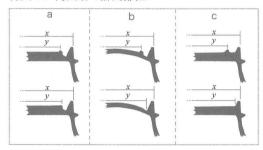
『平城宮発掘調査報告Ⅵ』→『平城報告Ⅵ』 『昭和48年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』

→『昭和48年度平城概報』

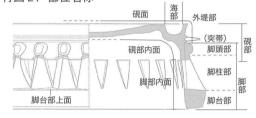
『1973年度 奈良国立文化財研究所年報』→『1973年度年報』 『奈良国立文化財研究所年報1997-Ⅲ』→『年報1997-Ⅲ』 『奈良文化財研究所紀要2005』→『紀要2005』

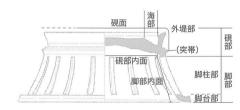
- ⑧PL. Ph. 本書所収の実測図版番号(PL.)と写真図版番号(Ph.)。
- ⑨備考 脚柱数、透かしの形状、ヘラ描き沈線、文様、同一個体の可能性、重焼きの痕跡および共伴土器の年代などを記した。 なお、土器の年代は学報の平城宮土器の大別に従う。

付図1. 円面硯の計測部位

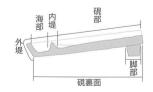


付図2. 部位名称









番号	1	次 数	2	出土地点	3		
	<u>4</u> <u>7</u>	種 類 概報・報告	_ ⑤	法 量			8 PL, Ph
	9	備考					9 PL, PN
Ĺ	1	46次	2	左京3-1-14 6AFJ CI40 680301	3	床土	
	4	蹄脚円面硯B	(5)	外堤径27.1 硯面径20.3 残存高10.5	6	正置(外堤部外面に降)	灭)
	7	奈文研1995『平城京》	左京三乡	~ ◆一坊十四坪発掘調査報告』fig. 10-23, PL. 10-	-23	(8 PL. 1, Ph. 1
	9	2と同一個体カ 復	原脚数2	3			
2	1	46次	2	左京3-1-14 6AFJ CI40 680301	3	床土	
	4	蹄脚円面硯B	(5)	底部径32.3 残存高2.0	6	正置(脚台部上面に降)	灭)
	7	奈文研1995『平城京》	左京三乡	e一坊十四坪発掘調査報告』fig. 10−23, PL. 10-	-23	(B PL. 1, Ph. 1
	9	復原脚数23 1と同-	一個体				
}	1	46次	2	左京3-1-14 6AFJ CF36 680228	3	床土	
	4	圏足円面硯 B	(5)	外堤径12.1 残存高3.8	6	正置(硯面、外堤部外)	面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京》	左京三多	坊十四坪発掘調査報告』fig. 10-22, PL. 10-	-22	(B PL. 1, Ph. 1
	9	長方形透孔 復原脚	数10				
ŀ	1	46次	2	左京3-1-14 6AFJ CT38 680228	3	床土	
	4	圏足円面硯	(5)	外堤径17.7 残存高2.7	6	正置(外堤部外面、突縮	線上面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京》	左京三多	坊十四坪発掘調査報告』PL. 10-25		(D PL. 1, Ph. 1
	9	復原脚数17~18					
5	1	46次	2	左京3-1-14 6AFJ BP36 680120	3	床土	
	4	風字硯	(5)	残存長9.0 残存幅8.6 残存高4.0	6	正置 (硯面に降灰)	
	7	奈文研1995『平城京》	左京三条	:一坊十四坪発掘調査報告』fig. 10-24, PL. 10-	24	(0	D PL. 1, Ph. 1
	9						
5	1	55次	2	左京1-3-16 6AFB IT29 690416	3	灰色砂	
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径15.8 硯面径5.8 器高5.8 脚部径16	.0 6	倒置 (硯部内面に降灰)	
	7	奈文研1974『平城報台	告VI』(学報23)PL. 64-241		(8	PL. 1, Ph. 1
	9	十字形透孔×8、長	方形透孔	× 4			
7	1	55次	2	左京1-3-15 6AFB IC28 690311	3	灰褐砂	SD48
	4	圈足円面硯	(5)	外堤径11.2 残存高2.1	6	正置(外堤部外面、突線	泉上面に降灰)
	7	奈文研1974『平城報告	告VI』(:	学報23)PL. 64-242		(8	PL. 1, Ph. 2
	9	長方形透孔 復原脚数	数23 #	伴土器は平城Ⅱ			
	1	55次·56次	2	左京1-3-15 6AFB IX28/HR26 670418/670827	3	1黒/溝2層1砂	SD48
	4	形象硯(鳥形硯ヵ)	(5)	残存長14.8 残存高4.4	6	正置 (硯面に降灰)	
	7	奈文研1974『平城報告	告VI』(:	学報23)PL. 64-243		(8	PL. 1, Ph. 2
	9	共伴土器は平城Ⅱ					
}	1	56次	2	左京1-3-14·15, 1-4-2·3 6AFB FC15 69071	.8 ③	白色砂	
	4	圏足円面視 a	(5)	阅面径9.4 残存高1.6	6	倒置 (硯部内面に降灰)	
	7	奈文研1974『平城報告	告VI』(:	学報23)		(8	PL. 1, Ph. 2
	9	長方形透孔、復原脚数	数29 硅	面に重焼き痕(径約6cm)			
0	1	56次	2	左京1-3-15 6AFB HO25 691007	3	葺石上褐色土	
	4	圏足円面硯		残存長4.8	6	正置 (脚部外面に降灰)	
	7	奈文研1974『平城報告		学報23)) Ph. 2
	9	長方形透孔					

番号	1	次 数	2	出土地点	3	遺構・層序			
	4	種類		法量	6	焼 成 8)	PL, Pł	2
	<u>7</u> <u>9</u>	概報・報告 備 考						г ⊑, г г	
1	1	57次	2	左京1-4-3 6AFB DJ10 690908	3	溝1砂			SD650A
	4	蹄脚円面硯A	(5)	底部径26.5 残存高2.8	6	倒置(脚台部下面に降灰	€)		
	7	奈文研1974『平城報告	ΗVI	(学報23)		8)	PL. 1,	Ph. 2
	10	復原脚数18 共伴土器	景は9	2					
12	1	57次	2	左京1-4-4 6AFB BN10 690922	3	溝 2 砂			SD650A
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径13.7 硯面径8.4 残存高4.1	6	正置(外提部外面に降风	₹)		
	7	奈文研1974『平城報告	 날VI]	(学報23)PL. 79-784		8)	PL. 1,	Ph. 3
	10	長方形透孔 復原脚数	汝12	共伴土器は9C					
13	1	57次	2	左京1-4-4 6AFB BV10 691121	3	溝砂			SD650A
	4	圏足円面硯 b	(5)	外堤径12.6 硯面径10.0 残存高4.7	6	正置(硯面、外堤部外面、	突紛	泉上面	に降灰)
	7	奈文研1974『平城報告	告VI』	(学報23) PL. 79-783		(8))	PL. 1,	Ph. 3
	9	透孔無し、脚部外面に	こヘラ	描き沈線タテ4条、ナナメ1条 14と同一個体ヵ	共	伴土器は9C			
14	(1)	57次		左京1-4-3 6AFB DJ10 690908		溝1砂			SD650A
17	(4)	圏足円面硯 b	(5)	外堤径12.6 硯面径10.0 残存高3.8	6	正置(硯面、外堤部外面、	突絲	泉上面	に降灰)
	(7)	奈文研1974『平城報行	告VI』			8)	PL. 1,	Ph. 3
	9			描き沈線タテ2条以上 13と同一個体ヵ 共伴土	器は	9 C			
15	(1)	57次		左京1-4-3 6AFB DV10 690820		溝1砂			SD650/
10	(4)	圏足円面硯 a	(5)	外堤径18.6 硯面径11.4 残存高4.3	6	不明(明確な窯痕跡なし	_)		
	(7)	奈文研1974『平城報行				(8)	PL. 1,	Ph. 3
	9	24.2 - 21 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 -		、 脚部(広)外面に綾杉状のヘラ描き沈線、脚部(狭)	外面	前にヘラ描き沈線タテ1条		共伴士	:器は9C
16		57次		左京1-4-3 6AFB EI10 690813		溝1砂			SD650A
10	(4)	圏足円面視	(5)		(6)	正置(硯面、外堤部外面、	突約	泉上面	に降灰)
	(7)			(学報23) PL. 79-781 (実測図版)		(8			, Ph. 3
	9	共伴土器は9C		(TTREE) I E. 13 TOT (XMEIN)					
17		57次	(2)	左京1-4-3 6AFB EJ10 690813	(3)	1砂			SD650A
17	(4)	圏足円面硯 b		外堤径13.4 硯面径11.2 残存高2.7		倒置(硯部内面に降灰)			
	(7)			(学報23) PL. 79-781 (写真図版), PL. 79-785 (実			3)	PI 1	, Ph. 3
				脚柱外面にヘラ描き沈線タテ1条、18と同一個体					
10	9			左京1-4-3 6AFB EI10 690814		2砂			SD650/
18	,	57次		た泉1-4-3 0AFB E110 050014 外堤径13.4 硯面径11.2 残存高3.5		倒置(硯部内面に降灰)			020007
	4	圏足円面硯 b				_	6)	DI 1	, Ph. 4
	7			(学報23) PL. 79-785 ヘラ描き沈線、17と同一個体カ 共伴土器は9C				1 - 1	, 1 11
	9	Street Section 201			<u></u>	————————————— 南北溝Ⅱ砂			SD650/
19	1			左京1-4-3 6AFB EG10 690811			```		300307
	(4)	圈足円面硯 b		外堤径16.0 硯面径13.2 残存高2.4	(6)	不明(明確な窯痕跡なし		ם ום	Dh 4
	(7)			(学報23) PL. 79-783		(8)	ע	rL. I	, Ph. 4
	10	200000000000000000000000000000000000000				港 亚70、			enero:
20		57次		左京1-4-4 6AFB BO10 691121		溝西砂			SD6501
	4			残存長4.8 残存幅8.0 残存高1.2	(6)	倒置(硯裏面に自然釉)		DI 6	DL 4
	7	奈文研1974『平城報	告VI』	(学報23) PL. 79-792		(8	3)	PL. 2	, Ph. 4
	9	共伴土器は9℃							

番号	1		2	出土地点	3	The state of the s		
	<u>4</u> (7)	種類 概報・報告	5	法 量	6	焼 成	(8)	DI Dh
	9	備考					8	PL, Ph
21	1	57次	2	左京1-4-3 6AFB CB10 690902	3	溝1黒		SD650E
	4	風字硯 ((5)	残存長10.5 硯尻幅9.8 残存高2.0	6	倒置(硯裏面に降灰)		
	7	奈文研1974『平城報告VI	IJ	(学報23)PL. 79-789			8	PL. 2, Ph. 4
	9	共伴土器は9C						
22	1	57次 (2	左京1-4-3 6AFB DU10 690810	3	溝1砂		SD650A
	4	風字硯 ((5)	残存長10.4 残存幅5.6 残存高3.3	6	正置 (硯面に降灰)		
	7	奈文研1974『平城報告VI		(学報23) PL. 79-791			8	PL. 2, Ph. 4
	9	共伴土器は9C						
23	1	57次 (2	左京1-4-3 6AFB ER10 690729	3	南北溝1砂		SD650A
	4	風字硯 (5	残存長8.8 残存幅5.7 残存高3.6	8	倒置(硯裏面に自然料	由)	
	7	奈文研1974『平城報告VI	[]	(学報23) PL. 79-788			8	PL. 2, Ph. 4
	9	共伴土器は9C						
24	1	57次 (2	左京1-4-4 6AFB CA10 690903	3	溝 灰色土		SD650E
	4	風字硯 (5	残存長6.0 残存幅9.0 残存高1.7	6	不明(明確な窯痕跡を	まし)	
	7	奈文研1974『平城報告VI	J	学報23)PL. 79-790			8	PL. 2, Ph. 5
	9	共伴土器は9C						
25	1)	57次 (2	左京1-4-3 6AFB DK10 690909	3	溝1砂		SD650A
	4	二面風字硯(5	残存長9.4 残存幅7.6 残存高3.2	6	正置 (硯面に降灰)		
	7	奈文研1974『平城報告 VI	J	学報23)PL. 79-787			8	PL. 2, Ph. 5
	9	共伴土器は9C						
26	1	57次 (3	2	左京1-4-3 6AFB DA10 690820	3	1砂		SD650A
	4	風字硯(黒色土器 B 類) (5	残存長9.6 残存幅6.8 残存高1.8	6			
	7	奈文研1974『平城報告Ⅵ』	J	学報23)PL. 79-794			8	PL. 2, Ph. 5
	9	27と同一個体カ 共伴土	器	19C				
27	1	57次 (2	2	左京1-4-3 6AFB DA10 690820	3	1砂		SD650A
	4	風字硯(黒色土器 B 類)	5	残存長6.4 残存幅3.6 残存高1.6	6			
	7	奈文研1974『平城報告VI』] (学報23)PL. 79-794			8	PL. 2, Ph. 5
	9	26と同一個体ヵ 共伴土糧	器	‡9C				
28	1	57次 ②	2	左京1-4-3 6AFB DV10 690820	3	溝西砂		SD650B
	4	風字硯(黒色土器 B 類)	5)	残存長3.6 残存幅4.2 残存高6.0	6			
	7	奈文研1974『平城報告VI』] (学報23)PL. 79-793			8	PL. 2, Ph. 5
	9	共伴土器は9C						
29	1	60次 ②	2)	ウワナベ古墳 4PUN 東西トレンチ 691104	3	盛土		_
	4	圏足円面硯 ⑤	5)	外堤径15.6	6	正置(外提部外面、突	線上	上面に降灰)
	7	奈文研1970『1969年度年報	報』				8	PL. 2, Ph. 5
	9							
60	1	68次 ②	2)	左京2-2-6 6ALG BP56 700718	3	溝1黒		SD5780
	4	圏足円面視 a ⑤	5)	外堤径20.4 硯面径15.3 残存高3.5	6	倒置(硯部内面に降灰	()	
	7	奈文研1970『平城宮第59.	. 6	3. 68次発掘調査概報』、木簡学会1995『木簡研9	EJ 1	7	8	PL. 2, Ph. 5
	9	長方形透孔、復原脚数23						

番号	1 4	次 数 種 類	② 出土地点 ⑤ 法 量	
	1	概報・報告	● A E	8 PL, Ph
	9	備考		
1	1	68次	② 左京2-2-6 6ALG 700601	③ 68次東北 菰川採集
	4	圏足円面視 a	⑤ 外堤径15.8 硯面径12.0 残存高2.5	⑥ 倒置(硯部内面に降灰)
	7	奈文研1970『平城宮第	第59. 63. 68次発掘調査概報』、木簡学会1995『木管	簡研究』17
	9	長方形透孔、復原脚類	数23	
32	1	68次	② 左京2-2-6 6ALG AR57 700714	③ 暗褐土
	4	円形硯	⑤ 外提径19.8 器高2.3	⑥ 倒置(硯裏面に自然釉)
	7	奈文研1970『平城宮第	第59. 63. 68次発掘調査概報』、木簡学会1995『木氰	育研究』17
	9			
33	1	82-2次	② 右京北辺1-2 6AGB 730816	3
	4	蹄脚円面硯B	⑤ 残存長4.4	⑥ 正置 (脚台部上面に自然釉)
	7	奈文研1974『1973年』	度年報』(一覧表のみ)	8 Ph. 6
	9			
34	1	86次	② 左京3-2-15 6AFI HH30 730308	③ 灰褐土上面
	4	圈足円面硯	⑤ 残存長6.0	⑥ 倒置(硯部内面、突線下面に自然釉)
	7	奈文研1975『平城京》	左京三条二坊』(学報25)	® Ph. 6
	9			
35	1	89次	② 左京2-2-14 6AFF EB26 740430	③ 暗灰褐色土
	4	円形硯(輪状高台)	⑤ 外堤径15.9 底部径12.0 器高2.1	⑥ 倒置(外面に自然釉)
	7	奈文研1975『昭和49	年度平城概報』	® PL. 2, Ph. 6
	9	海部にやや傾斜する	傾斜硯の可能性あり	
36	1	90次	② 左京5-1-4 6AFR LN60 740527	③ 土坑
	4	蹄脚円面硯A	⑤ 外堤径22.3 硯面径17.0 残存高6.9	⑥ 倒置(硯部内面に自然釉)
	7	奈文研1975『昭和49	年度平城概報』	8 PL. 3, Ph. 7
	9	復原脚数31 外堤部	外面に鉄釉を塗布	
37	1		② 左京5-1-4 6AFR LI56 740514	③ 大土坑 SE109:
	(4)	圏足円面硯 a	⑤ 硯面径15.2 残存高2.4	⑥ 不明(明確な窯痕跡なし)
	(7)	奈文研1975『昭和49	年度平城概報』	8 PL. 3, Ph. 7
	9	長方形透孔、復原脚	数31	
38	(1)		② 左京8-3-9 6AHJ JK67 750319	③ 暗灰砂 SD130
	<u>(4)</u>	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径12.6 硯面径11.0 残存高2.5	⑥ 正置(硯面、外堤部外面、突帯上面に降灰)
	(7)		左京八条三坊発掘調査概報』	® PL. 3, Ph. 7
	9	硯面に溶着痕あり		
39		93次	② 左京8-3-9 6AHJ 750414	③ 運河南 下層 SD130
00	(4)	圏足円面硯 a	(5) 外堤径12.8 硯面径9.4 残存高2.0	(6) 倒置(硯部内面に自然釉)
	(7)		左京八条三坊発掘調査概報』	® PL. 3, Ph. 7
	(9)	長方形透孔、復原脚		
40	(1)		② 左京8-3-9 6AHJ JK66 750319	③ 運河 暗灰砂 SD130
40		93次 圏足円面視 b	(5) 外提径14.8 硯面径13.2 残存高2.0	⑥ 正置(外堤部上面、突帯上面に降灰)
	4		方 外壳住14.8 倪曲性13.2 残行同2.0 ————————————————————————————————————	8 PL. 3, Ph. 7
	7		左京八条三功光畑調査帆報』 数12 脚柱外面にヘラ描き沈線タテ1条	₩ 1 L 0,1 H 1

番号	1	次 数	2	出土地点	3	遺構・層序		
	<u>4</u> <u>7</u>	種 類 概報・報告	<u>(5)</u>	法量	6	焼 成	(8)	PL, Ph
	9	備考					(8)	PL, PN
41	1	93次	2	左京8-3-9 6AHJ JK67 750324	3	運河 暗灰砂		SD130
	4	圏足円面硯 c	(5)	外堤径19.4 硯面径14.0 残存高4.3	6	倒置(硯部内	面、外堤部外	外面に降灰)
	7	奈文研1976『平城京左』	京八	条三坊発掘調査概報』			8	PL. 3, Ph. 7
	9	復原脚数12 珠文あり	蹄	脚円面硯の可能性あり				
42	1	93次	2	左京8-3-9·16 6AHJ ID67 750212	3	運河 灰褐粘	質土	SD130
	4	圈足円面硯	(5)	外堤径17.1 残存高2.2	6	倒置(硯部内面	、突带下面、夕	ト堤部外面に降灰
	7	奈文研1976『平城京左	京八	条三坊発掘調査概報』			8	PL. 3, Ph. 7
	9	長方形透孔、復原脚数	20					
43	1	93次	2	左京8-3-9 6AHJ JK68 750324	3	運河 暗灰砂		SD130
	4	圏足円面硯	(5)	底部径16.6 残存高1.5	6	倒置(硯部内面	、突带下面、夕	ト堤部外面に降灰
	7	奈文研1976『平城京左』	京八	条三坊発掘調査概報』			8	PL. 3, Ph. 7
	9	長方形透孔						
44	1	93次	2	左京8-3-9 6AHJ JK76 750314	3	暗灰土		SD130
	4	圏足円面硯	(5)	底部径15.3 残存高1.6	6	不明(脚部内	外面に自然和	油)
	7	奈文研1976『平城京左』	京八	条三坊発掘調査概報』			8	PL. 3, Ph. 8
	9	長方形透孔、復原脚数2	21					
45	1	93次	2	左京8-3-9·15·16 6AHJ Z 750328	3			
	4	形象硯	(5)	残存長6.4 残存幅7.0 残存高3.0	6	不明 (明確な	窯痕跡なし)	
	7	奈文研1976『平城京左』	京八	条三坊発掘調査概報』			8	PL. 3, Ph. 8
	9	底部に脚部の剝離痕、消	海部均	是中央に穿孔あり				
46	1	93次・94次	2	左京8-3-15 6AHJ GC40/HA46 750509/750311	3	暗灰粘質土・	暗褐土	
	4	形象硯(鳥形硯蓋)	(5)	残存長12.6 残存幅14.2 残存高4.6	6	正置(外面、	側面に降灰)	
	7	奈文研1976『平城京左』	京八多	条三坊発掘調査概報』 p. 33			8	PL. 3, Ph. 8
	9	外面にヘラ描きで羽毛の	の表現	見				
17	1	94次	2	左京8-3-10 6AHJ GD50 750527	3	井戸		SE1350
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径13.3 硯面径9.6 器高6.2 底部径16.8	6	不明(明確な	窯痕跡なし)	
	7	奈文研1976『平城京左』	京八多	条三坊発掘調査概報』 p. 33			8	PL. 3, Ph. 8
	9	方形透孔、脚数8、硯裏	延面を	転用(墨・朱付着)				
18	1	94次	2	左京8-3-10 6AHJ GB46 750523	3	南北溝		SD1334
	4	圏足円面硯 a	5	外堤径14.4 硯面径9.6 残存高4.1	6	倒置(硯部内)	面、外堤部内	可面に自然釉)
	7	奈文研1976『平城京左』	京八乡	条三坊発掘調査概報』			8	PL. 3, Ph. 8
	9	長方形透孔、復原脚数1	16					
19	1	94次	2	左京8-3-10 6AHJ GH47 750514	3	床土		
	4	圏足円面硯	5	外堤径8.0 残存高2.8	6	倒置(硯部内)	面、突帯下面	「に自然釉)
	7	奈文研1976『平城京左京	京八多	条三坊発掘調査概報』				PL. 3, Ph. 9
	9	長方形透孔、復原脚数1	13 5	ト堤部外面の突線の下に沈線ヨコ2条				
50	-	94次		左京8-3-10 6AHJ GK53 750516	3	南北溝		SD1365
				現面径12.8 高台径14.6 残存高2.5		不明(明確な劉	窒痕跡なし)	
	7	奈文研1976『平城京左京				· · · · //// 5/		PL. 3, Ph. 9
		脚部剝離痕あり						,,

8	PL, Ph	
取穴)	SB155
突带	下面に降	灰)
8	PL. 3,	Ph. 9
突帯	上面に降	灰)
8	PL. 3,	Ph. 9
なし)	
8	PL. 3,	Ph. 9
なし)	
8	Ph. 9	
:)		
なし)	
8	PL. 3,	Ph. 9
灰)		
8	PL. 4,	Ph. 10
なし	.)	
8	Ph. 10	
()		
8	PL. 4,	Ph. 10
突带	下面に降	:灰)
(8)	Ph. 10	
	SF341	(SE01)
	U_UTI	.==0./
R	PI 1	Ph 10
0	, L, 4,	. 11. 10
-	8	e帯下面に降 ⑧ Ph. 10 SE341 ⑧ PL. 4,

番号	1	次 数	2	出土地点	3	遺構・層序	
	4	種類	5	法 量	6	焼 成	PL, Ph
	<u>(7)</u> (9)	概報・報告 備 考				8	PL, PN
51	1	116次	2	左京3-4-7 6AFG N 790410	3	床土	
	4	蹄脚円面硯A	(5)	残存高3.4	6	正置(脚部外面、脚台部外	外面に降灰)
	7	奈文研1980『平城京	左京三	条四坊七坪発掘調査概報』		8	Ph. 10
	9						
62	1	116次	2	左京3-4-7 6AFG NG21 790427	3	灰褐土	
	4	圈足円面硯	(5)	外堤径13.6 残存高5.7	6	不明	
	7	奈文研1980『平城京	左京三	条四坊七坪発掘調査概報』		8	PL. 4, Ph. 10
	9	長方形透孔、復原脚	数10、	脚柱外面にヘラ描き沈線タテ1条			
63	1	116次	2	左京3-4-7 6AFG NJ23 790501	3	円形大土坑	SK1796
	4	圏足円面硯	(5)	底部径38.4 残存高7.2	6	正置(脚部外面、脚台部外	外面に降灰)
	7	奈文研1980『平城京	左京三	条四坊七坪発掘調査概報』		8	PL. 4, Ph. 10
	9	長方形透孔、脚柱幅	に広狭	あり、復原脚数 9(広) + 9(狭) 64と同一個体	カ		
64	1	116次	2	左京3-4-7 6AFG NH25 790426	3	灰褐土	
	4	圏足円面硯	(5)	残存長4.2	6	正置 (脚部外面に降灰)	
	7	奈文研1980『平城京	左京三	条四坊七坪発掘調査概報』		8	PL. 4, Ph. 10
	9	長方形透孔 63と同	一個体	カ			
65	1	116次	2	左京3-4-7 6AFG OA21/OC20 790518/	3	茶褐色土・北端東西溝	SD1889
	4	円形硯(有脚)	(5)	外堤径21.4 残存高1.8	6	倒置(硯裏面に自然釉)	
	7	奈文研1980『平城京	左京三	条四坊七坪発掘調査概報』		8	PL. 4, Ph. 10
	9	脚部剝離痕あり、復	原脚数	3ヵ 硯面に重焼き痕(径約21.0cm)			
66	1	118-2次	2	右京北辺4-3 6AGT 第1トレンチ 790424	3	灰黒粘土	
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径24.2 硯面径18.0 残存高5.2	6	正置(外堤部外面に降灰)	
	7	奈文研編1984『平城	京右京	一条北辺四坊六坪発掘調査報告』奈良県教育委員	会	8	PL. 4, Ph. 11
	9	脚部剝離痕あり、復	原脚数	3 カ			
67	1	118-8次	2	左京3-1-15 6AFJ VH10 790726	3	SD3935 暗褐砂	SD3935
	4	蹄脚円面硯A	(5)	底部径32.0 残存高5.5	6	不明(明確な窯痕跡なし)	
	7	奈文研1980『昭和54	4年度平	城概報』		8	PL. 4, Ph. 11
	9	復原脚数23					
68	1	118-8次	2	左京3-1-15 6AFJ VJ09 790804	3	SD3935 2砂	SD3935
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径26.6 硯面径20.5 残存高4.6	6	不明(明確な窯痕跡なし)	
	7	奈文研1980『昭和54	1年度平	城概報』		8	PL. 4, Ph. 11
	9	長方形透孔、復原脚	」数23				
69	1	118-8次	2	左京3-1-15 6AFJ VM09 790711	3	SD3935 2砂	SD3935
	4	圏足円面硯 a	(5)	底部径19.2 残存高3.0	6	倒置 (脚部内面に降灰)	
	7	奈文研1980『昭和54	1年度平	城概報』		8	PL. 5, Ph. 11
	9	長方形透孔、復原脚	」数18				
70	1	118-8次	2	左京3-1-15 6AFJ VM09 790731	3	SD3935 2砂	SD3935
	4	圈足円面硯	(5)	残存長3.2	6	不明(脚部内外面に自然料	铀)
	7	奈文研1980『昭和54	1年度平	城概報』		8	Ph.11
	9	長方形透孔					

番号	1 4	次 数 種 類	_ 2 5	出土地点 法 量	<u>3</u> 6	遺構・層序 焼 成			
	7	概報・報告		<u>ш</u> <u>т</u>		ATE IX	8	PL,	Ph
	9	備考							
71	1	123-17次	2	右京2-3-11·15 6AGD 801007	3	灰褐土			
	4	蹄脚円面硯B	5	外堤径24.4 硯面径19.4 残存高4.8	6	正置(突帯上面に	锋灰)		
	7	奈文研1981『昭和55年	F度平:	城概報』			8	PL.	5, Ph. 11
	9	復原脚数25							
72	1	124次	2	右京7-2-7 6AIF E 800701	3	大土坑		SK74	5 (SK02)
	4	圏足円面硯 a	5	外堤径12.6 硯面径11.2 残存高1.7	6	倒置(外堤部外面、	突带	下面に	降灰)
	7	奈文研1981『昭和55年	F度平:	成概報』			8	PL.	5, Ph. 11
	9	長方形透孔、復原脚数	文23~2	24					
73	1	124次	2	右京7-2-7·10 6AIF E 800630	3	灰黒粘土			
	4	風字硯	(5)	残存長10.4 残存幅5.1 残存高2.5	6	不明(明確な窯痕	かなし))	
	7	奈文研1981『昭和55年	F度平:	城概報』			8	PL.	5, Ph. 12
	9								
74	1)	131-9次	2	右京6-1-14 6AIA 810713	3	東西溝Ⅲ 灰砂	SD28	85 A	(SD01A)
	4	円面硯	(5)	硯面径14.4 残存高1.8	6	不明 (硯部内面に-	一部自然	然釉)	
	7	奈文研1982『昭和56年	F度平:	成概報』			8	PL.	5, Ph. 12
	9	硯裏面に青海波のあて	て具痕						
75	1	131-31次	2	左京2-2-13 6AFF GJ12 820210	3	土坑 2			SK228
	4	圈足円面硯	(5)	底部径18.8 残存高3.8	6	不明(明確な窯痕罩	なし)		
	7	奈文研1984『平城京左	:京二	条二坊十三坪の発掘調査』			8	PL.	5, Ph. 12
	9	長方形透孔、復原脚数	女14 月	脚柱外面にヘラ描き沈線タテ1条					
76	1	131-34次(西市2次)	2	右京8-2-12 6ASI RU79 810617	3	井戸埋土			SE39
	4	蹄脚円面硯A	(5)	残存長2.8	6	正置(脚頭部外面り	降灰)		
	7	奈文研1982『平城京西	5市跡-	-右京八条二坊十二坪の発掘調査』			8	Ph.	12
	9	77と同一個体ヵ							
77	-	131-34次(西市2次)	2	右京8-2-12 6ASI RU79 810611	3	井戸埋土			SE39
	4	蹄脚円面硯A	(5)	残存長1.9	6	正置(脚頭部外面は	降灰)		
	7	奈文研1982『平城京西	5市跡-	- -右京八条二坊十二坪の発掘調査』			8	Ph. 1	12
	9	76と同一個体ヵ							
78	1	131-34次(西市2次)	(2)	右京8-2-12 6ASI RZ81 810518	(3)	 暗褐土			
	4	圏足円面硯	(5)	底部径37.6 残存高1.8	(6)	倒置(脚台部内面)	白然彩	曲)	
				-右京八条二坊十二坪の発掘調査』		(4) [[1] (1) [1]		Ph. 1	12
	31111111111			蹄脚円面硯の可能性あり					
79		131-36次 (西市3次)		右京8-2-12 6ASI Q南拡張区 810729	3	遺構面直上			
	(4)	蹄脚円面硯	(5)	底部径29.0	6	倒置(脚台部底面、	側面1	* 白炔	妥山)
				- 右京八条二坊十二坪の発掘調査』	•			Ph. 1	
	9	小人叫1000 下放水	□ II) 欧儿, □	ロカバンページ」「一と「ソノ元」が問題上』			٥	111.	
50		135次	<u></u>	右京7-2-15 6AIF NH53 811110	(3)	南東土坑			
U	(4)						-Lac's		
		圏足円面視		残存長3.2	6	倒置(脚部内面に関		Di- 4	0
	(7)	奈文研1977 『昭和56年	一人人一人	汉 [7.7]			(8)	Ph. 1	4

番号	1	次 数	2	出土地点	3	遺構・層序	
	<u>4</u> <u>7</u>	種 類 概報・報告	5	法量		焼 成 8	PL, Ph
	9	備考					T =, T 11
1	1	137次	2	右京2-2-16 6AGC SE83 811219	3	井戸内 暗灰粘土	SE540
	4	蹄脚円面硯B	(5)	底部径25.0 残存高6.5	6	正置(脚部外面、脚台部	上面に自然釉)
	7	奈文研1982『1981年度	年報			8	PL. 5, Ph. 12
	9	復原脚数18					
2	1	141-9次	2	左京4-4-9 6AFK HK84 820629	3	柱穴1	SB2393
	4	形象硯(羊形硯)	(5)	残存長11.4 残存幅12.2 残存高11.6	6	正置(首部上面から硯部	上面に降灰)
	7	奈文研1983『平城京左	京四	條四坊九坪発掘調査報告』巻頭写真, fig. 2	3	8	PL. 5, Ph. 13
	9						
33	1	141-26次	2	右京3-3-5 6AGH AG52 821125	3	大土坑	SK85
	4	圈足円面硯	5	底部径19.6 残存高9.3	6	倒置 (脚部内面に降灰)	
	7	奈文研1983『昭和57年	度平	城概報』第41図35		8	PL. 5, Ph. 14
	9	長方形透孔 脚柱幅に 84~86と同一個体ヵ	広狭	あり、復原脚数4(広)+4(狭) 脚柱タ	外面にヘラ抗	描き沈線タテ7条(広)、タ	'テ1条 (狭)
34	1	141-26次	2	右京3-3-5 6AGH AG52 821125	3	大土坑	SK85
	4	圏足円面硯	(5)	底部径19.6 残存高10.0	6	倒置 (脚部内面に降灰)	
	7	奈文研1983『昭和57年	度平	城概報』第41図35		8	PL. 5, Ph. 14
	9	長方形透孔 脚柱外面	言にへ	ラ描き沈線タテ7条 83・85・86と同一個	固体カ		
35	1	141-26次	2	右京3-3-5 6AGH AG52 821125	3	大土坑	SK85
	4	圏足円面硯	(5)	底部径19.6 残存高9.0	6	倒置 (脚部内面に降灰)	
	7	奈文研1983『昭和57年	E 度平	城概報』第41図35		8	PL. 5, Ph. 14
	9	長方形透孔 脚柱外面	言にへ	ラ描き沈線タテ7条 83・84・86と同一個	固体カ		
36	1	141-26次	2	右京3-3-5 6AGH AG52 821125	3	大土坑 暗灰茶褐土	SK85
	4	圏足円面硯	(5)	残存長8.9	6	倒置 (脚部内面に降灰)	
	7	奈文研1983『昭和57年	- 度平	城概報』第41図35		8	PL. 5, Ph. 14
	9	長方形透孔 83~85と	: 同一	個体ヵ			
87	1	149次	2	右京8-1-11 6AII NA91 830608	3	西側溝	SD920(第3層)
	4	蹄脚円面硯A	5	外堤径24.0 残存高5.5	6	倒置(外面部下面、硯部	内面に降灰)
	7	奈文研1984『平城京右	京八京正	条一坊十一坪発掘調査報告書』fig. 21-6		8	PL. 5, Ph. 14
	9	復原脚数26~27					
38	1	149次	2	右京8-1-11 6AII NF92 830606	3	西側溝	SD920(第3層)
	4	蹄脚円面硯A	(5)	底部径27.0 残存高1.7	6	倒置(外面部下面、硯部	内面に降灰)
	7	奈文研1984『平城京右	京八京	条一坊十一坪発掘調査報告書』fig. 21-6		8	PL. 5, Ph. 14
	9	復原脚数23					
89	1	149次	2	右京8-1-11 6AII OC92 830530	3	西側溝 3	SD920(第3層)
	4	蹄脚円面硯B	(5)	外堤径25.7 硯面径19.0 残存高4.7	6	正置(突带上面、脚頭部上面	面、硯部内面に降灰
	7	奈文研1984『平城京右	京京八京記	条一坊十一坪発掘調査報告書』fig. 21-7		8	PL. 6, Ph. 15
	9	復原脚数24 90と同-					
90	1	149次		右京8-1-11 6AII NF92 830606	3	西側溝	SD920(第3層)
	(4)	蹄脚円面硯B		底部径29.4 残存高6.8	6	正置(脚台部上面に降灰	.)
	7			条一坊十一坪発掘調査報告書』fig. 21-7			PL. 6, Ph. 15
	9)	復原脚数24 89と同一					

番号	1	次数	_ 2	出土地点	3	遺構・層序		
	<u>4</u>	種 類 概報・報告		法量		焼 成	(8)	PL, Ph
	9	備考						1 =, 1 11
91	1	149次	2	右京8-1-11 6AII NA92 830608	3	西側溝 黒褐土	5	SD920(第2層
	4	蹄脚円面硯B	(5)	底部径28.0 残存高5.0	6	正置(脚柱部外面、	脚台	部上面に降灰)
	7	奈文研1984『平城京右	京京八京記	条一坊十一坪発掘調查報告書』			8	PL. 6, Ph. 15
	9	復原脚数23						
92	1	149次	2	右京8-1-11 6AII OO92 830530	3	西側溝 暗灰粘土	5	SD920(第 4 層
	4	蹄脚円面硯B	(5)	外堤径22.0 残存高4.3	6	不明(明確な窯痕跡	なし)
	7	奈文研1984『平城京右	京八京記	条一坊十一坪発掘調査報告書』			8	PL. 6, Ph. 15
	9	復原脚数19						
93	1	149次	2	右京8-1-11 6AII OS91 830606	3	西側溝 黒褐土	5	SD920(第2層
	4	圈足円面硯	(5)	底部径8.6 残存高4.2	6	正置(脚柱部外面、	脚台	部上面に降灰)
	7	奈文研1984『平城京右	京八京	条一坊十一坪発掘調査報告書』fig. 21-1			8	PL. 6, Ph. 15
	9	長方形透孔、復原脚数	χ11 J	即柱部外面に戯画様へラ描き沈線				
94	1	149次	2	右京8-1-11 6AII OK93 830520	3	灰色砂質土		
	4	圏足円面硯 a	(5)	硯面径14.4 残存高7.4	6	正置(脚柱部外面に	降灰)	
	7	奈文研1984『平城京右	京八	条一坊十一坪発掘調査報告書』fig. 21-2			8	PL. 6, Ph. 15
	9	復原脚数15						
95	1	149次	2	右京8-1-11 6AII NA91 830608	3	西側溝 3	S	D920(第3層
	4	圈足円面硯	(5)	底部径10.5 残存高6.0	6	倒置(脚部内面に降	灭)	
	7	奈文研1984『平城京右	京八	条一坊十一坪発掘調査報告書』fig. 21-4			8	PL. 6, Ph. 15
	9	透孔なしヵ						
96	1	149次	2	右京8-1-11 6AII OP92 830603	3	西側溝 灰色粗砂	S	D920(第1層)
	4	圈足円面硯	(5)	底部径10.0 残存高2.8	6	不明(脚部内外面に	降灰)	
	7	奈文研1984『平城京右	京八纟	←一坊十一坪発掘調査報告書』fig. 21-5			8	PL. 6, Ph. 15
	9	脚柱外面に斜格子状へ	ラ描き	5 沈線				
97	1	149次	2	右京8-1-11 6AII OJ95 830513	3	灰褐砂質土		
	4	中空円面硯	(5)	外堤径11.9 硯面径10.0 残存高1.8	6	不明(明確な窯痕跡	なし)	
	7	奈文研1984『平城京右	京八纟	⊱一坊十一坪発掘調査報告書』fig. 21-3			8	PL. 6, Ph. 16
	9							
98	1	149次	2	右京8-1-11 6AII NA92 830609	3	西側溝 3	S	D920(第 3 層)
	4	円面硯(獣脚)	(5)	残存幅7.0 残存高5.4	6	正置(脚部外面に降り	灭)	
	7	奈文研1984『平城京右	京八多	~ 5一坊十一坪発掘調査報告書』fig. 21-8			8	PL. 6, Ph. 16
	9	硯でない可能性あり						
9	1	151-1次	2	左京4-2-1 6AFM QN89 830420	3	灰褐土		
	4	圏足円面硯	(5)	底部径25.0 残存高4.6	6	正置(脚部外面に降原	天)	
	7	奈文研1984『平城京左	京四乡	←二坊一坪発掘調査報告』			8	PL. 6, Ph. 16
	9	三角形透孔 脚柱上位	に珠プ	こあり、蹄脚円面硯模倣ヵ			***************************************	
.00	1	151-1次	2	左京4-2-1 6AFM QN87/QO87 830504/830421	3	整地土/灰褐土		
	4	圈足円面硯	(5)	底部径25.0 残存高4.6	6	正置(脚部外面に降原	反)	
	7	奈文研1984『平城京左	京四条	○二坊一坪発掘調査報告』		As a sub-0 3 5 6 2 7 100		PL. 6, Ph. 16
	9	長方形透孔、復原脚数					~	-,

番号	1	次 数	2	出土地点	3	遺構・層序		
	<u>4</u> 7	種類 概報・報告		法量	6	焼成	8	PL, Ph
	9	備考					<u> </u>	1 =, 1 11
101	1	156-10次	2	右京2-3-12 6AGD JE16 840703	3	大土坑 炭混褐色土		SE122
	4	円面硯	(5)	残存長5.8	6	正置 (硯面に降灰)		
	7	奈文研1985『昭和59	年度平	城概報』			8	Ph. 16
	9	硯裏面を硯に転用						
102	1	156-18次	2	左京2-3-3 6AFE HP68 840907	3	東西溝13		
	4	圏足円面硯	(5)	底部径23.2 残存高4.2	6	不明(明確な窯痕跡を	なし)	
	7	奈文研1985『昭和59	年度平	城概報』			8	PL. 6, Ph. 16
	9	長方形透孔、復原脚	数 9	脚柱外面にヘラ描き沈線タテ2条 103と同一個化	本カ			
103	1	156-18次	2	左京2-3-3 6AFE HT67 840912	3	包含層		
	4	圈足円面硯	(5)	底部径23.2 残存高5.3	6	不明(明確な窯痕跡を	なし)	
	7	奈文研1985『昭和59	年度平	城概報』			8	PL. 6, Ph. 16
	9	長方形透孔 脚柱外	面にへ	ラ描き沈線タテ1条以上 102と同一個体ヵ				
104	1	160次	2	左京8-1-3 6AHL QT61 841022	3	炭混茶褐土		
	4	蹄脚円面硯B	(5)	残存高4.8	6	不明(明確な窯痕跡を	まし)	
	7	奈文研1985『平城京	左京八	条一坊三・六坪発掘調査報告書』			8	Ph. 16
	9							
105	1	160次	2	左京8-1-3 6AHL QQ59 840723	3	小穴		
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径26.0 硯面径18.2 残存高4.7	6	正置(外堤部外面、约	定带_	上面に降灰)
	7	奈文研1985『平城京	左京八	条一坊三・六坪発掘調査報告書』fig. 41-324			8	PL. 6, Ph. 16
	9	長方形透孔、復原脚	数39	外堤部内面に重焼き痕跡(径23.2cm)				
106	1	160次	2	左京8-1-3 6AHL QU61/QU60 840914/840906	3	池 炭混暗灰粘質土		SG3500中原
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径11.9 硯面径9.4 残存高2.0	6	正置(硯面、突帯上)	面に降	奉 灰)
	7	奈文研1985『平城京	左京八	条一坊三・六坪発掘調査報告書』fig. 41-326			8	PL. 6, Ph. 17
	9	長方形透孔、復原脚	数23					
107	1	160次	2	左京8-1-3 6AHL QR64 840827	3	暗褐粘質土		
	4	圏足円面硯 c	(5)	外堤径16.8 硯面径12.6 残存高6.2	6	正置(外堤部外面、脈	却部多	外面に降灰)
	7	奈文研1985『平城京	左京八	条一坊三・六坪発掘調査報告書』fig. 41-325			8	PL. 6, Ph. 17
	9	透孔なしヵ						
108	1	160次	2	左京8-1-6 6AHL QU47 840928	3	大土坑		SK330
	4	形象硯(鳥形硯)	(5)	残存長6.7 残存幅6.5 残存高12.0	6	正置(頭部上面、頸部	邓上面	面に自然釉)
	7	奈文研1985『平城京	左京八	条一坊三・六坪発掘調査報告書』fig. 41-327			8	PL. 6, Ph. 17
	9	頸部前面にヘラ描き	で羽毛	を表現				
109	1	162次	2	右京3-3-5 6AGH BP61 841127	3	東西溝溝 灰褐粘質土		
	4	円面硯(無脚)	(5)	外堤径16.0 硯面径12.5 器高2.0 底部径16.0	6	倒置(硯裏面、側面り	こ降原	₹)
	7	奈文研1985『昭和59	年度平	城概報』			8	PL. 6, Ph. 17
	9	硯面に火襷あり						
110	1	164-12次	2	左京2-3-6 6AFE HR22 851017	3	暗灰褐砂質土		
	4	円面硯(無脚)		外堤径13.0 硯面径10.0 器高2.5 底部径11.9	6		自然彩	曲)
	7	奈文研1986『昭和60			***********			PL. 6, Ph. 17
	9			_				

番号	① ④ ⑦	次 数 種 類 概報・報告	<u>2</u> <u>5</u>	出土地点 法 量	<u>3</u>	遺構・層序 焼 成	0	PL,	Ph
	9	備考							
111	1	164-12次	2	左京2-3-6 6AFE H区 851005	3	遺物包含層			
	4	円面硯(獣脚)	5	残存長5.4 残存幅4.4	6	正置 (脚部外面に降灰)			
	7	奈文研1986『昭和60年	年度平:	成概報』		8)	PL. (6, Ph. 17
	9	硯でない可能性あり							
112	1	168次	2	右京8-1-13 6AII QS57/QT57 851024/851024	3	土坑 暗灰粘土/灰褐土			
	4	蹄脚円面硯B	5	外堤径22.9 硯面径17.6 残存高4.5	6	不明(明確な窯痕跡なし	_)		
	7	奈文研1989『平城京	右京八.	条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)PL.	43-	530 8)	PL.	7, Ph. 18
	9	復原脚数22							
113	1	168次	2	右京8-1-14 6AII PA57 851121	3	北側溝 上層			SD149
	4	蹄脚円面硯B	(5)	硯面径17.0 残存高4.8	6	正置(海部、外堤部外面、	脚頭	頁部」	上面に降灰
	7	奈文研1989『平城京	右京八.	条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)		8)	PL. 7	7, Ph. 18
	9	114~117と同一個体	カ						
114	1	168次	2	右京8-1-13 6AII QT56 851115	3	南側溝 上層			SD149
	4	蹄脚円面硯B	(5)	残存長6.2	6	正置(外堤部外面に降灰	₹)		
	7	奈文研1989『平城京》	台京八	条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)		8)	PL. 7	7, Ph. 18
	9	113・115~117と同一	個体カ						
115	1	168次	2	右京8-1-13 6AII QT53 851115	3	南側溝 下層			SD149
	4	蹄脚円面硯B	(5)	底部径24.4 残存高5.5	6	正置(脚部外面、脚台部	弘上	面に	自然釉)
	7	奈文研1989『平城京	台京八	条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)		8)	PL. 7	7, Ph. 18
	9	113 · 114 · 116 · 117	と同一位	固体ヵ					
116	1	168次	2	右京8-1-13 6AII QS55 851118	3	南北溝			SD146
	4	蹄脚円面硯B	(5)	残存高6.2	6	正置(脚部外面に自然釉	1)		
	7	奈文研1989『平城京	古京八	条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)		8) [PL. 7	7, Ph. 18
	9	113~115・117と同一	個体カ						
117	1	168次	2	右京8-1-14 6AII PI55 851025	3	灰褐土			
	4	蹄脚円面硯B	(5)	残存高6.1	6	不明(明確な窯痕跡なし	.)		
	7	奈文研1989『平城京石	与京八多	条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)		8) F	PL. 7	, Ph. 18
	9	113~116と同一個体:	ħ						
118	1	168次	2	右京8-1-14 6AII PD53 851028	3	灰褐土		-,	
	4	蹄脚円面硯B	(5)	残存高5.3	6	不明(明確な窯痕跡なし	.)		
	7	奈文研1989『平城京福	与京八多	条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)				² h. 1	8
	9								
119	1	168次	(2)	右京8-1-13 6AII QJ65 850809	(3)	灰褐粘土			
	4	蹄脚円面硯B		残存高5.7		不明(明確な窯痕跡なし)		
	7			ティスティスティスティスティスティスティスティスティスティスティスティスティステ	<u> </u>	~		² h. 1	8
	9						1		_
120		168次	②	右京8-1-13 6AII QL63 850808	(3)				
	(4)	圏足円面硯 a		-		正置(突帯上面、脚台部	L.	新 <i>1.</i> ~1	白鉄‰
	(7)								
	()		コポノヘラ	ミー切十三・十四坪発掘調査報告』(字報46)PL.		8)	ŀ	-L. /	, Ph. 19

番号	1	次 数		遺構・層序
	4	種類	⑤ 法 量	焼成
	9	概報・報告 備 考		
21	1	168次	② 右京8-1-13 6AII QK66 850812 ③ 3	大土坑 SK1376
	4	圏足円面硯 a	⑤ 硯面径20.4 底部径27.3 残存高8.8 ⑥	不明(明確な窯痕跡なし)
	7	奈文研1989『平城』	京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)PL. 43-52	® PL. 7, Ph. 19
	9	長方形透孔、復原	脚数30 脚台部側面に沈線2条 120・122・171と同一個体カ	
22	1	168次	② 右京8-1-13 6AII QU55 851115 ③)	灰褐土
	4	圈足円面硯	⑤ 残存高2.0	不明(明確な窯痕跡なし)
	7	奈文研1989『平城』	京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)	8 PL. 7, Ph. 20
	9	長方形透孔、復原	脚数30 脚台部側面に沈線2条 120・121・171と同一個体カ	
23	1	168次	② 右京8-1-13 6AII QT52 851113 ③	南側溝 上層 SD1495
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径22.7 硯面径17.4 残存高3.4 ⑥ 〕	正置(海部、外堤部上面と外面に降灰)
	7	奈文研1989『平城』	京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)PL. 43-52	8 PL. 7, Ph. 20
	9	長方形透孔、復原	脚数22	
.24	1	168次	② 右京8-1-13 6AII QU68 860118 ③ 1	南側溝 下層 SD1496
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外提径18.2 硯面径15.0 残存高2.8 ⑥	倒置 (硯部内面に降灰)
	7	奈文研1989『平城』	京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)PL. 43-52	® PL. 7, Ph. 20
	9	長方形透孔 脚柱	幅に広狭あり、復原脚数 4 (広)+12(狭)	
25	1	168次	② 右京8-1-13 6AII QG64 850813 ③)	灰褐土
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外提径17.2 硯面径13.0 残存高3.7 ⑥	倒置(硯部内面、外堤部内面に降灰)
	7	奈文研1989『平城』	京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)	8 PL. 7, Ph. 20
	9	長方形透孔、復原	脚数8~9	
26	1	168次	② 右京8-1-14 6AII PC62 851019 ③)	灰褐土
	4	圏足円面硯 b	⑤ 外提径13.5 硯面径10.0 残存高2.0 ⑥	倒置(硯部内面に降灰)
	7	奈文研1989『平城』	京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)	8 PL. 7, Ph. 20
	9	長方形透孔、復原	脚数25	
.27	1	168次	② 右京8-1-13 6AII QT57 851120 ③ 1	南側溝 最下層(新) SD1496
	4	圏足円面硯 b	⑤ 外提径4.4 硯面径3.0 残存高1.4 ⑥ 化	倒置(硯部内面、外堤部外面に降灰)
	7	奈文研1989『平城』	京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)	8 PL. 7, Ph. 20
	9	長方形透孔、復原	脚数13 外堤部外面に2~3条の波状文	
28	1	168次	② 右京8-1-14 6AII PG58 851023 ③ J	灰褐土
	4	圏足円面視 c	⑤ 外提径12.6 硯面径5.7 残存高3.1 ⑥	不明(明確な窯痕跡なし)
	7	奈文研1989『平城』	京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)	8 PL. 7, Ph. 20
	9	長方形透孔、復原	脚数15	
.29	1	168次	② 右京8-1-13 6AII QH67 850919 ③ 3	土坑 4 SK1357
	4	圏足円面硯	⑤ 外提径26.5 残存高3.9 ⑥ 1	倒置(硯部内面に降灰)
	7	奈文研1989『平城』	京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)	8 PL. 7, Ph. 20
	9	長方形透孔、復原	脚数28	
.30	1	168次	② 右京8-1-13 6AII QO58 850805 ③ J	灭褐土
	4	圏足円面硯	⑤ 外提径16.0 残存高2.1 ⑥ 〕	正置(硯面、外堤部外面に自然釉)
	7	奈文研1989『平城』	京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)	® PL. 7, Ph. 21
	(9)	透孔不明 硯でない	い可能性あり	

番号	<u>(1)</u>	次 数 種 類		法量	<u>3</u> <u>6</u>	遺構・層序 焼 成			
	7	概報・報告		瓜 里		NC III.	8	PL,	Ph
	9	備考		delegation and the second				大武	OD1400
.31	1	168次		右京8-1-14 6AII PA59 851129		北側溝下層	÷n n	∀ I∵` \	SD1499
	4	圏足円面硯	(5)	底部径19.0 残存高3.8	6	不明(脚台部外面に-			
	7			条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)		to the	(8)	PL.	7, Ph. 21
	9	長方形透孔、復原脚	200-00-0	脚部下端に沈線1条(透孔位置の基線ヵ) 132と	Libert				
132	1	168次	2	右京8-1-14 6AII PA59 851121		北側溝 下層			SD1499
	4	圈足円面硯		残存高3.9	6	倒置(脚部内面に降原			
	7			条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)			8	PL.	7, Ph. 21
	9	長方形透孔、脚部下	端に沈	線1条(透孔位置の基線カ) 131と同一個体カ					
133	1	168次	2	右京8-1-13 6AII QU56 851121	3	灰褐土			
	4	圈足円面硯	(5)	底部径26.8 残存高4.0	6	正置(脚台部外面に	降灰)		
	7	奈文研1989『平城京	京右京八	条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)			8	PL.	7, Ph. 21
	9	長方形透孔、復原肽	型数28	134と同一個体ヵ					
134	1	168次	2	右京8-1-13 6AII QT56 851118	3	南側溝 上層			SD149
	4	圏足円面硯	(5)	残存長6.4	6	正置(脚部内面に降り	灭)		
	7	奈文研1989『平城京	京右京八	条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)			8	PL.	7, Ph. 21
	9	長方形透孔、133と	同一個包	本カ					
135	1	168次	2	右京8-1-13 6AII QQ65 850801	3	灰褐土			
	4	圏足円面硯	(5)	底部径21.5 残存高2.1	6	不明(明確な窯痕跡	なし)		
	7	奈文研1989『平城京	京右京八	条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)			8	PL.	7, Ph. 21
	9	長方形透孔、復原脚	 数24						
136	1	168次	2	右京8-1-14 6AII PD66 851012	3	灰褐土			
	4	圏足円面硯	(5)	底部径17.0 残存高3.6	6	不明(明確な窯痕跡	なし)		
	7	奈文研1989『平城京	京右京八	条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)			8	PL.	7, Ph. 21
	9	十字形透孔×4、县	長方形透	孔×4、復原脚数 8					
137	1	168次	2	右京8-1-13 6AII QB57 850919	3	井戸掘形(内側)			SE130
	4	圈足円面硯	(5)	底部径13.2 残存高4.9	6	正置(脚部外面、脚·	台部外	外面に	上降灰)
	(7)	奈文研1989『平城京	京右京八	条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)			8	Ph.	21
	(9)	長方形透孔							
138		168次	(2)	右京8-1-14 6AII PA56 851119	3	北側溝 上層			SD150
	(4)	圏足円面硯	(5)	残存長5.1	6	不明(脚部内外面に)	降灰)		
				条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)			(8)	Ph.	21
	**********	長方形透孔							
139		168次	2	右京8-1-13 6AII QG62 850816	(3)	灰褐土			
100	4					倒置(硯面裏に降灰))		
				条一坊十三·十四坪発掘調査報告』(学報46)		P)E (%)M X(-17-)(,		ΡI	7, Ph. 21
				余一切 三・ 四坪光掘調査報日』(子報40/ 			9		-, - 111 -1
1.40	9		1997	9 20	(2)	中央アゼ中 土器群			SD149
140		168次		右京8-1-13 6AII 860123			t>1 \		30148
	(4)			外堤径12.6 硯面径8.6 器高1.4		不明(明確な窯痕跡			7 Dh 00
	7			条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)PL	. 43-	D20	8)	PL.	7, Ph. 22
	9	*学報では「QG62	区 灰褐	土出土」					

番号	<u>1</u>	次数種類	<u>2</u> <u>5</u>	出土地点 法 量	<u>3</u>	遺構・層序 焼 成		DI Die
	9	概報・報告 備 考					(8)	PL, Ph
141		168次	2	右京8-1-13 6AII QR57 850805	3	南北溝①		SD1412
	4	宝珠硯	5	残存長6.5 残存幅9.8 器高2.5	6	倒置(硯裏面、脚柱り	こ自然	然釉)
	7	奈文研1989『平城京右	京八	条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)PL.	43-	524	8	PL. 7, Ph. 22
	9	風字硯の可能性あり						
142	1	168次	2	右京8-1-13 6AII QU60 851022	3	東西溝 上層		SD1495 上層
	4	形象硯(羊形硯)	(5)	残存長8.3 残存幅6.5 残存高7.7	6	正置(顔面左半分に降	降灰)	
	7	奈文研1989『平城京右	京八	条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)PL.	43-	522	8	PL. 7, Ph. 22
	9	ヘラ描き沈線で顔、角	の細	部を表現				
143	1	168次	2	右京8-1-13 6AII QP65 850803	3	不整形土坑		SK1398
	4	形象硯蓋(亀形硯蓋)	(5)	残存長5.4 残存幅7.4 残存高3.0	6	正置(外面に自然釉)		
	7	奈文研1989『平城京右	京八	条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)PL.	43-	523	8	PL. 7, Ph. 22
	9	ヘラ描き沈線で亀甲を	表現					
144	1	178次	2	左京3-2-7 6AFI RD25 870220	3	暗灰褐土		
	4	蹄脚円面硯A	(5)	外堤径25.5 硯面径20.2 残存高4.8	6	倒置(硯部内面に降原	灭)	
	7	奈文研1995『平城京左』	京二条	:二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調査	Ē-] (学報54)Pl. 164-4441	8	PL. 8, Ph. 22
	9	復原脚数20 145·238	3と同	一個体ヵ				
145	1	178次	2	左京3-2-7 6AFI RD34 871024	3	灰褐土		
	4	蹄脚円面硯A	(5)	外堤径25.5 硯面径20.2 残存高4.4	6	倒置(硯部内面に降原	戻)	
	7	奈文研1995『平城京左』	京二条	:二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調査	Ē-] (学報54)Pl. 164-4441	8	PL. 8, Ph. 22
	9	復原脚数20 144·238	3と同	一個体力				
146	1	178次	2	左京3-2-7 6AFI RE37 861121	3	灰褐土		
	4	蹄脚円面硯A	(5)	硯面径22.5 残存高5.0	6	倒置(外堤部下面、១	と帯つ	下面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸の)調査	-』(学報54)	8	PL. 9, Ph. 23
	9	復原脚数4ヵ 174・17	75と同	一個体力				
147	1	178次	2	左京3-2-7 6AFI RF48/RM44/RD49 861104/861110/870122	3	灰褐土/灰褐土/東側澤	第 上)	晉 SD4229
	4	蹄脚円面硯 B	(5)	外堤径25.0 硯面径18.8 残存高4.2	6	正置(突帯上面に自然	 (無)	
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の)調査	-』(学報54)	8	PL. 8, Ph. 23
	9	復原脚数20 148·149	と同	一個体ヵ				
148	1	178次	2	左京3-2-7 6AFI RH42 861117	3	灰褐土		
	4	蹄脚円面硯 B	(5)	残存長6.1	6	不明(明確な窯痕跡な	il)	
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の	調査	-』(学報54)	8	PL. 8, Ph. 23
	9	147・149と同一個体ヵ						
149	1)	178次	2	左京3-2-7 6AFI RD50 861031	3	灰褐土		
	4	蹄脚円面硯 B	(5)	残存高4.2	6	不明(明確な窯痕跡な	k L)	
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸の	調査	-』(学報54)	8	PL. 8, Ph. 23
	9	147・148と同一個体ヵ						
150	1	178次	2	左京3-2-7 6AFI RS41/RG49/RJ42 870110/870122/870112	3	灰褐土/東側溝 上層/	暗灰衫	曷土 SD4229
	4	蹄脚円面硯B	(5)	底部径26.0 残存高6.1	6	正置(脚部外面、脚台	部俱	面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の	調査	-』(学報54)	8	PL. 8, Ph. 23
	9	復原脚数21 151·152	と同-	一個体力				

番号	1	次 数	② 出土地点	3	遺構・層序				0.19
	4	種類	⑤ 法 量	6	焼 成	0	DI	Dh	
	9	概報・報告 備考				0	PL,	FII	
151		178次	② 左京3-2-7 6AFI RO35/RH44 861126/870117	3	灰褐土/暗灰褐土				
	4	蹄脚円面硯B	⑤ 底部径26.0 残存高6.4	6	不明(明確な窯痕跡	なし)			
	7	奈文研1995『平城京左	左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	『の調査	-』(学報54)	8	PL.	8, F	Ph. 24
	9	150・152と同一個体 >	ħ						
152	1	178次	② 左京3-2-7 6AFI RD51 870123	3	西側溝 上層				SD4231
	4	蹄脚円面硯B	⑤ 底部径26.0 残存高4.1	6	正置(脚部外面、脚	台部」	二面に	こ降月	灭)
	7	奈文研1995『平城京左	左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂氏	部の調査	⊱』(学報54)	8	PL.	8, F	Ph. 24
	9	150・151と同一個体	<i>b</i>			,			
153	1	178次	② 左京3-2-7 6AFI RF46 861106	3	灰褐土				
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径13.0 硯面径8.8 残存高1.9	6	倒置(硯部内面に自	然釉)			
	7	奈文研1995『平城京左			学報54)Pl. 164-4431	8	PL.	8, F	Ph. 24
	9	長方形透孔、復原脚類	数19						
154	1	178次	② 左京3-2-7 6AFI RK27 861217	3	灰褐土				
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外提径13.4 硯面径9.2 残存高2.5	6	倒置(硯部内面、突	帯下回	面に降)
	7	奈文研1995『平城京左	三京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調	周査-』(2	学報54)Pl. 164-4430	8	PL.	8, F	² h. 24
	9	長方形透孔 硯裏面	に重焼き痕跡 (径4.0cm)						
155	1	178次	② 左京3-2-7 6AFI RM41 861117	3	灰褐土				
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径13.2 硯面径9.6 残存高2.3	6	倒置(硯部内面に自	然釉)			
	7	奈文研1995『平城京》	左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸	邸の調査	⊱』(学報54)	8	PL.	8, F	Ph. 24
	9	長方形透孔、復原脚	数27						
156	1	178次	② 左京3-2-7 6AFI RN38 870416	3	井戸枠内埋土				SE4265
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径18.4 硯面径14.7 残存高3.2	6	不明(明確な窯痕跡	なし)			
	7	奈文研1995『平城京	左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂B	邪の調査	上』(学報54)	8	PL.	8, F	Ph. 24
	9	長方形透孔、復原脚	数26						
157	1	178次	② 左京3-2-7 6AFI RI35 861126	3	灰褐土				
	4	圏足円面硯 b	⑤ 硯面径8.4 残存高2.4	6	不明(明確な窯痕跡	なし)			
	7	奈文研1995『平城京	左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂B	邸の調査	Ě-』(学報54)	8	PL.	8, 1	Ph. 24
	9	長方形透孔、復原脚	数27						
158	1	178次	② 左京3-2-7 6AFI RD46 861106	3	灰褐土				
	4	圏足円面硯 c	⑤ 外堤径13.2 硯面径10.0 残存高2.6	6	倒置(硯部内面に自	然釉)			
	7	奈文研1995『平城京	左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂B	邸の調査	生-』(学報54)	8	PL.	8, I	Ph. 24
	9	長方形透孔 脚柱外	面にヘラ描き沈線タテ3条以上						
159	1	178次	② 左京3-2-7 6AFI RD17 870306	3	流路 埋土 2				SD4150
	4	圈足円面硯	⑤ 外堤径12.0 底部径14.6 器高4.9	6	不明(明確な窯痕跡	なし)			
	7	奈文研1995『平城京	左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂	邸の調査	₾-』(学報54)	8	PL.	. 8, 1	Ph. 24
	9	長方形透孔、復原脚	数9 脚柱外面にヘラ描き沈線タテ2条、沈線ヨコ3	条					
160	1	178次	② 左京3-2-7 6AFI RK34 870207	3	南半 大柱穴				SA4250
	4	圈足円面硯	⑤ 底部径17.1 残存高2.9	6	倒置(脚部内面に厚	〈、外ī	面に	事く	自然釉)
	7	奈文研1995『平城京	左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂	邸の調査	查-』(学報54)	8	PL.	. 8, 1	Ph. 25
	9	長方形透孔、復原脚	数32 脚部上下端に沈線各1条(透孔位置の基線カ)						

番号	_	次 数 種 類	② 出土地点 ⑤ 法 量	<u>3</u> 6	遺構・層序 焼 成		
	<u>4</u>	概報・報告			NOT PX	8	PL, Ph
	9	備考					
61	1	178次	② 左京3-2-7 6AFI RM18 861223	3	灰褐土		
	4	圈足円面硯	⑤ 残存長4.2	6	倒置(脚部内外面に	自然	触、内面が厚い)
	7	奈文研1995『平城京	京左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂	呂邸の調査	』(学報54)	8	Ph. 25
	9	長方形透孔 脚部下	下端に沈線1条(透孔位置の基線ヵ)				
62	1	178次	② 左京3-2-7 6AFI RN40 870110	3	南半東西溝		SD4261
	4	中空円面硯	⑤ 外堤径11.7 硯部径10.6 残存高5.0	6	正置(鳥形把手側面	から.	上面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京 fig. 64-4458, Ph. 216	京左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂 6-4358	呂邸の調査	E-』(学報54)	8	PL. 8, Ph. 25
	9						
63	1	178次	② 左京3-2-7 6AFI RP33 870210	3	大土坑		S E4260
	4	円形硯 (輪状高台)	⑤ 高台径15.0 残存高2.4	6	倒置(硯裏面に降灰)	
	7	奈文研1995『平城京	左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の)調査-』(4	学報54)Pl. 165-4444	8	PL. 8, Ph. 25
	9						
64	1	178次	② 左京3-2-7 6AFI RQ28 870218	3	暗灰褐土		
	4	風字硯	⑤ 残存長7.0 残存幅6.4 残存高1.3	6	不明(硯面、硯裏面	に降り	灭)
	7	奈文研1995『平城京》	左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の)調査-』(4	学報54)Pl. 165-4448	8	PL. 8, Ph. 25
	9						
65	1	178次	② 左京3-2-7 6AFI RO50 870123	3	黒灰褐土		
	4	特殊硯	⑤ 残存長12.4 残存高3.0	6	不明(明確な窯痕跡	なし))
	7	奈文研1995『平城京》	左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の)調査-』(4	学報54)Pl. 166-4454	8	PL. 8, Ph. 25
	9	硯でない可能性あり)				
66	1	179次	② 右京8-1-14 6AII OT51 861214	3	柱穴断割土坑1		SB1780
	4	蹄脚円面硯A	⑤ 外堤径21.2 残存高4.1	6	倒置(外堤部内面全体	いと外	面の一部に降灰)
	7	奈文研1989『平城京	京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)			8	PL. 8, Ph. 25
	9	復原脚数13 脚頭部	Bに笵傷あり				
67		復原脚数13 脚頭部 179次	形に笵傷あり ② 右京8-1-14 6AII OC50 861112	3	暗灰砂質土		
.67					暗灰砂質土 不明 (明確な窯痕跡	なし)	
.67	1	179次 蹄脚円面硯	② 右京8-1-14 6AII OC50 861112				Ph. 25
67	 (1) (4) (7) 	179次 蹄脚円面硯	② 右京8-1-14 6AII OC50 861112 ⑤ 硯面径9.5 残存高3.2				
	① ④ ⑦ ⑨	179次 蹄脚円面硯	② 右京8-1-14 6AII OC50 861112 ⑤ 硯面径9.5 残存高3.2	6	不明(明確な窯痕跡		
.67	(1) (4) (7) (9) (1)	179次 蹄脚円面硯 奈文研1989『平城京 179次	② 右京8-1-14 6AII OC50 861112 ⑤ 硯面径9.5 残存高3.2 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) ② 右京8-1-14 6AII OT45 861209	3	不明(明確な窯痕跡 大土坑 1	8	Ph. 25
	① ④ ④ ⑦ ⑨ ① ④ ④ ④ ④ ④ ④ ④ ④ ④ ④ ④ ④ ④ ④	179次 蹄脚円面硯 奈文研1989『平城京 179次 圏足円面硯 a	② 右京8-1-14 6AII OC50 861112 ⑤ 硯面径9.5 残存高3.2 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) ② 右京8-1-14 6AII OT45 861209 ⑤ 外堤径22.9 硯面径18.4 残存高2.3	3	不明(明確な窯痕跡	8	Ph. 25 面に降灰)
	(1) (4) (7) (9) (1)	179次 蹄脚円面硯 奈文研1989『平城京 179次 圏足円面硯 a 奈文研1989『平城京	② 右京8-1-14 6AII OC50 861112 ⑤ 硯面径9.5 残存高3.2 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) ② 右京8-1-14 6AII OT45 861209 ⑥ 外堤径22.9 硯面径18.4 残存高2.3	3	不明(明確な窯痕跡 大土坑 1	8	Ph. 25
68	(1) (4) (7) (9) (1) (4) (7) (9)	179次 蹄脚円面硯 奈文研1989『平城京 179次 圏足円面硯 a 奈文研1989『平城京 長方形透孔、復原内	② 右京8-1-14 6AII OC50 861112 ⑤ 硯面径9.5 残存高3.2 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) ② 右京8-1-14 6AII OT45 861209 ⑥ 外堤径22.9 硯面径18.4 残存高2.3 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)	3 6	不明(明確な窯痕跡 大土坑1 倒置(硯部内面、突	8	Ph. 25 面に降灰) PL. 9, Ph. 26
	1 4 7 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	179次 蹄脚円面硯 奈文研1989『平城京 179次 圏足円面硯 a 奈文研1989『平城京 長方形透孔、復原脚 179次	② 右京8-1-14 6AII OC50 861112 ⑤ 硯面径9.5 残存高3.2 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) ② 右京8-1-14 6AII OT45 861209 ⑥ 外堤径22.9 硯面径18.4 残存高2.3 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) 即数29 ② 右京8-1-14 6AII OT47 861205	636	不明(明確な窯痕跡 大土坑1 倒置(硯部内面、突 井戸抜取	8 吊下I 8	Ph. 25 面に降灰) PL. 9, Ph. 26 SE1700
68	1 4 7 9 1 4 9	179次 蹄脚円面硯 奈文研1989『平城京 179次 圈足円面硯 a 奈文研1989『平城京 長方形透孔、復原脚 179次 圈足円面硯 a	② 右京8-1-14 6AII OC50 861112 ⑤ 硯面径9.5 残存高3.2 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) ② 右京8-1-14 6AII OT45 861209 ⑥ 外堤径22.9 硯面径18.4 残存高2.3 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) 即数29 ② 右京8-1-14 6AII OT47 861205 ⑥ 外堤径13.4 残存高2.8	636	不明(明確な窯痕跡 大土坑1 倒置(硯部内面、突	8 「17帯 8 「17帯	Ph. 25 面に降灰) PL. 9, Ph. 26 SE1700 面に降灰)
668	1 4 7 9 1 4 7 9	179次	② 右京8-1-14 6AII OC50 861112 ⑤ 硯面径9.5 残存高3.2 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) ② 右京8-1-14 6AII OT45 861209 ⑥ 外堤径22.9 硯面径18.4 残存高2.3 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) 即数29 ② 右京8-1-14 6AII OT47 861205 ⑥ 外堤径13.4 残存高2.8 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46)	636	不明(明確な窯痕跡 大土坑1 倒置(硯部内面、突 井戸抜取	8 「17帯 8 「17帯	Ph. 25 面に降灰) PL. 9, Ph. 26 SE1700
68	1 4 9 9 1 1 4 9 9 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	179次	② 右京8-1-14 6AII OC50 861112 ⑤ 硯面径9.5 残存高3.2 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) ② 右京8-1-14 6AII OT45 861209 ⑥ 外堤径22.9 硯面径18.4 残存高2.3 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) 即数29 ② 右京8-1-14 6AII OT47 861205 ⑥ 外堤径13.4 残存高2.8 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) 即数7	63636	不明(明確な窯痕跡 大土坑1 倒置(硯部内面、突 井戸抜取 倒置(硯部内面、突	8 「17帯 8 「17帯	Ph. 25 面に降灰) PL. 9, Ph. 26 SE1700 面に降灰)
668	1	179次	② 右京8-1-14 6AII OC50 861112 ⑤ 硯面径9.5 残存高3.2 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) ② 右京8-1-14 6AII OT45 861209 ⑥ 外堤径22.9 硯面径18.4 残存高2.3 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) 即数29 ② 右京8-1-14 6AII OT47 861205 ⑥ 外堤径13.4 残存高2.8 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) 即数7 ② 右京8-1-14 6AII OD52 861110	63636	不明(明確な窯痕跡 大土坑1 倒置(硯部内面、突 井戸抜取 倒置(硯部内面、突 暗灰砂質土	8 8 8 8 8 8 8	Ph. 25 面に降灰) PL. 9, Ph. 26 SE1700 面に降灰) PL. 9, Ph. 26
68	1 4 9 9 1 1 4 9 9 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	179次 蹄脚円面硯 奈文研1989『平城京 179次 圏足円面硯 a 奈文研1989『平城京 長方形透孔、復原脚 179次 圏足円面硯 a 奈文研1989『平城京 長方形透孔、復原脚 179次	② 右京8-1-14 6AII OC50 861112 ⑤ 硯面径9.5 残存高3.2 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) ② 右京8-1-14 6AII OT45 861209 ⑥ 外堤径22.9 硯面径18.4 残存高2.3 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) 即数29 ② 右京8-1-14 6AII OT47 861205 ⑥ 外堤径13.4 残存高2.8 京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』(学報46) 即数7	63636	不明(明確な窯痕跡 大土坑1 倒置(硯部内面、突 井戸抜取 倒置(硯部内面、突	8 8 8 8 8 8 8 8	Ph. 25 面に降灰) PL. 9, Ph. 26 SE1700 面に降灰) PL. 9, Ph. 26

番号	1	次 数 種 類		出土地点			_		・層序		
	<u>4</u>	型 類 概報・報告		法 量		,	6	焼	放	8	PL, Ph
	9	備考	7-7								
171	1	179次	2	右京8-1-14 6	SAII ON51	861126	3	土坑	1		
	4	圏足円面硯 a	(5)	底部径27.3 列	浅存高2.6		6	正置	(脚台部上面に	自然和	铀)
	7	奈文研1989『平城京	右京八	条一坊十三・十	四坪発掘詞	周査報告』(学報46)				8	PL. 7, Ph. 26
	9	120~122と同一個体	こカ								
172	1	179次	2	右京8-1-14 6	SAII OQ45	861113	3	暗灰	砂質土		
	4	円形硯(無脚)	(5)	外堤径9.8 底	部径11.6	器高1.8	6	倒置	(硯裏面に降灰)	
	7	奈文研1989『平城京	右京八	条一坊十三・十	四坪発掘詞	問査報告』(学報46)PL.	43-5	525		8	PL. 9, Ph. 26
	9										
173	1	183-14次	2	右京1-2-6 6月	AGA LR04	871007	3	南北	溝 上層		SD812
	4	圏足円面硯 a	(5)	残存高4.5			6	正置	(脚台部上面に	自然和	铀)
	7	奈文研1988『昭和62	2年度平	城概報』						8	Ph. 26
	9	長方形透孔									
174	1	184次·178次	2	左京3-2-7 6月	AFI SH28/	RG27 870411/870429	3	灰褐	土/暗灰褐土		
	4	蹄脚円面硯A	(5)	外堤径27.0 列	浅存高6.9		6	倒置	(外堤部外面、	突帯	下面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京	左京二	条二坊·三条二均	方発掘調査	報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の	の調査	-] (=	学報54)	8	PL. 9, Ph. 26
	9	復原脚数 4 ヵ 146	・175と	同一個体ヵ							
175	1	184次	2	左京3-2-7 6月	AFI SQ25	870417	3	灰褐	土		
	4	蹄脚円面硯A	(5)	残存高4.1			6	倒置	(外堤部外面、	突帯	下面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京	左京二	条二坊·三条二均	方発掘調査	報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の	の調査	-] (=	学報54)	8	PL. 9, Ph. 26
	9	復原脚数 4 ヵ 146	・174と	同一個体ヵ							
176	1	184次	2	左京3-2-7 6月	AFI SI51	870626	3	床土			
	4	蹄脚円面硯B	(5)	硯面径22.6 列	美存高5.2		6	正置	(海部に自然釉)	
	7	奈文研1995『平城京	左京二	条二坊·三条二均	5発掘調査	報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の	の調査	-」 (当	学報54)	8	PL. 9, Ph. 26
	9	復原脚数22									
177	1	184次	2	左京3-2-7 6A	AFI SF20	870502	3	暗灰	土		
	4	蹄脚円面硯B	(5)	底部径24.7 死	线存高5.3		6	不明	(明確な窯痕跡	なし)	
	7	奈文研1995『平城京	左京二	条二坊·三条二均	5発掘調査	報告-長屋王邸·藤原麻呂邸 <i>0</i>	つ調査	-] (学	学報54)	8	PL. 9, Ph. 26
	9	復原脚数18									
178	1	184次	2	左京3-2-7 6A	AFI SS46	870706	3	暗灰	土.		
	4	蹄脚円面硯 B	(5)	残存高6.9			6	正置	(脚台部上面に	自然利	h)
	7	奈文研1995『平城京	左京二	条二坊·三条二块	7発掘調査	報告-長屋王邸・藤原麻呂邸ℓ)調査	-』 (学	兰報54)	8	Ph. 27
	9										
179	1	184次	2	左京3-2-7 6A	AFI ST50	870909	3	土坑	2		
	4	蹄脚円面硯	(5)	残存高4.0			6	不明	(明確な窯痕跡	なし)	
	7				i 発掘調査	報告-長屋王邸·藤原麻呂邸の					Ph. 27
	9							= 3.7			
.80	1	184次・178次 ②	左京3	-2-8 6AFI SU	37/RD20	870703/870306 ③	北側	溝 下層	層/流路埋土1	S	D4361 · SD4150
	4)	圏足円面硯 a		外堤径11.9 砂					(硯部内面に自		
											PL, 9. Ph. 27
		長方形透孔、復原脚		- 24 — 21- 23 7C			1	1,501)		9	v, . III =1
	•	シーノノ ルングラー 「久水小や	XA41								

	<u>4</u>	概報・報告		本里		6	焼 成	8	PL, Ph			
-1-71	9	備考										
181	1	184次	2	左京3-2-7 6AFI SA39	9 870622	3	床土					
	4	圏足円面硯 a	5	外堤径7.3 硯面径4.7	器高3.3 底部径8.6	6	正置(硯面、脚部外	面に	降灰)			
	7	奈文研1995『平城京左 Pl. 164-4436, Ph. 216-4		条二坊·三条二坊発掘調查	E報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	⊱』(学報54)	8	PL. 9, Ph. 27			
	9	透孔なし 脚部外面に	草花	文状のヘラ描き×15								
182	1	184次	2	左京3-2-7 6AFI SJ43	870930	3	東西セクションベル	卜断語	割			
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径13.6 硯面径9.4	残存高2.1	6	不明(明確な窯痕跡	なし)				
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊·三条二坊発掘調査	E報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	⊱』(学報54)	8	PL. 9, Ph. 27			
	9	長方形透孔、復原脚数	(16	海部に金属片付着								
183	1	184次	2	左京3-2-7 6AFI SS45	870706	3	暗灰土					
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径12.8 硯面径8.6	残存高1.9	6	倒置(外提部外面、	下面	こ自然釉)			
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊·三条二坊発掘調查	E報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	三』(学報54)	8	PL. 9, Ph. 27			
	9	長方形透孔、復原脚数	:23	184・185と同一個体								
184	1	184次	2	左京3-2-7 6AFI SS45	870706	3	暗灰土					
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径12.8 残存高1.9		6	不明(外堤部外面に	自然和	油)			
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊·三条二坊発掘調査	報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の	の調査	』(学報54)	8	PL. 9, Ph. 27			
	9	長方形透孔、復原脚数	23	183・185と同一個体								
185	1	184次	2	左京3-2-7 6AFI SS47	870701	(3)	床土					
	(4)	圈足円面硯	(5)	外堤径12.8 残存高1.9			不明(突帯上面、側面	前にF	自然釉)			
	(7)	奈文研1995『平城京左		条二坊·三条二坊発掘調查					PL. 9, Ph. 27			
		長方形透孔、復原脚数										
186	(1)	184次	(2)	左京3-2-7 6AFI SS40	870709	(3)	南側溝 上層 暗茶褐矾	少質十	SD4359			
	(4)	圏足円面硯 b		外堤径10.6 硯面径8.8			不明(明確な窯痕跡					
	(7)											
		奈文研1995『平城京左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸の調査-』(学報54) 8 PL. 9, Ph. 27 Pl. 164-4435, Ph. 216-4335										
	9	長方形透孔、復原脚数	24									
187	1	184次	2	左京3-2-7 6AFI ST45	870707	3	北側溝 (新) 暗灰砂		SD4361			
	4	圏足円面視 b	(5)	外堤径10.6 硯面径9.0	残存高2.8	6	不明(明確な窯痕跡で	なし)				
	7	奈文研1995『平城京左京	京二条	二坊·三条二坊発掘調査報	告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調査	Ĕ-J (学報54)Pl. 164-4434	8	PL. 9, Ph. 27			
	9	長方形透孔、復原脚数	16	外堤部外面に波状文3条								
188	1	184次	2	左京3-2-7 6AFI SG49	870625	3	床土					
	4	圏足円面硯 b	(5)	外堤径11.2 硯面径7.2	残存高3.8	6	正置(外堤部上面、外	小面に	こ降灰)			
	7	奈文研1995『平城京左京	京二条	二坊·三条二坊発掘調査報	告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調査	ž-] (:	学報54)Pl. 164-4433	(8)	PL. 9. Ph. 28			
	9	長方形透孔、復原脚数										
189	(1)	184次	(2)	左京3-2-7 6AFI SF50	870730	(3)	暗灰土					
	(4)	圏足円面視 b	(5)	外堤径12.4 硯面径10.5	5 残存高2.7		正置(外堤部上面から	側面、	突帯上面に降灰)			
	(7)	奈文研1995『平城京左京		二坊·三条二坊発掘調査報								
		長方形透孔	//-	, John Parker	, Clarent W La	e V	. ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	-	,			
		184次・178次	2	左京3-2-7 6AFI SC25/	/RE17/RO20 870414/870306/870302	3	灰褐土/暗灰褐土/灰褐	場土				
	4	圏足円面硯 b	(5)	外堤径15.7 硯面径9.2		6	倒置(硯部内面に自然	大釉)				
				二坊·三条二坊発掘調査報					PL. 9. Ph 28			
						- 4 /.	, [NO1/ 11. 101 1120	9	. L. O, I II. 20			

番号	1	次 数	_ ② 出土地点 ⑤ 法 量	③ 遺構・層序 ⑥ 焼 成
	-	種類 概報・報告	③ 法 里	8 PL, Ph
	9	備考		
191	1	184次	② 左京3-2-7 6AFI SH35 870424	③ 暗灰土
	4	圏足円面硯 c	⑤ 外提径14.6 硯面径12.8 残存高2.7	⑥ 不明(明確な窯痕跡なし)
	7	奈文研1995『平城京》	上京二条二坊・三条二坊発掘調査報告−長屋王邸・藤原麻に	国邸の調査-』(学報54) 8 PL. 9, Ph. 26
	9	長方形透孔 脚柱外间	面にヘラ描き沈線タテ1条	
192	1	184次	② 左京3-2-7 6AFI SB48 870806	③ 暗灰土
	4	圏足円面硯 c	⑤ 硯面径11.2 残存高1.4	⑥ 倒置(硯部内面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京》		国邸の調査-』(学報54)
	9	硯裏面に重焼き痕(圣約10cm)	
193	1	184次	② 左京3-2-2 6AFI SD51 870813	③ 西側溝 上層 SD42
	4	圏足円面硯 c	⑤ 残存高2.8	⑥ 不明 (明確な窯痕跡なし)
	7	奈文研1995『平城京》	上京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻	呂邸の調査-』(学報54) 8 Ph. 28
	9	硯でない可能性あり		
194	1	184次	② 左京3-2-7 6AFI SP41 870630	③ 床土
	4	圈足円面硯	⑤ 外提径20.2 残存高5.5	⑥ 正置 (突帯外面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京》	左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻	呂邸の調査-』(学報54) 8 PL. 9, Ph. 26
	9	台形透孔		
195	1	184次	② 左京3-2-7 6AFI SP49 870630	③ 床土
	4	圏足円面硯	⑤ 残存長4.1	⑥ 不明 (明確な窯痕跡なし)
	7	奈文研1995『平城京》	左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻	呂邸の調査-』(学報54) 8 Ph. 28
	9	長方形透孔		
196	1	184次	② 左京3-2-8 6AFI SU41 870707	③ 東西溝 上層 SD4:
	4	圈足円面硯	⑤ 底部径13.4 残存高1.5	⑥ 倒置(脚部内面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京》	左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻	呂邸の調査-』(学報54) 8 PL. 9, Ph. 26
	9	長方形透孔、復原脚	数18 脚部下端に沈線 1 条(透孔位置の基線カ)	
197	1	184次	② 左京3-2-7 6AFI SG27 870506	③ 暗灰土
	4	圏足円面硯	⑤ 底部径16.8 残存高2.4	⑥ 倒置(脚部内面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京》	左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻	BBの調査-』(学報54) 8 PL. 9, Ph. 20
	9	長方形透孔		
198	1	184次	② 左京3-2-8 6AFI SU39 870707	③ 暗灰土
	4	圈足円面硯	⑤ 底部径17.6 残存高3.5	⑥ 倒置(脚部内面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京》	左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻	B
	9	長方形透孔、復原脚	数20	
199	1	184次	② 左京3-2-7 6AFI SI31 870409	③ 灰褐土
	4	圈足円面硯	⑤ 底部径18.5 残存高5.9	⑥ 不明(脚台部側面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京	左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻	呂邸の調査-』(学報54) 8 PL. 9, Ph. 29
		長方形透孔、復原脚		
200		184次	② 左京3-2-7 6AFI SF21 870427	③ 暗灰土
		圈足円面硯	⑤ 底部径23.4 残存高2.2	⑥ 不明(明確な窯痕跡なし)
			左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻	
			数29 201と同一個体カ	

番号		次数	2	出土地点			遺構・層序		
	<u>4</u>	種 類 概報・報告		法量		6	焼成	0	DI Dh
	9							8	PL, Ph
201	1	184次	2	左京3-2-7 6AFI SD21	870428	3	暗灰土		
	4	圏足円面硯	(5)	底部径23.4 残存高1.6		6	不明(明確な窯痕跡	なし)
	7	奈文研1995『平城』	京左京二组	条二坊·三条二坊発掘調査	報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	⊱』(学報54)	8	PL. 9, Ph. 29
	9	長方形透孔、復原	脚数29 2	100と同一個体ヵ					
202	1	184次	2	左京3-2-7 6AFI SD21	870406	3	灰褐土		
	4	圈足円面硯	(5)	残存長4.8		6	不明(明確な窯痕跡	なし))
	7	奈文研1995『平城』	京左京二组	条二坊·三条二坊発掘調査	報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	⊱』(学報54)	8	Ph.29
	9	長方形透孔							
203	1	184次	2	左京3-2-7 6AFI SN20	870530	3	井戸 最上層		SE434
	4	圈足円面硯	(5)	残存長5.3		6	正置(脚部外面に降	灰)	
	7	奈文研1995『平城』	京左京二多	条二坊·三条二坊発掘調査	報告-長屋王邸・藤原麻呂邸	の調査	-』(学報54)	8	Ph. 29
	9	長方形透孔							
204	1	184次	2	左京3-2-7 6AFI SE21	870429	3	暗灰土		
	4	圏足円面硯	(5)	残存長4.5		6	不明(明確な窯痕跡	なし)	
	7	奈文研1995『平城』	京左京二多	&二坊·三条二坊発掘調査	報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	⊱』(学報54)	8	Ph.29
	9	長方形透孔							
205	1	184次	2	左京3-2-7 6AFI SE26	880128	3	井戸掘形		SE436
	4	圏足円面硯	(5)	底部径14.4 残存高3.1		6	正置(脚部外面に降	灰)	
	7	奈文研1995『平城』	京左京二条	←二坊·三条二坊発掘調査	報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	-』(学報54)	8	PL. 9, Ph. 29
	9	長方形透孔、復原腸	却数14						
206	1	184次	2	左京3-2-7 6AFI SS38	870708	3	南北溝 上層		SD4433
	4	円面硯	(5)	外堤径12.6 硯面径12.0	残存高1.5	6	正置(硯面、外堤部	上面は	こ降灰)
	7	奈文研1995『平城』	京左京二条	←二坊・三条二坊発掘調査	報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	-』(学報54)	8	PL. 9, Ph. 29
	9	中空円面硯の可能性	生あり						
207	1	184次	2	左京3-2-8 6AFI SU37	870707	3	暗灰土		
	4	円形硯(有脚)	(5)	残存長7.4 残存幅4.2	残存高3.0	6	不明(明確な窯痕跡	なし)	
	7	奈文研1995『平城京	左京二条	二坊·三条二坊発掘調査報告	長屋王邸·藤原麻呂邸の調3	E-] (学報54)Pl. 165-4450	8	PL. 10, Ph. 29
	9	円形でない可能性は	ちり						
208	1	184次	2	左京3-2-7 6AFI SK51	880225	3	暗灰土		
	4	風字硯	(5)	残存長6.4 残存幅8.2	残存高0.7	6	正置(硯面から外堤	部外面	面に自然釉)
	7	奈文研1995『平城京	京左京二条	二坊·三条二坊発掘調査執	报告-長屋王邸·藤原麻呂邸6	の調査	-』(学報54)	8	PL. 10, Ph. 29
	9	233と同一個体ヵ	硯面にへ	ラミガキ 硯面に重焼き掘	复(径約14cm) 硯裏面	に脚る	部剝離痕あり		
209	1	184次	2	左京3-2-7 6AFI SE45	870731	3	暗灰土		
	4	風字硯	(5)	残存長5.8 残存幅4.6	残存高3.5	6	正置(硯面に自然釉)		
	7	奈文研1995『平城京	左京二条	二坊·三条二坊発掘調査報	告-長屋王邸・藤原麻呂邸の言	周査-』	(学報54) Pl. 165-4449	8	PL. 10, Ph. 29
	9								
210		184次・103-1次	2	左京3-2-7 6AFI SS23/F 8	2U23/SH32 370417/770514/770519	3	暗灰土/暗灰褐粘質土		
	4	形象硯	(5)	残存長11.4 残存幅12.8	残存高2.7	6	正置(硯面に自然釉)		
	7	奈文研1995『平城京	京左京二条	二坊·三条二坊発掘調査幸	日本の表示である。)調査-	-』(学報54)	8	PL. 10, Ph. 29
	9	現裏面2ヶ所に脚音	『剝離痕あ	Ŋ					

番号	1	次 数	<u> </u>	③ 遺構・層序
	<u>4</u>	種 類 概報・報告	⑤ 法 量	⑥ 焼 成 ⑧ PL, Ph
		備考		○ 1 2 ,111
211	1	184次	② 左京3-2-7 6AFI SS47 870901	③ 南側溝 上層畦 SD4359上
	4	特殊硯(花形硯)	⑤ 残存長15.1 残存幅9.8 残存高3.0	⑥ 不明 (明確な窯痕跡なし)
	7	奈文研1995『平城京左京	『二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調査	-』(学報54)Pl. 166-4456 ⑧ PL. 10, Ph. 3 0
	9			
212	1	184次	② 左京3-2-8 6AFI SU45/ST42/ST42 870929/870702/870907	③ 北壁断割/暗灰土/北側溝 下層 SD436
	4	特殊硯(樽形円面硯)	⑤ 外堤径15.8 硯面径15.2 残高6.4	⑥ 正置(外面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京左京	『二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調査	-』(学報54)Pl. 166-4455 ⑧ PL. 10, Ph. 3 6
	9	硯でない可能性あり		
213	1	184次	② 左京3-2-7 6AFI SS33 870416	③ 暗灰土
	4	特殊硯(低足円面硯)	⑤ 外堤径18.4 残存高4.4	⑥ 不明 (明確な窯痕跡なし)
	(7)	奈文研1995『平城京左京	三二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調査	-』(学報54)Pl. 166-4452 8 PL. 10, Ph. 3 6
	9	硯面に研磨痕あり 硯	面に凹みあり	
214	(1)	186次(北·北Ⅱ·補足)	② 左京3-2-8 6AFI TG49 880204	③ 暗灰土
	(4)	蹄脚円面視 B		⑥ 正置(外提部外面、突帯上面に自然釉)
	(7)	奈文研1995『平城京左	京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の	調査-』(学報54) 8 PL. 11, Ph. 30
	9			
215		186次(北·北Ⅱ·補足)	② 左京3-2-8 6AFI TB27 880803	③ 灰褐土
210	(4)	圏足円面硯 a		⑥ 倒置(硯部内面に降灰)
	7		京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の	調查-』(学報54)
	9	長方形透孔、復原脚数	15 脚柱外面にヘラ描き沈線タテ1条	
216		, a s que n es e		③ 暗灰土
	(4)	圏足円面硯 a		⑥ 不明 (明確な窯痕跡なし)
	(7)	奈文研1995『平城京左	京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の	調査-』(学報54)
	9)	長方形透孔、復原脚数		
217		10% 2000 000 000 000 000 000 000 000 000		③ 北側溝1 SD436
211	(4)	圏足円面硯 b		(6) 倒置(硯部内面に降灰)
	(7)		京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調査	
	9)	長方形透孔、復原脚数		
218				③ 灰褐土
210	4)	圏足円面硯		⑥ 不明(明確な窯痕跡なし)
	(7)		京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の	
	9	長方形透孔		(1 TKO1)
219		,	② 左京3-2-8 6AFI TE48 880212	③ 小穴1 SB48
219				(6) 不明 (明確な窯痕跡なし)
	(4)	圏足円面硯	京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の	
	(7)			爾里" (子和04)
000	9	長方形透孔、復原脚数		正提士
220				③ 灰褐土
	4	圏足円面硯		⑥ 不明(明確な窯痕跡なし)
	7		京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の	調査-』(学報54)
	9	長方形透孔 219と同一	一個体カ	

番号	1	次 数 種 類	2	出土地点	3	遺構・層序				
	<u>4</u>	種 類 概報・報告	5)	法量	6	焼成	8	F	PL, F	Ph
	9									
21	1	186次(北・北Ⅱ・補足)	2	左京3-2-8 6AFI TD44 880210	3	暗灰土				
	4	円形硯(獣脚)	(5)	外堤径19.0 器高4.3	6	倒置(硯部内面、脚語	部下	面心	こ[降]	灰)
	7	奈文研1995『平城京左京	(二条	三二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調3	E-J	(学報54) Pl. 166-4453	8	Р	'L. 1	1, Ph. 31
	9	復原脚数3ヵ								
222	1	186次 (西·西II)	2	左京3-2-2 6AFI SD53 871027	3	床土				
	4	蹄脚円面硯B	(5)	外堤径22.4 硯面径17.6 残存高4.5	6	不明(明確な窯痕跡を	なし)		
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の	の調査	壬』(学報54)	8	Р	'L. 1	1, Ph. 31
	9	復原脚数22 223と同一	一個化	х́э						
223	1	186次 (西·西I)	2	左京3-2-2 6AFI SK54 871224	3	暗灰土				
	4	蹄脚円面硯B	(5)	残存高4.7	6	不明(明確な窯痕跡を	なし)		
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の	の調査	⊱』(学報54)	8	Р	L. 1	1, Ph. 31
	9	復原脚数22 222と同一	一個化	'n						
224	1	186次(西·西II)·184次	2	左京3-2-2·7 6AFI SH57/SB52/SB51/SB51 880119/870806/870811/870811	3	暗灰土/暗灰土/暗灰				/土坑① ・SB449
	4	蹄脚円面硯B	(5)	残存高4.7	6	不明(明確な窯痕跡を	なし)		
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸G	の調査	⊱』(学報54)	8	Р	h. 3	81
	9	225と同一個体ヵ								
225	1	186次 (西·西I)	2	左京3-2-2 6AFI SH57/SH57/SG59 880117/880118/871219	3	暗灰土/暗灰土/暗灰	Ł			
	4	蹄脚円面硯B	(5)	底部径32.0 残存高5.2	6	不明(明確な窯痕跡で	なし)		
	7	奈文研1995『平城京左』	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸G	り調査	⊱』(学報54)	8	Р	h. 3	1
	9	224と同一個体カ								
226	1	186次 (西·西I)	2	左京3-2-2 6AFI SL77 871127	3	床土	0			
	4	蹄脚円面硯B	(5)	底部径22.4 残存高4.7	6	正置(脚台部上面、化	訓面	にÉ	自然是	釉)
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸G	り調査	⊱』(学報54)	8	Р	L. 1	1, Ph. 31
	9	復原脚数22								
227	1	186次(西・西Ⅱ)	2	左京3-2-1 6AFI T-II 880127	3	床土				
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径12.7 硯面径9.3 残存高1.5	6	不明(明確な窯痕跡が	なし)		
	7	奈文研1995『平城京左』	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸。	つ調査	⊱』(学報54)	8	Р	L. 1	1, Ph. 31
	9	長方形透孔、復原脚数	22							
228	1	186次(西・西Ⅱ)	2	左京3-2-2 6AFI SM71 880511	3	南北溝				
	4	風字硯(獣脚)	(5)	残存長8.2 残存幅13.8 残存高5.8	6	倒置(脚部外面、硯面	訂側	面に	こ自然	然釉)
	7	奈文研1995『平城京左京	二条	:二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調査	<u>:-</u>] ((学報54)Pl. 165-4451	8	Р	L. 1	1, Ph. 32
	9									
229	1	189次	2	左京2-2-14 6AFF CS27 880331	3	布掘				
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径14.8 硯面径11.2 残存高2.0	6	正置(硯面、外堤部上面	五、多	ミ帯	上面	「に降灰)
	7	奈文研1988『昭和62年	度平	城 概報』			8	Р	L. 1	1, Ph. 32
	9	長方形透孔、復原脚数	24							
230	1	189次	2	左京2-2-14 6AFF FA23 880219	3	灰褐砂				
	4	圏足円面硯 c	(5)	硯面径14.0 残存高2.1	6	不明(明確な窯痕跡な	il.)		
	7	奈文研1988 『昭和62年』	度平:	成概報』・奈文研2003『平城京左京二条二坊十四5	平発技	掘調査報告』(学報67)	8	Р	L. 1	1, Ph. 32
	9)	長方形透孔、復原脚数	17							

番号	1 4	次 数 種 類	_	出土地点	<u>3</u> 6	遺構・層序 焼 成		
	7	概報・報告					8	PL, Ph
201	9	備考	_		_	E H N		
231		189次		左京2-2-14 6AFF CN33 880208		灰褐砂		
	4	圈足円面硯	(5)			倒置(脚内部に降灰)		D. 44 D. 66
				城概報』・奈文研2003『平城京左京二条二坊十四年	半発:	掘調查報告』(字報67)	(8)	PL. 11, Ph. 32
				脚部内面にカキ目状の調整痕あり				
232	(1)	189次		左京2-2-14 6AFF CR37 880318		井戸枠内 埋土A層		SE40
	(4)			外堤径22.0 硯面径19.6 残存高3.0		倒置(硯裏面に自然和		
				城概報』・奈文研2003『平城京左京二条二坊十四5		掘調査報告』(学報67)	(8)	PL. 11, Ph. 32
	9	2ヶ所に脚部剝離痕あ		復原脚数3ヵ 埋土最下層の木炭層から萬年通寳				
233	1	189次	2	左京2-2-14 6AFF CR22/CS23 880220/880219	3	灰褐砂/灰褐砂		
	4	風字硯	5	残存長11.0 残存幅10.0 残存高1.6	6	倒置(硯裏面に自然料	由)	
	7	奈文研1988『昭和62年』	度平	城概報』			8	PL. 10, Ph. 33
	9	海部内堤で区分 208と	同-	一個体力				
234	1	190次	2	左京3-2-1 6AFI SO65 880519	3	床土		
	4	蹄脚円面硯B	5	残存高5.8	6	倒置 (脚内部に降灰)		
	7	奈文研1995『平城京左』	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸命	の調査	₾ (学報54)	8	Ph. 33
	9	長方形透孔、復原脚数差	26					
235	1	190次	2	左京3-2-1 6AFI ST78 881024	3	北側溝		SD4951
	4	蹄脚円面硯	(5)	外堤径21.4 残存高3.4	6	不明(明確な窯痕跡で	まし))
	7	奈文研1995『平城京左』	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸。	の調査	₾-』(学報54)	8	Ph. 33
	9							
236	1	190次	2	左京3-2-2 6AFI SQ59 880520	3	床土		
	4	圈足円面硯	(5)	底部径16.6 残存高1.1	6	倒置(脚部内面に降原	た)	
	7	奈文研1995『平城京左』	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	È-』(学報54)	8	PL. 11, Ph. 33
	9	長方形透孔、復原脚数	19					
237	1	193次 (A · D区)	2	左京3-2-7 6AFI SN08 880903	3	西側溝 暗灰砂		SD4699
	4	獣脚円面硯(百足硯)	(5)	外堤径25.2 硯面20.0 底部径24.5 器高5.4	6	倒置 (硯裏面に降灰)		
	7	奈文研1995『平城京左京	[二多	キニ坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調査	E-J	(学報54)Pl. 164-4439	8	PL. 11, Ph. 33
	9	復原脚数22 硯面の一	部に	布目痕あり				
238	1	193次(A·D区)·184次	2	左京3-2-7·10 6AFI ST26/SH04 870413/880921		灰褐土/東側溝 暗灰砂	·礫_	上 SD4701
	4	蹄脚円面硯A	(5)	外堤径25.5 硯面径20.2 残存高5.0	6	倒置(硯部内面に自然	た釉))
	7	奈文研1995『平城京左京	[二多	♣二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調査	E-J	(学報54) Pl. 164-4441	8	PL. 8, Ph. 34
	9	復原脚数20 144·145	と同	一個体力				
239	1	193次 (A · D区)	2	左京3-2-7 6AFI SC06 880705	3	排水溝		
	4	蹄脚円面硯 B	(5)			不明(明確な窯痕跡な	まし)	
	(7)	奈文研1995『平城京左京	(二多	€二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂町 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	-J	(学報54) Pl. 164-4441	8	Ph. 34
	9							
240		193次(A・D区)・184次	(2)	左京3-2-7 6AFI SS13/SD20 880809/870428	(3)	小路南側溝 上層/暗區	二-	SD4589
	4					正置(脚部外面、脚台音		
	(7)			大の日本				
			·—5	トーツ 一不一ツ 万垣 門 上 下口 区 年上学・原 原外 口 学 の 門 国	- 1	(T-7KOT) I.L. 104-4440	9	· L. 12, FII. 04
	9)	復原脚数20						

番号	1	次 数	2		3	遺構・層序	
	<u>4</u> <u>7</u>	種類概報・報告	5	法 量	6		PL, Ph
	9	備考	9/41				1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
241	1	193次 (A · D区)	2	左京3-2-7 6AFI SP08 880722	3	土坑1	
	4	蹄脚円面硯B	(5)	残存高5.2	6	正置(脚部外面、脚台部	上面に自然釉)
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	-』(学報54) 8	PL. 12, Ph. 34
	9	脚柱と脚台部の接合部	に指	オサエ痕			
242	1	193次 (A · D区)	2	左京3-2-7 6AFI SJ08 880722	3	暗灰土	
	4	蹄脚円面硯B	(5)	残存高5.6	6	不明(明確な窯痕跡なし)
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊·三条二坊発掘調查報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	·-』(学報54) 8	Ph. 34
	9						
243	1	193次 (A · D区)	2	左京3-2-7 6AFI RS08 880713	3	灰褐土	
	4	蹄脚円面硯B	(5)	残存高4.5	6	正置(脚部外面、脚台部	上面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	· 【学報54】 8	Ph. 34
	9	244と同一個体カ 脚電	台部-	面に火襷あり			
244	1	193次 (A · D区)	2	左京3-2-7 6AFI SS10 880809	3	小路南側溝 上層	SD4589
	4	蹄脚円面硯B	(5)	残存高5.2	6	正置(脚部外面、脚台部	上面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	三』(学報54) 8	PL. 12, Ph. 34
	9	243と同一個体ヵ 脚で	台部"	面に火襷あり			
245	1	193次 (A · D区)	2	左京3-2-10 6AFI SF07 880826	3	西側溝 灰色粘土	SD4699
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径12.5 残存高1.5	6	倒置(硯部内面に降灰)	
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	-』(学報54) 8	Ph. 34
	9	長方形透孔					
246	1	193次 (A · D区)	2	左京3-2-7 6AFI RS08 880826	3	西側溝 茶灰土	SD4699
	4	円形硯(輪状高台)	(5)	外堤径20.0 高台径16.8 器高2.7	6	倒置(硯裏面、外堤部側	面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京左』	京二多	←二坊・三条二坊発掘調査報告−長屋王邸・藤原麻呂邸の	調査-」	(学報54) Pl. 165-4343 ⑧	PL. 12, Ph. 35
	9						
247	1	193次(B·C·E·F区)	2	左京3-2-8 6AFI TQ08 881019	3	暗灰土	
	4	蹄脚円面硯B	(5)	底部径26.6 残存高5.3	6	正置(脚台部上面に自然	釉)
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	-』(学報54) 8	PL. 12, Ph. 35
	9	復原脚数20					
248	1	193次(B·C·E·F区)	2	左京3-2-8 6AFI UP13/UO10 881027/880920		南側溝 木屑層/大路南側	溝 炭層 SD5100
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径26.8 硯面径20.4 残存高2.5	6	倒置 (硯部内面に降灰)	
	7	奈文研1995『平城京左 PL. 164-1849, Ph. 216-		条二坊·三条二坊発掘調查報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	:-』(学報54) 8	PL. 12, Ph. 35
	9	長方形透孔、復原脚数	(29				
249	1	193次(B·C·E·F区)	2	左京3-2-8 6AFI UO15 881117	3	南側溝 炭層	SD5100
	4	円面硯	(5)	硯面径20.2 残存高1.75	6	倒置(硯部内面に自然釉)
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	-』(学報54) 8	Ph. 35
	9						
250	1	193次(B·C·E·F区)	2	左京3-2-8 6AFI UC08 881104	3	西側溝 灰褐粘質土	SD4699
	4	円形硯(輪状高台)	(5)	外堤径21.2 残存高2.7	6	不明(明確な窯痕跡なし)
	7	奈文研1995『平城京左』	京二多	ニニ坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調	Ě- 』((学報54) Pl. 165-4446 8	PL. 12, Ph. 35
	9						

番号	1	次数	2		-	遺構					
	<u>4</u>)	種類概報・報告	_ (5)	法量	6	焼り	议.	(8)	PL,	Ph	
	9	備考					nervaja julije se naslavnoj sen sen sen s	<u> </u>			**************************************
251	1	193次(B·C·E·F区)	2	左京3-2-8 6AFI UO19 880916	3	大路	南側溝 炭層			SI	D5100
	4	円形硯(輪状高台)	5	外堤径18.0 器高2.3	6	不明	(明確な窯痕跡な	:し)			
	7	奈文研1995『平城京左』	京二条	二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調	査-]	(学報54	4) Pl. 165–1881	8	PL.	12, P	h. 36
	9										
252	1	195次 (北・南区)	2	左京3-2-1 6AFI TP62 881130	3	灰褐:	土				
	4	蹄脚円面硯B	(5)	外堤径27.8 硯面径23.4 残存高5.0	6	正置	(硯部内面に自然	(釉)			
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	査-』(学	兰報54)	8	PL.	12, P	h. 36
	9	復原脚数27 253と同	一個包	ÞЭ							
253	1	195次 (北・南区)	2	左京3-2-1 6AFI TR63 881201	3	灰褐	±				
	4	蹄脚円面硯	(5)	外堤径27.8 硯面径23.4 残存高2.9	6	正置	(硯部内面に自然	(釉)			
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	査-』(学	兰報54)	8	PL.	12, P	h. 36
	9	252と同一個体カ									
254	1	195次 (北・南区)	2	左京3-2-1 6AFI TO61 881129	3	灰褐	±				
	4	蹄脚円面硯B	(5)	底部径24.7 残存高4.1	6	正置	(脚台部上面に自	然和	a)		
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	査-』(学	兰 報54)	8	PL.	12, P	h. 36
	9	復原脚数21									
255	1	195次 (北・南区)	2	左京3-2-1 6AFI TT69 881210	3	灰褐:	±.				
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径27.8 硯面径23.4 残存高2.9	6	不明	(明確な窯痕跡な	し)			
	7	奈文研1995『平城京左	京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	查-』(学	产報54)	8	PL.	12, PI	h. 36
	9	長方形透孔、復原脚数	χ37								
 256	1	195次(北・南区)	2	左京3-2-1 6AFI TQ72 881201	3		 Ł				
	(4)	圏足円面硯 a			(6)	不明	(明確な窯痕跡な	し)			
	7				の調査	Ě−』(学	字報54)	(8)	Ph.	36	
	9	奈文研1995『平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調査-』(学報54) 8 Ph. 36 長方形透孔									
 257		S ONE & SITE FORESCO	(2)	左京3-2-1 6AFI TT59/TS61 881128/881129	(3)	灰褐-	 十/灰裼十				
		円面硯(無脚)		外提径15.2 硯面径10.2 底部径14.9 器高3.3				.面1.7	白好	: 采山)	
	7			:二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸の調3							h 36
	9	XXXIII	31—/r		a. J	() TKO	7 11. 100 1112	•		12, 1 1	1. 00
 258		197次	2	左京3-2-8 6AFI UO46 890201	(3)		# 黒色土				D5100
200	4)	蹄脚円面硯B		残存高3.3			(明確な窯痕跡な	1)		O.	20100
				条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸。					DI	12, Pl	h 26
	9)	278と同一個体カ 共			/ノ四三	T_] (-]	-FK04 <i>)</i>	0	FL.	12, FI	1. 30
 259		197次			<u> </u>	四み					
209							/Hu 차이나 사 중 Hu	<u>人</u> 、立17	, r. 	1ヶ 17久 [\
	(4)	蹄脚円面硯 B		底部径26.8 残存高5.6			(脚部内外面、脚				K)
	7	宗乂研1995『半城京左	.尔一	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸。	// 調査	计」(字	- ¥ [[] 54]	8)	Ph.	36	
000	9	100%		+	<u> </u>	_L foot X	# EI A 71				
260		197次					紫 黒色砂	x		SE	05100
	4)	圏足円面硯 a		外提径13.4 硯面径9.5 残存高1.8							
	7			:二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調査		(学報54) Pl. 164–1794	8)	PL.	12, Pł	า. 37
	9	長方形透孔、復原脚数	(21	外提部外面に筆ならし墨痕あり 共伴土器は平城	Ш						

番号	1	次 数	② 出土地点	3	遺構・層序		1 - 1 - 1 - 1 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 -
	4	種類概報・報告	_ ⑤ 法 量	6	焼成	0	PL, Ph
	9	備考				0	FL, FII
261	1	197次	② 左京3-2-1 6AFI TP58 881213	3	灰褐土		
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径16.6 硯面径13.2 残存高2.2	6	倒置(硯部内面に降	灰)	
	7	奈文研1995『平城京	左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂町	『の調査	⊱』(学報54)	8	PL. 12, Ph. 37
	9	長方形透孔					
262	1	197次	② 左京3-2-1 6AFI UJ55 881221	3	灰褐土		
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径18.6 硯面径14.8 残存高2.5	6	倒置(硯部内面に自	然釉))
	7	奈文研1995『平城京左	E京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸の調	査-] ((学報54)PL. 164-4437	8	PL. 12, Ph. 37
	9	長方形透孔、復原脚	数25 硯面に火襷あり				
263	1	197次	② 左京3-2-1 6AFI UG61/UE58/UH58 890223/890222/890306	_	灰褐土/灰褐土/大土	坑	SK5074
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径19.6 硯面径14.3 残存高2.1	6	不明(明確な窯痕跡	なし))
	7	奈文研1995『平城京左	- 三京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸の調	査-] ((学報54)PL. 164-4438	8	PL. 12, Ph. 37
	9	長方形透孔、復原脚	数28 264と同一個体ヵ				
264	1	197次	② 左京3-2-8 6AFI UC58 890222	3	灰褐土		
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径19.6 残存高2.8	6	不明(明確な窯痕跡	なし))
	7	奈文研1995『平城京	左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	『の調査	⊱』(学報54)	8	PL. 12, Ph. 37
	9	長方形透孔、復原脚	数28 263と同一個体ヵ				
265	1)	197次·186次(西·西 I	I)② 左京3-2-1·8 6AFI TM55/TS53/西耳 890109/890111/880205		南北溝 灰褐土/灰褐	上/床	土
	4	圏足円面硯 a	⑤ 硯面径13.0 残存高2.6	6	不明(明確な窯痕跡	なし))
	7	奈文研1995『平城京	左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	『の調査	⊱』(学報54)	8	Ph. 37
	9	長方形透孔					
266	1	197次	② 左京3-2-8 6AFI TQ49 890110	3	小路東側溝		SD4909
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径12.0 硯面径9.6 残存高2.1	6	倒置(硯部内面、突	帯下	面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京	左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻	呂邸0	つ調査-』(学報54)	8	PL. 12, Ph. 37
	9	長方形透孔、復原脚	数14				
267	1	197次	② 左京3-2-7 6AFI TR54/TQ54 881219/881219	3	灰褐土/灰褐土		
	4	圈足円面硯	⑤ 外堤径19.8 底部径26.0 器高7.0	6	正置(外堤部外面、	脚部	外面に降灰)
	7	奈文研1995『平城京	左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	⊱』(学報54)	8	PL. 12, Ph. 38
	9	楕円形透孔 脚部中	央に横方向の貼付け突帯1条あり				
268	1	197次	② 左京3-2-8 6AFI UO48 890202	3	南側溝 木屑層		SD5100
	4	圏足円面硯	⑤ 残存長5.2	6	不明(明確な窯痕跡	なし))
	7	奈文研1995『平城京	左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	⊱』(学報54)	8	Ph. 38
	9	長方形透孔 共伴土	器は平城Ⅲ				
269	1	197次	② 左京3-2-1 6AFI UK57 880221	3	灰褐土		
	4	圏足円面硯	⑤ 底部径32.0 残存高2.5	6	不明(明確な窯痕跡	なし))
	7	奈文研1995『平城京	左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸	の調査	-』(学報54)	8	Ph. 38
	9	長方形透孔					
270	1	197次	② 左京3-2-1 6AFI UO56 890221	3	大土坑 2		
	4	円面硯(無脚)	⑤ 外堤径15.2 硯面径11.4 底部径13.7 器高13.7	7 6	正置(硯面、外堤部上	面、突	帯上面に自然釉
	7		左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂邸				PL. 12, Ph. 38
	9	硯面に厚く自然釉	300 800 800 800				

番号	-	次 数 種 類	② 出土地点 ⑤ 法 量	③ 遺構・層序 ⑥ 焼 成							
	-	概報・報告									
271	9	備 考	② 左京2-2-5 6AFF JJ15 890419	② 啐压士 岸須り							
211			(5) 外堤径12.6 硯面径10.8 底部径15.3 器高4.7								
		圏足円面硯 c									
			E京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂	邸の調査-』(学報54)							
070		隅丸長方形透孔、復原	cos a Santacador								
272				③ 北側溝 3 下層 SD5240							
			⑤ 外堤径22.3 硯面径18.0 残存高2.5								
			ご京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂	邸の調査-』(字報54) (8) Ph. 38							
-		長方形透孔 273・27									
273	1	198次 (A~C区)	② 左京2-2-5 6AFF JG10 890ZZZ	③ 北側溝 3 下層 SD5246							
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径22.3 硯面径18.0 残存高2.4	⑥ 不明(明確な窯痕跡なし)							
	7	奈文研1995『平城京左	〒京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂	邸の調査-』(学報54) 8 Ph. 38							
	9	長方形透孔 272·27	3と同一個体ヵ								
274	1	198次 (A∼C区)	② 左京2-2-5 6AFF JG06 890425	③ 東西大溝D たちわり砂層①							
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径22.3 残存高3.0	⑥ 不明 (明確な窯痕跡なし)							
	7	奈文研1995『平城京左	正京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂	邸の調査-』(学報54) 8 Ph. 38							
	9	長方形透孔 272・27	3と同一個体ヵ								
275	1	198次 (A~C区)	② 左京2-2-5 6AFF JS13 890329	③ 灰褐土							
	4	円面硯	⑤ 硯面径7.8 残存高1.5	⑥ 倒置(硯裏面に自然釉)							
	7	奈文研1995『平城京左	ご京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂	邸の調査-』(学報54)							
	9	硯裏面に重焼き痕(往	圣約7.0cm)								
276	1	198次 (A~C区)	② 左京2-2-5 6AFF JP12/JP16 890419/890419	9 ③ 柱穴 5 抜取/瓦堆積							
	4	圏足円面硯	⑤ 底部径26.4 残存高3.0	⑥ 不明 (明確な窯痕跡なし)							
	7	奈文研1995『平城京左	E京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂!	邸の調査-』(学報54)							
	9	長方形透孔、復原脚数22									
277	1	200次	② 左京3-2-8 6AFI UO37 890316	③ 南側溝 暗灰褐砂土 SD5100							
	(4)	蹄脚円面硯A	⑤ 残存長3.2	⑥ 不明(明確な窯痕跡なし)							
	(7)	奈文研1995『平城京左		邸の調査-』(学報54)							
	(9)	脚部内面に脚台部と排	受合の補強粘土あり 共伴土器は平城Ⅲ								
278		200次	② 左京3-2-8 6AFI UO43 890317	③ 南側溝 炭層 SD5100							
	(4)	蹄脚円面視B	⑤ 外堤径27.6 硯面径21.8 残存高4.7	⑥ 不明 (明確な窯痕跡なし)							
			京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂邸の調								
			一個体力 共伴土器は平城田								
279		200次	② 左京3-2-8 6AFI UO28 890401	③ 南側溝 暗灰褐砂土 SD5100							
210	(4)	圏足円面硯 a	(5) 外提径19.1 硯面径14.0 残存高4.0	⑥ 倒置(硯部内面に降灰)							
			正京二条二坊·三条二坊発掘調查報告-長屋王邸·藤原麻呂								
	2000000	Pl. 164-1848, Ph. 216-	1878	知が明正" (子邦3年) () FL. 13, FH. 33							
	9	長方形透孔、復原脚数	位22 共伴土器は平城Ⅲ								
280	1	200次	② 左京3-2-8 6AFI UO43 890317	③ 南側溝 炭層 SD5100							
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径27.2 硯面径19.2 残存高5.1	⑥ 正置(硯面に降灰)							
	7	奈文研1995『平城京左	E京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂B	邸の調査-』(学報54) 8 PL. 13, Ph. 39							
	9	長方形透孔、復原脚数	女20 共伴土器は平城Ⅲ								

番号	1	次 数		出土地点	3	遺構・層序			
	4	種類		法量		焼 成	(9)	PL	Dh
	9	概報・報告 備 考			Andrew Committee		0	FL,	, FII
81	1	200次	2	左京3-2-8 6AFI UO33 890322	3	南側溝 炭層			SD510
	4	圈足円面硯	(5)	硯面径20.0 残存高4.4	6	不明(明確な窯痕跡	なし)		
	7	奈文研1995『平城』	京左京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	※原麻呂邸の調査	⊱』(学報54)	8	PL	13, Ph. 39
	9	長方形透孔、復原原	脚数37	共伴土器は平城Ⅲ					
282	1	200次	2	左京3-2-8 6AFI UO29 890406	3	南側溝 黒灰粘土			SD510
	4	圏足円面硯	(5)	外堤径14.2 硯面径13.2 残存高1.8	6	倒置(硯部内面、突	带下门	面に	降灰)
	7	奈文研1995『平城』	京左京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	藤原麻呂邸の調査	⊱』(学報54)	8	Ph	. 39
	9	長方形透孔 共伴:	土器は平:	或Ⅲ					
283	1	200次	2	左京3-2-8 6AFI UO29 890401	3	南側溝 暗灰褐砂土			SD510
	4	圈足円面硯	(5)	底部径27.0 残存高2.9	6	倒置(脚部内面全体、	外ī	面の-	一部に降灰)
	7	奈文研1995『平城』	京左京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·麻	藤原麻呂邸の調査	⊱』(学報54)	8	PL	. 13, Ph. 39
	9	長方形透孔、復原	脚数29	カー カー カー カ	2条(透孔位	置の基線カ) 共伴土	器は	平城	Ш
284	1	200次	2	左京3-2-8 6AFI UO43 890317	3	南側溝 炭層			SD510
	4	圏足円面硯	(5)	外堤径28.2 残存高3.0	6	正置(硯面、突帯上	面に	降灰)	
	(7)	奈文研1995『平城』	京左京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·崩	藤原麻呂邸の調査	⊱』(学報54)	8	Ph	. 40
	9	長方形透孔 共伴							
285	(1)	200次	2	左京3-2-8 6AFI UO43 890323	3	南北溝 木屑層			SD510
	(4)	圏足円面硯	(5)	残存長5.6	6	不明(脚部内外面に	自然	舳)	
	(7)	奈文研1995『平城』	京左京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·II	藤原麻呂邸の調3	₾-』(学報54)	8	Ph	. 40
	9)	長方形透孔 265と	: 同一個包	5- b					
286	1)	200次	2	左京3-2-8 6AFI UO26 890714	3	暗灰褐砂土			
	4	宝珠硯	(5)	残存長8.4 残存幅13.2 残存高3.7	6	倒置(硯裏面に自然	釉)		
	7	奈文研1995『平城』	京左京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·A	藤原麻呂邸の調査	⊱』(学報54)	8	PL	. 13, Ph. 40
		Pl. 165–4445, Ph. 2	16-4455						
	9								
287	1	200次	2	左京3-2-8 6AFI UO42 890328	3	南側溝 木屑層			SD510
	4	猿面硯	(5)	器長16.1 器幅12.0 器高1.9	6	硯裏面に自然釉			
	7	奈文研1995『平城』 Pl. 166-1852, Ph. 2		条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸· I	藤原麻呂邸の調査	E-』(学報54)	8	PL	. 13, Ph. 40
	(0)			形 共伴土器は平城Ⅲ					
288		200次		左京3-2-8 6AFI UM19 890327	(3)	東西溝(新)			SD510
200	4)	猿面硯		器長19.3 器幅14.5 器高2.4		現裏面に自然釉			05010
	7			二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原原			(8)	ΡI	13 Ph 41
	9	須恵器の甕片を研			TION VINEE 3	(7-1601) 11. 100 1100			. 10, 111. 11
900				左京3-1-15 6AGF NS78 890531	<u>(3)</u>	流路 暗灰砂			SX0
289	(1)	202-4次		外堤径16.4 硯面径12.4 残存高1.4		不明(明確な窯痕跡	tal \		OAU
	4	圏足円面硯 a				小的 (勿惟な無放助			. 13, Ph. 41
	7	奈文研1990『1989』					0	ΓL	. 13, F11. 41
200	9	長方形透孔、復原	100	72 4	<u> </u>	南 北港 正名			SD502
290	1	202-13次		左京2-2-5 6AFF JP10 900209		南北溝 灰色粘土	t>1 \		3D30Z
	(4)	蹄脚円面硯 B		残存高5.3		不明(明確な窯痕跡			14
	7	奈文研1995『平城	京左京二	条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸· II	際原麻呂邸の調査	亡』(字報54)	(8)	Ph	. 41

番号	<u>(1)</u> (4)	次数 種類	② 出土地点 ⑤ 法 量	3 遺構・層序 ⑥ 焼 成
	7	概報・報告	<u> </u>	8 PL, Ph
	9	備考		
291	1	202-13次	② 左京2-2-5 6AFF JP10 900219	③ 南北溝東岸 暗褐砂質土 SD502
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径19.2 硯面径14.0 残存高3.9	⑥ 倒置(硯部内面、突帯下面に自然釉)
	7	奈文研1995『平城』	京左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂	Bの調査-』(学報54)
	9	長方形透孔、復原脚	J数11	
292	1	202-13次	② 左京2-2-5 6AFF JQ11 900206	③ 暗褐土
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径18.4 硯面径14.2 残存高3.4	⑥ 不明 (明確な窯痕跡なし)
	7	奈文研1995『平城京	江左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂	部の調査-』(学報54)
	9	長方形透孔、復原脚	T数19	
293	1	204次	② 左京2-2-5 6AFF JG27 890802	③ 暗灰褐砂質土
	4	蹄脚円面硯 B	⑤ 残存高7.2	⑥ 正置(脚部外面、脚台部上面と側面に自然釉)
	7	奈文研1995『平城京	定左京二条二坊·三条二坊発掘調査報告-長屋王邸·藤原麻呂	邸の調査-』(学報54)
	9			
294	1	204次	② 左京2-2-5 6AFF JC26 890808	③ 暗灰褐砂質土
	4	圏足円面硯	⑤ 残存高4.9	⑥ 不明 (明確な窯痕跡なし)
	7	奈文研1995『平城京	正左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告-長屋王邸・藤原麻呂	邸の調査-』(学報54) 8 Ph. 42
	9			
 295	1	215-1次	② 左京2-3-6 6AFE LJ10 900416	③ 南北溝 灰色粘土 SD5480 (SD04)
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径24.2 硯面径19.2 残存高3.5	⑥ 正置 (硯面に自然釉)
	7	奈文研1991『1990年	度平城概報』	® PL. 14, Ph. 42
	9	不定形透孔、復原脚]数 7	
296	1	215-5次	② 左京1-3-2 6AFB NQ72 900731	③ 灰黒土
	4	圏足円面硯	⑤ 残存長5.7	⑥ 正置(脚部外面、側面に自然釉)
	7	奈文研1991『1990年	[度平城概報』	® Ph. 42
	9	長方形透孔		
297	1	215-19次	② 右京北辺1-2 6AGA 910225	③ 灰褐砂
	4	圏足円面硯	⑤ 外堤径15.2 残存高4.4	⑥ 不明(明確な窯痕跡なし)
	7	奈文研1991『1990年	度平城概報』(一覧表のみ)	® PL. 13, Ph. 42
	9	長方形透孔、復原肽	数11~12 脚柱外面を縦方向にヘラケズリ	
298	1	223-2次	② 平城宮北方 6ASA JE66 910423	③ 表土
	4	圏足円面硯 b	⑤ 外堤径12.4 硯面径10.4 底部径17.6 器高7.1	1 ⑥ 不明(明確な窯痕跡なし)
	7	奈文研1992『1991年	度平城概報』	8 PL. 14, Ph. 42
	9	台形透孔、復原脚数	(4 脚柱外面にヘラ描き沈線タテ3条	
299	1	223-2次	② 平城宮北方 6ASA JE66 910425	③ 灰褐土
	4	風字硯	⑤ 残存長10.0 残存幅6.3 残存高2.4	⑥ 倒置(硯裏面に降灰)
	7	奈文研1992『1991年	度平城概報』	® PL. 14, Ph. 42
	9	立方形の脚柱が剝離		
300	1	223-9次	② 左京2-2-5 6AFF LA33 910809	③ 排水溝
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径15.5 硯面径10.8 残存高3.5	(6) 倒置(硯部内面、外堤部下面、突帯下面に自然釉)
	7	奈文研1992『1991年		(8) PL. 14, Ph. 43
		長方形透孔、復原脚		⊚ TL. 14, TH. 43

番号	1	次 数	2	出土地点	3	遺構・層序	
	7	種類概報・報告	_ (5)	法量		焼 成	PL, Ph
	9	備考					, L, I II
301	1	230次	2	左京3-1-16 6AFJ GR32 920805	3	井戸埋土	SE0
	4	圏足円面硯 b	(5)	外堤径13.3 硯面径11.6 残存高3.0	6	正置 (突帯上面に降灰)	
	7	奈文研1993『1992年度	医平城	概報』		8	PL. 14, Ph. 43
	9	長方形透孔、復原脚数	女19	共伴土器は平城Ⅴ~長岡期			
302	1	230次	2	左京3-1-16 6AFJ GQ32 920804	3	井戸抜取	SE0
	4	圏足円面硯	(5)	底部径19.0 残存高1.2	6	正置(脚台部外面に降灰)	
	7	奈文研1993『1992年度	E 平城	既報』		8	PL. 14, Ph. 43
	9	長方形透孔、復原脚数	女17	共伴土器は平城V~長岡期			
303	1	230次	2	左京3-1-15 6AFJ FM33 920723	3	暗灰土	
	4	圏足円面硯	(5)	最大径20.6 残存高3.3	6	倒置(脚部内面, 突帯下面	に降灰)
	7	奈文研1993『1992年度	E 平城	既報』		8	PL. 14, Ph. 43
	9	突帯の上下に長方形況		復原脚数10(上段)、14(下段)			
304	1	231次	2	左京3-1-7 6AFJ OH32 920207	3	黄褐粘土	
	4	蹄脚円面硯B	(5)	外堤径25.6 残存高5.1	6	正置(外堤部外面、突帯上	面に降灰)
	7	奈文研1993『平城京左	京三	条一坊七坪発掘調査報告』fig. 22-120		8	PL. 14, Ph. 43
	9	復原脚数23					
305	1	231次	2	左京3-1-7 6AFJ OG31 920210	3	黄褐粘土	
	4	蹄脚円面硯B	(5)	最大径20.2 残存高5.0	6	不明(明確な窯痕跡なし)	
	7	奈文研1993『平城京左	京三	条一坊七坪発掘調査報告』		8	PL. 14, Ph. 43
	9	復原脚数19					
306	1	231次	2	左京3-1-7 6AFJ NR27 920302	3	大土坑	SK576
	4	圏足円面硯	(5)	底部径20.8 残存高4.3	6	倒置(脚部内面に降灰)	
	7	奈文研1993『平城京左	京三	条一坊七坪発掘調査報告』fig. 22-122		8 1	PL. 14, Ph. 43
	9	三角形または逆台形迹	&子L ;	共伴土器は平城Ⅲ			
307	1	231次	2	左京3-1-7 6AFJ ON34 920217	3	東西溝 1	
	4	圈足円面硯	(5)	底部径20.1 残存高2.1	6	倒置(脚台部下面、内面に	降灰)
	7	奈文研1993『平城京左	京三	条一坊七坪発掘調査報告』fig. 22-121		8	PL. 14, Ph. 43
	9	長方形透孔					
308	1	231次	2	左京3-1-7 6AFJ OP31 920229	3	東西溝 1	
	4	圈足円面硯	(5)	底部径12.8 残存高1.1	6	不明(脚台部内外面に降灰))
	7	奈文研1993『平城京左	京三	条一坊七坪発掘調査報告』		8 F	PL. 14, Ph. 43
	9	長方形透孔、復原脚数	7 28				
309	1	231次	2	左京3-1-7 6AFJ NP27 920117	3	黄褐粘土	
	4	圏足円面硯	(5)	底部径22.8 残存高3.5	6	正置(脚部外面に降灰)	
	7	奈文研1993『平城京左	京三	条一坊七坪発掘調査報告』		8 F	PL. 14, Ph. 43
	9	長方形透孔		ř			
310	1	242-8次	2	左京3-1-7 6AFJ OO17 931007	3	南北溝 1	SD610
	4	圏足円面硯 a	5	外堤径19.0 硯面径13.4 残存高2.3	6	不明(明確な窯痕跡なし)	
	7	奈文研1993『1994年度	こ 平城村	既報』		8 F	PL. 14, Ph. 43
	9	長方形透孔、復原脚数	t26 1	現裏面に研磨痕			

番号	1	次 数	_ 2	出土地点	3	遺構・層序			
	<u>4</u>	種類 概報・報告	_ (5)	法量	6	焼 成	8)	PL, P	h
	9	備考						-, -	
311	1	242-8次	2	左京3-1-7 6AFJ OL18 930924	3	灰色土			
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径10.9 硯面径6.8 残存高2.0	6	倒置(硯部内面に降灰)			
	7	奈文研1994『1993年』	度平城	既報』		(3)	PL. 14	4, Ph. 44
	9	長方形透孔、復原脚	数21	312と同一個体ヵ					
312	1	242-8次	2	左京3-1-7 6AFJ OM18 931012	3	井戸1 井戸枠上			SE609
	4	圈足円面硯	(5)	外堤径10.9 残存高2.1	6	倒置(硯部内面、突带	下面	に降原	₹)
	7	奈文研1994『1993年』	度平城	既報』		(3)	PL. 14	4, Ph. 44
	9	長方形透孔 外堤部	上面に	溶着痕あり 311と同一個体ヵ 共伴遺物に萬年道	通寶	(760年初鋳)			N 900-41 501 1070 ACT 11000000 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
313	1	242-8次	2	左京3-1-7 6AFJ OL18/OL17 930924/931012	3	灰色土/東西溝 2			
	4	風字硯	(5)	残存長10.2 残存幅8.1 残存高8.1	6	倒置(硯部内面に降灰)			
	7	奈文研1994『1993年』	度平城	既報』		(3)	PL. 14	4, Ph. 44
	9	硯面をヘラケズリ							
314	1	249次	2	左京3-1-14 6AFJ DO17 940519	3	小穴1		SB56	630抜取穴
	4	円面硯(無脚)	(5)	硯面径9.0 底部径11.6 残存高2.4	6	正置(海部に自然釉)			
	7	奈文研1995『平城京》	左京三	条一坊十四坪発掘調査報告』fig. 10-21, PL. 10-21		. (3)	PL. 14	4, Ph. 44
	9	硯裏面を硯に転用	共伴土	器は平城V					
815	1	252次	2	左京7-1-16 6AHH HM11 940812	3	南北溝			SD640
	4	蹄脚円面硯	(5)	残存高1.6	6	不明(明確な窯痕跡な)	ر)		
	7	奈文研1997『平城京》	左京七	条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)		. (3)	Ph. 44	1
	9	316と同一個体ヵ							
316	1	252次	2	左京7-1-16 6AHH HM11 940812	3	南北溝			SD6400
	4	蹄脚円面硯	(5)	残存高1.9	6	不明(明確な窯痕跡な)	_)		
	7	奈文研1997『平城京》	左京七	条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)		(3)	Ph. 44	1
	9	315と同一個体ヵ							
317	1	252次	2	左京7-1-16 6AHD AC24 940901	3	黄灰土			
	4	圏足円面硯	(5)	外堤径9.8 残存高2.5	6	不明(明確な窯痕跡なし	ر)		
	7	奈文研1997『平城京》	左京七	条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)		(1)	3)	PL. 14	1, Ph. 44
	9)	長方形透孔、復原脚	数31	318と同一個体ヵ					,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
318	1)	252次	(2)	左京7-1-16 6AHD AD24 940901	(3)	黄灰土			
	(4)	圈足円面硯	(5)	外堤径9.8 残存高2.5	(6)	不明(明確な窯痕跡なし	_)		
	7		左京七	条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)		(8	3)	PL. 14	I, Ph. 44
	9	長方形透孔、復原脚							
319	1)	252次		左京7-1-16 6AHH HO13 940718	(3)	南北大溝 暗灰粘質土			SD6400
	(4)	円面硯	(5)	残存長5.1	(6)	倒置(硯裏面に降灰)			
	7			条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)			0 1	Ph. 44	 L
	9	現面に火襷あり	-A U	A A TA TANDONING ETADS (THAOU)				7	•
320	1	252次	<u></u>	左京7-1-16 6AHH HN14 940712	3	黄灰土			
20	4)	円面硯(獣脚)	(5)	<u> </u>	6	倒置(硯裏面、脚部内面	π <i>ι</i> -	(降広)	
									I Dh 44
	7	復原脚数3ヵ	工从七	条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)Pl. :	01-5	əu (8	y 1	rl. 14	l, Ph. 44

番号	1	次数	2	出土地点	3	遺構・層序				
	<u>4</u>	種類概報・報告	_ (5)	法量	6	焼 成	8	PL.	Ph	
	9	備考					0	ГL,	FII	
321	1	252次	2	左京7-1-16 6AHH IL28 940914	3	溝 2 断割茶褐土				SD6440
	4	特殊硯(形象硯ヵ)	(5)	残存長11.7 残存幅7.0 残存高3.1	6	倒置(硯裏面に自然和	1)			
	7	奈文研1997『平城京左	京七名	条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)Pl.	37-5	537	8	PL.	14,	Ph. 44
	9	脚部の痕跡はなし								
322	1	253次	2	左京7-1-16 6AHH HD15 941026	3	黄灰土				
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径17.3 硯面径11.8 残存高2.9	6	倒置(硯部内面に自然	(釉)			
	7	奈文研1997『平城京左	京七组	条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)Pl.	37-5	33	8	PL.	15,	Ph. 45
	9	長方形透孔、復原脚数	ኢ 29							
323	1	253次	2	左京7-1-16 6AHG PL97 941122	3	西側溝 褐粗砂				SD6400
	4	圈足円面硯	(5)	最大径12.8 残存高4.1	6	正置(脚部外面に降灰	()			
	7	奈文研1997『平城京左	京七组	条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)			8	PL.	15,	Ph. 45
	9	透孔不明 脚部外面に	ヘラ扌	描き沈線タテ3条以上						
324	1	253次	2	左京7-1-16 6AHG QA97 941114	3	西側溝 青灰細砂				SD6400
	4	圈足円面硯	(5)	残存高4.2	6	正置(脚部外面に降灰	()			
	7	奈文研1997『平城京左	京七乡	条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)			8	PL.	15,	Ph. 45
	9	透孔不明、脚部外面に	ヘラ扌	描き沈線タテ3条以上 331と同一個体ヵ						
325	1	253次	2	左京7-1-16 6AHG PJ97 941121	3	西側溝 暗灰砂			,	SD6400
	4	圏足円面硯	(5)	残存高5.2	6	倒置(脚部外面、突带	上瓦	前に降	锋灰)	
	7	奈文研1997『平城京左	京七多	条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)			8	Ph.	45	
	9	長方形透孔								
326	1	253次	2	左京7-1-16 6AHG PM97 941121	3	西側溝 暗灰砂				SD6400
•	4	圏足円面硯	5	残存高4.2	6	正置(脚部外面、突带	上页	前に隆	华灰)	
	7	奈文研1997『平城京左	京七多	←一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)			8	Ph.	45	
	9	長方形透孔 脚台部外	面に多	是带 2 条						
327	1	253次	2	左京7-1-16 6AHG PK96 941122	3	西側溝 褐粗砂			- (SD6400
	4	円形硯(輪状高台)	(5)	硯面径10.6 底部径10.5 器高1.6	6	倒置(硯裏面に自然釉)			
	7	奈文研1997『平城京左	京七多	ミー坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)			8	PL.	15,	Ph. 45
	9									
328	1	253次	2	左京7-1-16 6AHG QZ97 941117	3	暗灰粘土				
	4	円形硯(輪状高台)	5	硯面径17.6 高台径17.2 器高2.4	6	倒置(硯裏面に自然釉)			
	7	奈文研1997『平城京左	京七条	ミー坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)			8	PL.	15,	Ph. 45
	9									
329	1	253次	2	左京7-1-16 6AHG PP97 941129	3	西側溝 褐粗砂			- 5	SD6400
	4	形象硯(鳥形硯)	(5)	残存長4.5 残存幅10.2 残存高9.0	6	倒置(頸部下面に降灰)			
	7	奈文研1997『平城京左		た一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56) Pl.				PL.	15.	Ph. 45
	9	- 1 //////	-21				_		1 :	
330	1	254次	2	左京7-1-16 6AHH GO40 950111	(3)	黄灰土				
	<u>(4)</u>	置足円面視 a		外堤径18.5 硯面径13.1 残存高4.4		倒置(硯裏面、外堤部	外頂	iにÉ		<u>h</u>)
	7			一坊十五·十六坪発掘調査報告』(学報56) Pl.						⁴⁷ Ph. 45
	9			 提部上下端、脚部上端に沈線各2条	J. UC	\\	<u> </u>		, 1	73

番号	1	次 数	2	出土地点	3	遺構・層序			
	4	種類	5	法 量	6	焼成	0	PL.	Dh
	<u>7</u> <u>9</u>	概報・報告 備考			_		8	PL,	Pn
331	1	254・253次	2	左京7-1-16 6AHH/6AHG GM44/PM97 950120/941110	3	東西溝 最上層/新溝			上 層/SD641
	4	圈足円面硯	(5)	外堤径12.6 底部径16.5 器高5.0	6	正置(脚部外面、突	带上ī	面に隆	锋灰)
	7	奈文研1997『平城京左	京七	条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)Pl.:	37-5	31, Ph. 44–531	8	PL.	15, Ph. 45
	9	透孔なしヵ 脚部外面	に縦	方向のヘラ描き沈線(約1cm間隔) 共伴土器はS	D64	72上層が平城Ⅳ~Ⅴ・	VI	324 と	:同一個体力
332	1	254次	2	左京7-1-16 6AHH GM43/GM45/GM42 950113/950214/950123	3	黄灰土/東西溝 中層	茶褐 米		黄灰土 B D6472中層
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径17.0 硯面径12.4 残存高2.9	6	正置 (硯面に降灰)			
	7	奈文研1997『平城京左	京七	条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)			8	PL.	15, Ph. 46
	9	長方形透孔 脚幅広狭	あり	、復原脚数4(広)、4(狭) 共伴土器は平城Ⅳ~	v .	VII			
333	1	254次	2	左京7-1-16 6AHH GT45 950118	3	黄灰土			
	4	圏足円面硯 a	(5)	硯面径16.6 残存高2.2	6	不明 (明確な窯痕跡:	なし)		
	(7)	奈文研1997『平城京左	京七	条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)	200000000		8	Ph.	46
	9)								
334		254次	(2)	左京7-1-16 6AHH GA41 950112	(3)	黄灰土			
001	(4)	圏足円面硯 a	(5)			正置(脚台部上面に	洛灰)		
	(7)			条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)		TE (% 10 TEM (-)			15, Ph. 46
	(9)			脚部外面にヘラ描き沈線タテ1条 脚台部外面に	37	古向の連鎖り冬	•	1 1	15, 111. 40
225		5 8 8 52 F W 30				黄灰土			-
335		254次		左京7-1-16 6AHH HC30-31 941222			۷۱ ۱		
	(4)	圏足円面硯 a		硯面径15.0 残存高3.7	(6)	不明(明確な窯痕跡			
	9	奈文研1997 平城京左	京七	条一坊十五·十六坪発掘調査報告』(学報56) 			(8)	PL.	15, Ph. 46
336	_	254次	(2)	左京7-1-16 6AHH GS43 950113	(3)	黄灰土			
550	(4)	圏足円面硯		底部径21.7 残存高1.3	6	倒置(脚台部内面に	冬瓜)		
				条一坊十五·十六坪発掘調査報告』(学報56)	•	PA T UPL AUT (CL		Ph.	16
		宗文训1997 『十城京左	. 宋七	朱一切一五十八叶光伽阙重取口』(子取30)			•	FII.	40
227	9	0F 4 V/n	<u> </u>	ナ <u></u>	<u></u>	* 正上			
337	1	254次	2	左京7-1-16 6AHH HA37 950110		黄灰土			
	(4)	円形硯(輪状高台)		外提径19.6 高台径17.5 器高2.5	(6)	倒置(硯裏面に自然系			45 DI 40
	(7)			ミ一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56) Pl. 37-5	34, F	'h. 28-534, Ph. 44-534	(8)	PL.	15, Ph. 46
	9	硯面に布目痕あり 硯							
338	1	254次	2	左京7-1-16 6AHH HA44 950218	3	黄灰土			
	4	円形硯(輪状高台)	5	外堤径19.0 高台径17.2 器高2.5	6	正置(硯面に降灰)			
	7	奈文研1997『平城京左	京七	条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)			8	PL.	15, Ph. 46
	9								
339	1	254次	2	左京7-1-16 6AHH GN40/GR41/GS37 950125/980124/950108	3	溝状土坑 1 /不整形土			9 · SK6579
	4	宝珠硯	(5)	残存長12.3 残存高1.5	6	倒置(硯裏面に降灰)			
	7	奈文研1997『平城京左	京七	条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)Pl. 3	37-5	35, Ph. 44–535	8	PL.	15, Ph. 46
	9	硯裏面に重焼き痕(径	14.0	cm)					

番号	1	次 数	2	出土地点	3				
	<u>4</u>	種類概報・報告	5	法量	6	焼 成	8	PL, Ph	
	9	備考						PL, Ph	
340	1	255次	2	左京7-1-16 6AHH HR46 950223	3	黄灰土			
	4	圈足円面硯	(5)	底部径15.4 残存高2.5	6	正置(脚部外面に降	灰)		
	7	奈文研1997『平城京左	京七条	条一坊十五・十六坪発掘調査報告』(学報56)			8	Ph. 46	
	9								
341	1	266次	2	左京3-1-15 6AFJ GD24 960125	3	床土			
	4	圏足円面硯 b	(5)	外堤径19.5 残存高3.2	6	不明(明確な窯痕跡	なし)		
	7	奈文研1996『1995年度	概報』				8	PL. 16	, Ph. 47
	9	長方形透孔、復原脚数	23						
342	1	266次	2	左京3-1-15 6AFJ GF21 960206	3	暗灰砂質土			
	4	圈足円面硯	(5)	残存長4.9	6	不明(明確な窯痕跡	なし)		
	7	奈文研1996『1995年度	概報』				8	Ph. 47	
	9	長方形透孔							
343	1	279次	2	左京2-2-11 6AFF EA68/EA65 970213/970207	3	灰色土/灰色土			
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径15.0 硯面径9.6 底部径18.8 器高6.4	6	正置(海部、突带上面	、脚部	外面に自	自然釉)
	7	奈文研1997『年報1997-	- 111]				8	PL. 16,	Ph. 47
	9	長方形透孔、復原脚数	10 月	申台部外面に突帯1条					
344	1	279次	2	左京2-2-11 6AFF DM65/DO64 970123/970127	3	灰色土/灰色土			
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径17.7 硯面径12.0 残存高3.4	6	倒置(硯部内面に自	然釉)		
	7	奈文研1997『年報1997-	- 111]				8	PL. 16,	Ph. 47
	9	長方形透孔、復原脚数2	28 夕	ト 堤部外面に沈線 1 条					
345	1	279次	2	左京2-2-11 6AFF DK70 970116	3	灰色土			
	4	圏足円面硯	(5)	底部径21.4 残存高1.0	6	倒置(脚台部内面に	降灰)		
	7	奈文研1997『年報1997-	- 111]				8	PL. 16,	Ph. 47
	9	長方形透孔、復原脚数2	24						
346	1	279次	2	左京2-2-11 6AFF DT71 970218	3	灰色土			
	4	圈足円面硯	(5)	底部径12.6 残存高2.9	6	不明(明確な窯痕跡	なし)		
	7	奈文研1997『年報1997-	-]				8	Ph. 47	
	9	長方形透孔、脚台部に多	突帯]	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
347	1	279次	2	左京2-2-11 6AFJ EA63 970224	3	バラス層			
	4	圏足円面硯	(5)	残存長7.3	6	不明(明確な窯痕跡	なし)		
	7	奈文研1997『年報1997-	- 111]				8	Ph. 47	
	9	長方形透孔							
348	1	279次	2	左京2-2-11 6AFF DM68 970214	3	土坑1			SK6955
	4	形象硯(亀形硯蓋・奈」	良二彩	⑤ 残存長5.5 残存幅4.8	6				
	7	奈文研1997『年報1997-	. []	巻頭カラー写真 ii -上		8	PL. 16	。 カラー	·Ph. 2下
	9	沈線で亀甲の表現あり							
349		279次	2	左京2-2-11 6AFF DO69 970226	3	 土坑 2 木くず層			
		形象硯(亀形硯蓋・奈良			6	, , , ,			
		奈文研1997『年報1997-				8 1	PL 16	。 カラー	Ph 2下
		沈線で亀甲の表現あり				⋓	_ 10	, ., /	4 1

番号	1	次 数			3	遺構・層序	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2				
	<u>4</u> <u>7</u>	種 類 概報・報告	5	法 量			6	焼成	8	PL,	Ph
	9	備考								1 -,	
350	1	279次	2	左京2-2-11	6AFF DO69	970226	3	土坑 2 木くず層			
	4	形象硯(亀形硯蓋・奈)	良二	影) ⑤	残存長1.7		6				
	7	奈文研1997『年報1997-	- 11]	巻頭カラー写	真 ii -上				8	カラ	→—Ph. 2下
	9	沈線で亀甲の表現あり	349)と同一個体ヵ							
351	1	282-3次	2	左京3-1-14	6AFJ DC13	970527	3	暗灰褐砂質土			
	4	蹄脚円面硯A	(5)	底部径28.7	残存高2.6		6	倒置(脚台部側面、	下面に	こ自然	
	7	奈文研1998『年報1998	- 11]						8	Ph.	47
	9										
352	1	282次-10次	2	左京2-2-10(二条条間路)	6AFF ED56 971030	3	暗灰砂			
	4	円形硯(輪状高台・有脚)	(5)	外堤径18.2	底部径15.6	残存高2.8	6	不明(明確な窯痕路	かなし)		
	7	奈文研1997『年報1998	- 11]						8	PL.	16, Ph. 47
	9	脚部の剝離痕あり 硯	裏面	に墨書(「□	(二ヵ)」) あり						
353	(1)	282-10次	2	左京2-2-11	6AFF EG55	971104	3	暗灰砂			
	(4)	圏足円面硯	(5)	底部径18.8	残存高3.5		6	正置(脚部外面に自	1然釉)		
	(7)	奈文研1998『年報1998	- III]						8	PL.	16, Ph. 48
	9	長方形透孔、復原脚数		脚台部外面に	突带 1 条						
354	(1)	282-16次		左京2-2-11		980316	(3)	茶灰砂質土			
004	(4)	圏足円面硯 a	(5)	外堤径5.4	硯面径3.6 死	表表表 1.1	6	倒置(硯部内面に自	自然釉)		
	(7)	奈文研1998『年報1998							8	PL.	16, Ph. 48
	9	長方形透孔、復原脚数		硯面に墨痕あ	Ŋ						
355	(1)	282-16次	(2)	A-430 - A D 71 - 1007 151 - 401	6AFF EB83	980323	3	土坑 2			
000	(4)	圏足円面硯 a	(5)		硯面径16.6		(6)	倒置(硯部内面に降	肇灰)		
	(7)			7 70 120 10	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	7-410 1.00			(8)	PL.	16, Ph. 48
	9										
356	1	282-16次	(<u>2</u>)	左京2-2-11	6AFF DP85	980313	(3)	茶灰砂質土			
000	(4)	圏足円面硯 a	(5)		硯面径13.6		(6)	不明(明確な窯痕路	かなし))	
	7	奈文研1998『年報1998		//XEII.0	унщ д.10.0	7211142.0			(8)		16, Ph. 48
	9	長方形透孔、復原脚数									,
357	1	282-16次	2)	左方2-2-11	6AFF DR83	980324	(3)	井戸抜き穴			SE734
301	4)	圏足円面硯 a	(5)		硯面径14.4		6	倒置(硯部内面に	条灰)		
	7	奈文研1998『年報1998		7 P JE JE 13.0	<u> ре</u> щ <u>т</u> тт. т)X(1) [E]Z. 0		NE (MIN) III (-)	(8)	ΡI	16, Ph. 48
	9	長方形透孔、復原脚数									10,111110
358	1	282-16次	2	<i>七</i> 古9_9_11	6AFF DR83	980317	(3)	土坑 1 灰褐粘質土			SE734
300				現面径8.4		300017	6	倒置(硯部内面に	自然釉))	0_101
	(4)	圏足円面硯 a	_ (5)	班叫注0.4	ッズ(下回4.0		•	No North, 1 m (< ;	(8)	Ph.	48
	7	奈文研1998『年報1998 	- Ш.						•	1 116	
250	9	長方形透孔	(2)	七台2-2-11	6AFF DP83	080323	(3)	土坑 6			
359	1	282-16次			UALL DL93	300343	6	正置(脚部外面に	冬瓜)		
	4	圏足円面視 ************************************	(5)	残存長5.5			0	17.		рI	16, Ph. 48
	7	奈文研1998『年報1998							(8)	rL.	10, F11. 48
	9	長方形透孔 脚柱外面	、惻	凹にヘラケズ	リ						

番号	1	次数	2	出土地点	3			
	<u>4</u>	種 類 概報・報告	<u></u>	法量		焼 成	(R)	PL, Ph
	9	備考						FL, FII
360	1	282-16次	2	左京2-2-11 6AFF DO83 980313	3	茶灰砂質土		
	4	圈足円面硯	(5)	残存長5.4	6	正置(脚部外面に降	灰)	
	7	奈文研1998『年報1998	-111				8	Ph. 48
	9	長方形透孔 脚柱外面	、側	面にヘラケズリ				
361	1	282-16次	2	左京2-2-11 6AFF DP82 980308	3	茶灰砂質土		
	4	圏足円面硯	(5)	底部径27.0 残存高2.0	6	正置(脚台部上面、	外面、	下面に自然釉)
	7	奈文研1998『年報1998-	- 11]				8	Ph. 48
	9	長方形透孔 脚台部外	面に	突带 1 条				
62	1	289次	2	左京2-2-11 6AFF EH76 980113	3	灰色土		
	4	蹄脚円面硯B	(5)	外堤径23.6 硯面径19.5 残存高5.4	6	正置(脚台部上面、	外面、	下面に自然釉)
	7	奈文研1998『年報1998-	- [[]				8	PL. 16, Ph. 48
	9	復原脚数23						
63	1	290次	2	右京3-1-3 6AGF CS24 980227	3	南北溝1 灰褐砂質	-	SD261
	4	圈足円面硯	(5)	底部径21.0 残存高0.7	6	倒置(脚台部下面に	降灰)	
	7	奈文研1998『年報1998-	- 11]				8	PL. 16, Ph. 48
	9	長方形透孔 復原脚数2	25 B	却台部側面、上面にミガキ調整				
64	1	304次	2	左京3-1-10 6AFJ FP84 990510	3	東西溝 1		
	4	蹄脚円面硯A	(5)	外堤径20.1 硯面径14.6 残存高4.6	6	倒置(硯部内面に降	灰)	
	7	奈文研2000『年報2000-	- [[8	PL. 16, Ph. 49
	9	復原脚数14 硯面に周網	彖に注	大線1条 脚頭部に貼付けの工具痕あり フェストル				
65	1	304次	2	左京3-1-10 6AFJ FH84 990611	3	茶褐砂質土		
	4	蹄脚円面硯B	(5)	外堤径25.6 残存高6.5	6	正置(外堤部外面、	脚部多	外面に自然釉)
	7	奈文研2000『年報2000-					8	PL. 16, Ph. 49
	9	復原脚数22						
66	1	314-7次	2	左京3-1-7 6AFJ OQ22 000717	3	灰褐砂質土		
	4	圏足円面硯	(5)	外堤径14.4 残存高2.7	6	正置(外堤部外面、	脚部タ	小面に降灰)
	7	奈文研2001『紀要2001』					8	PL. 16, Ph. 49
	9	復原脚数17~18 367と	同—	個体ヵ				
67	1	314-7次	2	左京3-1-7 6AFJ OQ22 000717	3	大溝 灰褐砂質土		SD610
	4	圏足円面硯	(5)	残存高2.7	6	正置(外堤部外面、)	脚部夕	ト面に降灰)
	7	奈文研2001『紀要2001』					8	PL. 16, Ph. 49
	9	366と同一個体ヵ						
68	1	372次	2	左京7-1-16 6AHH HO39 040628	3			
	4	蹄脚円面硯A	5	残存高3.5	6	倒置 (脚台部下面に)	降灰)	
	7	奈文研2005『紀要2005』						Ph. 49
	9							
59		372次	2	左京7-1-16 6AHH HP42 040622	3			
		円形硯(有脚)		外堤径14.8 硯面径12.8 高台径12.8 器高3.9		不明(明確な窯痕跡)	なし)	
		奈文研2005『紀要2005』			<u> </u>			PL. 16, Ph. 49
	9						~	

番号	1	次数	2	出土地点	3	遺構・層序	
	4	種類	(5)	法 量	6	焼 成	
	7	概報・報告					® PL, Ph
	9	備考					
370	1	375次	2	左京7-1-16 6AFF DN44/DO44 040730/04080	4 3	灰色粘土/灰色粘土	
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径13.8 硯面径10.6 底部径17.8 残存高4.8	6	不明(明確な窯痕跡	なし)
	7	奈文研2005『紀要2005』	5』図	184-1			8 PL. 16, Ph. 49
	9	長方形透孔、復原脚数	(16				(1.000-000-000-000-000-000-000-000-000-00
371	1	次数不明	2	奈良山丘陵 6SNR	3		
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径17.6 硯面径13.2 残存高3.8	6	不明(明確な窯痕跡	なし)
	7	奈文研編1973・1974・	1979	『奈良山-平城ニュータウン予定地内遺跡調査概	報 1	. 2 . 3]	® Ph. 49
	9	外堤部外面に横方向の	沈線	1条			

 \mathbf{W}_{-2} .

寺院出土陶硯 一覧表

凡例

- ①寺院の順番 付表の順で、寺院ごとに並べる。
- ②出土地点 寺域内での位置、出土地区、出土日時の順に記す。

付表. 寺院の略号と掲載順

	大安寺	6 B D A
1	法華寺	6BFK · 6BFO
	元興寺	6 B G N
ì	法隆寺	6 B H R
ì	海竜王寺	6 B K A
اِ	興福寺	6 B K F
	西大寺	6 B S D
	西隆寺	6 B S R
	東大寺	6 B T D
J	善招提寺	6 B T S
3	薬師寺	6 B Y S

	1 4	次数	- 2 (5)	出土地点 法 量	<u>3</u> <u>6</u>	遺構性成	・層序 ・窯痕跡		
	7	概報・報告		<u>Д</u> <u>Е</u>		NEW	無极助	8	PL, Ph
	9	備考							TOTAL TO
大安	寺 (BDA							
101	1	95-18次	2	大安寺北面中房推定地 6BDA F16	3				
	4	円形硯	(5)	外堤径11.0 硯面径6.6 残存高2.1	6	倒置	(硯裏面に自	然釉)	
	7	奈文研1976『昭和50年度	モ 平城村	既報』・奈良市教委1997『史跡大安寺旧境内1-杉山古墳	貴地区の	発掘調	査・整備事業報告	8	PL. 17, Ph. 50
	9	長方形透孔、復原脚数	女15						
102	1	95-18次	2	大安寺北面中房推定地 6BDA A11 751212	3	暗灰衫	曷土		
	4	圏足円面硯 b	(5)	外堤径19.6 硯面径17.0 残存高2.1	6	不明	(明確な窯痕	跡なし))
	7	奈文研1976『昭和51年度	[平城	既報』,奈良市教委1997『史跡大安寺旧境内1-杉山古墳	貴地区の	発掘調る	査・整備事業報告	.] (8)	PL. 17, Ph. 50
	9								
103	1	95-18次	2	大安寺北面中房推定地 6BDA B11 751212	3	瓦溜り)		
	4	圏足円面硯	(5)	残存長6.1	6	倒置	(脚部内面に	自然釉))
	7	奈文研1976『昭和51年	:度平:	城概報 』				8	Ph. 5
	9	長方形透孔							
104	1)	95-18次	2	大安寺北面中房推定地 6BDA F19	3	大安寺			
	(4)	円形硯(有脚)	(5)	外堤径19.0 硯面径18.0 残存高1.4	6	倒置	(硯裏面に自	然釉)	
	(7)			既報』・奈良市教委1997『史跡大安寺旧境内1-杉山古	墙地区	の発掘調	・整備事業報	告 (8)	PL. 17. Ph. 50
	9)			1) 海部は硯面の一部を内堤で区画					
去華辛		6 B F K · 6 B F O	J. 2011	A INTRODUCTOR INC. LANCE CO.					
105	_	98-17次	<u></u>		(3)	南北絲	口港		SD0-
100	4	蹄脚円面硯B		外提径21.9 硯面径16.7 底部径25.6				भक्त १	突帯上面に降灰)
	4)	斯科门国北 D		7下处1生21.9 税固1生10.7 医6月至25.0		山眉	(4年口)/ 砂州口)	7ト田 、 ラ	天市工画(三年)八/
	(7)	太寸研1077 『IDJ #ID #ID #	帝亚.	日本 日本 日本 日本				0	DI 17 Dh 50
	7	奈文研1977『昭和51年						8	PL. 17, Ph. 50
100	9	復原脚数15 *概報で	: IdSD	04				8	PL. 17, Ph. 50
106	9	復原脚数15 *概報で 98-17次	∵iisd ②	04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207		灰褐矿			
106	9	復原脚数15 *概報で 98-17次 圏足円面硯 a	© (5)	04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9	36		少質土	突带下面	面に降灰)
106	9	復原脚数15 *概報で98-17次 圏足円面硯a 奈文研1977『昭和51年	*はSD ② ⑤ E度平:	04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 城概報』				突带下面	
106	9 1	復原脚数15 *概報で 98-17次 圏足円面硯 a	*はSD ② ⑤ E度平:	04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 城概報』				突带下面	面に降灰)
	9 1 4 7	復原脚数15 *概報で98-17次 圏足円面硯a 奈文研1977『昭和51年	**はSD ② ⑤ ⑤ 三度平:	04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 城概報』	6		(硯部内面、	突带下面	面に降灰)
	9 1 4 7 9	復原脚数15 *概報で 98-17次 圏足円面硯 a 奈文研1977 『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広	ではSD ② ⑤ ⑤ 下度平: で狭あ ②	04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 城概報』	(6)(3)	倒置黄褐砂	(硯部内面、	突带下了	面に降灰) PL. 17, Ph. 50
	9 1 4 7 9	復原脚数15 *概報で 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次	はSD②⑤⑤下度平:次あ②⑤	04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF43 770222 外堤径8.2 硯面径4.4 残存高2.6	(6)(3)	倒置黄褐砂	(硯部内面、:	突带下了	面に降灰) PL. 17, Ph. 50
	9 1 4 7 9 1 4	復原脚数15 *概報で 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視 a	はSD②⑤下度平:次あ②⑤⑤下度平:	04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF43 770222 外堤径8.2 硯面径4.4 残存高2.6 城概報』	(6)(3)	倒置黄褐砂	(硯部内面、:	突帯下i ® の一部i	面に降灰) PL. 17, Ph. 50 に降灰)
407	9 1 4 7 9 1 4 7	復原脚数15 *概報で 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977『昭和51年	ではSD ② ⑤ 下度平: 次あ ② ⑤ 下度平: 次あ	04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF43 770222 外堤径8.2 硯面径4.4 残存高2.6 城概報』	636	倒置黄褐砂	(硯部内面、: 少質土 (外堤部外面。	突帯下i ® の一部i	面に降灰) PL. 17, Ph. 50 に降灰)
407	9 1 4 9 7 9 9 1 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	復原脚数15 *概報で 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広	ではSD ② ⑤ 下度平: 次あ ② ⑤ 下度平: 次あ	04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF43 770222 外堤径8.2 硯面径4.4 残存高2.6 城概報』	636	黄褐砂不明南北約	(硯部内面、: 少質土 (外堤部外面。	突帯下[⑧ の一部(⑧	面に降灰) PL. 17, Ph. 50 に降灰) PL. 17, Ph. 50 SD0
4406	9 1 4 7 9 1 4 7 9	復原脚数15 *概報で 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次	はSD②⑤⑤②⑥⑤⑤()⑥()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()<l>()()()()()()<l< td=""><td>04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF43 770222 外堤径8.2 硯面径4.4 残存高2.6 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF44 770207 底部径12.6 残存高4.3</td><td>636</td><td>黄褐砂不明南北約</td><td>(硯部内面、: 少質土 (外堤部外面。</td><td>突帯下「 ⑧ の一部(⑧ ・内面(</td><td>面に降灰) PL. 17, Ph. 50 に降灰) PL. 17, Ph. 50 SD0</td></l<></l>	04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF43 770222 外堤径8.2 硯面径4.4 残存高2.6 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF44 770207 底部径12.6 残存高4.3	636	黄褐砂不明南北約	(硯部内面、: 少質土 (外堤部外面。	突帯下「 ⑧ の一部(⑧ ・内面(面に降灰) PL. 17, Ph. 50 に降灰) PL. 17, Ph. 50 SD0
407	9 1 4 7 9 1 4 7 9 9	復原脚数15 *概報で 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977 『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977 『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視	はSD②⑤⑤②⑥⑤⑤()⑥()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()<l>()()()()()()<l< td=""><td>04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF43 770222 外堤径8.2 硯面径4.4 残存高2.6 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF44 770207 底部径12.6 残存高4.3</td><td>636</td><td>黄褐砂不明南北約</td><td>(硯部内面、: 少質土 (外堤部外面。</td><td>突帯下「 ⑧ の一部(⑧ ・内面(</td><td>面に降灰) PL. 17, Ph. 50 に降灰) PL. 17, Ph. 50 SDO</td></l<></l>	04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF43 770222 外堤径8.2 硯面径4.4 残存高2.6 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF44 770207 底部径12.6 残存高4.3	636	黄褐砂不明南北約	(硯部内面、: 少質土 (外堤部外面。	突帯下「 ⑧ の一部(⑧ ・内面(面に降灰) PL. 17, Ph. 50 に降灰) PL. 17, Ph. 50 SDO
407	9 1 4 7 9 1 4 4 7 7	復原脚数15 *概報で 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視 奈文研1977『昭和51年 の第二7次	はSD②⑤⑤②⑥⑤⑤()⑥()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()<l>()()()()()()<l< td=""><td>04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF43 770222 外堤径8.2 硯面径4.4 残存高2.6 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF44 770207 底部径12.6 残存高4.3</td><td>3 6</td><td>黄褐砂不明南北約</td><td>(硯部内面、: 少質土 (外堤部外面。</td><td>突帯下「 ⑧ の一部(⑧ ・内面(</td><td>面に降灰) PL. 17, Ph. 50 に降灰) PL. 17, Ph. 50 SDO</td></l<></l>	04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF43 770222 外堤径8.2 硯面径4.4 残存高2.6 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF44 770207 底部径12.6 残存高4.3	3 6	黄褐砂不明南北約	(硯部内面、: 少質土 (外堤部外面。	突帯下「 ⑧ の一部(⑧ ・内面(面に降灰) PL. 17, Ph. 50 に降灰) PL. 17, Ph. 50 SDO
107	9 1 4 7 9 1 1 4 9 7 7 9	復原脚数15 *概報で 98-17次 圏足円面硯 a 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面硯 a 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面硯 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔	はSD②⑤⑤⑤事業事業②⑤⑤⑤⑤⑤⑤	04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF43 770222 外堤径8.2 硯面径4.4 残存高2.6 城概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF44 770207 底部径12.6 残存高4.3 城概報』	3 6	倒置 黄褐砂 不明 南北斜 倒置	(硯部内面、: 少質土 (外堤部外面。	突帯下「 ⑧ の一部(⑧ ・内面(面に降灰) PL. 17, Ph. 50 に降灰) PL. 17, Ph. 50 SDO に自然釉) PL. 17, Ph. 50
407	9 1 4 7 9 1 4 4 7 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	復原脚数15 *概報で 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次	ではSD ② ⑤ ⑤ ② ⑤ ⑤ を 平 ・ を を ぞ ・ を を で ・ 。 ⑥ ⑥ の の の の の の の の の の の の の の の の の	04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 成概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF43 770222 外堤径8.2 硯面径4.4 残存高2.6 成概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF44 770207 底部径12.6 残存高4.3 成概報』 法華寺経楼推定地 6BFK LG42 770207 底部径21.0 残存高2.2	3 6	倒置 黄褐砂 不明 南北斜 倒置	(硯部内面、: 少質土 (外堤部外面。 田溝 (脚台部側面	突帯下「 ⑧ の一部(⑧ ・内面(面に降灰) PL. 17, Ph. 50 に降灰) PL. 17, Ph. 50 SDO に自然釉) PL. 17, Ph. 50
407	9 1 4 7 9 1 4 7 9 1 4 7 9 1 4 4 7 9 9 1 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	復原脚数15 *概報で 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977 『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977 『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視 奈文研1977 『昭和51年 長方形透孔	はSD②⑤⑤⑤②⑥⑥②⑥⑥⑥②⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥②⑥⑥②⑥②⑥②⑥②⑥②⑥②⑥②⑥②②⑥②②⑥②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②<td>04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 成概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF43 770222 外堤径8.2 硯面径4.4 残存高2.6 成概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF44 770207 底部径12.6 残存高4.3 成概報』 法華寺経楼推定地 6BFK LG42 770207 底部径21.0 残存高2.2</td><td>3 6</td><td>倒置 黄褐砂 不明 南北斜 倒置</td><td>(硯部内面、: 少質土 (外堤部外面。 田溝 (脚台部側面</td><td>突帯下「 ⑧ の一部(⑧ ・内面(⑧</td><td>面に降灰) PL. 17, Ph. 50 に降灰) PL. 17, Ph. 50 SDO: に自然釉) PL. 17, Ph. 50</td>	04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 成概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF43 770222 外堤径8.2 硯面径4.4 残存高2.6 成概報』 り 法華寺経楼推定地 6BFK LF44 770207 底部径12.6 残存高4.3 成概報』 法華寺経楼推定地 6BFK LG42 770207 底部径21.0 残存高2.2	3 6	倒置 黄褐砂 不明 南北斜 倒置	(硯部内面、: 少質土 (外堤部外面。 田溝 (脚台部側面	突帯下「 ⑧ の一部(⑧ ・内面(⑧	面に降灰) PL. 17, Ph. 50 に降灰) PL. 17, Ph. 50 SDO: に自然釉) PL. 17, Ph. 50
407	9 1 4 7 9 1 4 7 9 1 4 7 9 1 4 7 9	復原脚数15 *概報で 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977 『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977 『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視 奈文研1977 『昭和51年 長方形透孔	はSD②⑤⑤⑤②⑥⑥②⑥⑥⑥②⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥②⑥⑥②⑥②⑥②⑥②⑥②⑥②⑥②⑥②②⑥②②⑥②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②<td>04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 城概報』 切 法華寺経楼推定地 6BFK LF43 770222 外堤径8.2 硯面径4.4 残存高2.6 城概報』 切 法華寺経楼推定地 6BFK LF44 770207 底部径12.6 残存高4.3 城概報』 法華寺経楼推定地 6BFK LG42 770207 底部径21.0 残存高2.2 城概報』</td><td>(a) (b) (c) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d</td><td>倒置 黄褐砂 不明 南北斜 倒置</td><td>(硯部内面、: 少質土 (外堤部外面。 田溝 (脚台部側面</td><td>突帯下「 ⑧ の一部(⑧ ・内面(⑧</td><td>面に降灰) PL. 17, Ph. 50 に降灰) PL. 17, Ph. 50 SDO: に自然釉) PL. 17, Ph. 50</td>	04 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 城概報』 切 法華寺経楼推定地 6BFK LF43 770222 外堤径8.2 硯面径4.4 残存高2.6 城概報』 切 法華寺経楼推定地 6BFK LF44 770207 底部径12.6 残存高4.3 城概報』 法華寺経楼推定地 6BFK LG42 770207 底部径21.0 残存高2.2 城概報』	(a) (b) (c) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d	倒置 黄褐砂 不明 南北斜 倒置	(硯部内面、: 少質土 (外堤部外面。 田溝 (脚台部側面	突帯下「 ⑧ の一部(⑧ ・内面(⑧	面に降灰) PL. 17, Ph. 50 に降灰) PL. 17, Ph. 50 SDO: に自然釉) PL. 17, Ph. 50
007	9 1 4 7 9 1 4 4 9 9 1 1 4 9 9 9	復原脚数15 *概報で 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔 98-17次 圏足円面視 奈文研1977『昭和51年 長方形透孔、復原脚数	ではSD ② ⑤ ⑥ ② ⑤ ⑤ を を で ぞ き ③ ⑤ ⑤ を で ぞ き 。 ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤	(04) 法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207 外堤径12.0 硯面径8.0 残存高1.9 成概報』 (1) 法華寺経楼推定地 6BFK LF43 770222 外堤径8.2 硯面径4.4 残存高2.6 成概報』 (1) 法華寺経楼推定地 6BFK LF44 770207 底部径12.6 残存高4.3 成概報』 法華寺経楼推定地 6BFK LG42 770207 底部径21.0 残存高2.2 成概報』 脚部下端に沈線4条(透孔位置の基線カ) 	(a) (b) (c) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d	倒置 黄褐砂 不明 南北斜 倒置 石溝 倒置	(硯部内面、: 少質土 (外堤部外面。 田溝 (脚台部側面	突帯下i (8) の一部((8) ・内面((8)	面に降灰) PL. 17, Ph. 50 に降灰) PL. 17, Ph. 50 SD0 に自然釉) PL. 17, Ph. 50
107	9 1 4 7 9 1 4 7 9 1 4 7 9 1 4 7 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	復原脚数15 *概報で 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977 『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視 a 奈文研1977 『昭和51年 長方形透孔、脚幅に広 98-17次 圏足円面視 奈文研1977 『昭和51年 長方形透孔 98-17次 圏足円面視 奈文研1977 『昭和51年 長方形透孔 98-17次	 はSD ② ⑤ ⑤ ② ⑤ ⑤ ② ⑤ 	法華寺経楼推定地 6BFK LE44 770207	(a) (b) (c) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d	倒置 黄褐砂 不明 南北斜 倒置 石溝 倒置	(観部内面、: 少質土 (外堤部外面・ 田溝 (脚台部側面 (脚台部内面・	突帯下i (8) の一部((8) ・内面((8)	面に降灰) PL. 17, Ph. 50 に降灰) PL. 17, Ph. 50 SD0 に自然釉) PL. 17, Ph. 50

番号	<u>(1)</u> (4)	次 数 硯形式	<u>2</u> <u>(5)</u>	出土地点	<u>3</u> <u>6</u>		・層序			
	7	概報・報告		広 里	0	况成	・窯痕跡	8	PL,	Ph
	9	備考								
411	1	98-17次	2	法華寺経楼推定地 6BFK LF44/LF44 770208	/770	207	③ 黄褐砂土	:/南北	細溝	SD04
	4	圏足円面硯 a	5	外堤径11.3 硯面径7.2 残存高2.2	6	倒置	(硯部内面に)	自然釉)		
	7	奈文研1977『昭和51年	度平	城概報』				8	PL.	17, Ph. 51
	9	長方形透孔、復原脚数	ģ29							
412	1	98-17次	2	法華寺経楼推定地 6BFK LG44 770207	3	灰褐	砂土			
	4	風字硯	(5)	硯尻幅12.1 残存高2.0	6	倒置	(硯裏面に降原	灭)		
	7	奈文研1977『昭和51年	度平	城概報』				8	PL.	17, Ph. 51
	9				1,111100		1000 accessed 1,000 forms (100 a 200 a) 0.00 for 500 a	9409000		
413	1	112-10次	2	法華寺旧境内東端部 6BFK I 781222	3	暗褐	±.			
	4	圈足円面硯	(5)	底部径18.2 残存高4.6	6	正置	(脚部外面、脚	台部上	面·	側面に降灰)
	7	奈文研1979『昭和53年	度平	城概報』(一覧表のみ)				8	PL.	17, Ph. 51
	9	長方形透孔 脚柱部外	面に	ヘラ描き沈線3条						
414	1	118-9次	2	法華寺旧境内東端部 6BFK I 790724	3	床土				
	4	圈足円面硯 a	(5)	外堤径8.8 硯面径1.6 残存高1.5	6	倒置	(硯部内面に	锋灰)		
	7	奈文研1980『昭和54年	度平	城概報』				8	PL.	17, Ph. 51
	9									
415	1	123-4次	2	法華寺旧境内南西隅 6BFK 北トレンチ 800501	3	暗茶	站質土			
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径17.6 硯面径11.0 残存高3.4	6	不明	(明確な窯痕罩	亦なし)		
	7	奈文研1980『昭和54年	度平	城概報』				8	PL.	17, Ph. 51
	9	長方形透孔、復原脚数	t28							
416	1	141-1次	2	法華寺旧境内南東隅 6BFK DC32 820413	3	東西				SD01
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径17.8 硯面径14.6 残存高2.8	6	倒置	(硯部内面に『	锋灰)		
	7	奈文研1983『昭和57年	度平:	城概報』				8	PL.	17, Ph. 51
	9	長方形透孔、復原脚数	23							
417	1	191-10次	2	法華寺旧境内南東隅 6BFK 東西トレンチ 881214	3	近世	井戸埋土			
	4	蹄脚円面硯A	(5)	外堤径19.9 硯面径16.4 残存高6.6	6	倒置	(硯部内面に)	华灰)		
	7	奈文研1989『昭和63年	度平:			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		8	PL.	17, Ph. 52
	9	復原脚数25 硯面、外	堤部	外面にヘラミガキ						
418	1	191-12次	2	法華寺旧境内西辺 6BFO CZ 中区中 B 890227	3	表土				
	4	圈足円面硯 a	5	外堤径20.0 硯面径13.4 残存高3.2	6	不明	(明確な窯痕跡	かなし)		
	7	奈文研1989『昭和63年	度平	成概報』				8	PL.	17, Ph. 52
	9	長方形透孔、復原脚数	(18	現面外周に沈線1条						
419	1	280次 (東地区)	2	法華寺阿弥陀浄土院西端 6BFK EM96 971013	(3)	黒色	분			
	4	圏足円面硯 a		外堤径26.4 残存高2.4	(6)		(脚台部内面に	(隆灰)		
	7	奈文研1998『年報1998			,,,,,,,,,,	P 4 1	(41 1 11 1 4 1 4 1		PI	17, Ph. 52
	9	長方形透孔、復原脚数								, 02
420		280次 (東地区)		法華寺阿弥陀浄土院西端 6BFK EM97 971020	(3)	北側流	毒 暗灰砂			SD5200
	4	圏足円面硯	(5)	残存長3.7			(脚部内面に隆	(323200
		奈文研1998『年報1998		741, 2011	•	四世	7 wak tilst. 1 trif (⊂ g		Ph.	52
		長方形透孔	, ш.]					0	rn.	J <u>C</u>

	1	次 数	2	出土地点	3		・層序			The har
	<u>4</u> (7)	硯形式 概報・報告		法量	<u></u>	焼成	・窯痕跡	(8)	PL, Ph	
	9	備考							, -, , , ,	
21	1	281次	2	法華寺阿弥陀浄土院西端 6BFK EM86 970807	3	礫層				
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径15.8 硯面径10.1 残存高2.6	6	倒置	(硯部内面に降原	灭)		
	7	奈文研1998『年報19	998-Ⅲ』					8	PL. 17,	, Ph. 52
	9	長方形透孔、復原脚	J数28							
元興=	寺 (BGN								
22	1	374次	2	元興寺旧境内(大乗院) 6BGN CF37 040823	3	灰褐:	土			
	4	圏足円面硯 c	(5)	外堤径13.4 硯面径11.5 残存高2.0	6	倒置	(硯部内面に降原	天)		
	7	奈文研2005『紀要20)05]					8	Ph. 52	
	9	硯裏面に重焼き痕((径約9.(Ocm)						
去隆	寺 (BHR								
123	1	123-43次	2	法隆寺西院 6BHR 講堂東トレ(東西トレ)8007	07	3	東西溝			SD10
	4	圏足円面硯	(5)	残存長4.9	6	倒置	(脚部外面, 内面	面下	方に自然	釉)
	7	奈文研・奈良県教育	「委員会	編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』				8	Ph. 52	
	9	長方形透孔								
24	1	131-35次	2	法隆寺西院妻室·綱封蔵南方 6BHR 128区 81-1	2- I	81121	0 ③ 下層土	坑		SK213
424	4	圈足円面硯	(5)	底部径15.7 残存高5.8	6	正置	(脚部上面に降原	天)		
	7	奈文研・奈良県教育	「委員会	編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』	Fig.	54-25		8	PL. 18,	, Ph. 53
	9	長方形透孔、復原脚								
25	· (1)	131-35次	(2)	法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-1	2- I	81121	0 ③ 下層土	—— 坑		SK213
	4	>	(5)	底部径15.7 残存高5.8	6	正置	(脚部上面に降原	反)		
	7	奈文研・奈良県教育	香 員会	編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』	Fig.	54-25		8	PL. 18,	, Ph. 53
	9	長方形透孔、復原脚	□数23 ′	124・426~435と同一個体ヵ						
26	1	131-35次	2	法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-1.	2- I	81121	0 ③ 下層土	坑		SK213
	4	圏足円面硯	(5)	残存長5.1	6	不明	(明確な窯痕跡な	なし)		
	7		·委員会	編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』	Fig.	54-25		8	PL. 18,	Ph. 53
	9	長方形透孔 424・4	425 · 427							
27	1)	131-35次		法陈丰惠院事章 领针选索士 CDIID 199☑ 01 1	and area					
			(2)	佐座寸四阮麦全・榊到 風 用 刀 0DHK 128区 81-1.	2- I	81121	(3) 卜層土	坑		SK2135
±41	(4)	圈足円面硯		法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-1. 現存長5.1						SK213
	(4)(7)	圏足円面硯 奈文研・奈良県教育	5	残存長5.1	6	不明	(明確な窯痕跡な	まし)		
		奈文研・奈良県教育	⑤ ⑤ 『委員会》	残存長5.1 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』	6	不明	(明確な窯痕跡な	まし)	PL. 18,	
-28	(7) (9)	奈文研·奈良県教育 長方形透孔 424~4	⑤ 『委員会』 426・428	残存長5.1 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 3~435と同一個体ヵ	⑥ Fig.	不明 54-25	(明確な窯痕跡な	まし) ⑧		Ph. 53
-28	9 1	奈文研·奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次	⑤ ⑤ 『委員会》 426·428 ②	残存長5.1 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 3~435と同一個体ヵ 法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-13	⑥ Fig.	不明 54-25 81121	(明確な窯痕跡で 0 ③ 下層土	まし) ⑧ 坑	PL. 18,	Ph. 53
28	9 1 4	奈文研·奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次 圏足円面硯	⑤ ⑤ ⑤ 126 · 428 ② ⑤	残存長5.1 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 3~435と同一個体カ 法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-13 残存長4.6	6Fig.2- I6	不明 54-25 811210 不明	(明確な窯痕跡で の ③ 下層土 (明確な窯痕跡で	まし) ⑧ 坑 よし)	PL. 18,	Ph. 53
28	(1) (4) (7)	奈文研・奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次 圏足円面硯 奈文研・奈良県教育	⑤ ⑤ ⑤ ⑤ 126 · 428 ② ⑤ ⑤	残存長5.1 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 3~435と同一個体カ 法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-1 残存長4.6 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』	6Fig.2- I6	不明 54-25 811210 不明	(明確な窯痕跡で の ③ 下層土 (明確な窯痕跡で	まし) ⑧ 坑 よし)	PL. 18,	Ph. 53
	(7) (9) (1) (4) (7) (9)	奈文研·奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次 圈足円面硯 奈文研·奈良県教育 長方形透孔 424~4	⑤ (§) (426·428 (②) (⑤) (§) (§)	残存長5.1 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 3~435と同一個体カ 法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-13 残存長4.6 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 9~435と同一個体カ	6 Fig. 2- I 6 Fig.	不明 54-25 81121 不明 54-25	- (明確な窯痕跡で 0 ③ 下層土 (明確な窯痕跡で	まし) ⑧ 坑 まし) ⑧	PL. 18,	SK2139
7.020	7 9 1 4 7 9	奈文研·奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次 圈足円面硯 奈文研·奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次	⑤ ⑤ ⑤ ⑥ ② ⑥ ⑥ ⑥ ⑤ ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ②	残存長5.1 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 3~435と同一個体カ 法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-1: 残存長4.6 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』)~435と同一個体カ 法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-1:	6Fig.2- I6Fig.	不明 811210 不明 54-25 811210	(明確な窯痕跡な の ③ 下層土 (明確な窯痕跡な の ③ 下層土	まし) ⑧ 坊 (8) 坊	PL. 18,	SK2139
228	(7) (9) (1) (4) (9) (1) (4)	奈文研·奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次 圏足円面硯 奈文研·奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次 圏足円面硯	⑤ 「	残存長5.1 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 3~435と同一個体カ 法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-13 残存長4.6 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 9~435と同一個体カ 法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-13 残存長5.0	6Fig.2- I6Fig.2- I66	不明 54-25 81121 不明 54-25 811210 不明	- (明確な窯痕跡で 0 ③ 下層土 (明確な窯痕跡で	歌し) ⑧ 城 歌し) ⑧ 城 歌し)	PL. 18,	SK2139 Ph. 53 SK2139
7.020	7 9 1 4 7 9	奈文研·奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次 圈足円面硯 奈文研·奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次 圈足円面硯 奈文研·奈良県教育	⑤⑤⑤⑤⑤⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥⑥②⑥②②⑥②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②	残存長5.1 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 3~435と同一個体カ 法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-12 残存長4.6 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 9~435と同一個体カ 法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-12 残存長5.0 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』	6Fig.2- I6Fig.2- I66	不明 54-25 81121 不明 54-25 811210 不明	(明確な窯痕跡な の ③ 下層土 (明確な窯痕跡な の ③ 下層土	歌し) ⑧ 城 歌し) ⑧ 城 歌し)	PL. 18,	SK213 Ph. 53
29	7 9 1 4 7 9 1 4 7 7 9	奈文研·奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次 圈足円面硯 奈文研·奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次 圈足円面硯 奈文研·奈良県教育 長方形透孔 424~4	⑤ 『委員会和 426 · 428 ② ⑤ 『 ② ② ② ② ② ③ ③ ③ ③ 427 · 429 ③ ⑤ ⑤	残存長5.1 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 3~435と同一個体カ 法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-12 残存長4.6 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 9~435と同一個体カ 法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-12 残存長5.0 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 9~435と同一個体カ	6Fig.2- I6Fig.6Fig.Fig.	不明 81121(不明 81121(不明 81121(不明	(明確な窯痕跡な の ③ 下層土 (明確な窯痕跡な の ③ 下層土 (明確な窯痕跡な	まし) ⑧ 坑 (番) (番) (番)	PL. 18,	SK2138 Ph. 53 SK2138 Ph. 53
	7 9 1 4 9 1 0 9	奈文研·奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次 圈足円面硯 奈文研·奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次 圈足円面硯 奈文研·奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次	⑤ 「委員会和 426 · 428 ② ⑥ 「委員会和 427 · 429 ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ② ② ② ⑥ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ②	残存長5.1 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 3~435と同一個体カ 法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-13 残存長4.6 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 9~435と同一個体カ 法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-13 残存長5.0 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』)~435と同一個体カ 法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-13	⑥Fig.2- I⑥Fig.⑥Fig.⑥	不明 81121(不明 54-25 81121(不明 81121(81121((明確な窯痕跡な 0 ③ 下層土 (明確な窯痕跡な 0 ③ 下層土 (明確な窯痕跡な	まし) ⑧ 坑 はし) ⑧ ボ よし) ⑧	PL. 18,	SK2138 Ph. 53 SK2138 Ph. 53
29	7 9 1 4 7 9 1 4 7 7 9	奈文研・奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次 圏足円面硯 奈文研・奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次 圏足円面硯 奈文研・奈良県教育 長方形透孔 424~4 131-35次	⑤ 「香養員会和 (2) ⑤ 「香養員会和 (427 · 429 ② ⑥ 「香養員会和 (428 · 430 ② ⑤	残存長5.1 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 3~435と同一個体カ 法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-12 残存長4.6 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 9~435と同一個体カ 法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-12 残存長5.0 編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』 9~435と同一個体カ	⑥Fig.2- I⑥Fig.⑥Fig.②Tig.⑥	不明 81121(不明 81121(不明 654-25 81121(不明	(明確な窯痕跡な の ③ 下層土 (明確な窯痕跡な の ③ 下層土 (明確な窯痕跡な	(よし) (8) (5) (8) (8) (4) (6) (7) (7) (8) (7) (8) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9	PL. 18,	SK2138 Ph. 53 SK2138 Ph. 53

番号	1	次 数	2	出土地点		3)	遺構	・層序					
	4	硯形式	5	法 量		6	焼成	・窯痕跡			-	-	
	9	概報・報告				-				- (8)	PL,	Ph	
431	(1)	131-35次	(2)	法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区	81-12-	T	811210) (3)	下層:	十坑			SK2135
101	4	圏足円面視		残存長5.0				 (明確な					
	(7)							(),,,,,,				18.	Ph. 53
	9	長方形透孔 424~430				0							
432		131-35次		法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区	81-12-	T	811210) (3)	下層-	十坑			SK2135
102	4	圈足円面硯		残存長5.0				(明確な					
	(7)							()1FE 0	XX /2 < 2/3			18	Ph. 53
	9	長方形透孔 424~431			J 62 1	δ.	01 20					,	
433		131-35次		法隆寺西院妻室·綱封蔵南方 6BHR 128区	81-12-	T	811210	(3)	下層:	十坊			SK2135
100	(4)	圈足円面硯		残存長5.2				(明確な					ONLIGO
	(7)			1985 法隆寺防災施設工事・発掘調査報				(小)14年、9	AN MELLI			12	Ph. 53
						ıg.	34-23			•	FL.	10,	FII. 33
404	9	長方形透孔 424~432		CONTRACTOR	01 10	т	011010			나무			OKO10E
434		131-35次		法隆寺西院妻室·綱封蔵南方 6BHR 128区					下層:				SK2135
	(4)	圏足円面硯		現存長4.6				(脚部内	グト川 (〜			40	DI- 50
	7		00000000000	扁1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告 よ品・個件:>	寸青』 ₽ ∶	ıg.	54-25			(8)	PL.	10,	Ph. 53
	9	長方形透孔 424~433			. 01 10	_	01101			r t.L.			0140405
435	1			法隆寺西院妻室·綱封蔵南方 6BHR 128区					下層二				SK2135
	4	圈足円面硯		残存長3.8				(脚部内	面の一				
	7			扁1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告 	吉書』F	g.	54-25			(8)	PL.	18,	Ph. 53
	9	長方形透孔 424~434	5 (8)										
436	1	131-35次		法隆寺西院妻室·綱封蔵南方 6BHR 128区									
	4	圈足円面硯	5	底部径15.8 残存長3.4		6)	正置	(脚台部	上面に	降灰)			
	7	奈文研・奈良県教育委	員会	扁1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告	告書』					8	PL.	18,	Ph. 53
	9	長方形透孔 脚柱外面	にへ	ラ描き沈線2条									¥1
437	1	131-35次	2	法隆寺西院妻室・綱封蔵南方 6BHR 128区 81-12-I G区 811207	(3)	土坑3	3 黒褐	土				SK2135
	4	風字硯	(5)	残存長6.2 残存幅4.4 残存高2.9	(6)	倒置	(硯裏面	に自然	釉)			
	7	奈文研・奈良県教育委	員会	扁1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告	告書』Fi	g.	54-25			8	PL.	18,	Ph. 53
	9												
438	1	151-38次・141-39次	2	法隆寺律学院北方·大宝蔵殿内東側 6BHR 151区 UI47 831203/213区 82-5-Ⅲ				1 灰褐砂	層/瓦剂	留 SD	3191	· S>	(4560
	4	獣脚円面硯	(5)	外堤径26.0 硯面径19.6 器高5.6	(6)	正置	(海部に	降灰)				
	7	奈文研・奈良県教育委	員会	扁1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告	告書』PI	٠. ٥	92-266			8	PL.	18,	Ph. 53
	9	復原脚数 9 SD6191共	 卡伴士	器は6世紀中頃~7世紀前半、SX4560共伴	生器は	7 t	世紀前台	#					
439	1	151-38次	2	法隆寺律学院北方 6BHR 収蔵庫 8310	29 (3)	暗茶褐	易色砂質	<u></u> 土				
	4	円面硯(無脚)	(5)	硯面径10.0 底部径15.8 器高3.4	(3)	倒置	(硯部内	面に降	灰)			
	7	法隆寺発掘調査概報編	集小	委員会編1984『法隆寺発掘調査概報 Ⅲ』第6	60図7					8	PL.	18,	Ph. 54
	9			Ocm) 獣脚円面硯の可能性あり									
440	1	226次		法隆寺食堂北方 6BHR 北室南 911030	(3)	焼土層	3					
	4	圏足円面硯 a		外堤径13.0 硯面径9.0 残存高2.2				- (海部に	降灰)				
	7	奈文研1992『1991年度							aromoonnadaro	8	PL.	18.	Ph. 54
	9			文3条 硯面に凹みあり 海部に重焼き痕	(径10.2	cm	n)						
	0	/ LAE PIN / LIM / C. 、 / J用 G	W.W.	へっか が囲に口がのり 1年間に生死で派	\LL10.2	-11	±/						

番号	1	次数	_ 2	出土地点	3	遺構・			100		
	<u>4</u> <u>7</u>	硯形式 概報・報告	_ (5)	法量	6	焼成・	窯痕跡	(8)	PL,	Ph	
	9	備考							,		
毎竜.	E寺	6 B K A									
141	1	164-24次	2	海竜王寺旧境内北方 6BKA 860212	3	東西大	講下層 暗灰ノ	ヾラス		S	D114
	4	圏足円面硯	(5)	底部径19.6 残存高5.8	6	不明 ((明確な窯痕跡	なし)			
	7	奈文研1986『昭和604	年度平:	成概報』				8	PL.	18, F	h. 54
	9	長方形+花頭文形透	孔共	半土器は平城Ⅳ~Ⅴ							
興福	寺 6	BKF									
142	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU14 630619	3	宸殿下	層下土坑				
	4	蹄脚円面硯B	(5)	残存高4.6	6	正置 ((外堤部外面、	脚頭部	羽に隆	泽灰)	
	7	奈良県文化財保存事	務所編	1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	多築工	事報告	小	8	Ph.	54	
	9	443と同一個体ヵ									
143	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW17	3	宸殿下	層下土坑				
	4	蹄脚円面硯B	(5)	残存高2.5	6	正置 ((外堤部外面、	脚頭部	羽に隆	泽灰)	
	7	奈良県文化財保存事	務所編	1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	多築工	事報告	書』	8	Ph.	54	
	9	442と同一個体ヵ									
144	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IX17/IW17 63053	30/630	0605	③ 宸殿下層	下土均	τ		
	(4)	圏足円面硯 a	(5)	外堤径12.0 硯面径10.0 底部径14.3 器高4.2	6	正置 ((硯面、突帯上	面に降	锋灰)		
	(7)	奈良県文化財保存事務	所編196		事報告	書』第22	2図2、第231図4	Į (8)	PL.	18, F	h. 54
	9)	重要文化財 長方形	透孔×	4 、十字形透孔×4 復原脚数 8							
45	(1)	17-1次	(2)	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF	3	宸殿下	 ·層下土坑				
	(4)	圏足円面硯 a	(5)	外堤径11.0 硯面径7.0 底部径15.0 器高6.3	6	倒置((硯部内面に自	然釉)			
	(7)		務所編	1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移					PL.	18, F	h. 5
	9			復原脚数19 硯裏面にヘラ描き沈線「廣大」							
146		17-1次	(2)	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IV17 630531	(3)	宸殿下	層下土坑				
110	<u>(4)</u>	圏足円面硯 a	(5)	外提径13.2 硯面径9.0 残存高2.8			(観部内面に降	灰)			
	(7)			1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移					PL.	18, F	h. 54
	9	長方形透孔×8、宝									
147		17-1次		興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IV15	(3)	 宸殿下	層下土坑				
	(4)	圏足円面硯 a		外提径12.5 硯面径8.6			明確な窯痕跡	なし)			
				1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移					PI	18 F	h. 55
	(/)			1001 至久入门的门口 不同意风风 级上人。五四万		1. IN II I	- 2	0		, .	
	(7) (9)		1分 17 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7								
148	9	硯部内面に研磨痕			(3)	宸殿下	層下十坊				
148	9	硯部内面に研磨痕 17-1次	2				層下土坑 健部内面に降	灰)			
148	9 1	硯部内面に研磨痕17-1次圏足円面硯 a	② ⑤	外堤径8.0 硯面径5.6 残存高1.5	6	倒置((硯部内面に降		PI	18 F	Ph 55
148	9147	硯部内面に研磨痕17-1次圏足円面硯 a奈良県文化財保存事務	② ⑤ 務所編		6	倒置((硯部内面に降		PL.	18, F	h. 55
	9 1 4 7 9	硯部内面に研磨痕17-1次圏足円面硯 a奈良県文化財保存事を長方形透孔、復原脚な	② ⑤ 務所編 数27	外堤径8.0 硯面径5.6 残存高1.5 1964『重要文化財旧―乗院宸殿・殿上及び玄関移	⑥ 多築工	倒置(事報告	機部内面に降	8		18, F	h. 55
	9 1 4 7 9	視部内面に研磨痕17-1次圏足円面視 a奈良県文化財保存事を長方形透孔、復原脚を17-1次	② ⑤ 務所編。 数27 ②	外堤径8.0 硯面径5.6 残存高1.5 1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW14/IW14 6306	⑥ 3築工 18/63	倒置(事報告記 0612	・観部内面に降・書』③ 宸殿下層	8 下土‡		18, F	Ph. 55
	9 1 4 7 9 1 4	硯部内面に研磨痕17-1次圏足円面硯 a奈良県文化財保存事を長方形透孔、復原脚を17-1次圏足円面硯 a	② ⑤ 務所編. 数27 ② ⑤	外堤径8.0 硯面径5.6 残存高1.5 1964『重要文化財旧―乗院宸殿・殿上及び玄関移 興福寺―乗院宸殿下層 6BKF IW14/IW14 6306 外堤径11.4 硯面径7.4 残存高2.0	⑥ ③ ③ ③ 18/63 ⑥	倒置(事報告記 60612 倒置((視部内面に降書)③ 宸殿下層(視部内面に自)	8 下土 [‡] 然釉)	t		
448	9 1 4 7 9 1 4 7	視部内面に研磨痕17-1次圏足円面視 a奈良県文化財保存事を長方形透孔、復原脚を17-1次圏足円面視 a奈良県文化財保存事を	② ⑤ 務所編。 数27 ② ⑤ 務所編。	外提径8.0 硯面径5.6 残存高1.5 1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW14/IW14 63062 外堤径11.4 硯面径7.4 残存高2.0 1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	⑥ ③ ③ ③ 18/63 ⑥	倒置(事報告記 60612 倒置(・観部内面に降事』③ 宸殿下層・観部内面に自	8 下土 [‡] 然釉)	t		
149	9 1 4 9 1 4 7 9	視部内面に研磨痕17-1次圏足円面視 a奈良県文化財保存事を表方形透孔、復原脚を17-1次圏足円面視 a奈良県文化財保存事を表し、変更別である。奈良県文化財保存事を表し、変更別である。	② ⑤ 務所編 ② ⑤ 務所編。 数17~	外提径8.0 硯面径5.6 残存高1.5 1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW14/IW14 6306 外堤径11.4 硯面径7.4 残存高2.0 1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	18/63	倒置(事報告 10612 倒置(事報告	・・ では、・・ では、<td>8 下土[‡] 然釉)</td><td>t</td><td></td><td></td>	8 下土 [‡] 然釉)	t		
	9 1 4 9 9 1 4 4 9 9	視部内面に研磨痕17-1次圏足円面視 a奈良県文化財保存事を表す。長方形透孔、復原脚を17-1次圏足円面視 a奈良県文化財保存事を表します。長方形透孔、復原脚を17-1次	② ⑤ 務所編 ② ⑤ 務所編 数17~ ②	外堤径8.0 硯面径5.6 残存高1.5 1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW14/IW14 6306. 外堤径11.4 硯面径7.4 残存高2.0 1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移 18 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU14 630610	⑥ ⑤ 3 ⑥ ③	倒置(事報告 00612 倒置(事報告	・ 観部内面に降事』③ 宸殿下層・ 観部内面に自事』第22図1・ 層下土坑	8 下土 [‡] 然釉) 8	t		
149	9 1 4 7 9 1 4 9 9	 視部内面に研磨痕 17-1次 圏足円面視 a 奈良県文化財保存事業 長方形透孔、復原脚業 17-1次 圏足円面視 a 奈良県文化財保存事業 長方形透孔、復原脚業 17-1次 圏足円面視 a 	② ⑤ 務所編。 数27 ② ⑤ 務所編。 数17~ ② ⑤	外提径8.0 硯面径5.6 残存高1.5 1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW14/IW14 63062 外堤径11.4 硯面径7.4 残存高2.0 1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移 18 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU14 630610 外堤径12.1 硯面径6.4 残存高2.2	⑥ ⑥ 18/63 ⑥ ⑤ \$樂工 ③ ⑥	倒置(事報告 0612 倒置(事報告	・観部内面に降事』③ 宸殿下層・観部内面に自事』第22図1層下土坑・突帯上面に降	8 下土 [‡] 然釉) 8	FL.	18, P	Ph. 55
149	9 1 4 9 9 1 4 4 9 9	 視部内面に研磨痕 17-1次 圏足円面視 a 奈良県文化財保存事業 長方形透孔、復原脚業 17-1次 圏足円面視 a 奈良県文化財保存事業 長方形透孔、復原脚業 17-1次 圏足円面視 a 	② ⑤ 務所編 数27 ② ⑤ 務所編 数17~ ② ⑥	外堤径8.0 硯面径5.6 残存高1.5 1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW14/IW14 6306. 外堤径11.4 硯面径7.4 残存高2.0 1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移 18 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU14 630610	⑥ ⑥ 18/63 ⑥ ⑤ \$樂工 ③ ⑥	倒置(事報告 0612 倒置(事報告	・観部内面に降事』③ 宸殿下層・観部内面に自事』第22図1層下土坑・突帯上面に降	8 下土 [‡] 然釉) 8	FL.		Ph. 55

番号	(1)	次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序
	4	硯形式	⑤ 法 量	⑥ 焼成・窯痕跡
	7	概報・報告 備 考		8 PL, Ph
<u></u>	9	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IV17 630601	③ 宸殿下層下土坑
101	4)	圏足円面硯 a	(5) 外堤径11.7 硯面径6.6 残存高2.0	⑥ 倒置(硯部内面に自然釉)
	(7)		F務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関	
	9		数21	777×147 TE 10, 11. 30
 452		17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW17 630604	
402	(4)	圏足円面硯 a	(5) 外堤径13.2 硯面径8.4 残存高1.9	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *
	(7)		- 5 7 元年13.2 元 1 元 1 元 1 元 1 元 1 元 1 元 1 元 1 元 1 元	
	9	長方形透孔、復原脚		[1] 移築工事報告書』 (8) PL. 18, Ph. 55
4E9			*	
453		17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU17西部 63042	
	(4)	圏足円面硯 a	⑤ 硯面径6.0 残存高1.7	⑥ 倒置(硯部内面に自然釉)
	7	佘艮県 文化財保仔事	F務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿·殿上及び玄関	[8] PL. 18, Ph. 56
	9	5= 50,		
454		17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IV15 630530	
	(4)	圏足円面硯 b	⑤ 外堤径14.8 硯面径13.6 底部径19.0 器高7.2	
	(7)		F務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関	
	9	重要文化財 長方形	シ透孔×4、四弁文透孔×4 脚柱外面にヘラ描き波状	
455	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU17 630412	③ 基壇下黒土宸殿下層下土坑
	4	圏足円面硯 b	⑤ 外提径13.7 硯面径12.0 底部径17.5 器高6.	1 ⑥ 倒置(脚台部内面、硯部内面に降灰)
	7	奈良県文化財保存事務	務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工	事報告書』第22図5、第231図3 8 PL. 18, Ph. 56
	9	重要文化財 長方形	透孔、復原脚数17	
456	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IX14 630615	③ 宸殿下層下土坑
	4	圏足円面硯 b	⑤ 外堤径8.0 硯面径6.6 残存高1.6	⑥ 倒置(硯部内面、突帯下面に降灰)
	7	奈良県文化財保存事	蒋所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関	移築工事報告書』 8 PL. 18, Ph. 56
	9	長方形透孔、復原脚	「数13	
457	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU16 630410	③ 宸殿下層下土坑
	4	圏足円面視 b	⑤ 外堤径19.4 硯面径10.4 残存高3.6	⑥ 正置(硯面、突帯上面に降灰)
	7	奈良県文化財保存事	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	移築工事報告書』第22図7 ⑧ PL. 18, Ph. 56
	9	長方形透孔		
458	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU15 630523	③ 宸殿下層下土坑
	4	圏足円面硯 b	⑤ 外提径16.6 硯面径10.5 残存高3.2	⑥ 倒置(硯部内面に降灰)
	7	奈良県文化財保存事		移築工事報告書』 8 PL. 19, Ph. 56
	9	長方形透孔 外堤部	3外面にヘラ描き波状文2条 硯裏面に重焼き痕(径約	6.0cm)
459	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IY15/IY17/IX1	7 630610/630611/630608 ③宸殿下層下土坑
	4	圏足円面視 b	⑤ 外堤径13.8 硯面径11.6 残存高5.9	⑥ 不明(明確な窯痕跡なし)
	7	奈良県文化財保存事	- 務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関	移築工事報告書』 8 PL. 19, Ph. 56
	9	長方形透孔、復原脚	数14	
460	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU15 630523	③ 宸殿下層下土坑
	4	圏足円面硯 b	⑤ 外堤径19.0 硯面径16.2 残存高3.2	⑥ 正置(硯面、突帯上面に降灰)
	7		- 務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関	移築工事報告書』
	9	長方形透孔、復原脚		

番号	1	次 数	② 出土地点 ③ 遺構・層序			
	<u>4</u> <u>7</u>	視形式 概報・報告	<u>⑤ 法 量</u> <u>⑥ 焼成・窯痕跡</u>	(8)	PL,	Ph
	9	備考		0	1 L,	
161	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IY15 630610 ③ 宸殿下層下土坑			
	4	圏足円面硯 b	⑤ 外提径14.4 硯面径7.4 残存高2.7 ⑥ 不明(明確な窯痕跡	なし)		
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報告書』	8	PL.	19, Ph. 5
	9	長方形透孔、復原	即数17~18			
162	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IX14 630615 ③ 宸殿下層下土坑			
	4	圏足円面硯	⑤ 外堤径20.4 残存高3.9 ⑥ 正置 (突帯上面に自	然釉)		
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報告書』	8	PL.	19, Ph. 5
	9	長方形透孔、復原	脚数16			
163	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU17 6304ZZ ③ 基壇下黒土宸殿下層	下土	亢	
	4	圏足円面硯	⑤ 外堤径10.2 残存高3.9 ⑥ 不明 (明確な窯痕跡	なし)		
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報告書』	8	PL.	18, Ph. 5
	9	長方形透孔 脚柱	外面ににヘラ描き波状文2条以上 454と同一個体ヵ			
464	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU14 630610 ③宸殿下層下土坑			
	4	圈足円面硯	⑤ 外提径15.0 残存高2.3 ⑥ 倒置(硯部内面、外	堤部久	小面り	こ降灰)
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報告書』	8	PL.	19, Ph. 5
	9					
165	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IT14 ③宸殿下層下土坑			
	4	圏足円面硯	⑤ 外提径11.4 残存高2.2 ⑥ 倒置(硯部内面に自	然釉)		
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報告書』	8	PL.	19, Ph. 5
	9	長方形透孔、復原	脚数17 526と同一個体ヵ			
466	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU14 630618 ③宸殿下層下土坑			
	4	圏足円面硯	⑤ 外提径14.0 残存高2.4 ⑥ 倒置(硯部内面に降	灭)		
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報告書』	8	PL.	19, Ph. 5
	9					
467	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IY16 ③宸殿下層下土坑			
	4	圏足円面硯	⑤ 外堤径15.4 残存高1.9 ⑥ 不明 (明確な窯痕跡	なし)		
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報告書』	8	Ph.	57
	9					
468	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU18 630418 ③ 基壇下黒土宸殿下層	下土井	亢	
	4	圏足円面硯	⑤ 外提径12.0 残存高1.8 ⑥ 正置(突带上面、外	是部_	上面り	こ降灰)
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報告書』	8	PL.	19, Ph. 5
	9	長方形透孔				
169	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF ③宸殿下層下土坑			
	4	圏足円面硯	⑤ 残存長1.4 ⑥ 不明(明確な窯痕跡	なし)		
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報告書』	8	Ph.	57
	9					
470	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU14 ③宸殿下層下土坑			
	4	圏足円面硯	⑤ 残存長3.5⑥ 不明(明確な窯痕跡	なし)		
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報告書』	8	Ph.	57
	9	長方形透孔				

番号	1	次数理形式		出土地点 法 量	<u>3</u> 6		・層序 ・窯痕跡			
	<u>4</u>	硯形式 概報・報告		本 里		况成		8)	PL,	Ph
	-	備考								
471	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IX17 63053	30 ③	基壇	下宸殿下層下土坑			
	4	圈足円面硯	(5)	底部径15.8 残存高0.9	6	倒置	(脚台部内面に自然)	然 和	1)	
	7	奈良県文化財保存	事務所編	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄	関移築工	事報告	書』(8)	PL.	19, Ph. 57
	9	長方形透孔、復原	[脚数22~2	23 472と同一個体ヵ						
472	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IX17	3)	長殿下/	層下土坑			
	4	圈足円面硯	(5)	残存高1.7	6	倒置	(脚台部内面に自然)	然釉	1)	
	7	奈良県文化財保存	事務所編	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄	関移築工	事報告	書』	8)	PL.	19, Ph. 57
	9	長方形透孔 471	と同一個体	Ъ						
473	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW14	3	基壇	下宸殿下層下土坑			
	4	圈足円面硯	(5)	底部径9.2 残存高1.2	6	倒置	(脚台部内面に降原	灭)		
	7	奈良県文化財保存	事務所編	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄	関移築工	事報告	[書]	8)	PL.	19, Ph. 57
	9	長方形透孔、復原	[脚数17							
474	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IX16	3	基壇	下宸殿下層下土坑			
	4	圈足円面硯	(5)	底部径11.8 残存高1.5	6	倒置	(脚台部内面に降)	灭)		
	7	奈良県文化財保存	事務所編	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄	関移築工	事報告	·普』	8)	Ph.	57
	9									
475	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU14	3	宸殿	下層下土坑			
	4	圏足円面硯	(5)	底部径13.4 残存高1.6	6	倒置	(脚台部内面に降風	灭)		
	7	奈良県文化財保存	事務所編	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄	関移築工	事報告	[書]	8)	Ph.	57
	9									
476	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IV17	3	宸殿	下層下土坑			
	4	圏足円面硯	(5)	底部径14.0 残存高3.0	6	倒置	(脚台部内面に自然	然 和	1)	
	7	奈良県文化財保存	事務所編	1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄	関移築工	事報告	·書』 (8	PL.	19, Ph. 57
	9	長方形透孔、復原	〔脚数19							
477	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW14	3 F	長殿下/	層下土坑			
	4	圏足円面硯	(5)	底部径22.8 残存高2.2	6	正置	(脚台部外面に降)	灭)		
	7	奈良県文化財保存	事務所編	1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄	関移築工	事報告	·書』	8)	Ph.	57
	9	長方形透孔								
478	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IY15 6306	10 ③	宸殿	下層下土坑			
	4	圏足円面硯	(5)	底部径16.6 残存高2.5	6	倒置	(脚台部下面、脚部	部内	面に	[降灰]
	7	奈良県文化財保存	事務所編	1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄	関移築工	事報告	·書』	8)	PL.	19, Ph. 57
	9	長方形透孔、復原	〔脚数20							
479	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU17 63042	23 ③	宸殿	下層下土坑			
	4	圏足円面硯	(5)	底部径17.2 残存高2.5	6	倒置	(脚部内面に降灰)			
	7	奈良県文化財保存	事務所編	 1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄	関移築工	事報告	:書』	8	PL.	19, Ph. 57
	9	長方形透孔、復原	東脚数21							
480	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IV15	3	宸殿	下層下土坑			
	4	圏足円面硯	(5)	底部径21.8 残存高1.4	6	倒置	(脚台部内面に降)	灭)		
	7		事務所編	1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄	関移築工	事報告	*書』	8	Ph.	57
	9	長方形透孔								

番号	1	次 数		出土地点	3		・層序		
	<u>4</u> <u>7</u>	硯形式 概報・報告		法量	6	焼成	・窯痕跡	PL	Ph
	9						0	1.	, 1 11
481	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IT16 6304ZZ	3	宸殿	下層下土坑		
	4	圈足円面硯	(5)	底部径17.6 残存高1.0	6	倒置	(脚台部内面に降灰	E)	
	7	奈良県文化財保存事	務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	築工	事報告	書] 8	Ph	. 58
	9	長方形透孔							
482	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF	3	宸殿	下層下土坑		
	4	圈足円面硯	(5)	底部径18.0 残存高1.3	6	倒置	(脚台部内面に降灰	:)	
	7	奈良県文化財保存事	務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	築工	事報告	書』 8	Ph	. 58
	9	長方形透孔							
483	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW14 630617	3	宸殿	下層下土坑		
	4	圈足円面硯	(5)	底部径18.2 残存高1.2	6	倒置	(脚台部内面に降灰	<u>:</u>)	
	7	奈良県文化財保存事	務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	築工	事報告	書] 8	Ph	. 58
	9	484と同一個体カ							
484	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW14 630617	3	宸殿	下層下土坑		
	4	圏足円面硯	(5)	底部径18.2 残存高1.3	6	倒置	(脚台部内面に降灰	()	
	7	奈良県文化財保存事	務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	築工	事報告	-書』 8	Ph	. 58
	9	483と同一個体ヵ							
485	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW14 630612	3	基壇	下宸殿下層下土坑		
	4	圈足円面硯	(5)	底部径22.3 残存高3.3	6	倒置	(脚台部内面に降灰	()	
	7	奈良県文化財保存事	務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	築工	事報告	-書』 8	Ph	. 58
	9	長方形透孔 脚柱外	面にへ	ラ描き沈線タテ1条以上					
486	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IY15	3	宸殿	下層下土坑		
	4	圏足円面硯	(5)	底部径14.3 残存高0.9	6	倒置	(脚台部内面に降灰	()	
	7	奈良県文化財保存事	務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	築工	事報告	書』 ⑧	Ph	. 58
	9	長方形透孔							
487	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF	3 扂	長殿下	喜 下土坑		
	4	圏足円面硯	(5)	残存高4.2	6	正置	(脚台部外面に降灰	()	
	7	奈良県文化財保存事	務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	築工	事報告	·書』 8	Ph	. 58
	9	長方形透孔 脚柱下	端に細い	い沈線1条(透孔位置の基線ヵ)					
488	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IY16	3) 痘	夏殿下	喜 下土坑		
	4	圏足円面硯	(5)	残存長3.3	6	不明	(明確な窯痕跡なし)	
	7	奈良県文化財保存事	務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	築工	事報告	·書』 ⑧	Ph	. 58
	9	長方形透孔							
489	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IV14	3億	 長殿下			
	4	圏足円面硯	(5)	残存長3.6	6	倒置	(脚部内面に自然釉)	
	7	奈良県文化財保存事	務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	築工	事報告	:書』 8	Ph	. 58
	9	長方形透孔							
490	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF	3億	長殿下 局	層下土坑		
	4	圏足円面硯	(5)	残存長3.6	6	正置	(脚部外面に自然釉)	
		本	マケゴごグロコ		给工	車起生	. ± 1	Dh	. 58
	(7)	宗民宗义 化别 体针争	務所編	304 里安文门别山 木忧辰殿 殿上及 区 五国的	架上:	尹和口	·書』 8	PH	. 50

番号	1	次数	② 出土地点	③ 遺構・層序 ⑥ 焼成・窯痕跡
	-	現形式 概報・報告	⑤ 法 量	8 PL, Ph
	_	備考		
91	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IV14	③宸殿下層下土坑
	4	圈足円面硯	⑤ 残存長2.8	⑥ 正置(脚部外面に自然釉)
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関	8 Ph. 58
	9	長方形透孔 脚部	外面に沈線ヨコ1条	
92	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IV14	③宸殿下層下土坑
	4	圏足円面硯	⑤ 残存長3.1	⑥ 倒置(脚部内面に自然釉)
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関	[8] Ph. 58
	9	長方形透孔		
93	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IY16	③宸殿下層下土坑
	4	圈足円面硯	⑤ 残存長4.0	⑥ 倒置(脚部内面に自然釉)
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関	7 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	9	長方形透孔		
194	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IY15	③宸殿下層下土坑
	4	圏足円面硯	⑤ 残存長2.4	⑥ 倒置(脚部内面に自然釉)
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関	7 7 7 7 7 7 7 7 7
	9	長方形透孔		
95	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IV14	③宸殿下層下土坑
	4	圏足円面硯	⑤ 残存長4.2	⑥ 倒置(脚部内面に自然釉)
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関	7 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	9	長方形透孔		
96	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF	③宸殿下層下土坑
	4	圏足円面硯	⑤ 残存長3.8	⑥ 倒置(脚部内面に自然釉)
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関	7 17 18 19 19 19 19 19 19 19
	9	長方形透孔		
97	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF	③宸殿下層下土坑
	4	圈足円面硯	⑤ 残存長1.6	⑥ 倒置(脚部内面に降灰)
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関	18 18 18 18 19 19 19 19
	9	長方形透孔		
98	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF	③宸殿下層下土坑
	4	圏足円面硯	⑤ 残存長4.2	⑥ 倒置(脚部内面に降灰)
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関	[1] [1] [1] [2] [2] [3] [4] [4] [5] [4] [5] [6] [6] [6] [6] [6] [6] [6] [6] [6] [6
	9	長方形透孔		
99	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU14 630610	3 宸殿下層下土坑
	4	圏足円面硯	⑤ 残存長4.8	⑥ 正置 (脚部外面に降灰)
	7	奈良県文化財保存	事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関	
	9	長方形透孔		
500	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW14	③ 宸殿下層下土坑
	4	圏足円面硯	⑤ 残存長4.4	⑥ 倒置(脚部内面に降灰)
	7		事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関	
			下端に沈線1条(透孔位置の基線カ)	

番号	1	次 数 硯形式		出土地点	3	No.	・層序		
	_	概報・報告		法量	6	焼风	・窯痕跡	8	PL, Ph
	9	備考							
01	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU16	3	宸殿	下層下土坑		
	4	圈足円面硯	(5)	残存長2.5	6	倒置	(脚部内面に降原	天)	
	7	奈良県文化財保存	事務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関和	多築工	事報告	·書』	8	Ph. 58
	9	長方形透孔							
502	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IY16	3	宸殿	下層下土坑		
	4	圈足円面硯	(5)	残存長3.9	6	倒置	(脚部内面に降原	೯)	
	7	奈良県文化財保存	事務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関和	多築工	事報告	書』	8	Ph. 58
-02	9	長方形透孔							
503	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IV17	3	宸殿-	下層下土坑		
	4	圏足円面硯	(5)	残存長4.4	6	倒置	(脚部内面に降原	₹)	
	7	奈良県文化財保存	事務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関和	多築工	事報告	書』	8	Ph. 58
	9	長方形透孔							
504	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IX14	3	宸殿	下層下土坑		
	4	圈足円面硯	(5)	残存長3.0	6	倒置	(脚部内面に降原	₹)	
	7	奈良県文化財保存	事務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	多築工	事報告	書』	8	Ph. 58
	9	長方形透孔							
505	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF	3	宸殿ヿ	下層下土坑		
	4	圏足円面硯	(5)	残存長2.7	6	不明	(明確な窯痕跡な	:し)	
	7	奈良県文化財保存	事務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	多築工	事報告	書』	8	Ph. 58
	9	長方形透孔							
06	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IV14	3	宸殿ヿ	下層下土坑		
	4	圈足円面硯	(5)	残存長2.1	6	正置	(脚部外面に降灰	€)	
	7	奈良県文化財保存	事務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	8築工	事報告	書』	8	Ph. 58
	9	長方形透孔							
507	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW14 630618	3	宸殿下	下層下土坑		
	4	圏足円面硯	(5)	残存長3.6	6	倒置	(脚部内面に降灰	ξ)	
	7	奈良県文化財保存	事務所編19	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	9築工	事報告	書』	8	Ph. 58
	9	長方形透孔 脚柱	下端に沈絲	11条(透孔位置の基線カ)					
08	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IV15 630523	3	宸殿下	· 層下土坑		
	4	圏足円面硯	(5)	残存長4.3	6	倒置	(脚部内面に降灰	:)	
	7	奈良県文化財保存	事務所編19	- 164『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	築工!	事報告	書』	8	Ph. 58
	9	長方形透孔							
09	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU16 630424	3	宸殿下	—————————————————————————————————————		
	4	圏足円面硯	(5)	残存長3.7	6	不明	(明確な窯痕跡な	し)	
	7	奈良県文化財保存	事務所編19	64 『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	築工!	事報告:	<u>F</u>]	8	Ph. 58
	9	長方形透孔							
10	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IY15	3	宸殿下			
	4	圏足円面硯		残存長4.6			明確な窯痕跡な	し)	
				64『重要文化財旧―乗院宸殿・殿上及び玄関移					Ph. 58
		長方形透孔							

番号	1	次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	
	4	硯形式 ###	⑤ 法 量	⑥ 焼成・窯痕跡	DI Dh
	9	概報・報告 備 考			B) PL, Ph
 511		17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IY17 630611	③ 宸殿下層下土坑	
	4	圏足円面硯	⑤ 残存長4.1	⑥ 倒置(脚部内面に降灰)	
	7	奈良県文化財保存事	務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移	8築工事報告書』 (8) Ph. 59
	9	長方形透孔			
512	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU14 630610	③ 宸殿下層下土坑	
	4	圈足円面硯	⑤ 残存長7.1	⑥ 正置(脚部外面に降灰)	
	7	奈良県文化財保存事	務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関程	多築工事報告書』 (8	B) Ph. 59
	9	長方形透孔 脚柱外	面にヘラ描き沈線タテ1条		
513	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU14	③ 宸殿下層下土坑	
	4	圈足円面硯	⑤ 残存長2.9	⑥ 不明 (明確な窯痕跡なし	_)
	7	奈良県文化財保存事	務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関を	多築工事報告書』 (8	9 Ph. 59
	9	長方形透孔 脚柱外	面にヘラ描き沈線タテ1条以上		
514	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW17/IY15 63060	08/ ③ 宸殿下層下土坑	
	4	圈足円面硯	⑤ 残存高7.8	⑥ 不明 (明確な窯痕跡なし	_)
	7	奈良県文化財保存事	務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関を	多築工事報告書』	B PL. 19, Ph. 59
	9	長方形透孔 脚柱外	面にヘラ描き沈線タテ1条 515と同一個体ヵ		
515	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF	③ 宸殿下層下土坑	
	4	圈足円面硯	⑤ 残存長5.2	⑥ 倒置(脚部内面に降灰)	
	7	奈良県文化財保存事	務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関和	多築工事報告書』	B PL. 19, Ph. 59
	9	長方形透孔 脚柱外	面に綾杉文状へラ描き沈線 514と同一個体ヵ		V2004000/2003/9999900-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0
516	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU16 630425	③ 黒土中宸殿下層下土坑	
	4	圏足円面硯	⑤ 残存長6.7	⑥ 不明 (明確な窯痕跡なし	L)
	7	奈良県文化財保存事	務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関和	多築工事報告書』	8 Ph. 59
	9	長方形透孔 脚柱外	面にヘラ描き沈線タテ2条以上、ヨコ1条以上		
517	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IV14	③ 宸殿下層下土坑	
	4	圏足円面硯	⑤ 残存長3.6	⑥ 不明 (明確な窯痕跡なし	L)
	7	奈良県文化財保存事	務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関和	多築工事報告書』	8 Ph. 59
	9	長方形透孔			
518	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU14 630620	③ 基壇下宸殿下層下土坑	
	4	圈足円面硯	⑤ 残存長3.3	⑥ 正置(脚部外面に降灰)	
	7	奈良県文化財保存事	務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関和	8築工事報告書』 (8	8 Ph. 59
	9	長方形透孔、宝珠形	透孔		
519	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IV17 630530	③ 宸殿下層下土坑	
	4	円面硯	⑤ 硯面径11.8 残存高1.3	⑥ 倒置(硯部内面に降灰)	
	7	奈良県文化財保存事	務所編1964『重要文化財旧―乗院宸殿・殿上及び玄関和	多築工事報告書』	8 Ph. 59
	9				
520	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IV15上 630531	③ 宸殿下層下土坑	
	4	円面硯	⑤ 硯面径13.6 残存高2.6	⑥ 不明 (明確な窯痕跡な)	L)
	7	奈良県文化財保存事	務所編1964『重要文化財旧―乗院宸殿・殿上及び玄関和	多築工事報告書』	8 Ph. 59
	9				

番号	<u>(1)</u> (4)	次 数 硯形式			構・層序		
		概報・報告		<u></u> 鱼	成・窯痕跡 8	PL	., Ph
	9	備考					
521	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IX16 630607 ③ 宸	殿下層下土坑		
	4	円面硯	5	硯面径10.8 残存高0.9 ⑥ 倒	置(硯部内面に降灰)		
	7	奈良県文化財保存	字事務所編]	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事幸	是告書』 8	Ph	n. 60
	9						
522	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU14 630610 ③ 宸	殿下層下土坑		
	4	円面硯	(5)	硯面径11.6 残存高1.2 ⑥ 倒	置(硯部内面に降灰)		
	7	奈良県文化財保存	字事務所編]	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事業	是告書』 8	Ph	. 60
	9	硯部内面に重焼き	き痕(径14.	7cm)			
523	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IX16 630523 ③ 宸	殿下層下土坑		
	4	円面硯	(5)	硯面径9.2 残存高0.8 ⑥ 倒	置(硯部内面に降灰)		
	7	奈良県文化財保存	字事務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事業	B告書』 8	Ph	. 60
	9						
524	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU18 630418 ③ 宸	殿下層下土坑		
	4	円面硯	(5)	現面径5.5 残存高1.1 ⑥ 正·	置(硯面に降灰)		
	7	奈良県文化財保存	字事務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報	· [告書] 8	Ph	. 60
	9						
525	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU14 630618 ③ 基	亶下宸殿下層下土坑		
	4	円面硯	(5)	現面径14.2 残存高1.1 ⑥ 正	置 (硯面に降灰)		
	7	奈良県文化財保存	字事務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報	告書』 8	Ph	. 60
	9						
526	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IT14 ③ 宸	 数下層下土坑		
	4	円面硯	(5)	残存長5.0 ⑥ 倒	置(硯部内面に自然釉)	
	7	奈良県文化財保存	字事務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報	[告書] 8	PL	. 19, Ph. 60
	9	465と同一個体カ					
527	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU14 ③ 宸原	股下層下土坑		
	4	円面硯	(5)	残存長3.4 ⑥ 倒针	置(硯部内面に自然釉)	
	7	奈良県文化財保有	字事務所編1	964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報	[告書] 8	Ph	. 60
	9	円面硯でない可能	と性あり しゅうしゅ				
528	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF ③ 宸厨	数下層下土坑		
	4	円面硯	(5)	残存長3.8 ⑥ 倒针	置(硯部内面に降灰)		
	7	奈良県文化財保有	字事務所編1		告書』 8	Ph	. 60
	9	円面硯でない可能	と性あり				
529	1	17-1次	2	興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IY15 ③ 宸原	要下層下土坑		
	4	円面硯	(5)	残存長3.7 ⑥ 倒氦	置(硯部内面に自然釉)	
	7	奈良県文化財保有)64『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報		Ph	. 60
	9	円面硯でない可能		3.7			
530		17-1次		興福寺一乗院宸殿下層 6BKF ③ 宸顯			
		円面硯			月(明確な窯痕跡なし)	
	7			164『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報		Ph.	60
	9)	円面硯でない可能		- ANDRES MARKET TO ANDRES TO			

番号	1 (4)	次 数 硯形式	② 出土地点 ⑤ 法 量	<u>3</u> <u>6</u>	/4/2000	・層序 ・窯痕跡		
	7	概報・報告	<u> </u>		770150	M. M	8	PL, Ph
	9	備考						
531	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU17 630418	3	基壇	下黒土宸殿下層	下土均	芁
	4	宝珠硯	⑤ 残存長6.6 残存幅9.3 残存高2.5	6		(硯裏面に降灰)		
	7	奈良県文化財保存事務	務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関系	多築工	事報告	告書』第22図3	8	PL. 19, Ph. 60
	9	重要文化財						
532	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU14	3	宸殿	下層下土坑		
	4	宝珠硯	⑤ 残存長4.3 残存高1.6	6	倒置	(硯裏面、外堤部	部外面	面に自然釉)
	7	奈良県文化財保存事務	第所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関	多築工	事報台	片書 』	8	Ph. 60
	9							
533	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IV17	3	宸殿	下層下土坑		
	4	宝珠硯か風字硯	⑤ 残存高2.8	6	倒置	(脚部外面に自然)	 然釉)	
	7	奈良県文化財保存事	第所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関和	多築工	事報台	宇書 』	8	Ph. 60
	9	脚部のみ残存						
534	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW17 630617	3	宸殿	下層下土坑		
	4	形象硯(亀形硯)	⑤ 残存長5.3 残存幅2.7 残存高3.3	6	不明	(明確な窯痕跡で	なし)	
	7	奈良県文化財保存事	第所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関和	多築工	事報台	告書』	8	PL. 19, Ph. 60
	9	重要文化財 535と同	一個体力					
535	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU14 630618	3	宸殿	下層下土坑		
	4	形象硯(亀形硯)	⑤ 残存長4.3 残存幅3.8 残存高1.4	6	不明	(明確な窯痕跡を	なし)	
	7	奈良県文化財保存事	察所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関和	多築工	事報台	告書]	8	PL. 19, Ph. 60
	9	重要文化財 534と同	一個体力					
536	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW14 630618	3	宸殿	下層下土坑		
	4	形象硯(鳥形硯)	⑤ 残存長1.9 残存幅3.8 残存高4.6	6	不明	(明確な窯痕跡で	なし)	
	7	奈良県文化財保存事	- 8所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関和	多築工	事報台	告書』	8	PL. 20, Ph. 61
	9	硯でない可能性あり						
537	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IW14 630615	3	宸殿	下層下土坑		
	4	形象硯(鳥または亀)	ド硯の蓋) ⑤ 残存長10.3 残存幅6.6 残存高1.4	6	正置	(外面に降灰)		
	7	奈良県文化財保存事		多築工	事報台	片書]	8	PL. 20, Ph. 61
	9	内面に火襷あり						
538	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU16西	3	宸殿	下層下土坑		
	4	風字硯	⑤ 残存長3.2 残存高1.0	6	倒置	(硯裏面に自然料	油)	
	7	奈良県文化財保存事	第所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関和	多築工	事報台	告書 』	8	Ph. 61
	9							
539	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IY15	3	宸殿	下層下土坑		
	4	風字硯	⑤ 残存長2.2 残存高3.5	6	倒置	(硯裏面に自然和	铀)	
	7	奈良県文化財保存事		多築工	事報台	告書』	8	Ph. 61
	9							
540	1	17-1次	② 興福寺一乗院宸殿下層 6BKF IU18 630418	3	宸殿	下層下土坑		
	4	特殊硯	⑤ 残存高3.0	6	倒置	(硯裏面に自然和	油)	
	7	奈良県文化財保存事		多築工	事報台	告書』	8	Ph. 61
	9)							
	9	硯でない可能性あり						

番号	1	次数	2	出土地点	3		・層序			
	<u>4</u>	- 硯形式 - 概報・報告	5	法量	6	焼成	た窯痕跡	()	PL, Ph	
	9	備考						<u> </u>	PL, Pn	
541	1	308次	2	興福寺中金堂院 6BKF LE19 991206	3	灰色	- 粘土			
	4	円面硯(無脚・八角形)	(5)	外堤最大幅18.9 外堤最小幅17.1 硯面径11.4	器	高1.5	6 倒置(硯裏	面	に自然釉)	
	7	奈文研2000『年報2000-	- [[]				(8)	PL. 20, Ph	า. 61
	9									
 542	(1)	321次	(2)	興福寺一乗院 6BKF OI47 001114	(3)	灰色	 u粘土			
	(4)	圏足円面硯 a	(5)	外提径13.4 硯面径8.0 残存高2.2	6		畳(硯部内面に自然網	h)		
	(7)	奈文研2001『紀要2001』	·····································				(8)	Ph. 61	
	9	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,								
543	1)	321次	(2)	興福寺一乗院 6BKF OI47 001108	(3)	瓦土	- 廿 3		Sk	(7860
040	(4)	宝珠硯	(5)	残存長7.7 残存幅8.7 残存高1.4	6		- がら 登 (31	(7000
					0				DI 00 DI	- 01
	7	奈文研2001『紀要2001』	図.	130-1			3))	PL. 20, Ph	1. 61
	9	050%		即与ナ まゆ CDYP 0051 001001		NI.				20.400
544	1	350次	2	興福寺一乗院 6BKF OO51 021224	3		赤褐色		SG	38463
	(4)	圏足円面硯 a	5	硯面径5.6 残存高1.0	6	倒置	は(硯部内面に自然系			
	7	奈文研2003『紀要2003』					(8)	Ph. 61	
	9				There's					
545	1	350次	2	興福寺一乗院 6BKF OJ58 021031	3	大瓦	土坑		SK	(8480
	4	円面硯	5	硯面径7.6 残存高0.9	6	倒置	(
	7	奈文研2003『紀要2003』					(8)	Ph. 61	
	9									
西大	寺 (BSD								
546	1	341次	2	西大寺四王堂北東 6BSD EE63 020201	3	抜取	穴		S	A895
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径11.0 硯面径6.3 残存高1.5	6	倒置	は、観部内面に自然和	h)		
	7	奈文研2003『紀要2003』					8)	PL. 20, Ph	1. 62
	9	長方形透孔、復原脚数2	27							
547	1	391次	2	西大寺旧境内東部 6BSD DM65 050705	3	瓦混	整地土			
	4	圏足円面硯 a	(5)	硯面径8.0 残存高1.7	6	不明	「(明確な窯痕跡なし	,)		
	7	奈文研2006『紀要2006』	(-	覧表のみ)			(8)	Ph. 62	
	9									
西隆等	寺 6	BBSR								
548	(1)	74-12次(西隆寺 3 次)	(2)	西隆寺金堂地区 6BSR KK12 711216	(3)	灰黒	砂土			
	4)	圈足円面硯	(5)	最大径16.8 残存高2.2	(6)	倒置	(外堤部外面、突帶	于	面に降灰)	
	(7)	西隆寺調査委員会1976				, , ,			Ph. 62	
	9	長方形透孔、復原脚数2								
 549	1)	W 12 Main 24 122 IN		西隆寺金堂地区 6BSR KF16 711223	(3)	灰褐	.+-	_	9	D110
049								: "		DITO
	(4)	圏足円面硯	(5)		6	四但	(外堤部外面、突带			. 60
	(7)			条寺発掘調査報告』第29図 2			8	,	PL. 20, Ph	. 0∠
	9			外形八花形ヵ(外堤部、硯面に抉入り箇所あり)					gggeren.	
550	1			西隆寺寺域北西地区 6BSR RQ28 730709		北東			SI	D235
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径8.8 硯面径5.4 残存高1.5	6	不明	(明確な窯痕跡なし			
	7	西隆寺調査委員会1976	『西图	备寺発掘調査報告』第29図 1			8)	PL. 20, Ph	. 62
	9	長方形透孔、復原脚数2	27							

番号	1	次数 硯形式	<u>2</u> <u>5</u>	出土地点 法 量	<u>3</u> 6		・層序 ・窯痕跡			
	<u>4</u>	概報・報告	3	広 里	0	KICKX,		P	L, Ph	1
	9	備考								
551	1	82-13次(西隆寺 5次)	2	西隆寺寺域北西地区 6BSR RQ28 730709	3	北の	東西溝			SD21
	4	圏足円面硯 a	(5)	外堤径5.8 硯面径3.6 残存高1.2	6	正置	(硯面、突帯上面に	降历	尺)	
	7	西隆寺調査委員会1976	『西	隆寺発掘調査報告』第29図3			8	Р	L. 20), Ph. 62
	9	長方形透孔								
552	1	202-14次	2	西隆寺旧境内南西方 6BSR OA77 900227	3	暗灰	褐土			
	4	圈足円面硯	5	残存高3.9	6	不明	(明確な窯痕跡なし)		
	7	奈文研1990『1989年度	概報	』(一覧表のみ)			8	Р	h. 62	2
	9	長方形透孔								
553	1	209次	2	西隆寺金堂東方 6BSR PB42 891021	3	淡灰	褐土			
	4	圏足円面硯 a	(5)	硯面径5.0 残存高1.9	6	不明	(明確な窯痕跡なし)		
	7	奈文研1993『西隆寺発	掘調	查報告書』(学報52)PL. 55-601			8	P	L. 20), Ph. 62
	9	長方形透孔、復原脚数	8	脚柱外面にヘラ描き沈線タテ1条、ナナメ1条						
554	1	210次	2	西隆寺旧境内北東部 6BSR RM17 891226	3	土坑				
	4	圈足円面硯	(5)	底部径23.8 残存高2.3	6	正置	(脚台部外面に降灰	()		
	7	奈文研1993『西隆寺発	掘調	查報告書』(学報52)PL. 55-607			8	Р	L. 20), Ph. 62
	9	長方形透孔、復原脚数	29							
555	1	219次	2	西隆寺旧境内北東部 6BSR QR23 910219	3	井戸	埋土			SE49
	4	圏足円面硯	(5)	底部径23.8 残存高3.6	6	不明	(明確な窯痕跡なし)		
	7	奈文研1993『西隆寺発	掘調	查報告書』(学報52)PL. 55-609			8	Р	L. 21	, Ph. 62
	9	脚部外面にヘラ描き沈	線 4	条以上 陶硯でない可能性あり						
556	1	223-21次	2	西隆寺旧境内北東部 6BSR QG45	3	瓦溜				
	4	圈足円面硯	(5)	残存長3.2	6	不明	(明確な窯痕跡なし)		
	7	奈文研1993『西隆寺発	掘調	査報告書』(学報52)PL. 55-608			8	Р	L. 21	, Ph. 62
	9	脚柱外面にヘラ描き沈	線夕	テ1条						
557	1	223-21次	2	西隆寺旧境内北東部 6BSR QJ39 920118	3	瓦混』	灭茶砂質土			
	4	圏足円面硯	(5)	残存長10.6 残存高1.6	6	正置	(海部、突帯上面に	降历	尺)	
	7	奈文研1993『西隆寺発	掘調	査報告書』(学報52)PL. 55-606			8	Р	L. 21	, Ph. 63
	9	長方形透孔 透孔に広	狭あ	り、5(広) +5(狭) 復原脚数10						
558	1	223-21次	2	西隆寺旧境内北東部 6BSR QI36 910205	3	灰褐岩	粘質土			
	4	形象硯	5	残存長6.8 残存幅8.3 残存高4.8	6	正置	(硯面に降灰)			
	7	奈文研1993『西隆寺発	掘調	査報告書』(学報52)PL. 55-604			8	Р	L. 21	, Ph. 63
	9									
559	1	228次	2	西隆寺旧境内北東部 6BSR QN36 910906	3	黄灰石	砂質土			*
	4	圏足円面硯 b	(5)	外堤径16.4 硯面径8.8 残存高2.9	6	倒置	(硯部内面、突帯下	面儿	こ降灰	€)
	7	奈文研1993『西隆寺発	掘調	查報告書』(学報52)PL. 55-603			8	Р	L. 21	, Ph. 63
	9	長方形透孔、復原脚数	16							
560	1	228次	2	西隆寺旧境内北東部 6BSR QQ36 91817	3	灰褐矿	沙質土			
	4	圏足円面硯 a	(5)	硯面径13.2 残存高3.8	6	正置	(突帯上面に降灰)			
	7		掘調	查報告書』(学報52)PL. 55-602			8	Р	L. 21	, Ph. 63
	9	長方形透孔、復原脚数								

番号	1	次数	<u>2</u> <u>5</u>	出土地点	<u>3</u>		・層序 ・窯痕跡					
	<u>4</u>	硯形式 概報・報告	<u> </u>	瓜 里	0	NEW	8	PL, Ph				
	9	備考										
61	1	228次	2	西隆寺旧境内北東部 6BSR QQ36 910902	3							
	4	圏足円面硯 a	(5)	硯面径15.6 残存高3.9	6	不明	(明確な窯痕跡なし)					
	7	奈文研1993『西隆寺発	掘調	查報告書』(学報52)PL. 55-605			8	PL. 21, Ph. 63				
	9	長方形透孔 脚部外面	にへ	ラ描き沈線1条								
62	1	228次	2	西隆寺旧境内北東部 6BSR QO37 910818	3	灰褐矿	沙質土					
	4	圈足円面硯	5	残存高2.5	6	正置	(脚台部上面に降灰))				
	7	奈文研1993『西隆寺発	掘調	査報告書』(学報52)			8	PL. 21, Ph. 63				
	9) 長方形透孔 蹄脚円面硯B様の脚台部の成形										
663	1	242-12次	2	西隆寺金堂南東方 6BSR DL54 931210	3	大土均	亢	SE649 (SE01				
	4	蹄脚円面硯 B	(5)	硯面径21.8 底部径29.5 器高11.6	6	不明	(明確な窯痕跡なし))				
	7	奈文研1994『1993年度	平城	概報』図56			8	PL. 21, Ph. 63				
	9	復原脚数19										
564	1	324次	2	西隆寺旧境内南西方 6BSR OM72 010306	3	畦下						
	4	圏足円面硯 c	(5)	外堤径11.2 硯面径8.5 残存高2.0	6	不明	(明確な窯痕跡なし))				
	7	奈文研2001『紀要2001					8	PL. 21, Ph. 64				
	9											
565	1	324次	2	西隆寺旧境内南西方 6BSR OJ72 010126	3	南北海	黄 3	SD91				
	4	円面硯	(5)	硯面径12.1 残存高1.1	6	倒置	(硯部内面に自然釉))				
	7	奈文研2001『紀要2001	.]				8	Ph. 64				
	9	共伴土器は~平城IV										
東大	寺 (BTD										
566	1	118-34次	2	東大寺南面大垣 6BTD 790830	3	上土、	土器溜り					
	4	風字硯(黒色土器 B 類)	(5)	残存長4.6 残存幅2.6 残存高3.0	6							
	7	奈文研1980『昭和54年	度平	城概報』			8	PL. 21, Ph. 64				
	9	概報では次数なし										
 567	1	118-34次	2	東大寺南面大垣 6BTD AI区 790910	3	西端二	 土坑(井戸)	SE0				
	(4)	風字硯(黒色土器B類)	(5)	残存長8.4 残存幅4.6 残存高3.3	6							
	(7)	奈文研1980『昭和54年	度平	城概報】			8	PL. 21, Ph. 64				
	9											
唐招		6 B T S										
568	(1)	54-1次	2	唐招提寺収蔵庫予定地 6BTS CJ36 680719	(3)	橙褐质	—————————————————————————————————————					
000	4)	圏足円面硯 a		外堤径23.0 硯面径15.4 底部径23.1 器高2.6			(硯部内面に降灰)					
	7	ши т		7172 11101.0 91111 11111 11111 11111 11111 11111		r 4 jas		PL. 21, Ph. 64				
	9	長方形(横長)透孔、	復百	期粉 4								
569		112-18次	375030 12	唐招提寺戒壇院 6BTS 戒壇院 780610	3	事业3	郡 礎石? 周辺 黄	· 想				
009	1	型足円面視 a		外提径15.0 砚面径10.2 残存高4.0	6		(硯部内面に降灰)	阿加其工				
	4											
	(7)			少 双花羊权』			•	PL. 21, Ph. 64				
-FO	9	長方形透孔、復原脚数		中初相土飛鳥陸 47700 桑萨地 500000	<u> </u>	#171	日ブロ ね AII サレビディ					
570	1	112-18次	2		3		掲ブロック混粘質土					
	4	圈足円面硯		外堤径11.4 残存高1.5	6	小明	(明確な窯痕跡なし)					
	7	奈文研1979『昭和53年	度平	城概報』			8	PL. 21, Ph. 65				
	9											

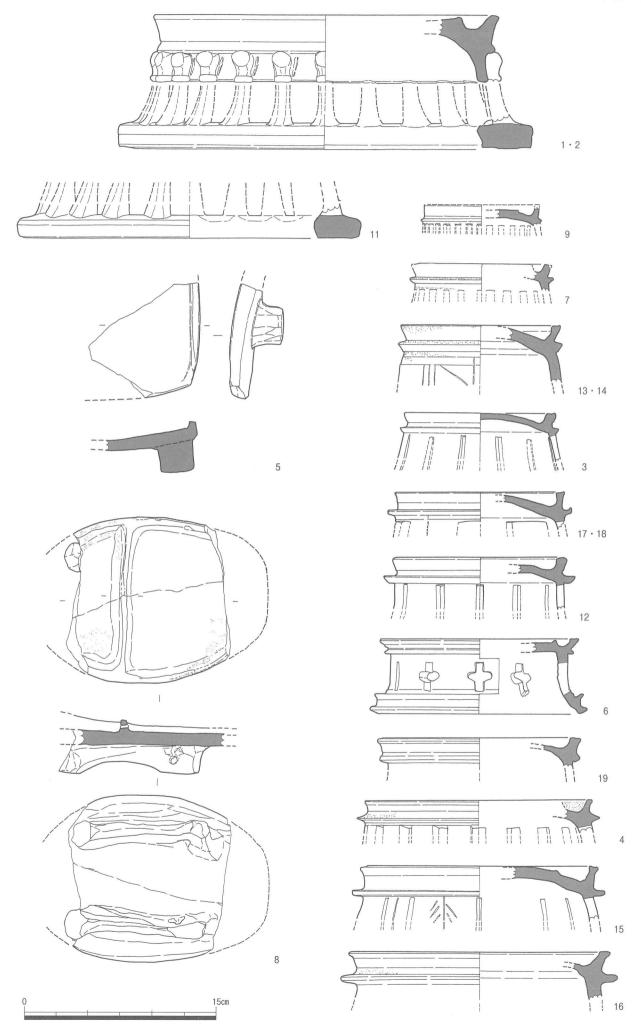
番号	1						・層序			
	7	概報・報告	9	本 里	6	况以	・窯痕跡	8	PL,	Ph
	9	備考				refer NT	1 (=)			
571	1	112-18次	2	唐招提寺戒壇院 6BTS 戒壇院 780609			上(東)			
	(4)	圈足円面硯	(5)	底部径29.4 残存高1.5	(6)	正置	(脚台部上面に自			
	7	奈文研1979『昭和53年		城概報』				8	PL.	21, Ph. 65
	9	長方形透孔、復原脚数				21576				
572	1	112-18次	2	唐招提寺戒壇院 6BTS 戒壇院 780618			粘質土			
	4	特殊硯	(5)	残存長7.0 残存幅8.6 残存高4.6	6	不明	(明確な窯痕跡な			
	7	奈文研1979『昭和53年	度平:	城概報』				8	PL.	21, Ph. 65
	9	筆立て状の穿孔あり								
薬師	寺 6	BBYS								1011
573	1	23-2次	2	薬師寺東僧房北方 6BYS FT71 650212	3	土坑				
	4	風字硯	5	残存長3.5 残存高3.7	6	倒置	(脚部に自然釉)			
	7	奈文研1987『薬師寺発	掘調	查報告』(学報45)				8	PL.	22, Ph. 65
	9									
574	1	23-2次	2	薬師寺東僧房北方 6BYS FR60 650131	3	井戸	L			SE048
	4	風字硯(黒色土器B類)	(5)	残存長6.1 残存高1.8	6					
	7	奈文研1987『薬師寺発	掘調	查報告』(学報45)				8	PL.	22, Ph. 65
	9	硯でない可能性あり								
575	1	23-2次	2	薬師寺旧東僧房北方 6BYS FZ61 650128	3	第2	層			
	4	形象硯	(5)	残存長7.2 残存幅7.4 残存高3.2	6	正置	(尾部上面に自然	(釉)		
	7	奈文研1987『薬師寺発	掘調	查報告』(学報45)				8	PL.	22, Ph. 65
	9	鳥形硯の尾部ヵ								
576	1	88-21次	2	薬師寺西僧坊 6BYS LG17 741112	3	焼土				-
	4	圏足円面硯 a	(5)	硯面径7.8 残存高1.4	6	不明	(明確な窯痕跡な	:し)		
	7	奈文研1987『薬師寺発	掘調	查報告』(学報45)				8	PL.	22, Ph. 65
	9	長方形透孔								
577	1	88-21次	2	薬師寺西僧坊 6BYS LF15 741128	3	溝暗	青灰土			
	4	圏足円面硯 b	(5)	外堤径14.1 硯面径10.2 残存高3.3	6	正置	(突帯上面に降灰	<u>(</u>)		
	7	奈文研1987『薬師寺発	掘調	查報告』(学報45)				8	PL.	22, Ph. 65
	9	長方形透孔 578と同-	一個体	S カ						
578	1	88-21次	2	薬師寺本坊北方 6BYS NN19 741112	3	黒褐	砂質土			
	4	圏足円面硯 b	5	外堤径14.1 硯面径10.2 残存高2.5	6	正置	(突帯上面に降灰	:)		
	7	奈文研1987『薬師寺発	掘調	查報告』(学報45)				8	PL.	22, Ph. 65
	9	長方形透孔 577と同-	一個体	5 / /						
 579	1	88-21次	2	薬師寺西僧坊 6BYS HC50 741120	3	床面				
	4	風字硯(二面風字硯)	(5)	残存長13.7 器幅14.8 残存高3.7	6	不明	(明確な窯痕跡な	し)		
	(7)	奈文研1987『薬師寺発	掘調	李報告』(学報45)				(8)	PL.	22, Ph. 66
	9									
580	1	95-15次	2	薬師寺食堂北方 6BYS HK32/HL32 750918/750918	(3)	土坑				
3010F0E0	4	圏足円面硯 a	(5)	外提径13.4 硯面径8.0 残存高2.4	(6)		(硯部内面に自然	(和)		
	7	奈文研1987『薬師寺発				, , ,			ΡI	22, Ph. 66
	9	長方形透孔、復原脚数		E 13 IPON						, , , , , , , , ,

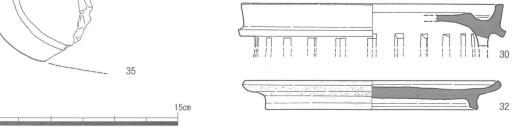
番号	1	次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序
	4	硯形式	⑤ 法 量	⑥ 焼成・窯痕跡
	<u>7</u> <u>9</u>	概報・報告 備 考		
581	1	95-15次	② 薬師寺食堂北方 6BYS HK31 750918	③ 土坑
	4	圏足円面硯 a	⑤ 外堤径10.3 硯面径6.0 残存高2.8	⑥ 正置(外堤部上面・外面、突帯上面に降灰)
	7	奈文研1987『薬師寺多	· · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	® PL. 22, Ph. 66
	9	長方形透孔×8、杏仁	二形透孔×4、復原脚数12	
582	1	95-15次	② 薬師寺食堂北方 6BYS HL31 750918	③ 土坑
	4	圏足円面硯 b	⑤ 外堤径14.2 硯面径12.2 残存高2.1	⑥ 正置(硯面、突帯上面に降灰)
	7	奈文研1987『薬師寺务	養掘調査報告』(学報45)PL. 113−256	8 PL. 22, Ph. 66
	9	長方形透孔、復原脚数	数 8	
583	1	103-24次	② 薬師寺十字廊 6BYS HM40 780222	③ 土坑
	4	蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径20.0 硯面径13.4 残存高4.9	⑥ 不明(明確な窯痕跡なし)
	7	奈文研1987『薬師寺勢	论掘調査報告』(学報45)	8 PL. 22, Ph. 67
	9	復原脚数17 外堤部外	小 面に墨画あり	
584	1	103-24次	② 薬師寺西僧坊小子坊 6BYS LJ15 780203	③ 暗渠
	4	圏足円面視 c	⑤ 硯面径15.6 残存高1.7	⑥ 不明 (明確な窯痕跡なし)
	7	奈文研1987『薬師寺	· 発掘調査報告』(学報45)	8 PL. 22, Ph. 67
	9	復原脚数22~23 585	と同一個体ヵ	
585	1	103-24次	② 薬師寺西僧坊小子坊 6BYS LK11 780206	③ 土坑
	4	圏足円面硯 c	⑤ 硯面径15.6 残存高1.6	⑥ 倒置(突帯下面に降灰)
	7	奈文研1987『薬師寺祭	· 论掘調査報告』(学報45)	8 PL. 22, Ph. 67
	9	復原脚数22~23 5	84と同一個体ヵ	
586	1	103-24次	② 薬師寺十字廊 6BYS HM40 780223	③ 土坑
	4	宝珠硯	⑤ 残存長4.8 残存高1.9 残存幅5.4	⑥ 倒置(硯裏面に自然釉)
	7	奈文研1987『薬師寺祭	· 洛掘調査報告』(学報45)	8 PL. 22, Ph. 67
	9	587と同一個体ヵ		
587	1	103-24次	② 薬師寺十字廊 6BYS HM40 780223	③ 土坑
	4	宝珠硯	⑤ 残存長6.5 残存幅6.5 残存高2.0	⑥ 倒置(硯裏面に自然釉)
	7	奈文研1987『薬師寺祭	论掘調査報告』(学報45)	8 PL. 22, Ph. 67
	9	586と同一個体ヵ 海	部に重焼きの溶着痕あり	

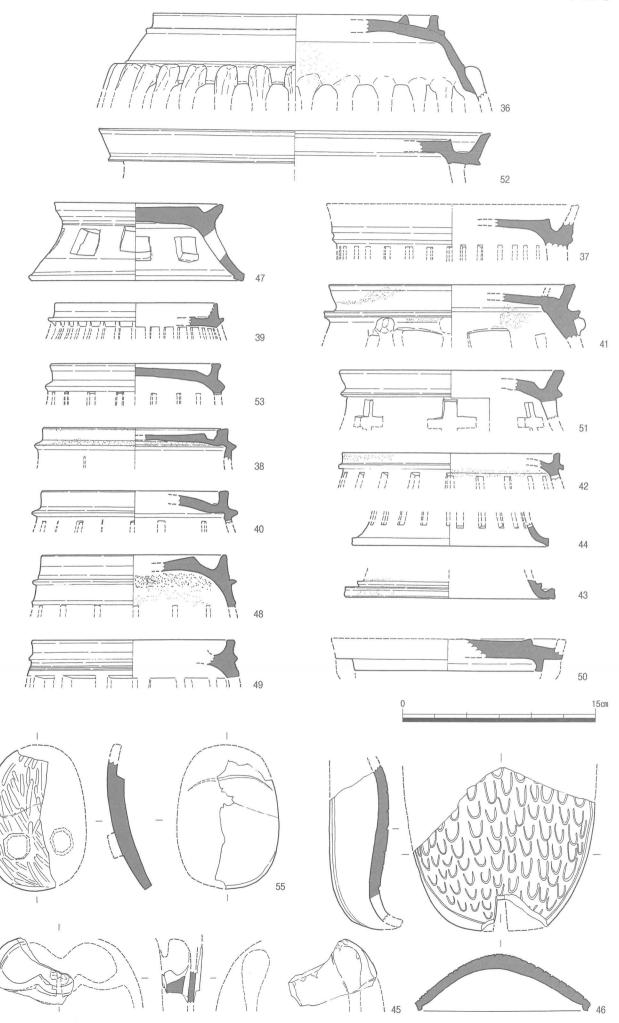


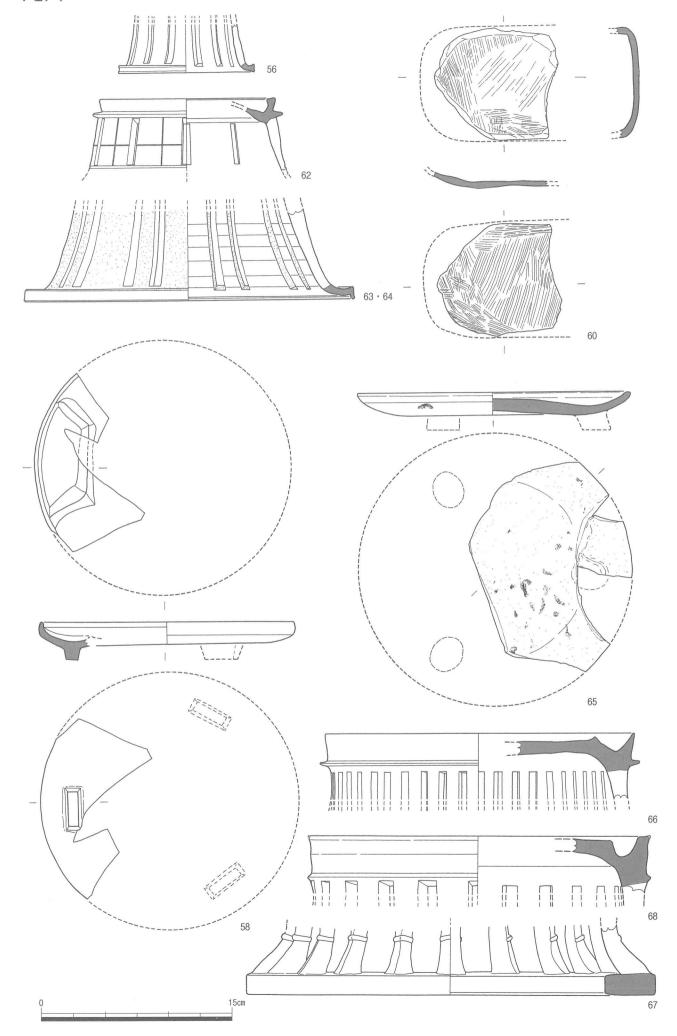
凡例

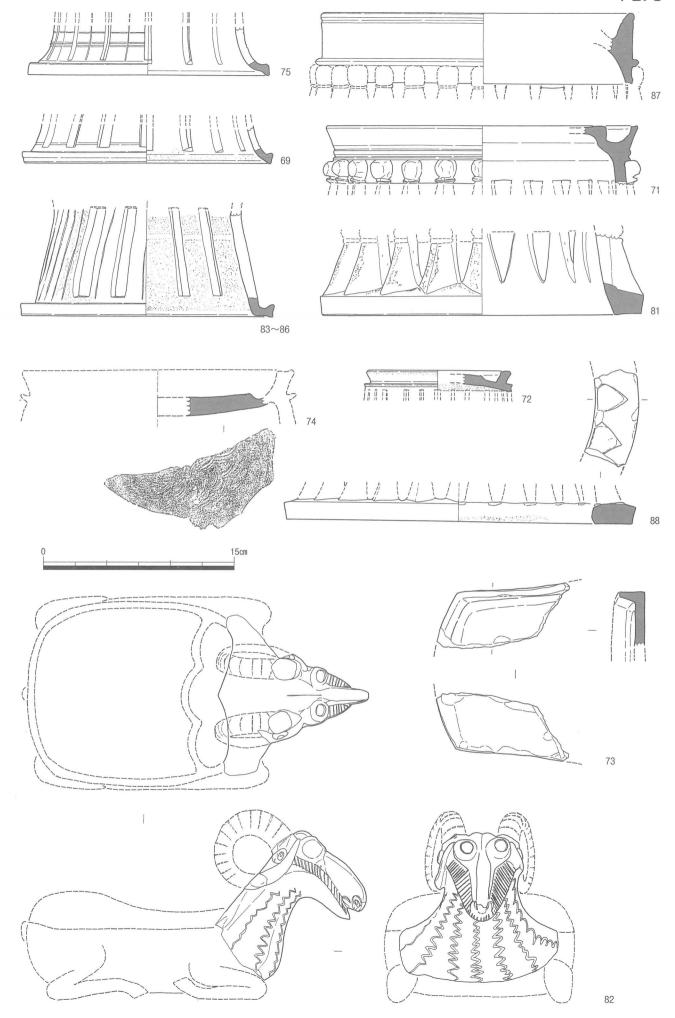
- ・ 図面の縮尺は3分の1である。
- ・ 同一個体と判断したものについて は、合成して作図したものもある。
- ・ 本書の刊行にあたって再実測し、既 刊の報告書、概報、年報などに掲載し た実測図と異なるものがある。

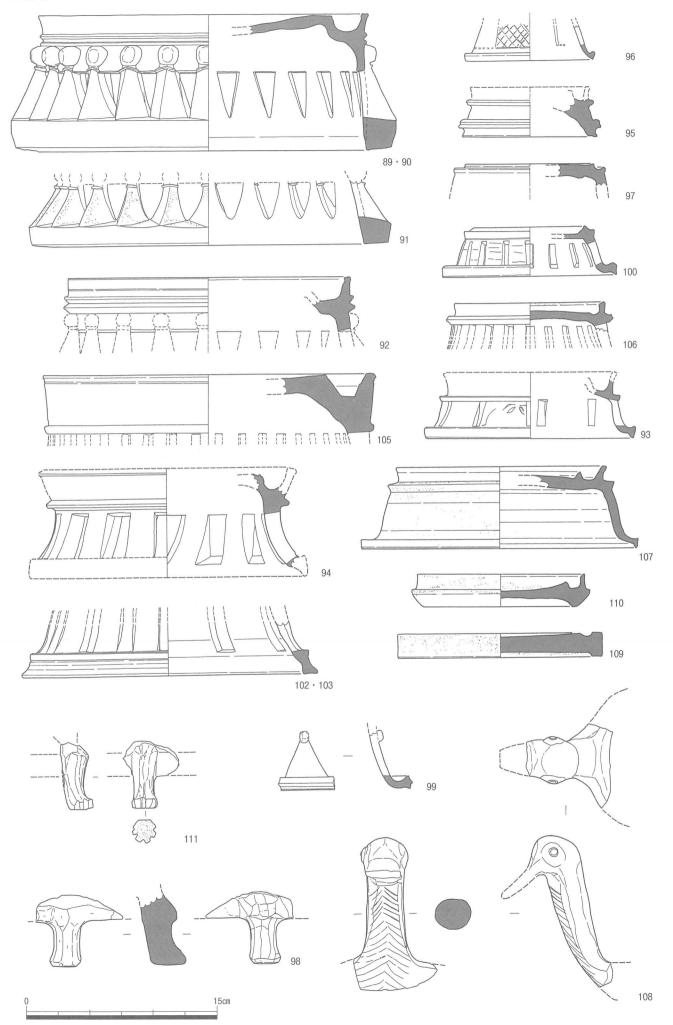


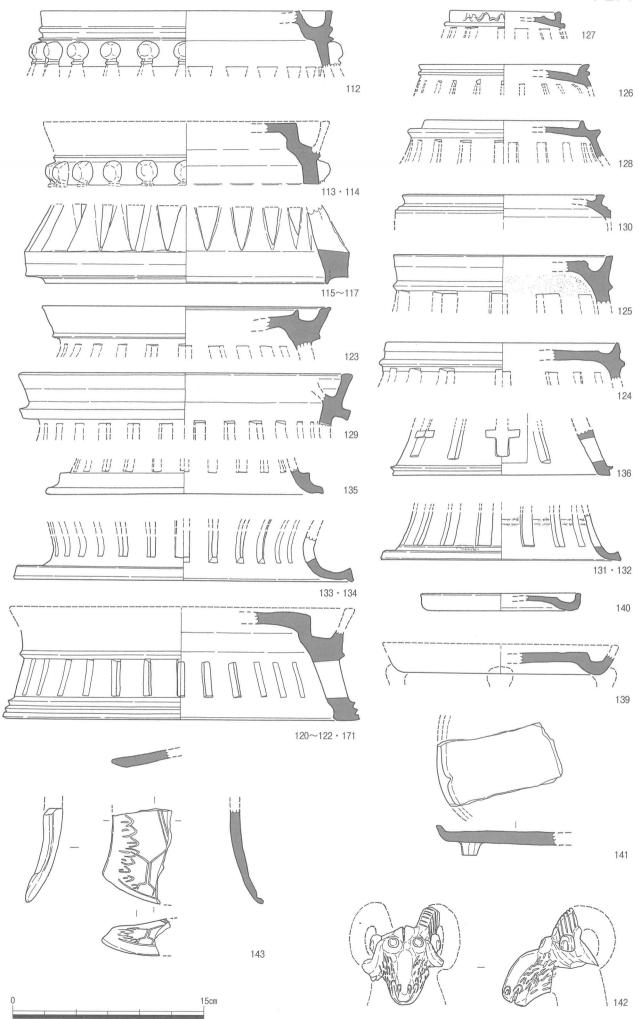


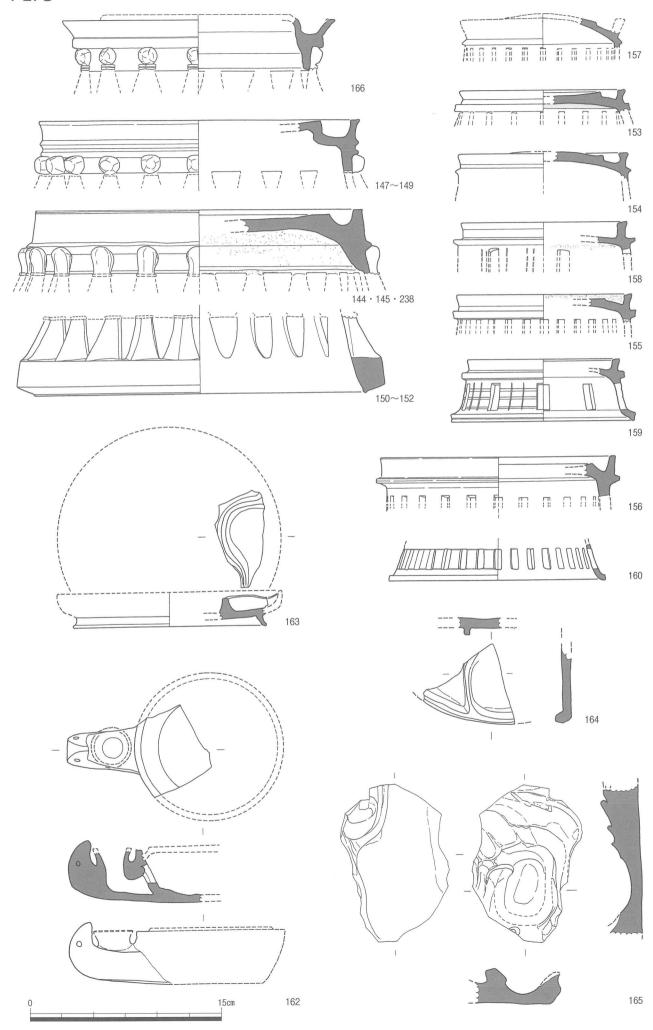


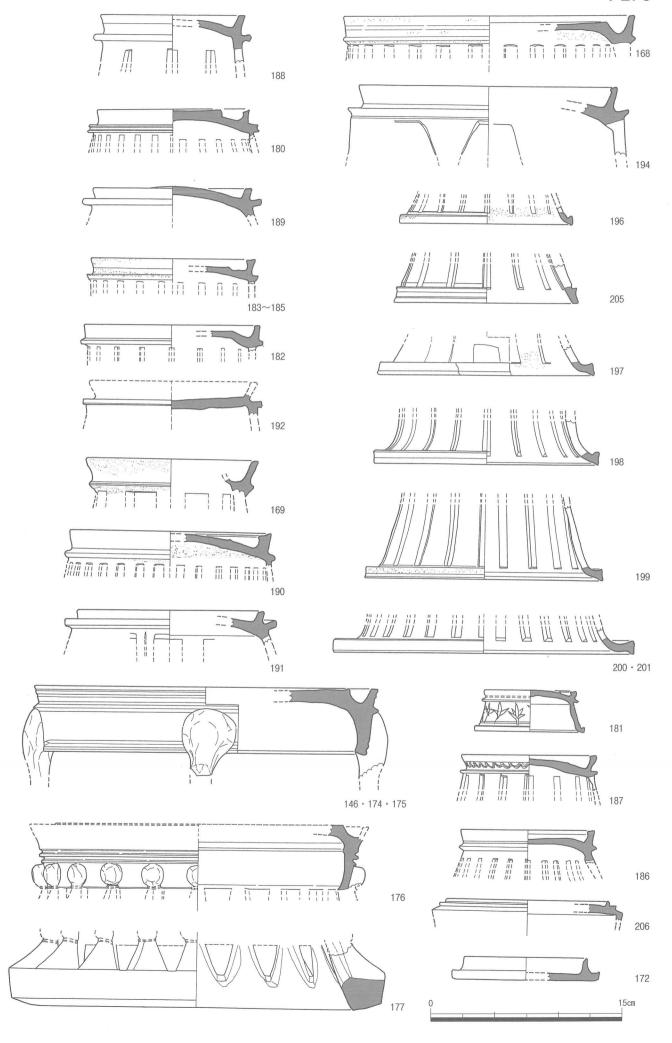


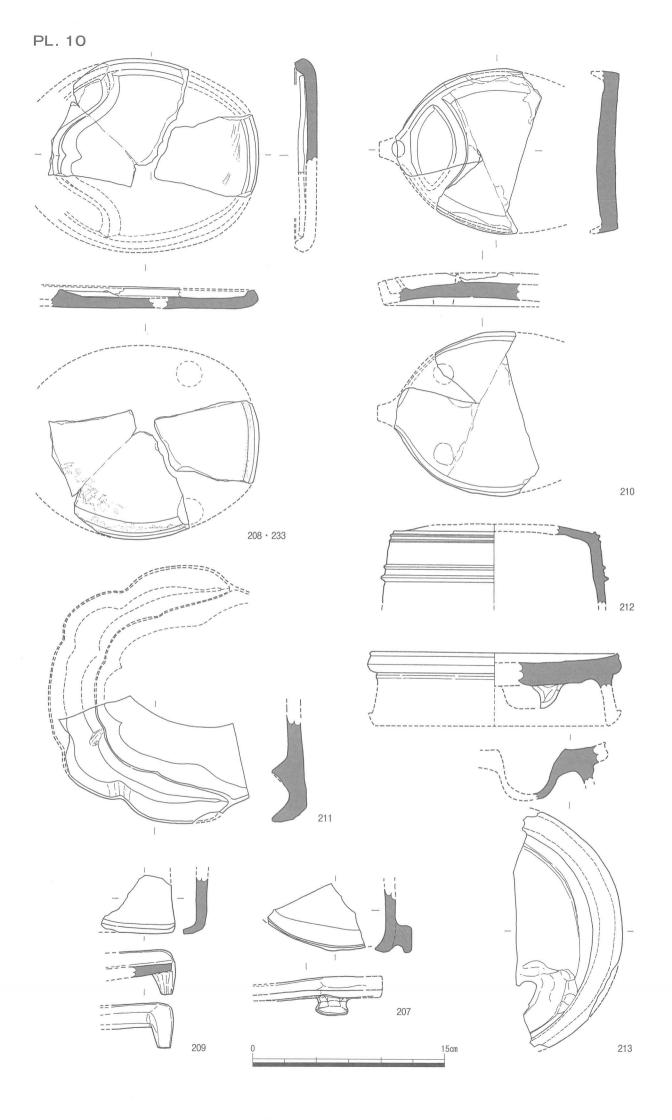


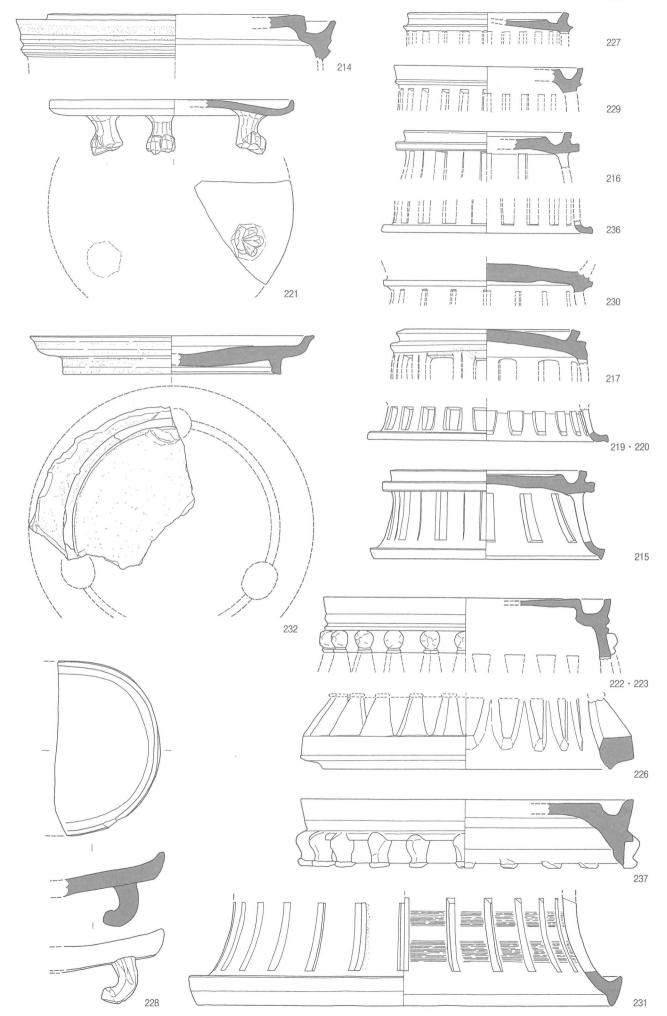


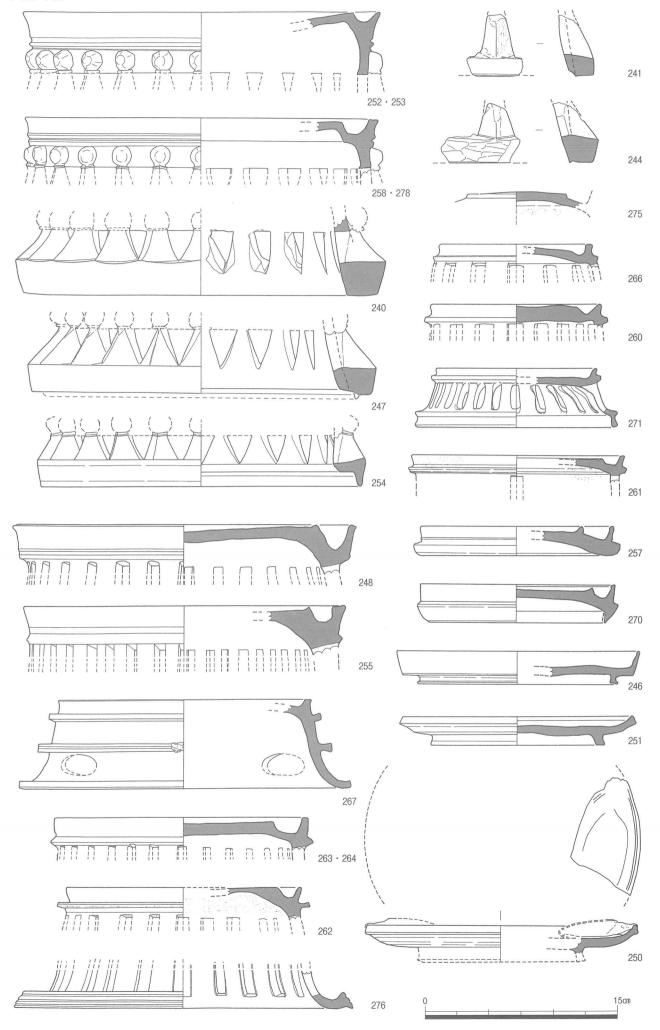


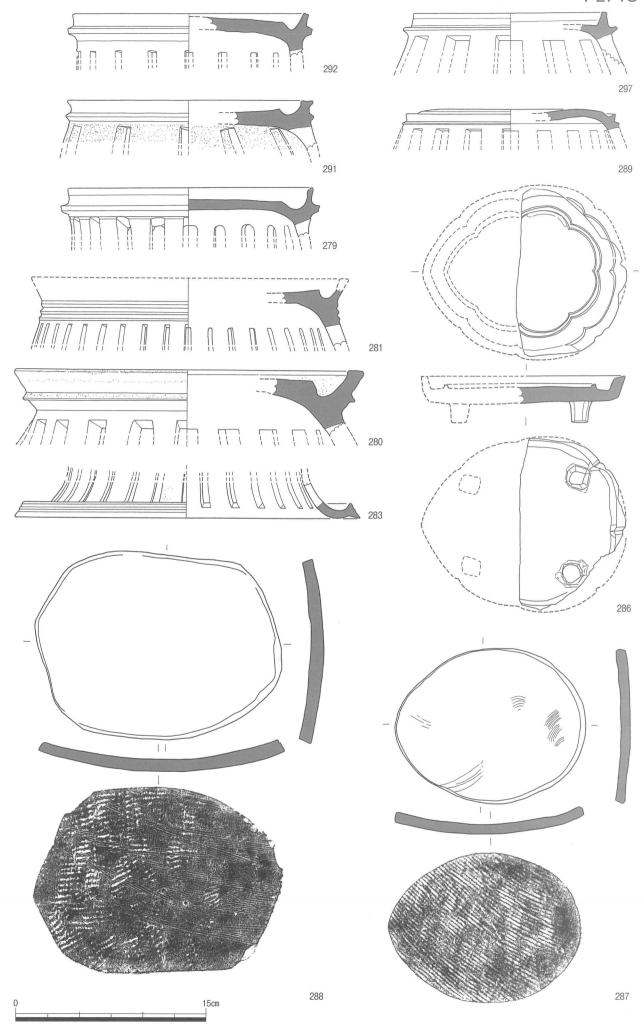


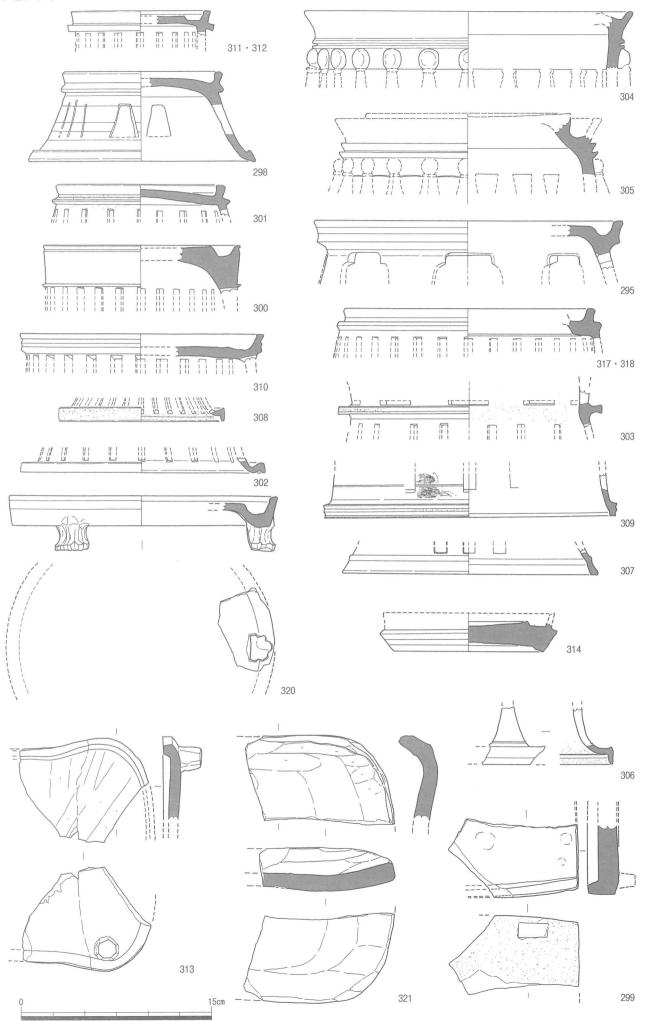


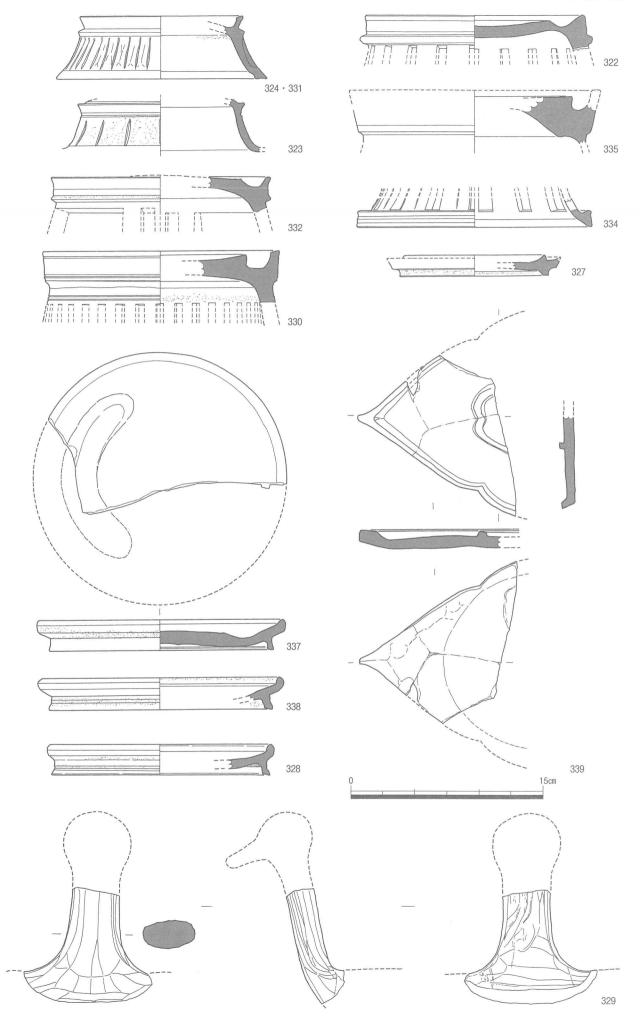


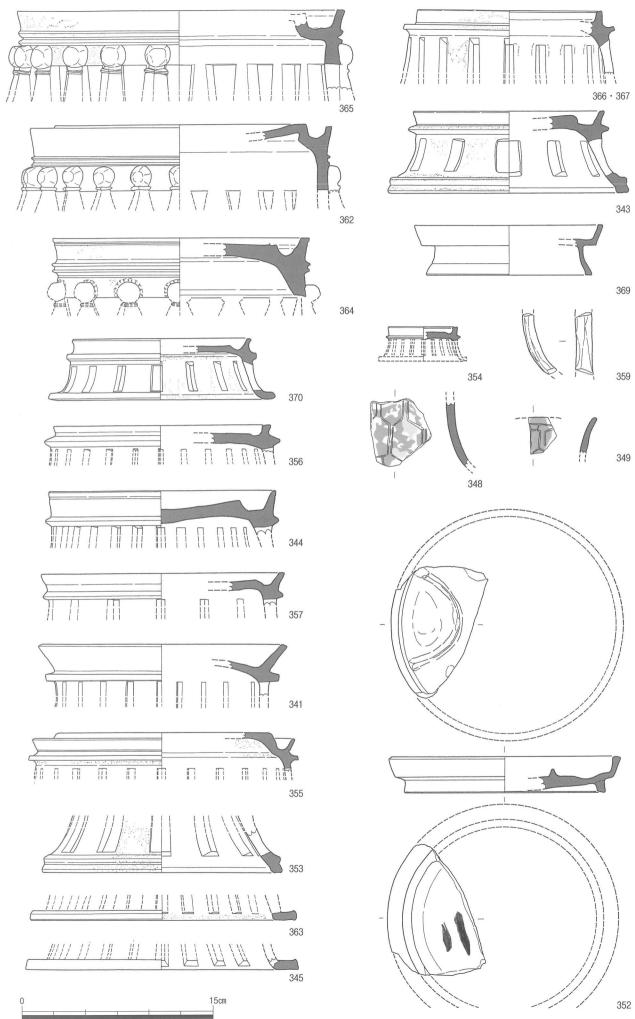


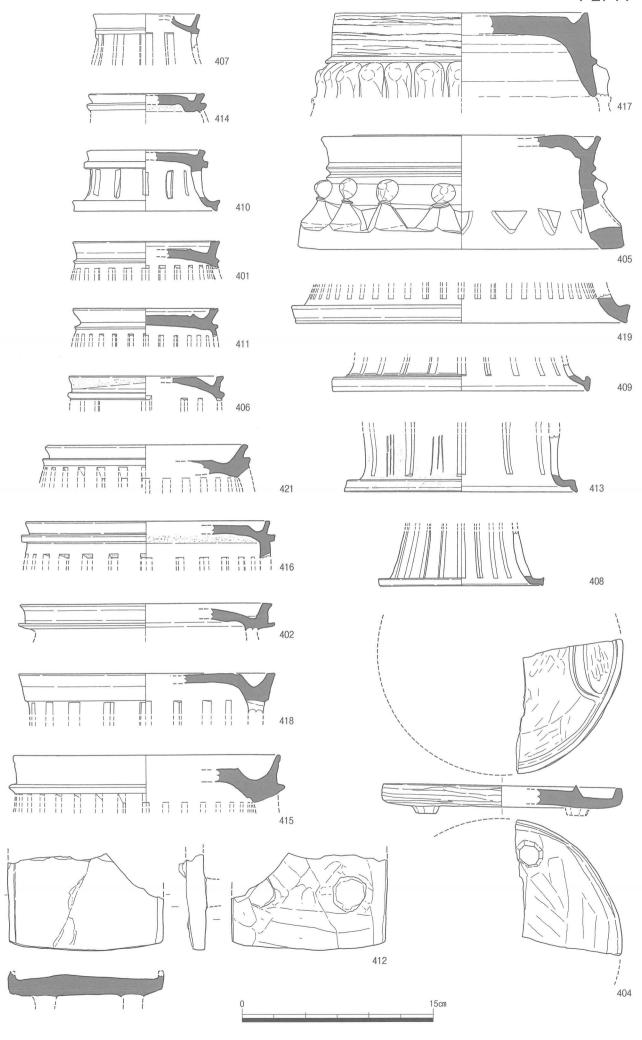


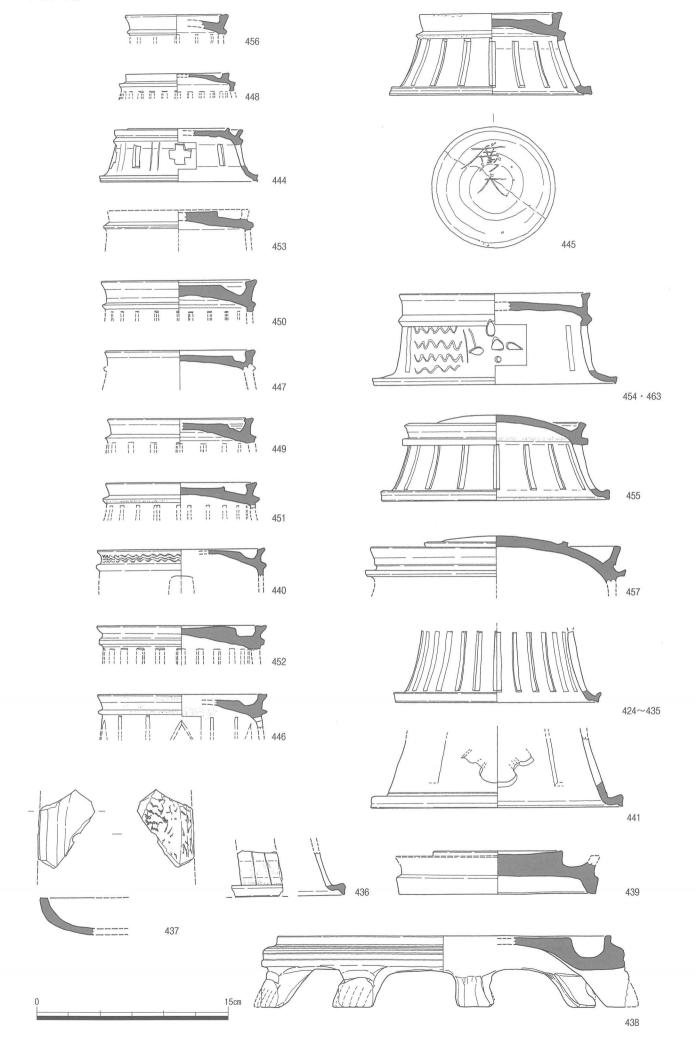


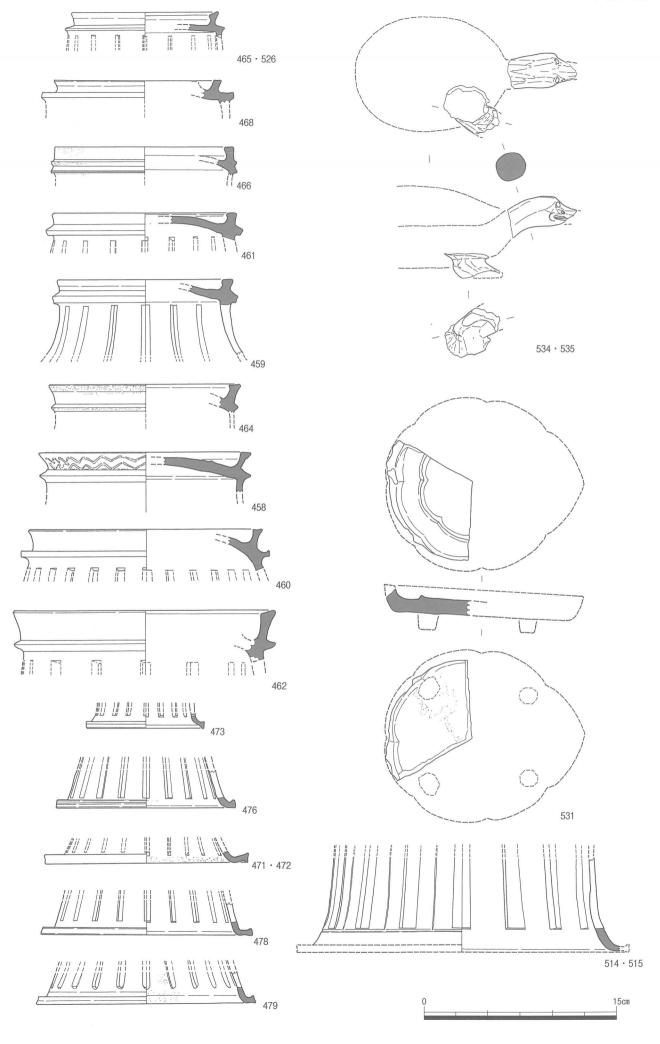


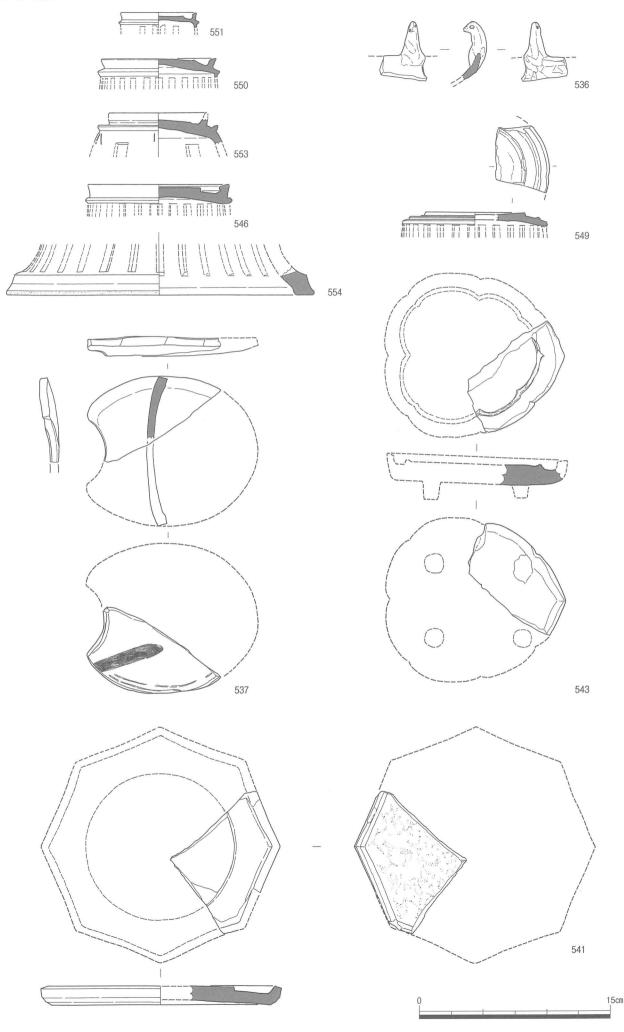


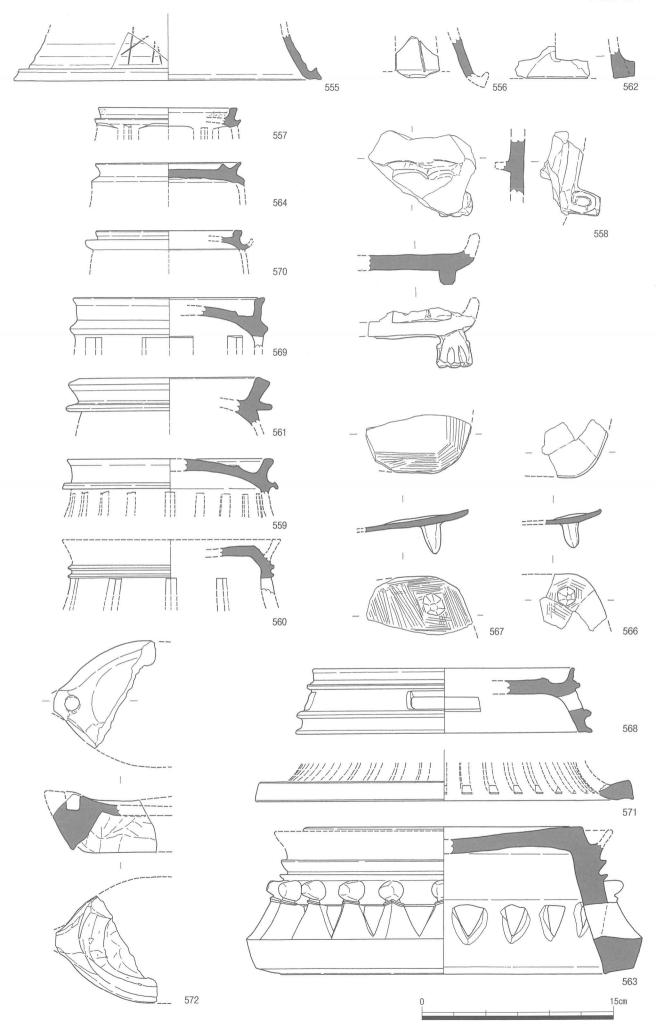


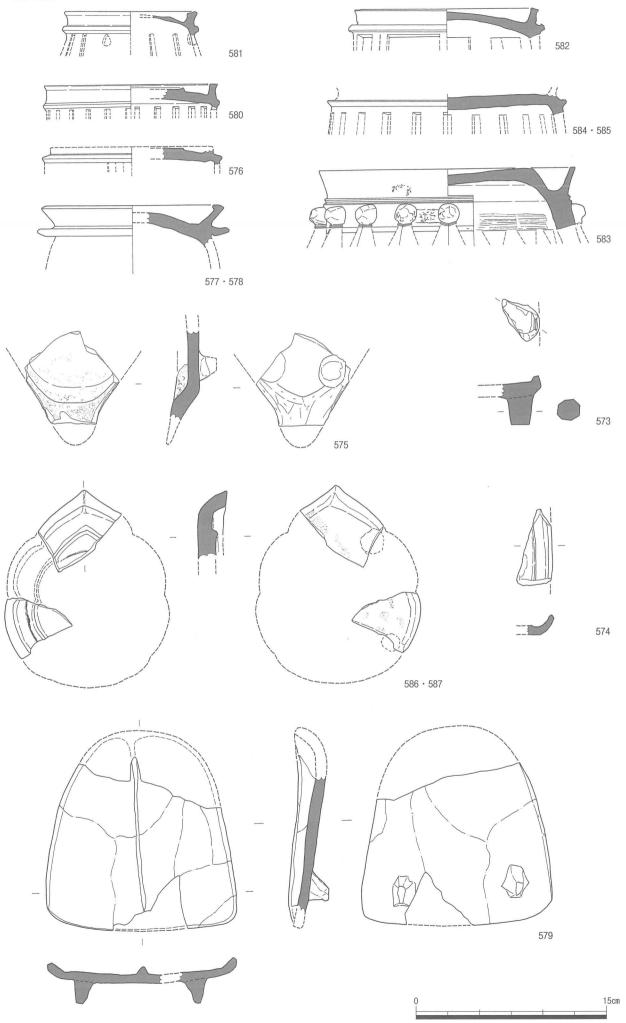












VI. 写真図版

凡例

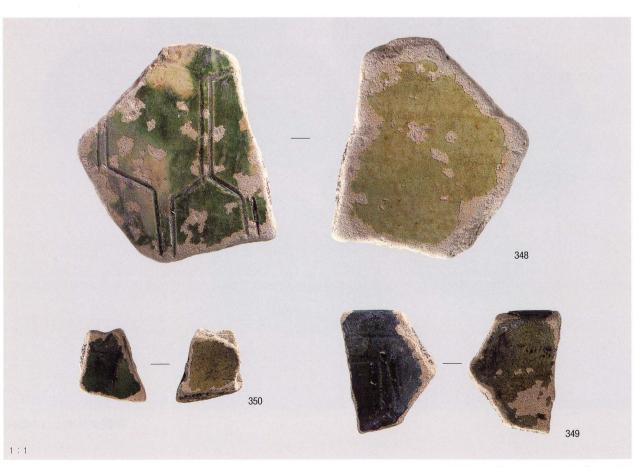
- ・ 写真は実寸の約2分の1を基本とするが、大型のものについては、約3分の1を採用し、左下に縮尺を記した。
- ・ カラーPh. は集合写真、白黒図版 Ph. は単体写真を原則とするが、348・ 349・350の3点はカラーPh.2下に単 体写真を掲載した。



寺院より出土した陶硯

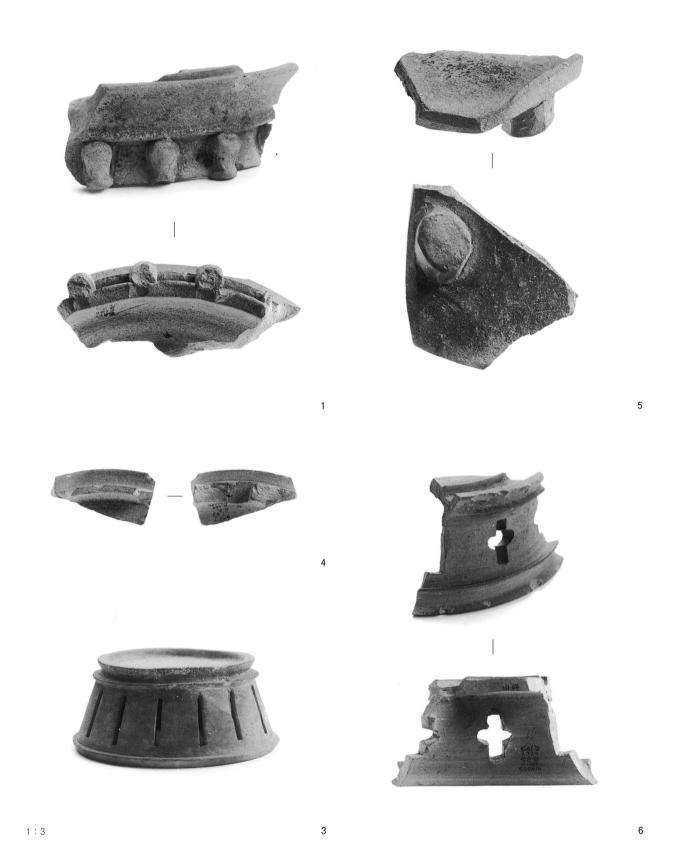


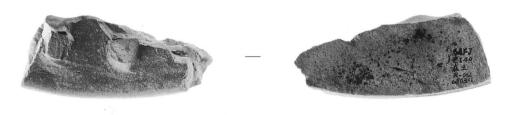
上:左京三条二坊より出土した陶硯



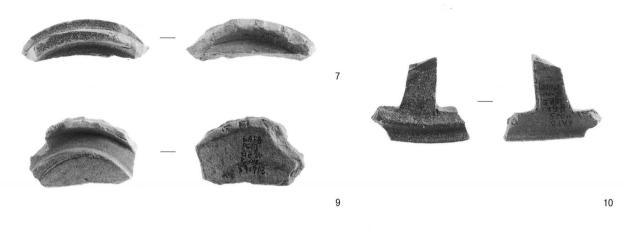
下:第279次 奈良三彩 亀形硯蓋

1-5:46次 6:55次 Ph. 1





2

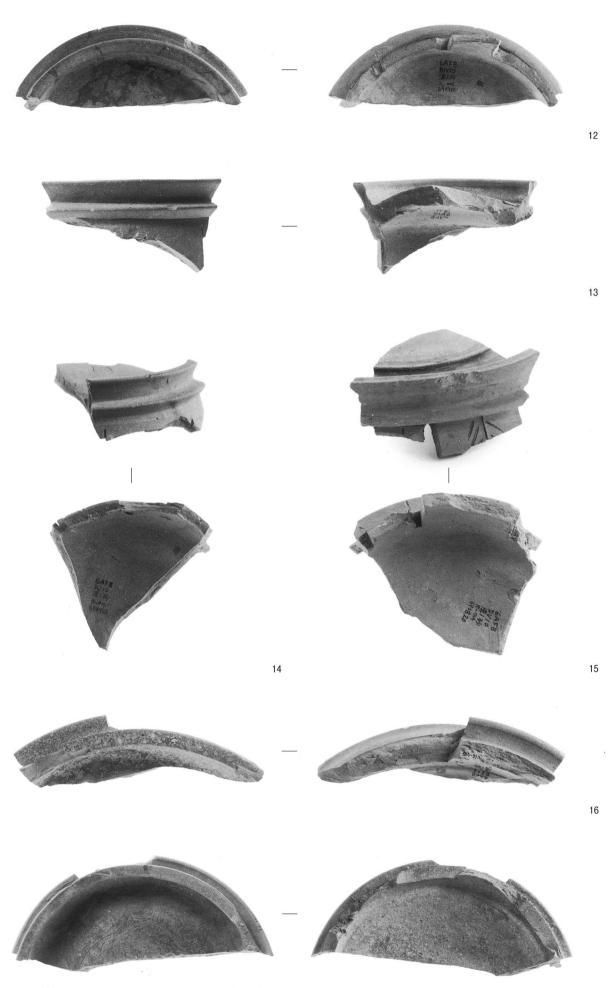


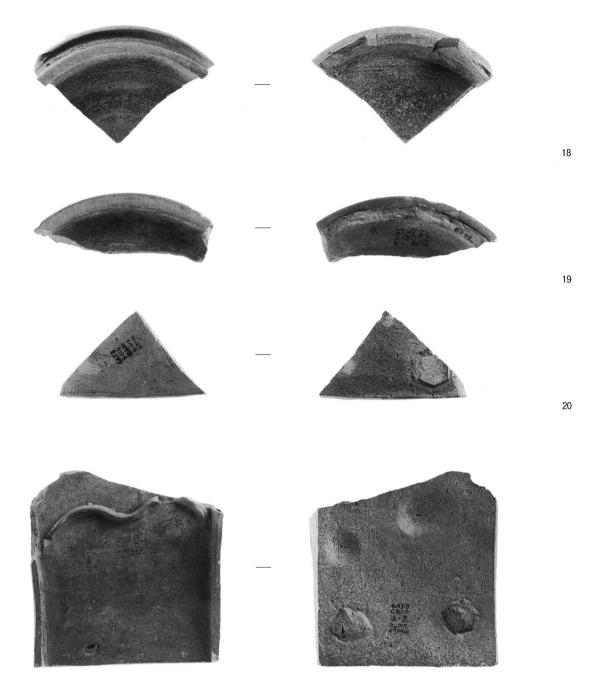


. 11

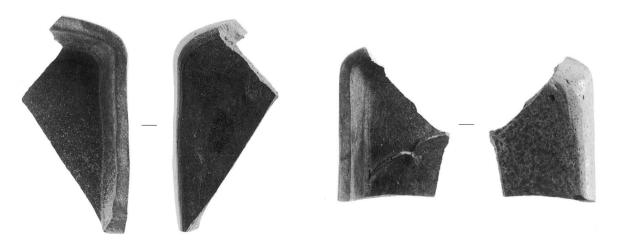


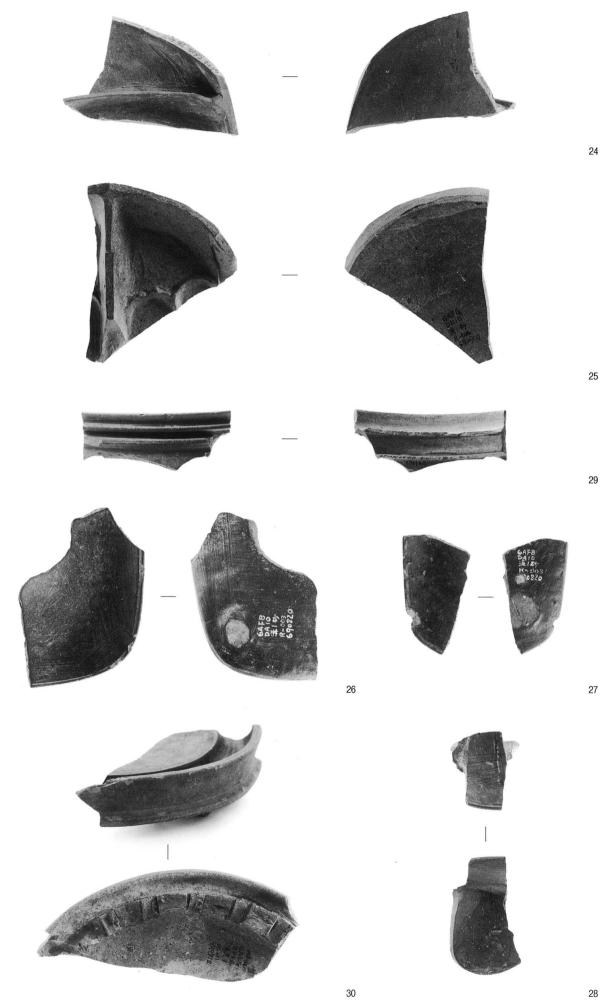
12-17:57次 Ph. 3

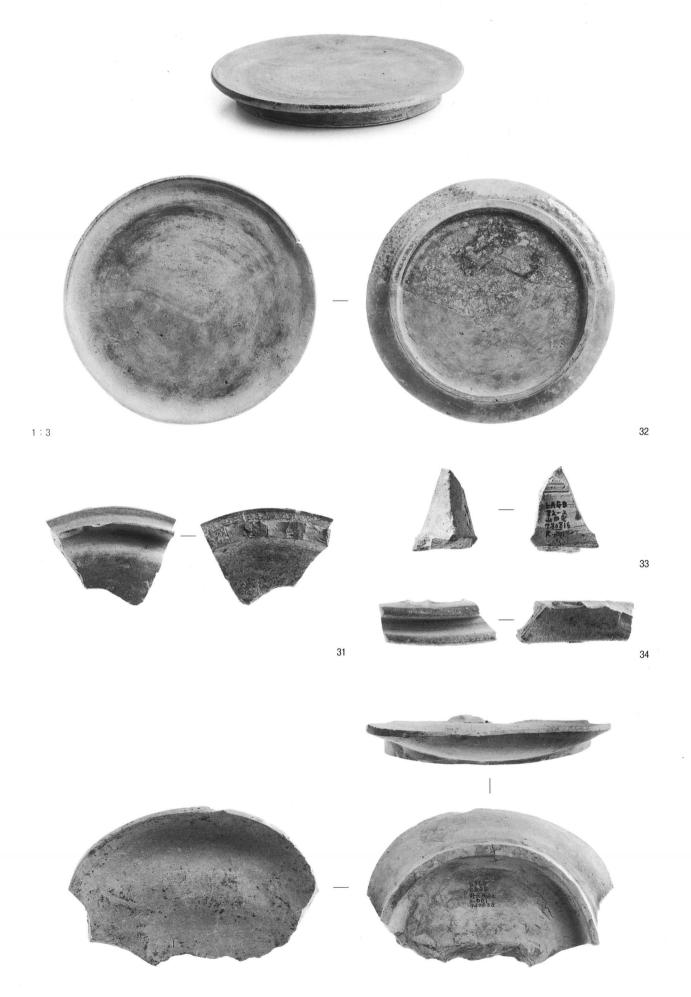




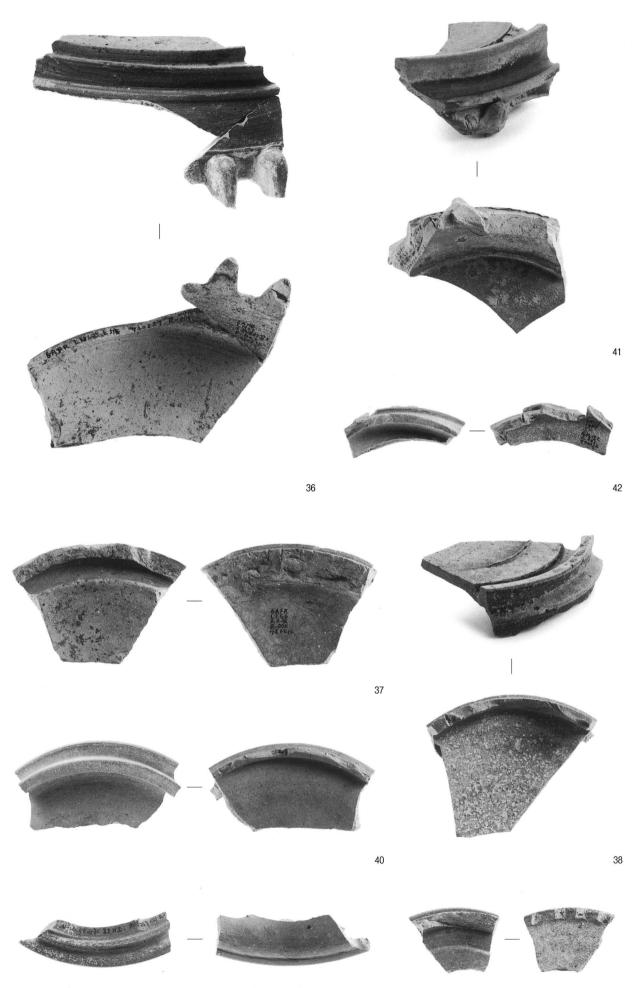
23

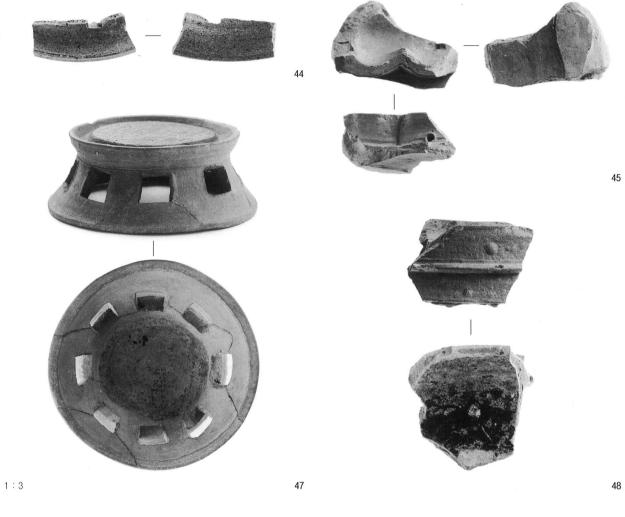


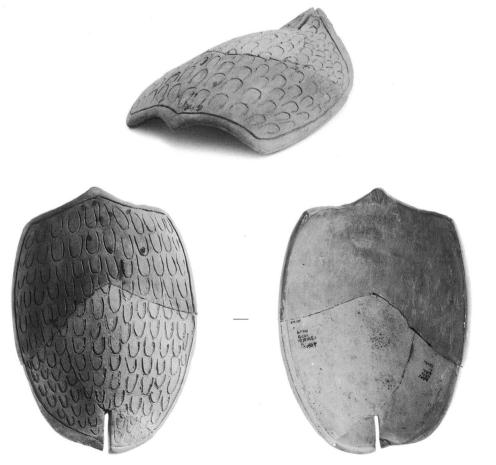


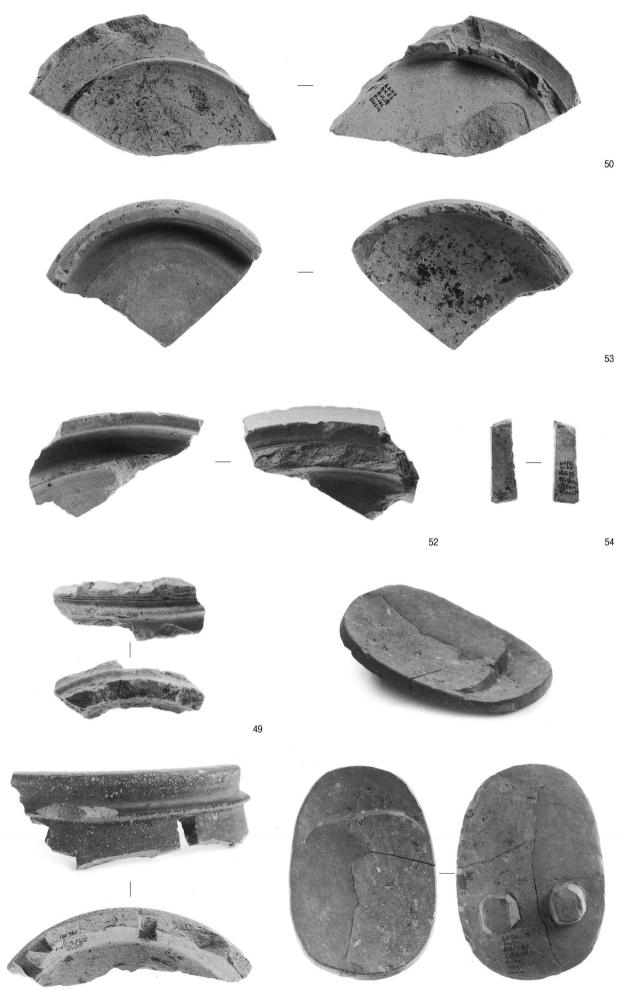


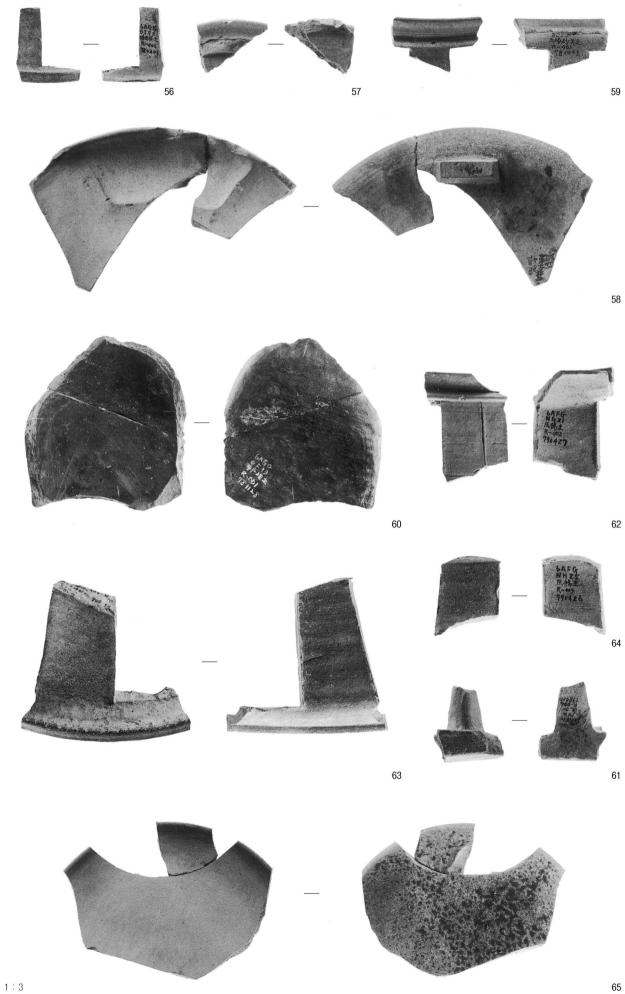
36-37:90次 38-43:93次 Ph. 7

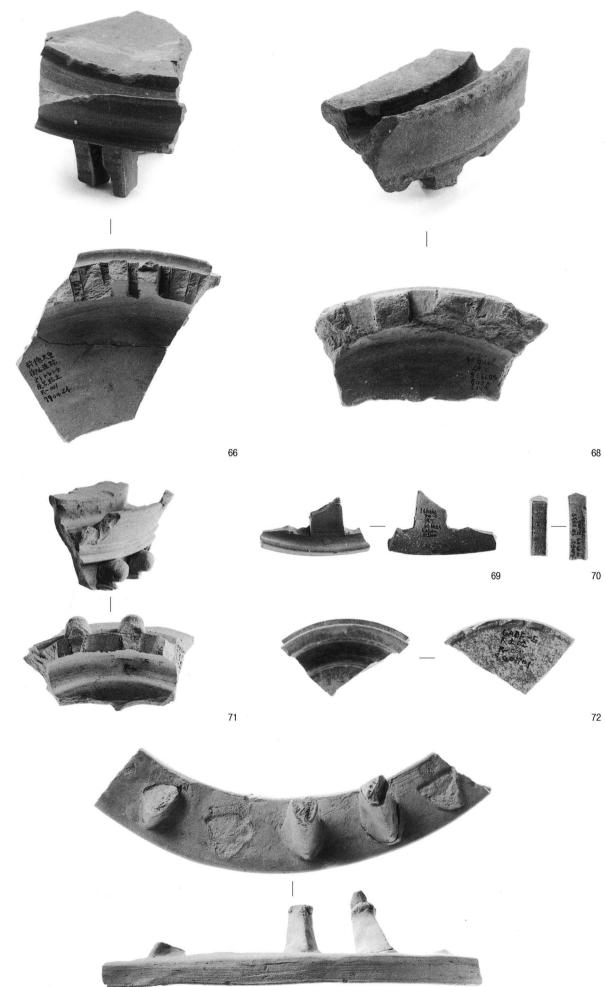


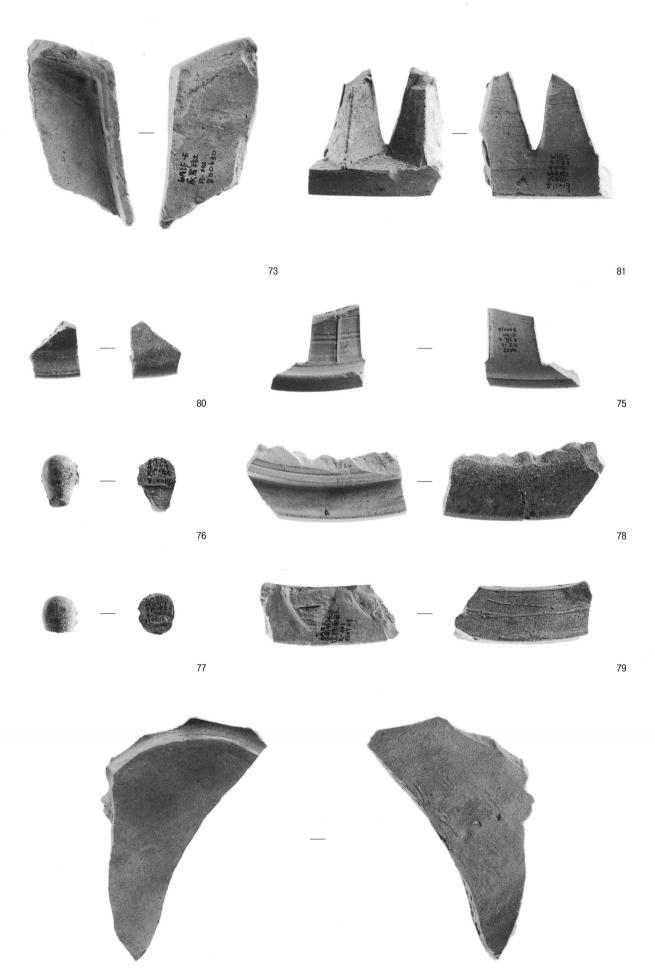








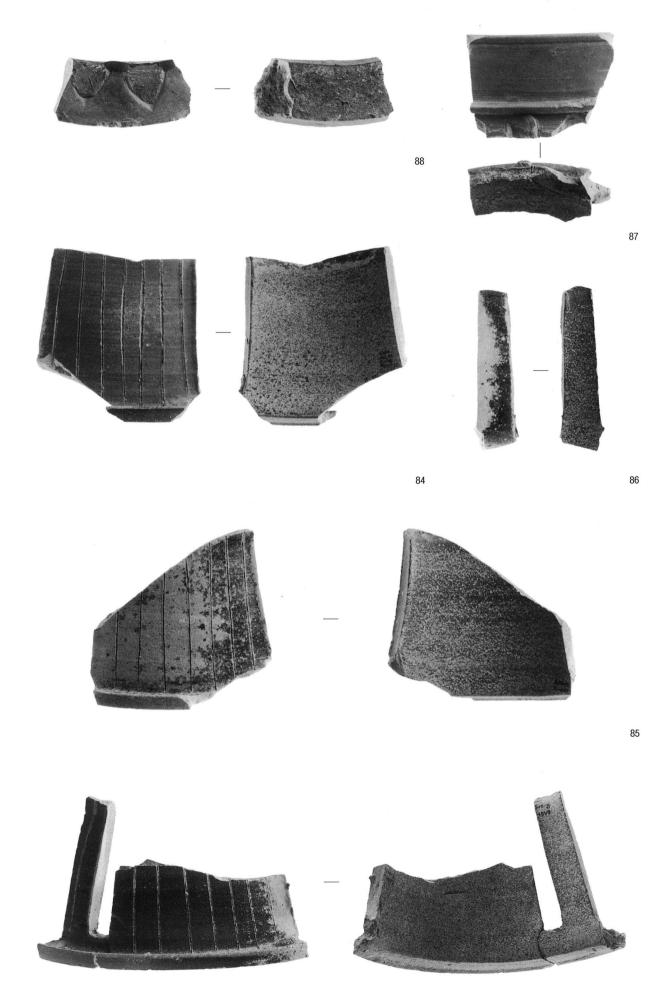




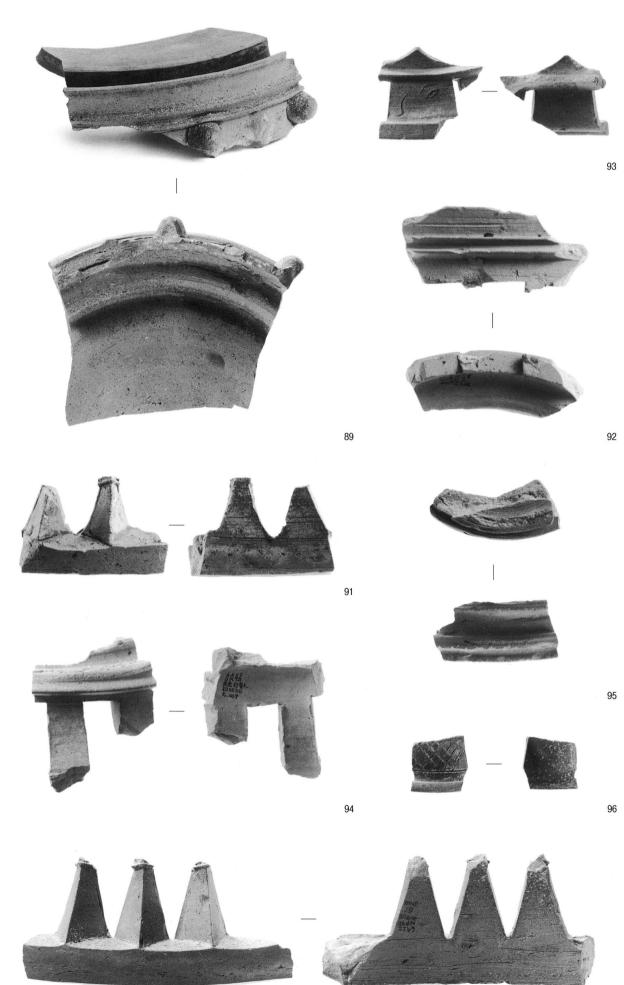
82:141-9次 Ph. 13



83-86:141-26次 87-88:149次

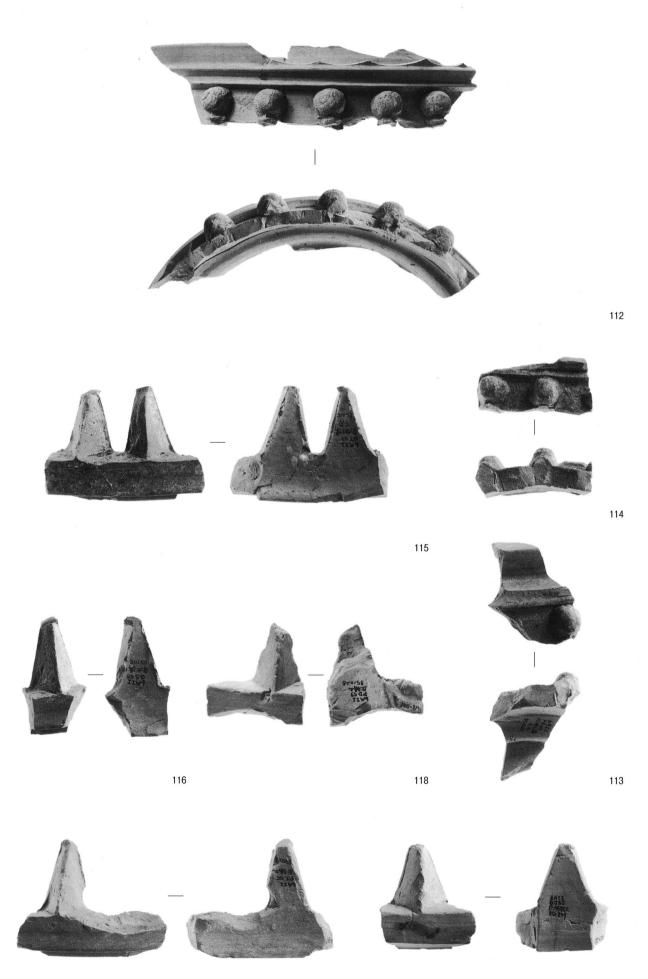


89-96:149次 Ph. **15**





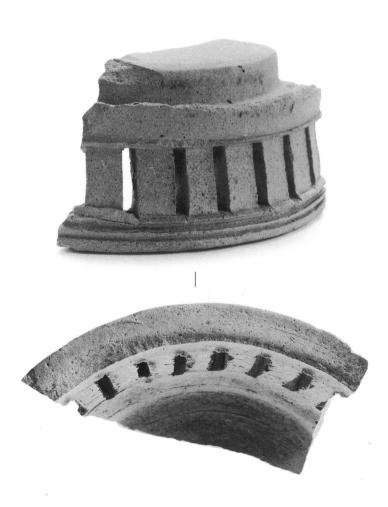




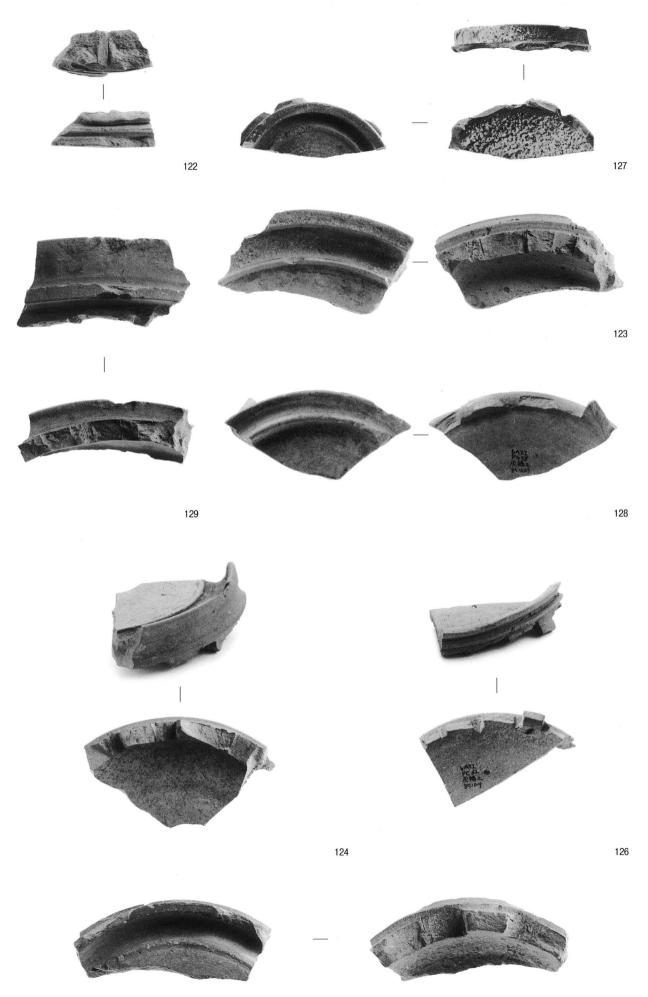
120-121:168次 Ph. 19



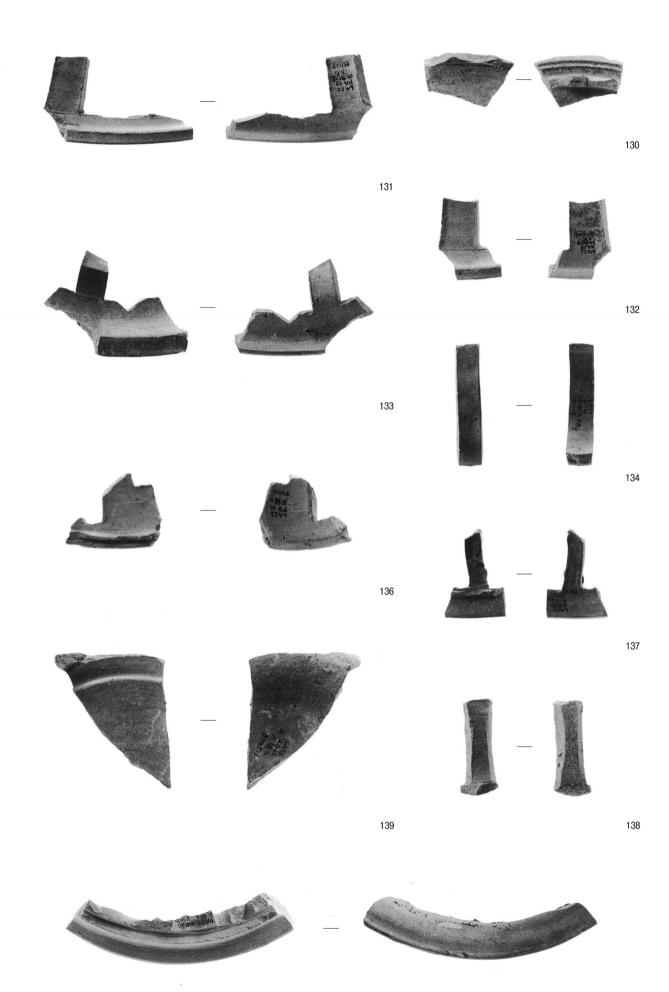
1:3

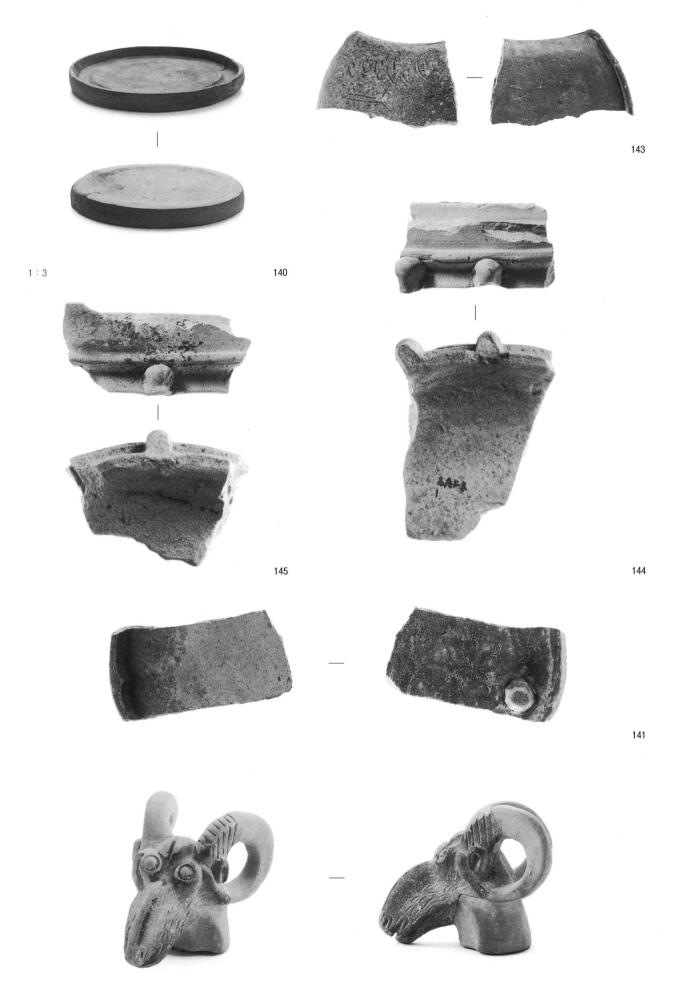


Ph. 20

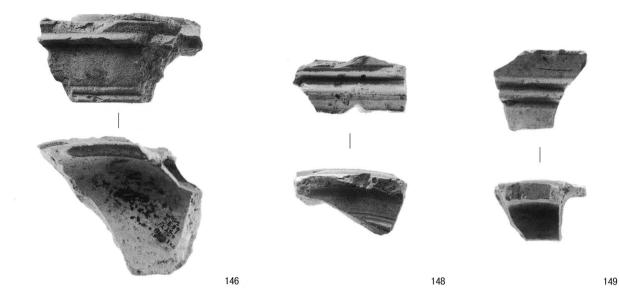


130-139:168次 Ph. 21

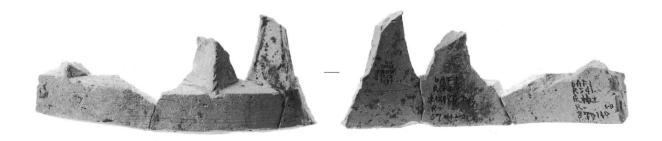




146-150:178次 Ph. 23



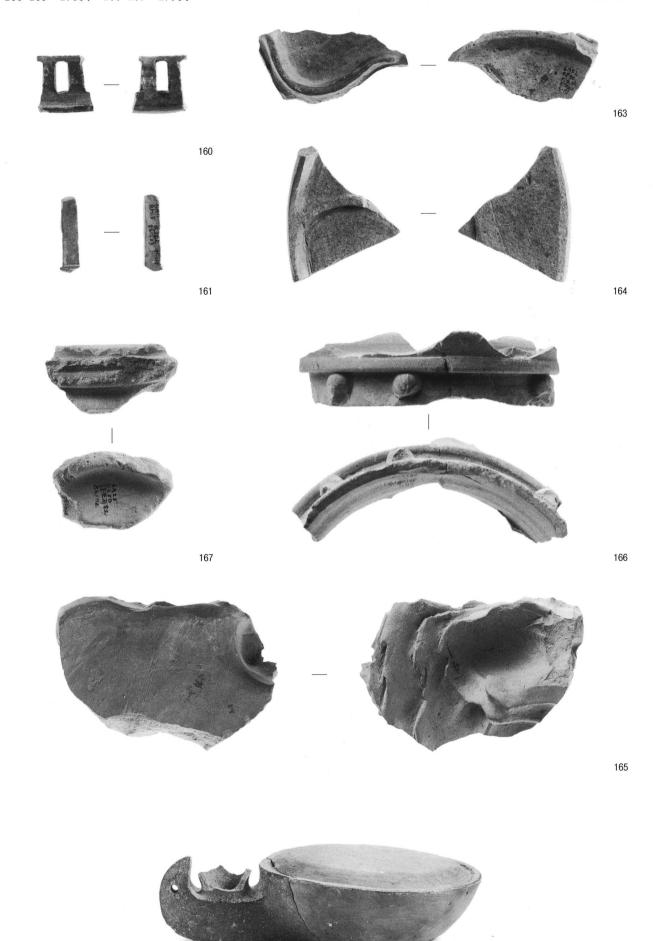


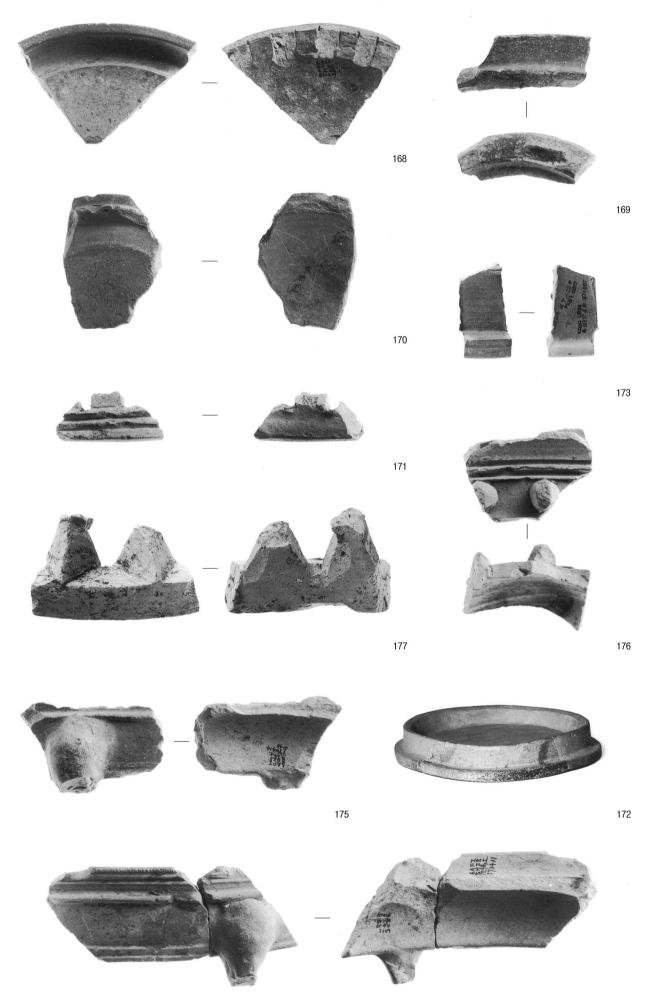


Ph. 24

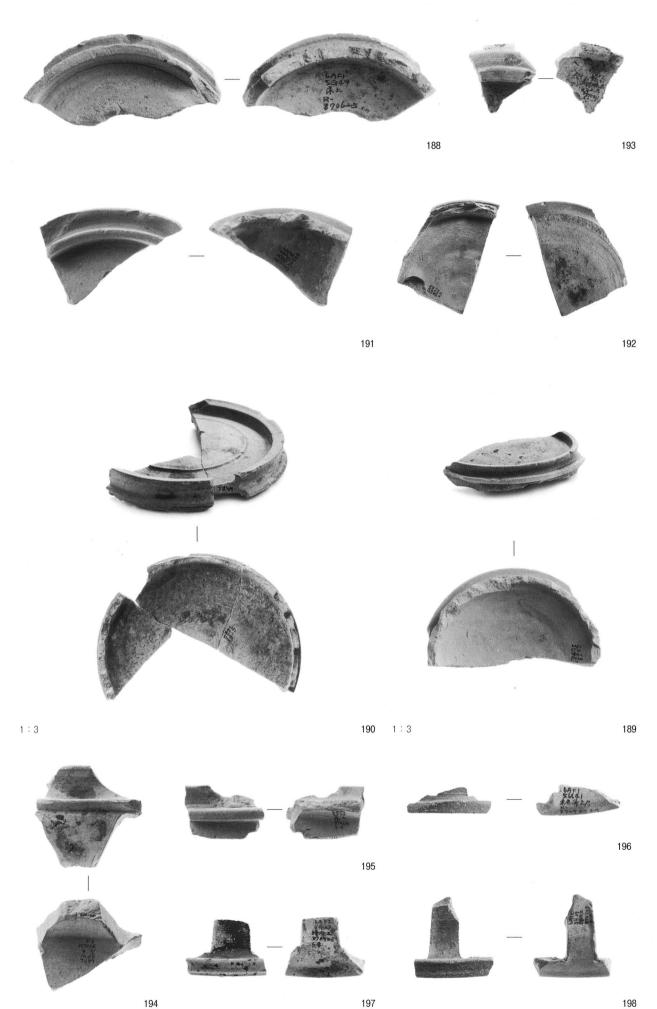


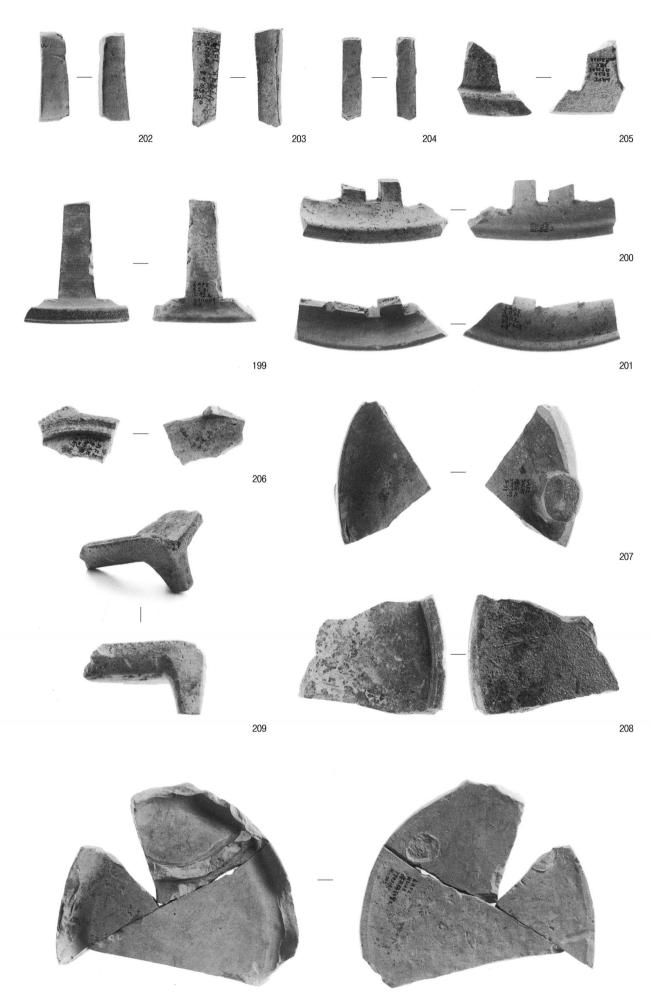
Ph. 25

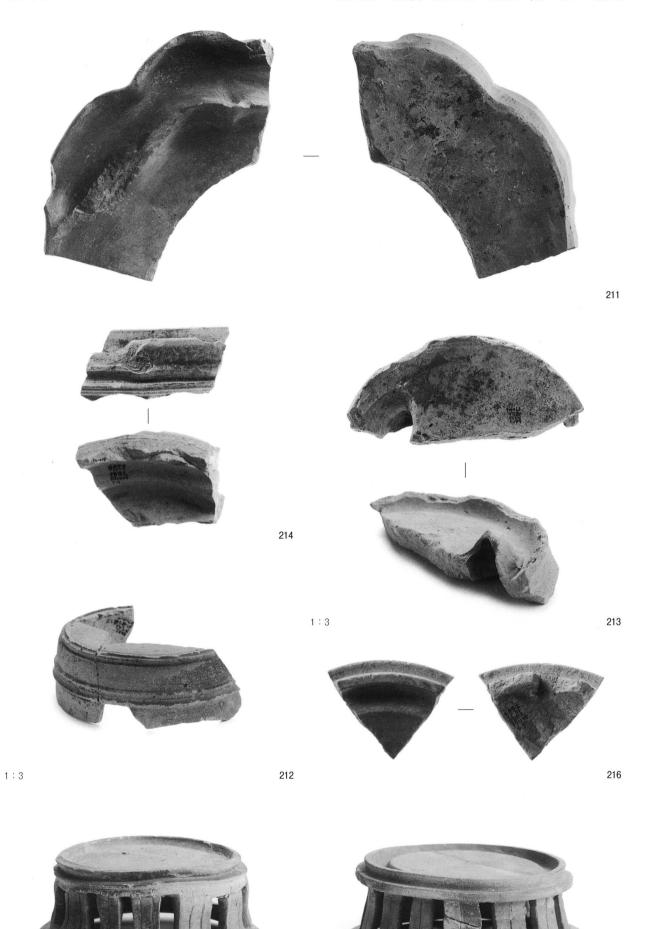




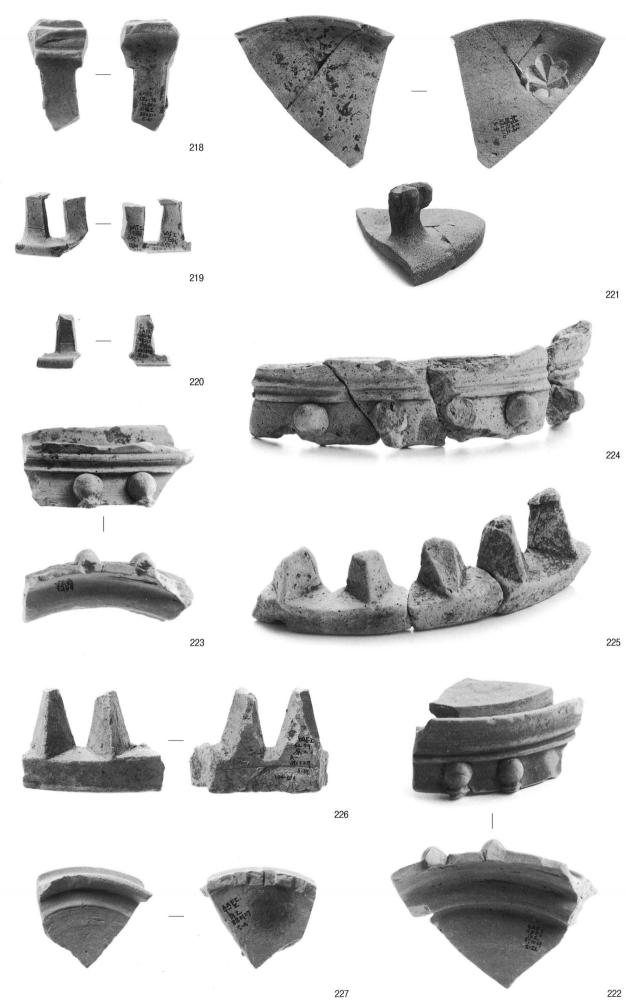




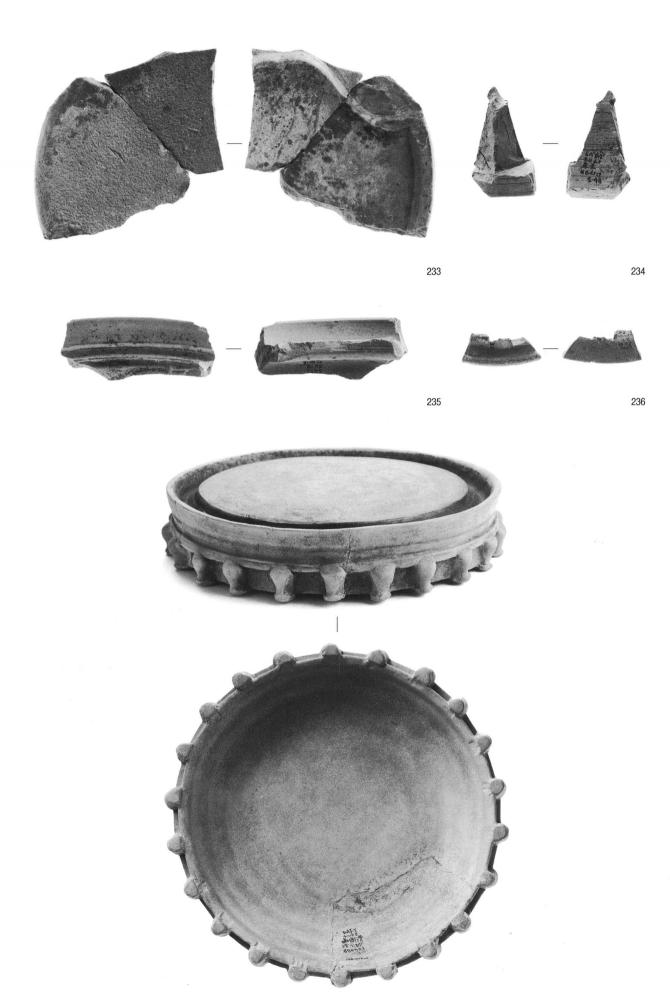


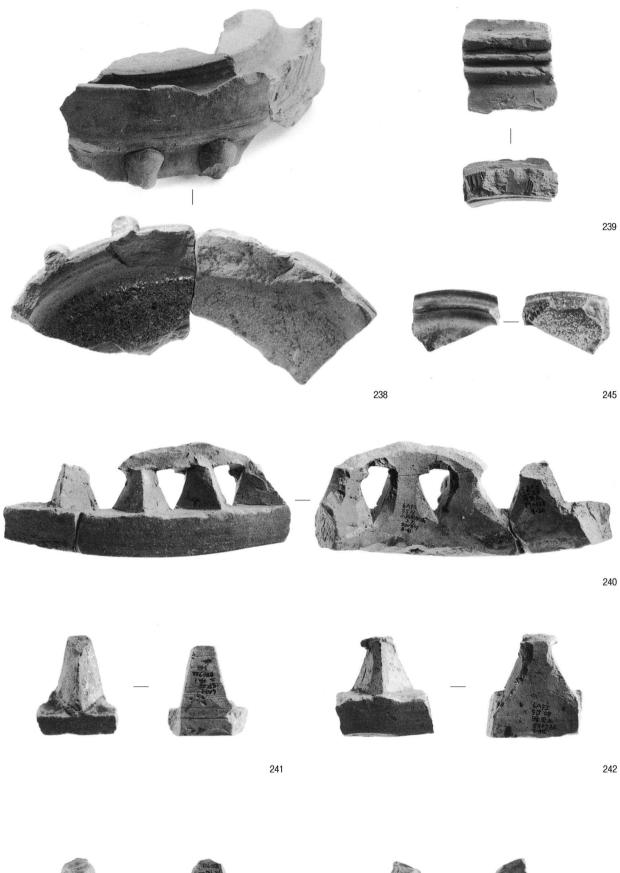


1:3 217 1:3 215

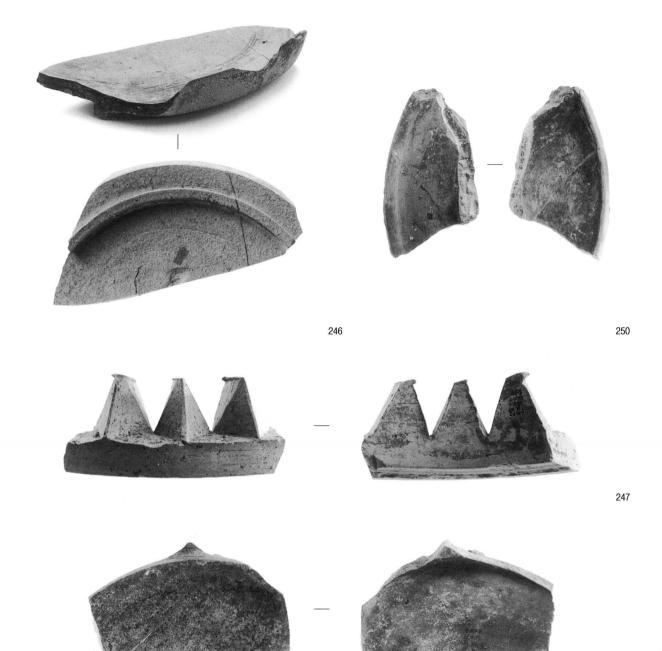






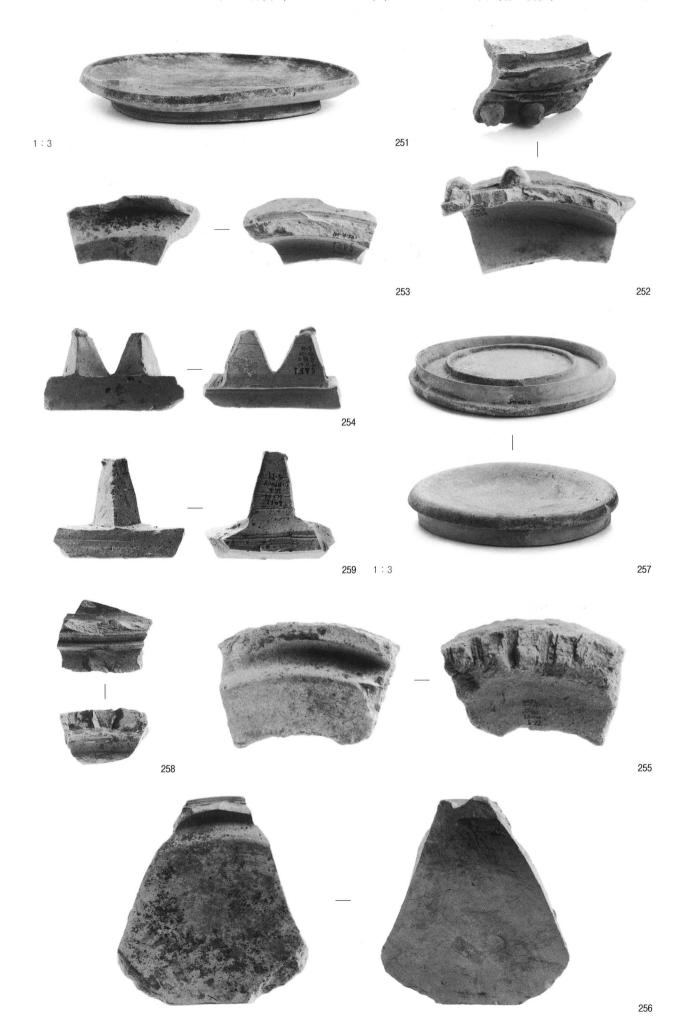


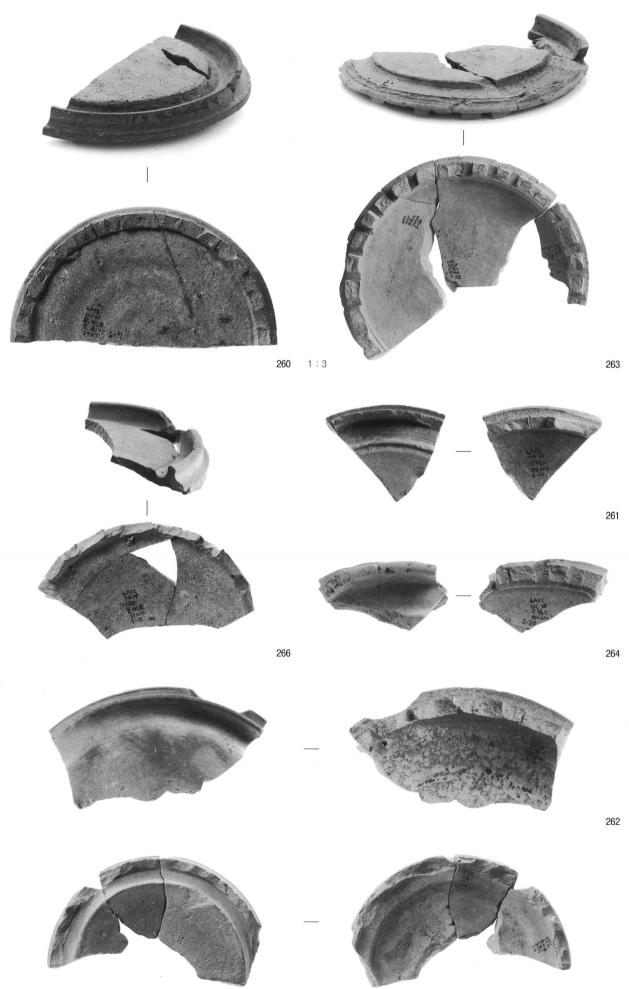




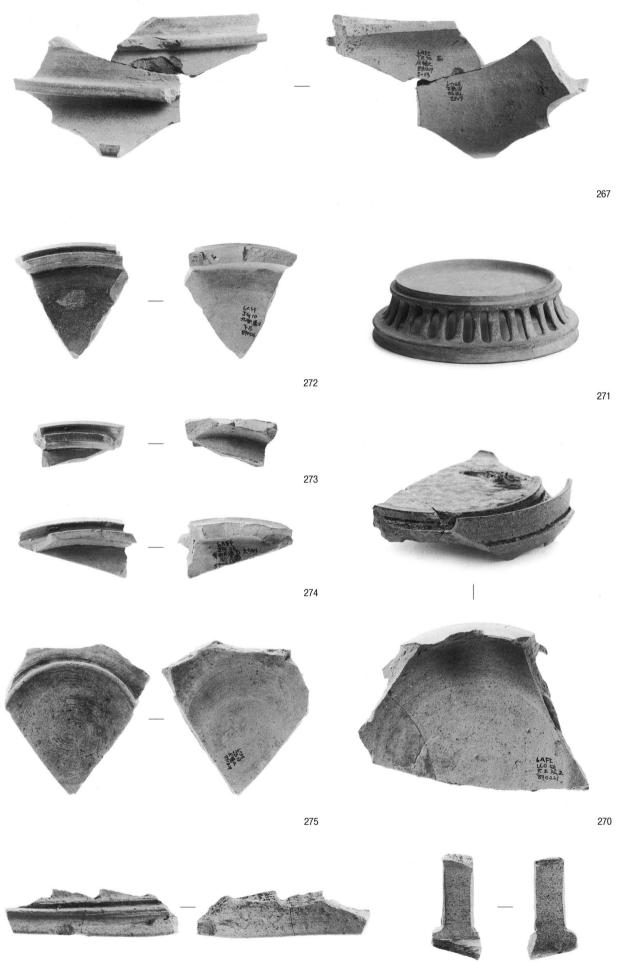


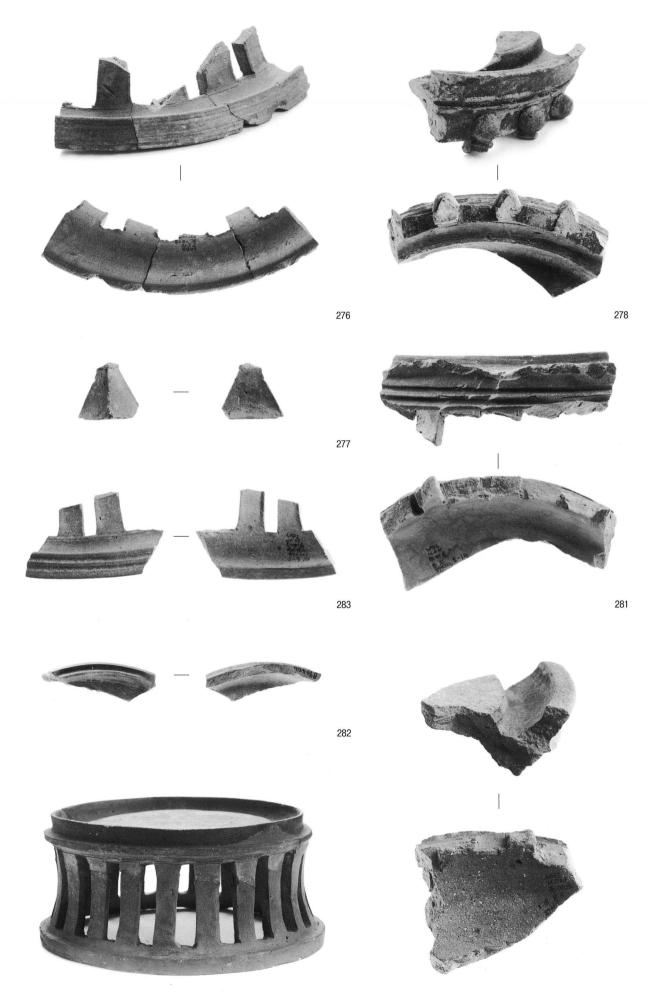
1:3

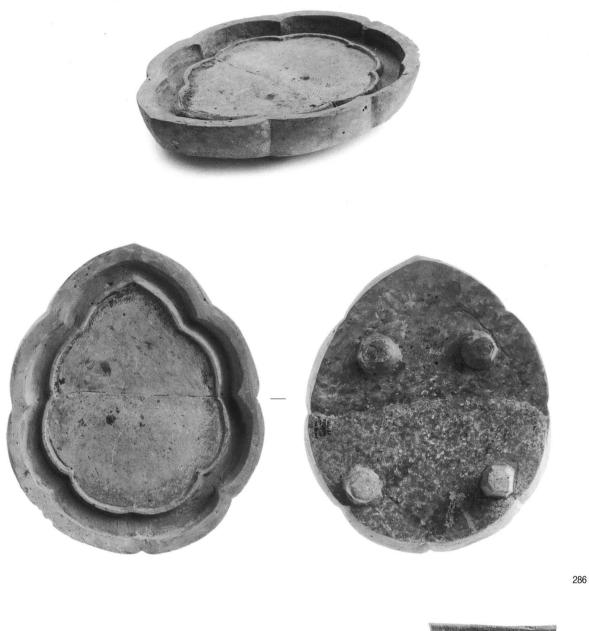


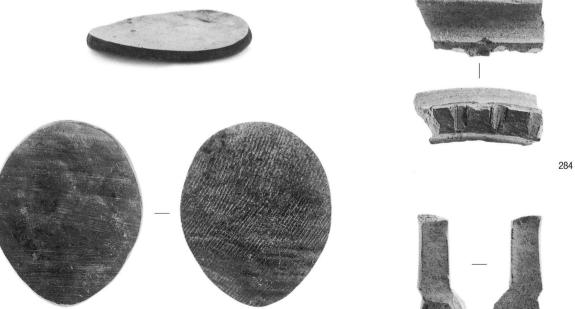


1:3



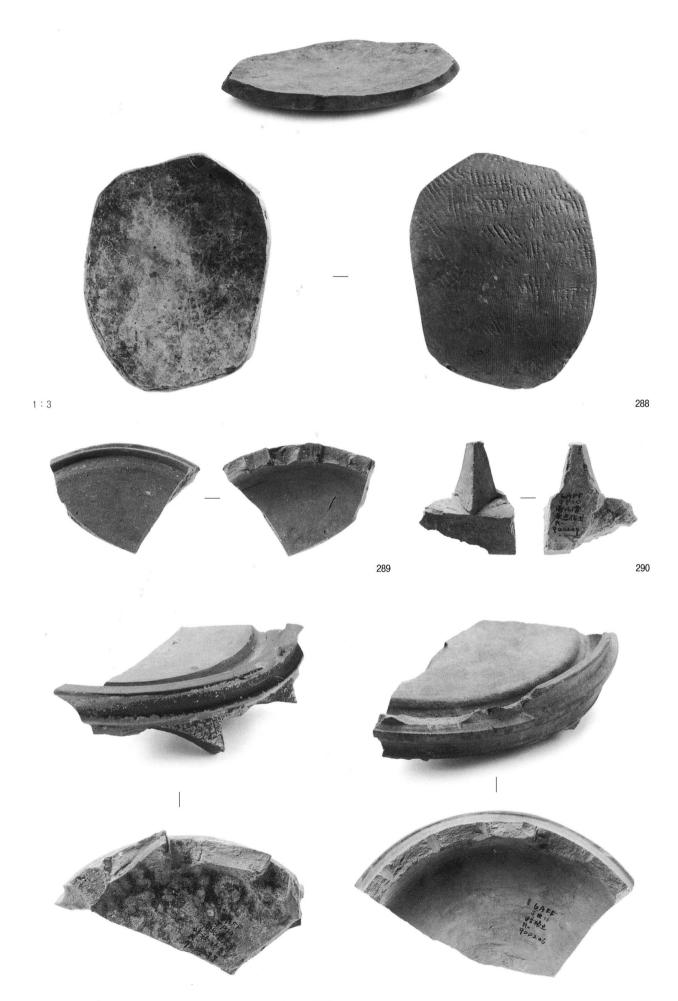


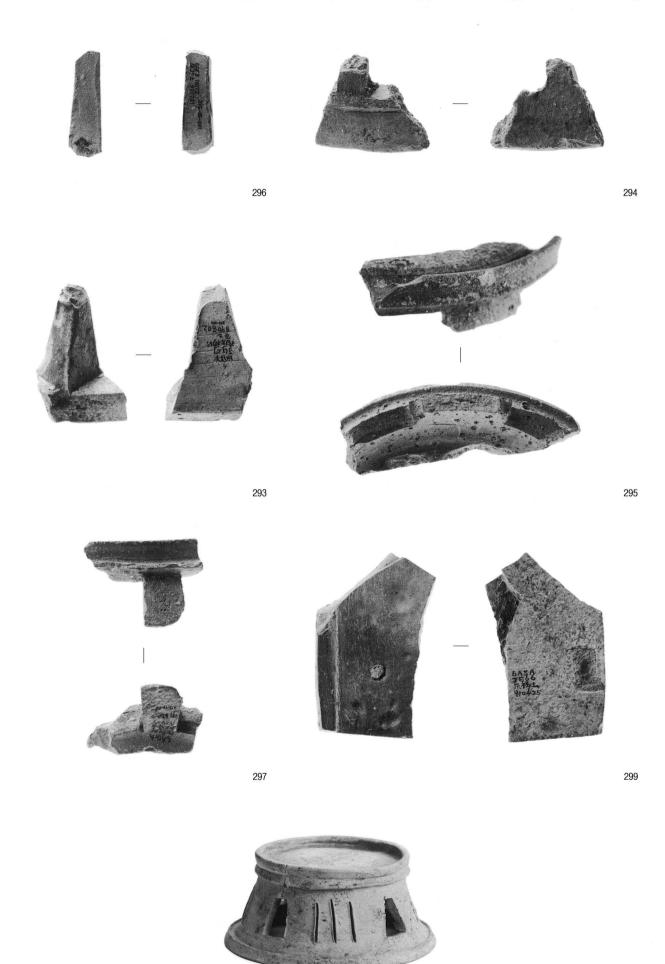


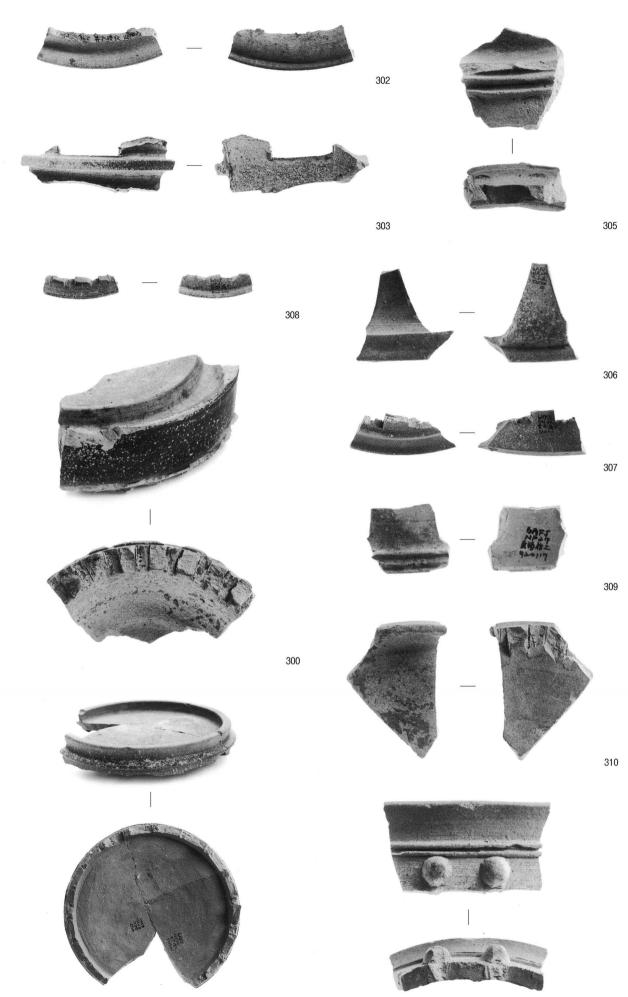


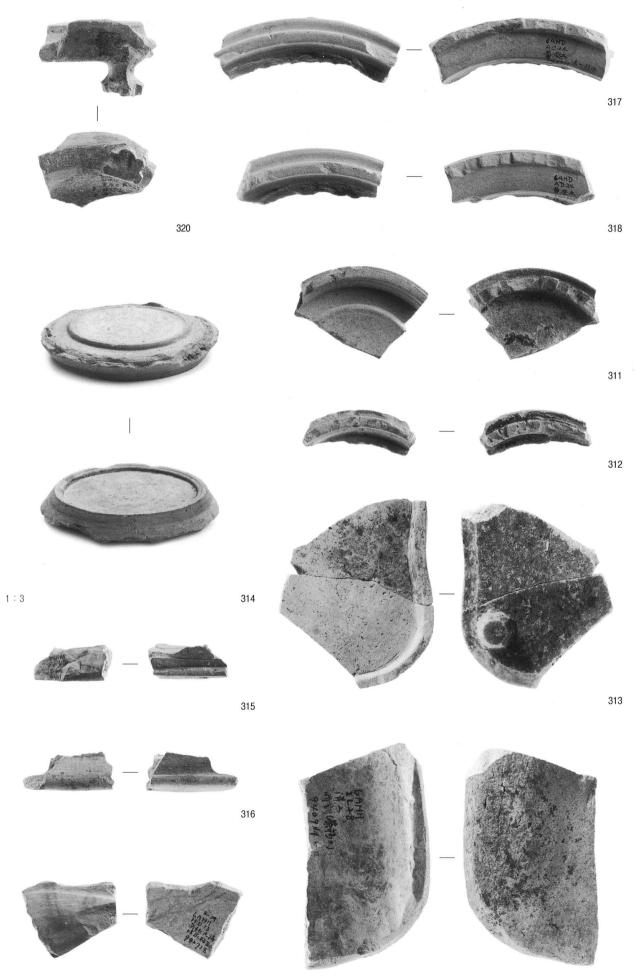
1:3

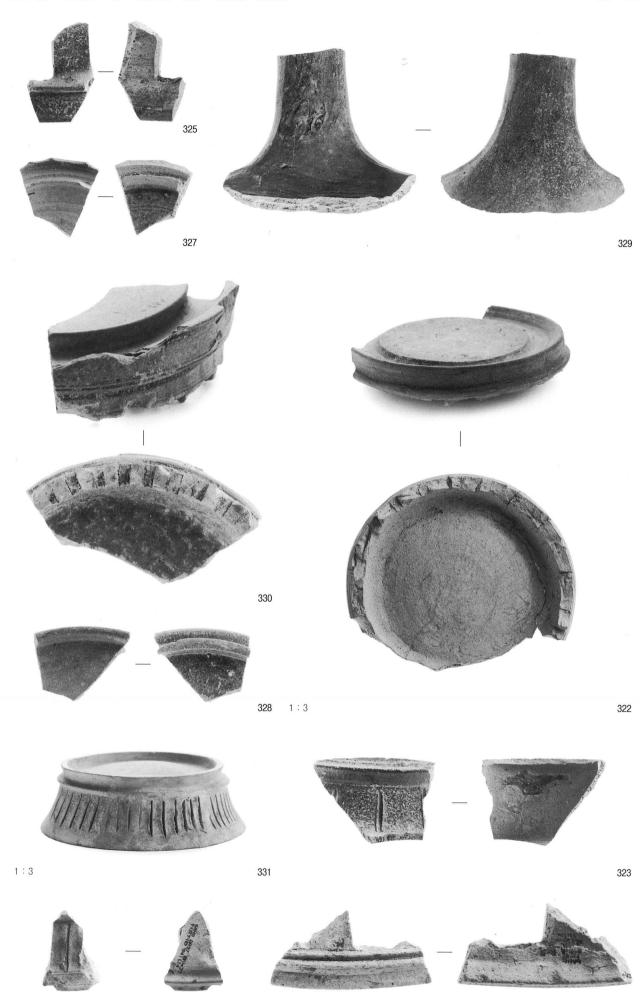
287



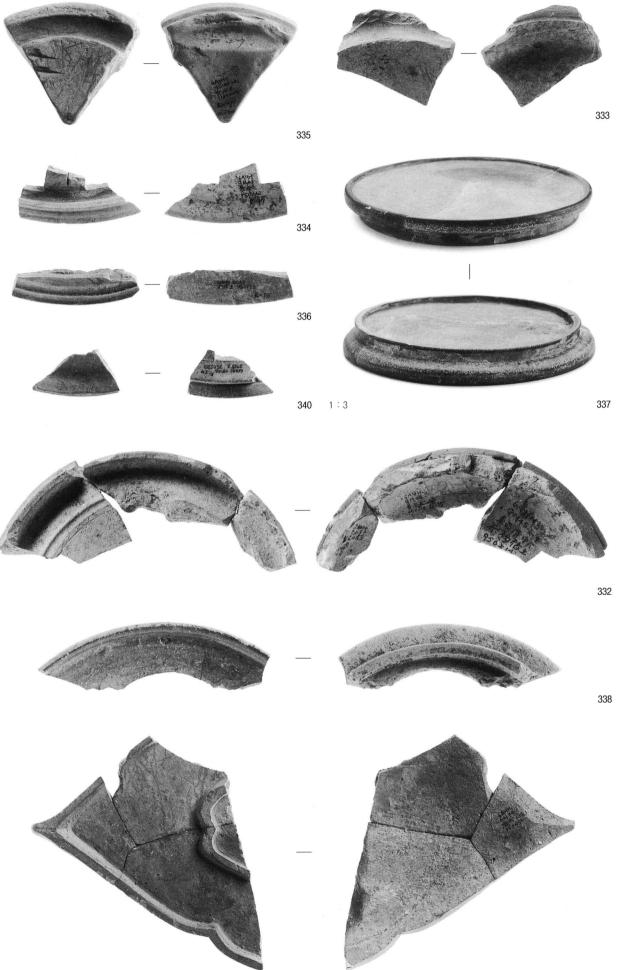


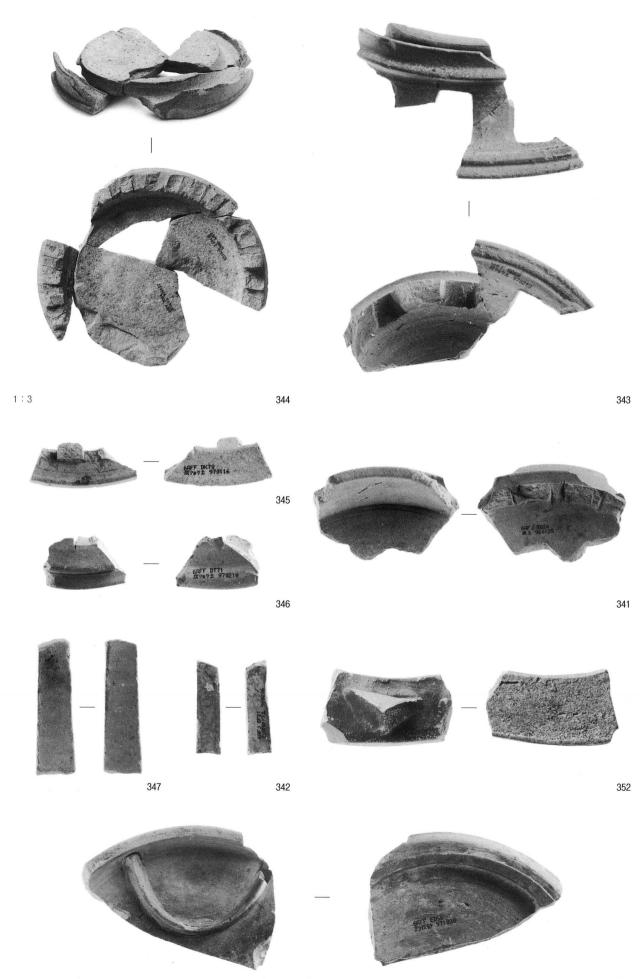


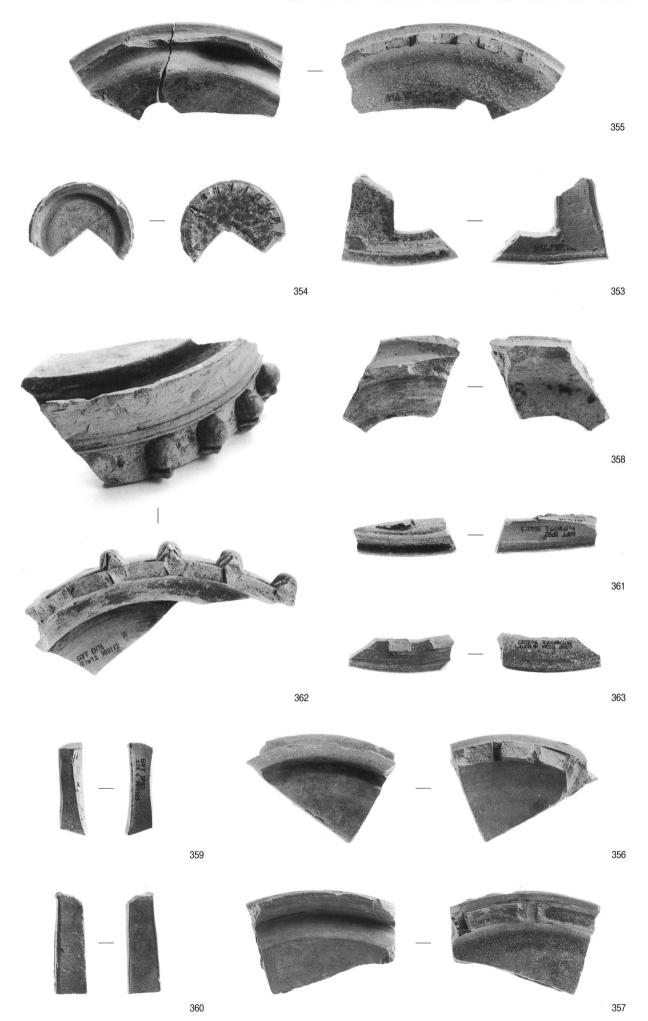


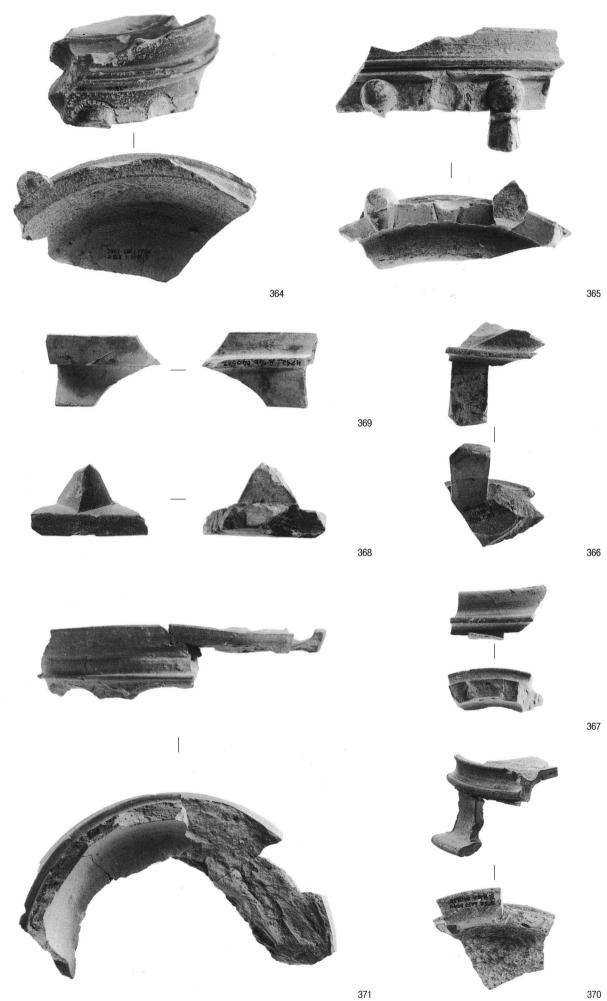


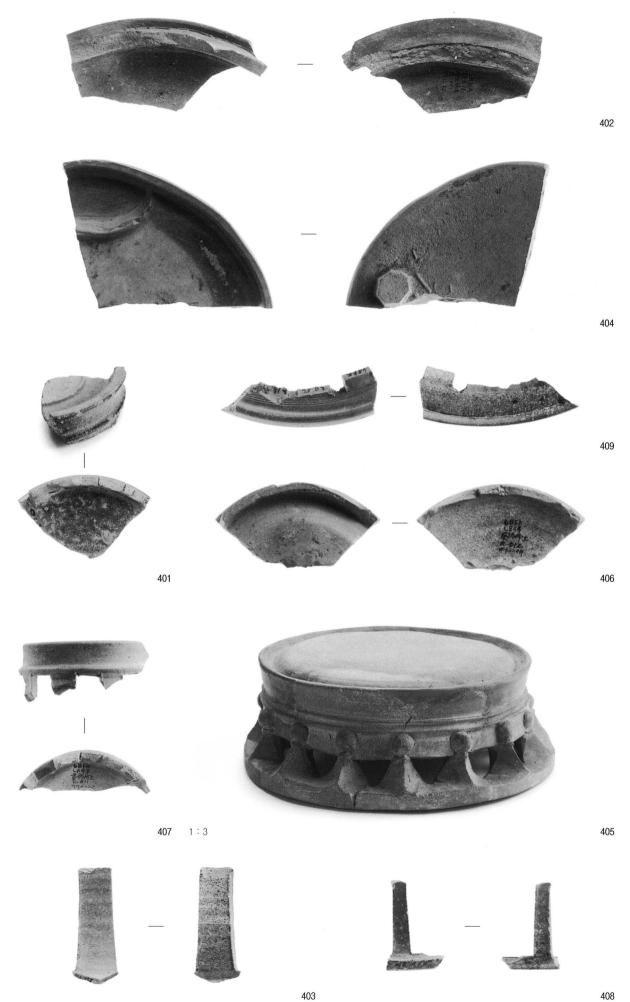
332-339:254次 340:255次





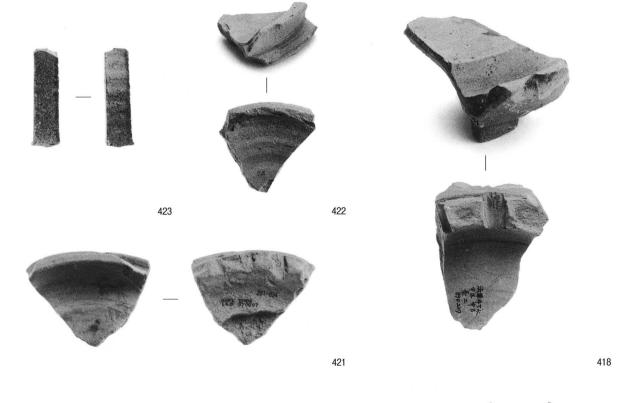


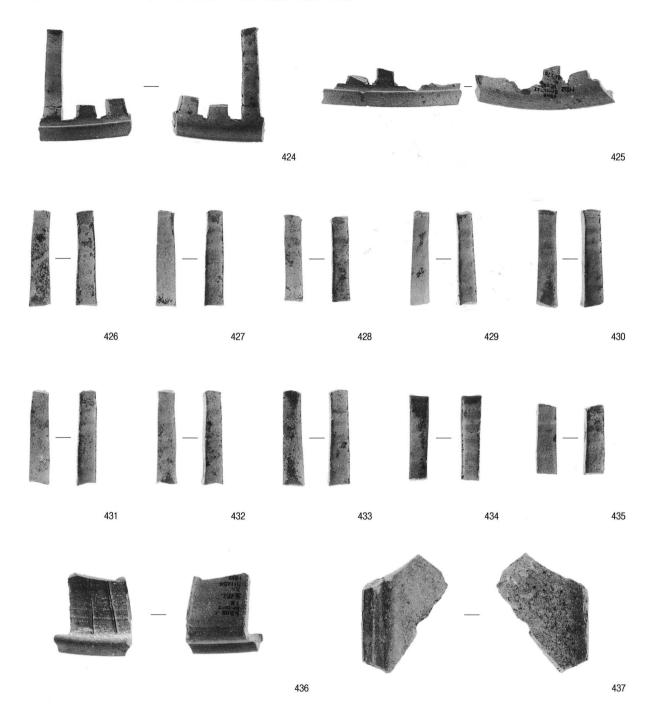




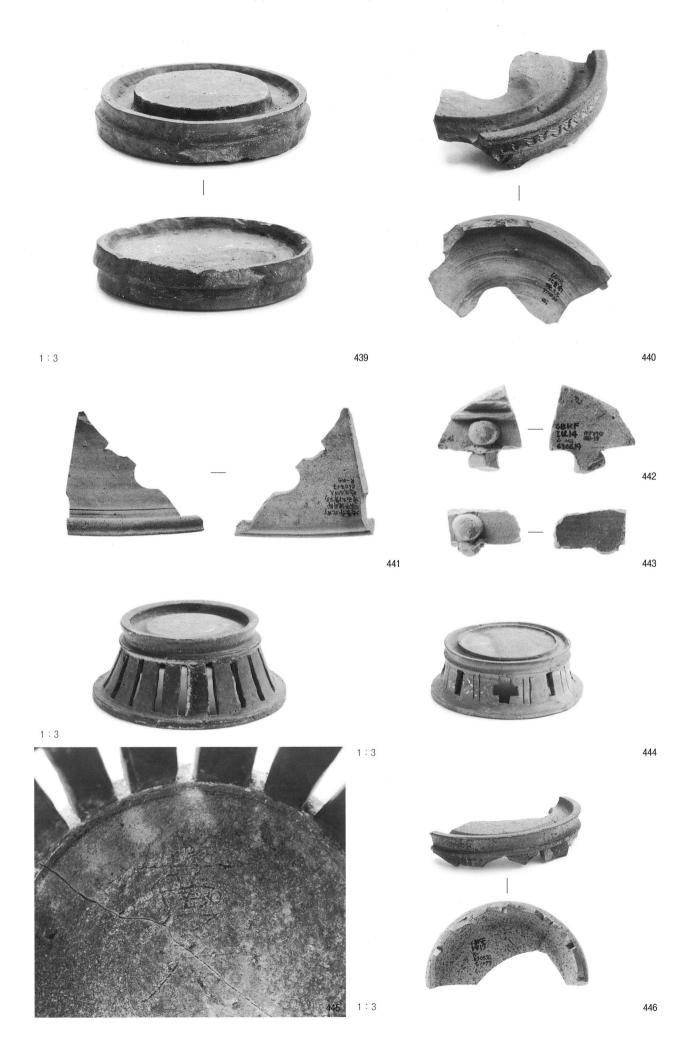




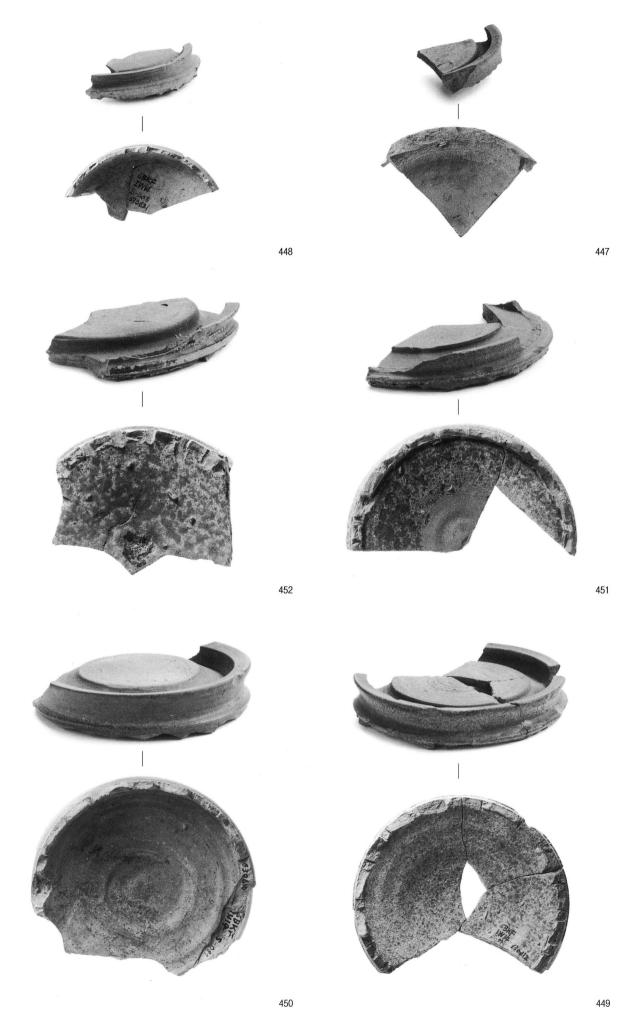






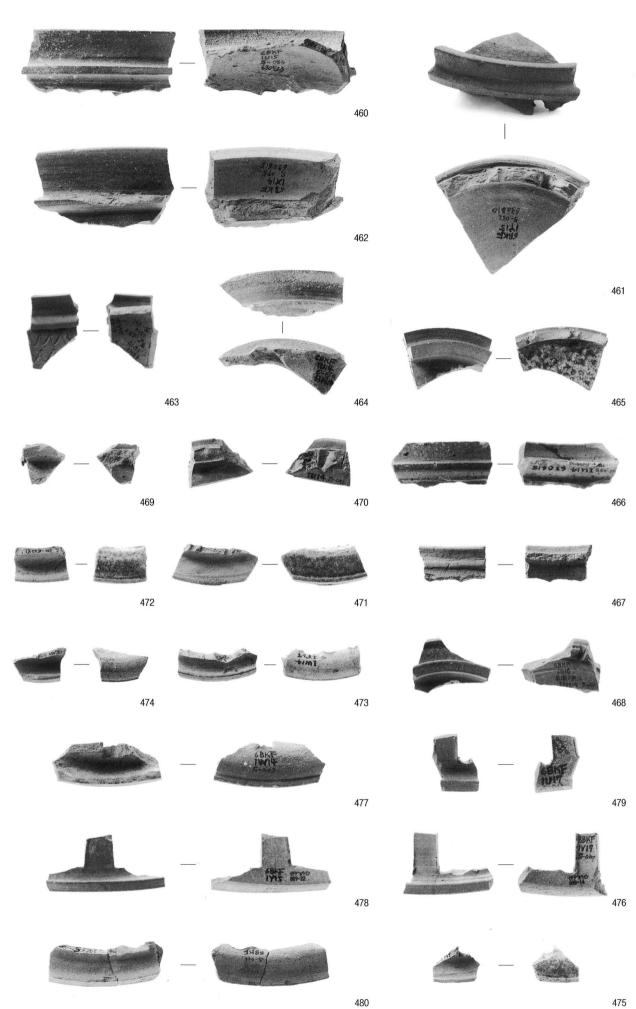


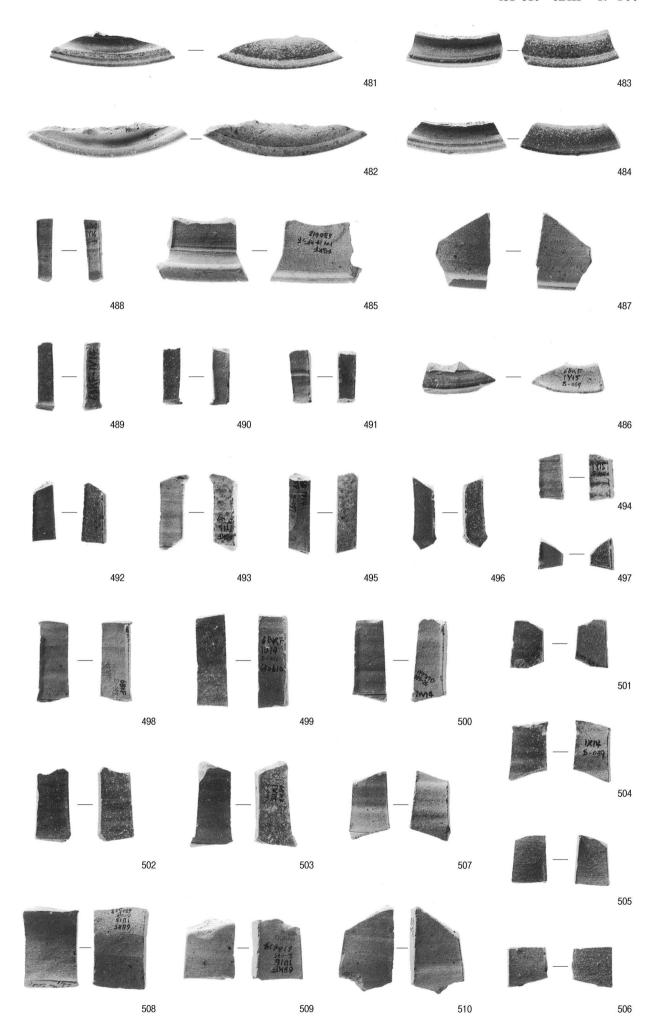
Ph. 55 447-452:6BKF 17-1次



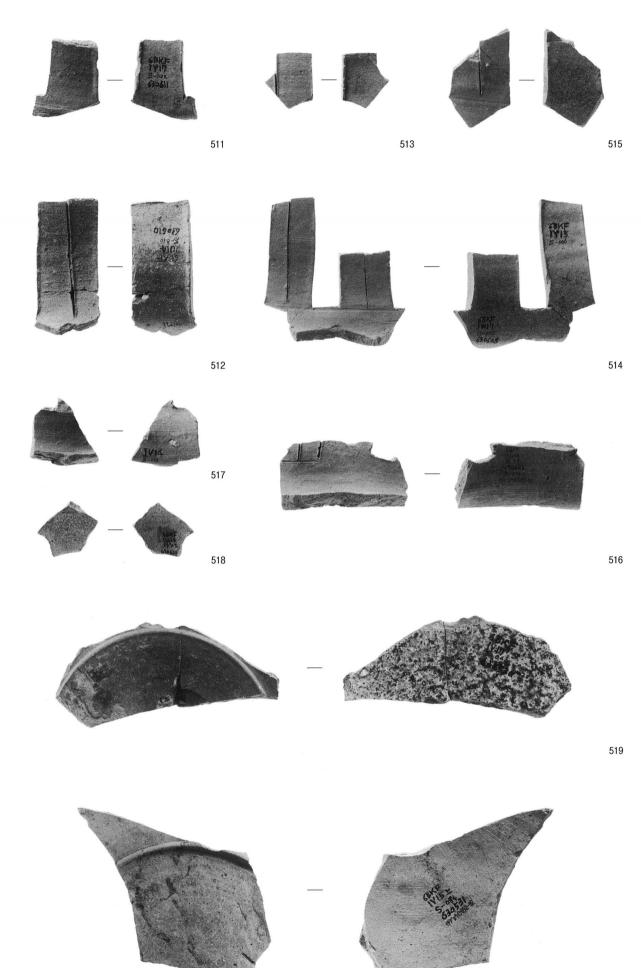


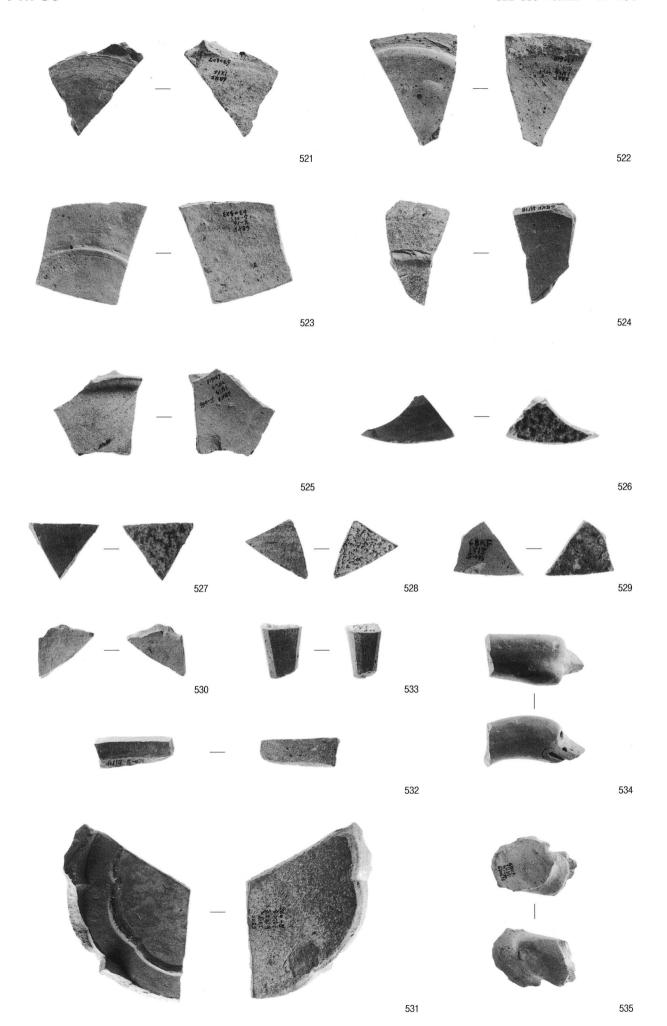
460-480:6BKF 17-1次 Ph. 57

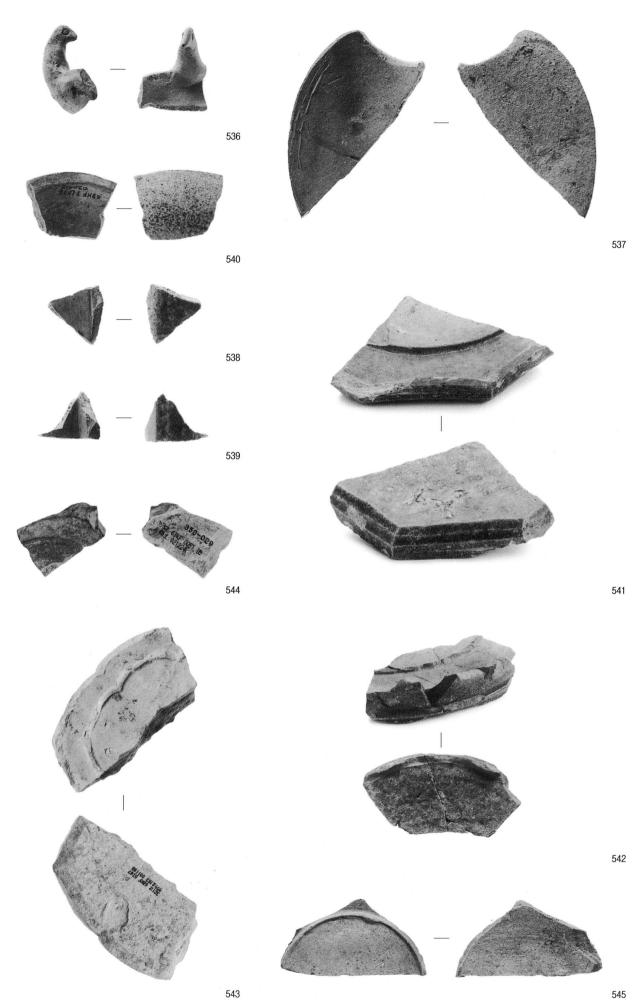


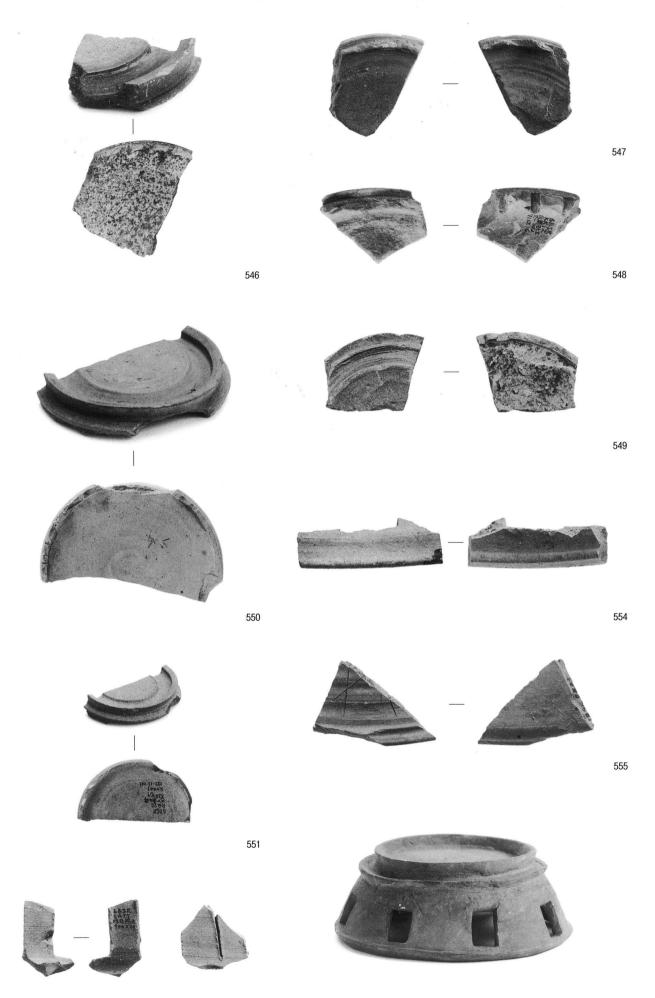


511-520:6BKF 17-1次 Ph. 59



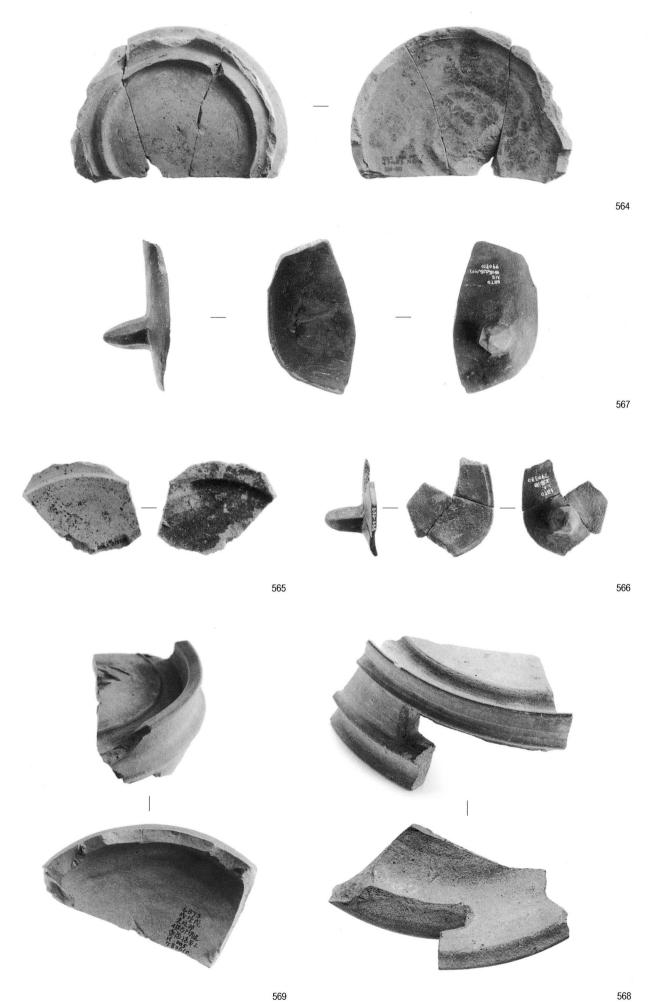


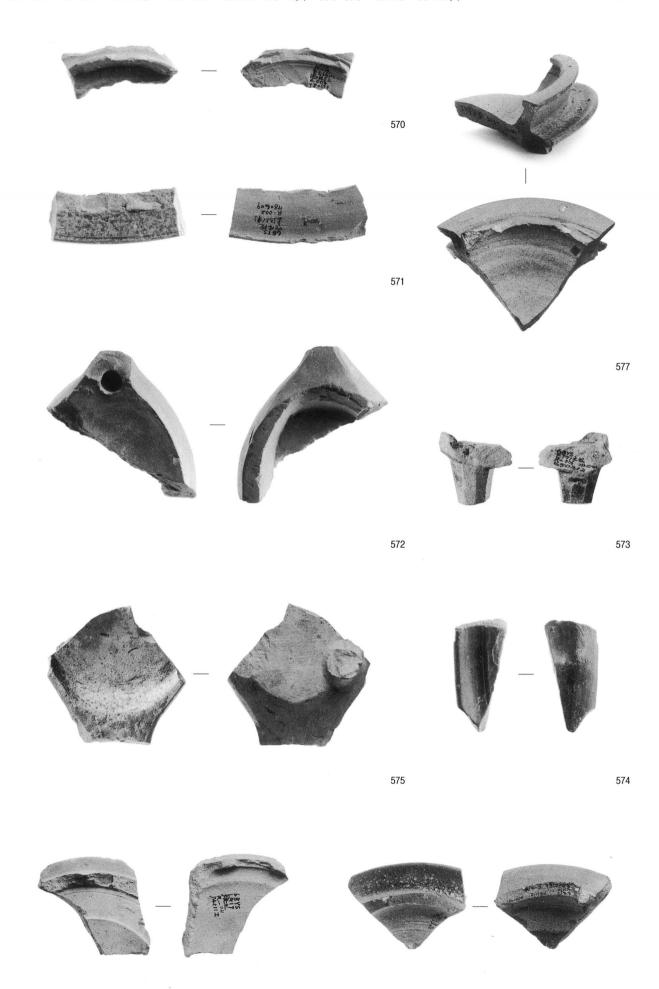


















580 1:3

583-587:6BYS 103-24次 Ph. **67**





POTTERY INK SLABS FROM THE NARA CAPITAL SITE II

THE NARA CAPITAL SITE AND TEMPLES

Publications on Historical Materials vol.80

NARA NATIONAL RESEARCH INSTITUTE FOR CULTURAL PROPERTIES

2007

Independent Administrative Institution
National Research Institute for Cultural Properties, Nara

奈良文化財研究所史料 第80冊

平城京出土陶硯集成Ⅱ - 平城京·寺院 ISBN 978-4-902010-57-2

2007年3月10日 印 刷 2007年3月30日 発 行

著作権 独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所

所有者 奈良市二条町二丁目 9-1

発行者 URL http://www.nabunken.jp

印刷者 有限会社 **真 陽 社** 京都市下京区油小路仏光寺上ル